

Gentran:Server[®] for Windows[®]

ユーザーガイド
バージョン 5.2

Sterling Commerce
An IBM Company

著作権に関する表示

Gentran:Server for Windows

© Copyright 1995-2008
Sterling Commerce, Inc.
ALL RIGHTS RESERVED

スターリング コマース ソフトウェア 営業秘密に関する表示

GENTRAN:SERVER FOR WINDOWS ソフトウェア (「スターリング コマース ソフトウェア」) は、米国スターリング コマース社、その関連企業またはそのライセンスの機密と営業秘密を有する財産であり、プロダクト使用契約の条件に基づいて提供されず。事前の書面による許可のない複製または開示は禁じられています。権利は制限されています。

本資料、本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェア、およびそれらに含まれる情報とノウハウは、スターリング コマース、その関連企業またはそのライセンスの専有的な、秘密の、財産的価値を有する営業秘密であり、許可されていない目的のために使用することおよび適正なスターリング コマースからの事前の書面による承認を受けることなく第三者に開示することは禁じられています。本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは、その複製、変更および使用を禁止または規制する条項が規定されたプロダクト使用契約に基づいて提供されます。複製を許可された場合には、複製が部分的であるか全体的であるかを問わず、その複製物にこの営業秘密表示とスターリングコマースの著作権表示を表示するものとします。

FAR に規定される所により米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料が提供された場合は、Title 48 CFR 52.227-19 による制限付きの権利として提供されます。また、DFAR に規定される所により米国の政府機関、政府の委託業者又はさらにその者の委託業者に対して本資料とスターリング コマース ソフトウェアが提供された場合は、商業用ソフトウェアと商業用ソフトウェア資料に関する Title 48 CFR 227-7202 の記載に基づくスターリング コマースの一般的な実施許諾契約に基づいて提供されます。

これらの条件の準拠法は、米国オハイオ州法 (法の抵触に関する規定を除く) が適用されます。締結済みの契約に基づいてスターリング コマース ソフトウェアを使用している場合には、これらの条件は当該締結済み契約に優先するものではなく、また、これを修正するものでもありません。

本資料に記載されている製品名の商標または登録商標は、各社によって保護されている場合があります。Gentran 及び Gentran:Server はスターリングコマースの登録商標です。

サードパーティソフトウェア

スターリング コマース ソフトウェアの一部には、サードパーティ (「サードパーティ ライセンサ」) から提供された製品 (「サードパーティ ソフトウェア」) が含まれる場合や、サードパーティ ソフトウェアと同一の記録媒体で配布される場合があります。

保証の放棄

本資料と本資料で述べられたスターリング コマース ソフトウェアは「現状のもの」として、またはスターリング コマースのプロダクト使用契約で規定された「限定保証」とともに提供されるものとします。プロダクト使用契約書に規定する場合を除き、商品性および特定目的への適合性を含みいかなる明示的及び黙示的保証も行なわれないものとします。スターリングコマースは適宜本表示を改訂し、又はその内容を変更できるものとし、その改訂又は変更をいかなる個人又は法人に対しても通知する義務を負わないものとします。

サードパーティソフトウェアは、商品性の黙示的保証および特定目的への適合性を含めて (ただしこれらに限定されない)、いかなる保証ならびに明示的および黙示的保証も伴わずに「現状のもの」として提供され、いかなる保証も行われません。また、米国内に居住するか、本ソフトウェアを米国内で使用している場合、所有権または権利の非侵害に関する明示的および黙示的保証は行われません。

目次

本書について

- ▶ はじめに viii
- ▶ 本書の構成 ix
- ▶ サポート情報 xi

基本操作

- ▶ Gentran:Server for Windows について 1-2
- ▶ Gentran:Server の操作方法 1-6
- ▶ Gentran:Server データ トランスレーション処理 1-9
- ▶ パスワードの変更 1-15

トランスレーション オブジェクトの使い方

- ▶ 概要 2-2
- ▶ [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザ 2-3
- ▶ [トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス 2-6
- ▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録 2-8
- ▶ トランスレーション オブジェクトの削除 2-10

パートナーの使い方

- ▶ はじめに 3-3

パートナー プロファイルの使い方 3-4

- ▶ 概要 3-4
- ▶ [パートナー エディタ] ダイアログ ボックス 3-6
- ▶ [パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス 3-8
- ▶ [インバウンド関係] ダイアログ ボックス 3-10
- ▶ [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3-15
- ▶ [インバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス 3-23
- ▶ [インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス 3-25
- ▶ [インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス 3-29
- ▶ [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス 3-31
- ▶ [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックス 3-35
- ▶ [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3-40
- ▶ [アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス 3-45
- ▶ [アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス 3-47
- ▶ [アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス 3-52

▶ [アウトバウンド インターチェンジ登録]ダイアログ ボックス	3-54
▶ パートナーの定義の作成	3-58
▶ インバウンド関係の作成	3-60
▶ アウトバウンド関係の作成	3-68
▶ パートナーの定義の編集と削除	3-78
パートナー プロファイルのルーティング	3-80
▶ [インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス	3-80
▶ [エクスポート ファイルの組み込み]ダイアログ ボックス	3-82
▶ [パートナーのコピー]ダイアログ ボックス	3-84
▶ パートナー プロファイルのインポート	3-88
▶ パートナー プロファイルのエクスポート	3-90
▶ パートナー プロファイルのコピー	3-91
パートナー テーブルの使い方	3-94
▶ 概要	3-94
▶ [パートナー テーブル]ダイアログ ボックス	3-95
▶ [新しいテーブル]ダイアログ ボックス	3-97
▶ [クロスリファレンス選択]ダイアログ ボックス	3-99
▶ [クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックス	3-100
▶ [照合の選択]ダイアログ ボックス	3-102
▶ [照合の登録]ダイアログ ボックス	3-103
▶ [テーブルエクスポート ファイルの組み込み]ダイアログ ボックス	3-104
▶ [テーブル インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス	3-106
▶ パートナー テーブルの作成	3-108
▶ パートナー テーブルの編集	3-110
▶ パートナー テーブル内のエントリの削除	3-111
▶ パートナー テーブルの削除	3-112
▶ パートナー テーブルのエクスポート	3-113
▶ パートナー テーブルのインポート	3-116
パートナー所在地の使い方	3-118
▶ 概要	3-118
▶ [所在地の選択]ダイアログ ボックス	3-119
▶ [所在地の登録]ダイアログ ボックス	3-120
▶ パートナー所在地の作成	3-122
▶ パートナー所在地の編集	3-123
▶ パートナー所在地の削除	3-124

ドキュメントの使い方

▶ はじめに	4-3
ドキュメント ブラウザ	4-4
▶ ドキュメント ブラウザへのアクセス方法	4-4
▶ ブラウザ ページ サイズと位置のオプション	4-6
▶ [インドキュメント]ブラウザ	4-7
▶ [? インドキュメント]ブラウザ	4-9

▶ [イン ドローワ]ブラウザ	4-11
▶ [ワークスペース]ブラウザ	4-13
▶ [アウト ドキュメント]ブラウザ	4-15
▶ [?アウト ドキュメント]ブラウザ	4-17
▶ [アウト ドローワ]ブラウザ	4-18
▶ [処理中]ブラウザ	4-20
関連のダイアログ ボックス	4-21
▶ [表示の選択]ダイアログ ボックス	4-21
▶ [印刷の選択]ダイアログ ボックス	4-23
▶ [エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックス	4-25
▶ [ドキュメントをエクスポートするファイル]ダイアログ ボックス	4-27
▶ [インポートするアプリケーション ファイル]ダイアログ ボックス	4-29
▶ [ドキュメントの検索]ダイアログ ボックス	4-31
▶ [検索結果]ダイアログ ボックス	4-33
▶ [フィルタ]ダイアログ ボックス	4-35
ドキュメントの作成と編集	4-37
▶ ドキュメントの作成方法	4-37
▶ ドキュメントの開き方と編集方法	4-40
ドキュメントの管理	4-44
▶ ドキュメントの表示方法	4-44
▶ 現在処理中のドキュメントの表示	4-47
▶ ドキュメント内の特定のテキストの検索方法	4-48
▶ ドキュメントの検索方法	4-51
▶ ドキュメントの並べ替え方法	4-52
▶ [アウト ドローワ]での状況によるドキュメントのフィルタ方法	4-53
▶ ドキュメントの削除方法	4-54
▶ ドキュメントの印刷方法	4-55
ドキュメントのルーティング	4-57
▶ ドキュメントのイン ドローワへの移動	4-57
▶ ドキュメントのコピー (再処理と再送)	4-58
▶ ドキュメントのポスト	4-59
▶ ドキュメントのアンポスト	4-60
▶ ドキュメントへの応答方法	4-61
▶ ドキュメントのインポート	4-63
▶ ドキュメントのエクスポート	4-65
コミュニケーションズの使い方	
▶ 概要	5-2
▶ [送信キュー]ブラウザ	5-3
▶ [コミュニケーション セッション]ダイアログ ボックス	5-4
▶ [ファイル処理]ダイアログ ボックス	5-5
▶ ドキュメントの送信	5-6
▶ 全ドキュメントの送信	5-7

▶ ドキュメントの再送	5-9
▶ ドキュメントの受信	5-11
▶ 送信キューの表示	5-13
▶ データ ファイルの処理	5-14

外部データの使い方

▶ 概要	6-2
▶ [外部データの概要]ビューア	6-3
▶ [外部データ フィルタ]ダイアログ ボックス	6-6
▶ 外部データ ファイルの表示	6-8
▶ 外部データ ファイルのフィルタ	6-10

インターチェンジの使い方

▶ 概要	7-2
▶ [インターチェンジ]ブラウザ	7-3
▶ [インターチェンジのフィルタ]ダイアログ ボックス	7-8
▶ インターチェンジの表示	7-11
▶ インターチェンジの表示のフィルタ方法	7-13
▶ インターチェンジ内のドキュメントの表示	7-15
▶ パートナーへのインターチェンジの添付	7-17
▶ インターチェンジの再送	7-19
▶ インターチェンジ、グループ、またはドキュメントの手動受信確認	7-22

受信確認の使い方

▶ 概要	8-2
▶ インバウンド受信確認の基準の定義	8-3
▶ アウトバウンド受信確認の基準の定義	8-6
▶ ドキュメントを手動で受信確認する方法	8-10
▶ EDIFACT 受信確認の注意事項	8-11
▶ 受信確認の時間切れチェック	8-13

トラッキングの使い方

▶ 概要	9-2
▶ インバウンド情報のトラッキング	9-3
▶ アウトバウンド情報のトラッキング	9-6
▶ データ オーディット情報の表示および印刷	9-9
▶ トラック情報の表示および印刷	9-10

アーカイブと復元の使い方

▶ はじめに	10-2
データのアーカイブ	10-3
▶ 概要	10-3

▶	アーカイブ マネージャ	10-5
▶	[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス	10-11
▶	[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス	10-13
▶	[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス	10-16
▶	[グループの検索] ダイアログ ボックス	10-19
▶	[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス	10-21
▶	[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス	10-23
▶	[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス	10-25
▶	[メールボックスの検索] ダイアログ ボックス	10-27
▶	[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス	10-29
▶	[外部データ選択基準] ダイアログ ボックス	10-31
▶	[外部データの検索] ダイアログ ボックス	10-32
▶	[検索結果] ダイアログ ボックス	10-34
▶	[ソート順] ダイアログ ボックス	10-36
▶	アーカイブ定義の作成	10-37
▶	データのアーカイブ	10-39
▶	アーカイブ データの表示	10-40
▶	アーカイブ データの検索	10-44
アーカイブ データの復元	10-45	
▶	概要	10-45
▶	[復元されたインターチェンジ] ブラウザ	10-47
▶	復元されたインターチェンジの表示	10-52
▶	復元されたインターチェンジの表示のフィルタ方法	10-54
▶	復元されたドキュメントの表示	10-56
▶	復元されたドキュメントの再処理	10-58
▶	復元されたインターチェンジの再送	10-59
プロセス管理の使い方		
▶	はじめに	11-2
セッション	11-3	
▶	概要	11-3
▶	セッションの作成	11-9
▶	セッションの編集	11-12
▶	セッションの削除	11-16
イベント	11-17	
▶	概要	11-17
▶	新しいイベントの作成	11-25
▶	イベントの編集	11-29
▶	イベントの削除	11-33
▶	イベントの表示	11-34
▶	イベントのアクティブ化と一時停止	11-38
▶	イベントの即時実行	11-40
カレンダー	11-41	

▶ 概要	11-41
▶ カレンダの作成と編集	11-43
▶ カレンダの削除	11-45

用語解説

本書について

目次

▶ はじめに.....	viii
▶ 本書の構成.....	ix
▶ サポート情報.....	xi



はじめに

はじめに

スターリング コマースの Windows オペレーティング システム用電子データ インターチェンジ (EDI) ソフトウェア、Gentran:Server[®] for Windows[®] をご購入いただきありがとうございます。

Gentran:Server には、トレーディング パートナーとの電子データ交換に必要な次のツールが用意されています。

- ▶ データ トランスレーション
- ▶ プロセス管理
- ▶ コミュニケーション システム

このソフトウェアおよびサポート ツールは使いやすく、業務にすぐ役立てることができることができます。

本書の構成

はじめに

このマニュアルでは、オンライン ヘルプを補完することを目的に、Gentran:Server で実行できる各種タスクについて、その実行手順を含め詳しく解説しています。タスクの手順を解説しているこのマニュアルは、ステップバイステップ方式で Gentran:Server のインストールに関するあらゆる質問に答えることを目的としています。

本書の対象読者

このマニュアルは、以下の業務の担当者を対象としています。

- ▶ EDI の導入
 - ▶ トレーディング パートナー関係の設定
 - ▶ EDI ドキュメントの作成および使用
 - ▶ ドキュメントの送受信
 - ▶ ドキュメントの受信確認
 - ▶ ドキュメント フローのトラッキング
 - ▶ 自動処理の構成および使用
-

前提知識

このマニュアルの前提知識として、PC の使用および Microsoft[®] Windows または Windows 2000 の機能に関する知識が必要です。

本書の内容

この『ユーザーガイド』は、次のトピックで構成されています。

- ▶ 第1章「はじめに」では、このマニュアルの内容、構成、および表記について説明します。また、技術サポートの情報、および **Gentran:Server for Windows** の概要についても説明します。
- ▶ 第2章「トランスレーション オブジェクトの使い方」では、トランスレーション オブジェクトを登録 (インストール)、削除、表示する方法について説明します。
- ▶ 第3章「パートナーの使い方」では、パートナー プロファイルを設定する方法について説明します。パートナー プロファイルやパートナー テーブルのインポートやエクスポート、およびパートナー プロファイルをコピーする方法についても説明します。
- ▶ 第4章「ドキュメントの使い方」では、ドキュメントを操作する方法について説明します。
- ▶ 第5章「コミュニケーションズの使い方」では、ドキュメントの送信、受信、再送の方法、および送信キューの表示方法について説明します。
- ▶ 第6章「インターチェンジの使い方」では、インターチェンジおよびインターチェンジ内のドキュメントを表示する方法、インターチェンジの表示にフィルタをかける方法、インターチェンジをパートナーに添付 (結合) する方法、インターチェンジを再送する方法について説明します。
- ▶ 第7章「外部データの使い方」では、外部データ ファイルの表示および印刷の方法について説明します。
- ▶ 第8章「受信確認の使い方」では、ドキュメント、グループ、またはインターチェンジの受信確認を手動で設定する方法、ドキュメントの整合性をとるためのインバウンドおよびアウトバウンド受信確認の基準を定義する方法、時間切れ受信確認をチェックする方法について説明します。
- ▶ 第9章「トラッキングの使い方」では、トラック情報の表示および印刷の方法について説明します。
- ▶ 第10章「アーカイブと復元の使い方」では、データをアーカイブする方法、およびアーカイブしたデータを復元する方法について説明します。
- ▶ 第11章「プロセス管理の使い方」では、自動プロセス管理イベントの作成、編集、削除、活性化、一時停止の方法について説明します。また、セッションおよびカレンダーの使い方についても説明します。
- ▶ 「用語解説」では、EDI や **Gentran:Server** の用語や概念について解説します。

オンライン ヘルプ

このマニュアルの内容の大半がオンライン ヘルプ システムにも記載されています。このマニュアルに記載の全ダイアログ ボックスの元素定義、処理の詳細情報、処理手順の説明は、オンライン ヘルプにも含まれています。

サポート情報

はじめに

スターリング コマース社では、Gentran:Server ソフトウェアに関する質問や問題についてお答えするため、熟練した製品サポート担当者によるサポートを提供しています。

メモ

Gentran:Server のカスタマ サポートは、スターリング コマース社以外の製品 (例 SQL Server、Oracle) のサポートは行っていません。ただし、他社の製品を Gentran:Server と併用できるように構成するサポートは提供しています。

電話番号

ご利用になるサポート電話番号は、『インストール準備ガイド』を参照してください。

サポートに連絡する前に

迅速なサポートを提供するため、以下の事項についてご協力をお願いします。

- ▶ まず、発生した問題を再現してみて、イベントの正確な順序を記録してください。
- ▶ 製品サポートへのお問い合わせの際には、下記の情報をご用意ください。

情報	説明
ユーザー情報	会社名、氏名、電話番号および内線番号、およびケース番号 (以前に報告された問題を照会する場合)
システム構成	Gentran:Server バージョン (およびインストールされているサービスパック)、プライマリ Gentran システム コントローラおよび問題が発生しているすべてのコンピュータの情報。Windows オペレーティングシステムのバージョン、搭載メモリ、有効ディスク容量、データベースバージョン、Microsoft Data Access (MDAC) のバージョン、および Internet Explorer のバージョン。 ハードウェア、ソフトウェア、およびシステムの構成に対して加えた最近の変更も記入してください。
システム データ ストア	どのコンピュータがシステム データ ストア内にフォルダを格納しているのか。
エラー メッセージ	表示されたエラー メッセージの正確な語句表現とソフトウェアでのエラーが発生した時点、およびログ ファイルも記録してください。
試みた解決策	問題の解決を試みた際の手順とその結果の記録と、推定される問題の発生回数と問題を再現することができるかどうかを報告してください。

スターリング コマース社 Support Web Site (英語)への アクセス

スターリング コマース社 Customer Support Web Site は Gentran:Server for Windows のサポートに関する以下の重要な情報が記載されています。

- ▶ サポート サービスの範囲
- ▶ カスタマ サポート ポリシー
- ▶ 優先コール
- ▶ カスタマ サポートの電話番号一覧
- ▶ Support on Demand のケース作成
- ▶ Support on Demand ケースのステータス確認
- ▶ Support on Demand ケースへの情報の追加

Customer Support Web サイトは常にアップデートされており、スターリング コマース製品のユーザーの皆様にご利用いただけます。この Web サイトには、最新の製品アップデート情報が記載されています。製品情報に関する重要な情報源としてご活用ください。

参照

Customer Support Web サイトへのアクセス方法に関する情報については、『インストール準備ガイド』を参照してください。

マニュアル

Customer Support Web Site にはドキュメント ライブラリがあり、Gentran:Server for Windows マニュアルセットがすべて含まれています。このライブラリから、いつでも PDF 形式の製品マニュアルをダウンロードできます。

第 1 章

基本操作

目次

- ▶ Gentrans:Server for Windows について 1-2
 - ▶ Gentrans:Server の操作方法 1-6
 - ▶ Gentrans:Server データ トランスレーション処理 1-9
 - ▶ パスワードの変更 1-15
-

Gentran:Server for Windows について

概要

Gentran:Server for Windows は、データトランスレーション、プロセス管理、およびコミュニケーション機能をまとめたシステムで、Microsoft Windows 環境で動作します。この製品は、EDI および同様のデータ型のトランスレーションとコミュニケーションのために設計されています。

プロセス管理システムにより、扱いにくいアドオンではなく、アプリケーションのエクステンションとして、Gentran:Server を多様な業務アプリケーションと統合することができます。

システム コンポーネント

Gentran:Server システムは、複数の論理コンポーネントで構成されています。Gentran:Server は、データベース、システム データ ストア、プロセス コントローラ、コミュニケーション コントローラ、ユーザー インターフェイス クライアントなどを組み合わせ、多様な方法で配備することができます。

必須コンポーネント

各システムには、"プライマリ Gentran システム コントローラ"、"システム データ ストア"、および"データベース"が必要です。

データベース

"データベース"は、Gentran:Server がシステム データを格納するために使用するリレーショナル データベースです。このデータベースを使用すると、複数のユーザーが同じデータにアクセスできます。ほかのコンポーネントとデータベースとの対話は、ODBC(オープン データベース コネクティビティ)で行われるため、データベース コントローラ上でさまざまなデータベース管理システムを使用できます。

参照

Gentran:Server との使用が認証されているデータベース管理システムを確認するには、『インストール準備ガイド』を参照してください。

システム データ ストア

システム データ ストアは、共有 Gentran:Server データのリポジトリです。通常、システム データ ストアは、Gentran:Server システム内の各コンピュータのファイルサーバーとなるコンピュータに置かれます。Gentran:Server システムに置くことができるシステム データ ストアは1つのみですが、必要であれば、関連付けられたフォルダおよびファイルを複数のコンピュータに分散させることができます。

メモ

システム データ ストアが置かれるコンピュータは、Gentran:Server システム内のすべてのコンピュータからアクセス可能でなければなりません。

**プロセス
コントローラ**

Gentran:Server システムの " コントローラ " には、以下の 2 つの種類があります。

- ▶ 1 つのプライマリ システム コントローラ
 - ▶ 1 つまたは複数のセカンダリ コントローラ (必要に応じて)
-

**プライマリ
システム
コントローラ**

" プライマリ システム コントローラ " は、システム内での処理要求の管理と発送、オーディット機能の管理、およびその他すべてのシステム コンポーネントの制御に使用します。

**セカンダリ
コントローラ**

分散ライセンスを購入した場合は、Windows ネットワーク内に追加のコントローラ (" セカンダリ コントローラ ") を配置できます。これにより、プロセスの負荷を分散でき、より効率的なスループットを実現できます。セカンダリ コントローラは、以下のいずれかになります。

プロセス コントローラ

" プロセス コントローラ " は、プライマリ システム コントローラに似た機能を装備しています。プライマリ システム コントローラによって制御され、Windows ネットワークの複数のコンピュータにプロセスを分散するために使用するコントローラです。

コミュニケーション コントローラ

" コミュニケーション コントローラ " は、Gentran:Server とデータを交換する組織 (付加価値ネットワーク (VAN) またはトレーディング パートナー) とのコミュニケーションを統制するために使用します。コミュニケーション コントローラでは、専用線接続やダイヤルアップ接続だけでなく、サードパーティ製のコミュニケーションパッケージとの相互作用もサポートされています。

コミュニケーション コントローラは、コミュニケーションズ ゲートウェイ経由でインストールします。

**ユーザー インター
フェイス
クライアント**

" ユーザー インターフェイス クライアント " は、システムの監視および制御に必要な機能を提供します。メインとなるデータ管理コンポーネントによって、次にアクセスするためのグラフィカル ユーザー インターフェイスが提供されます。

- ▶ ドキュメントの場所
 - ▶ パートナー プロファイル
 - ▶ コミュニケーションのセットアップおよびログ
 - ▶ システムのオーディット ログ
 - ▶ プロセス管理のセットアップおよび管理
-



ユーザー インターフェイス クライアントの コンポーネント

Gentran:Server のユーザー インターフェイス クライアントは、次の 5 つの主なコンポーネントから構成されています。

- ▶ **[電子商取引 (EC) マネージャ]** ウィンドウは、ハイレベルのナビゲーションツールとドキュメント管理ツールを装備しているデータ管理コンポーネントです。[電子商取引 (EC) マネージャ]から、[パートナー エディタ]、[ドキュメント エディタ]、[アプリケーション インテグレーション]、および [フォーム インテグレーション] にアクセスすることもできます。
- ▶ **[パートナー エディタ]** を使用すると、自社およびトレーディング パートナーのパートナー情報を定義、編集、削除することができます。
- ▶ **[ドキュメント エディタ]** は、データを入力するためのツールです。この機能を使用すると、ドキュメントの作成、修正、表示を行うことができます。
- ▶ **[アプリケーション インテグレーション]** サブシステムを使用すると、インポート オブジェクト、エクスポート オブジェクト、およびドキュメント ターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを生成できます。
- ▶ **[フォーム インテグレーション]** サブシステムを使用すると、画面入力オブジェクトおよび印刷トランスレーション オブジェクトを生成できます。

論理 コンポーネント

これまでに説明したユーザー インターフェイス クライアントおよびコントローラ コンポーネントは、Gentran システムの論理コンポーネントですこれらのコンポーネントは、ニーズに合わせて 1 つのコンピュータにまとめて配置することも、複数のコンピュータに分けて配置することもできます。

一般的なシステム

通常、Gentran:Server ユーザー インターフェイス クライアントとして動作させるコンピュータに比べ、プライマリ システム コントローラ、コミュニケーション コントローラ、プロセス コントローラをまとめて動作させるコンピュータに、より高い性能が求められます。

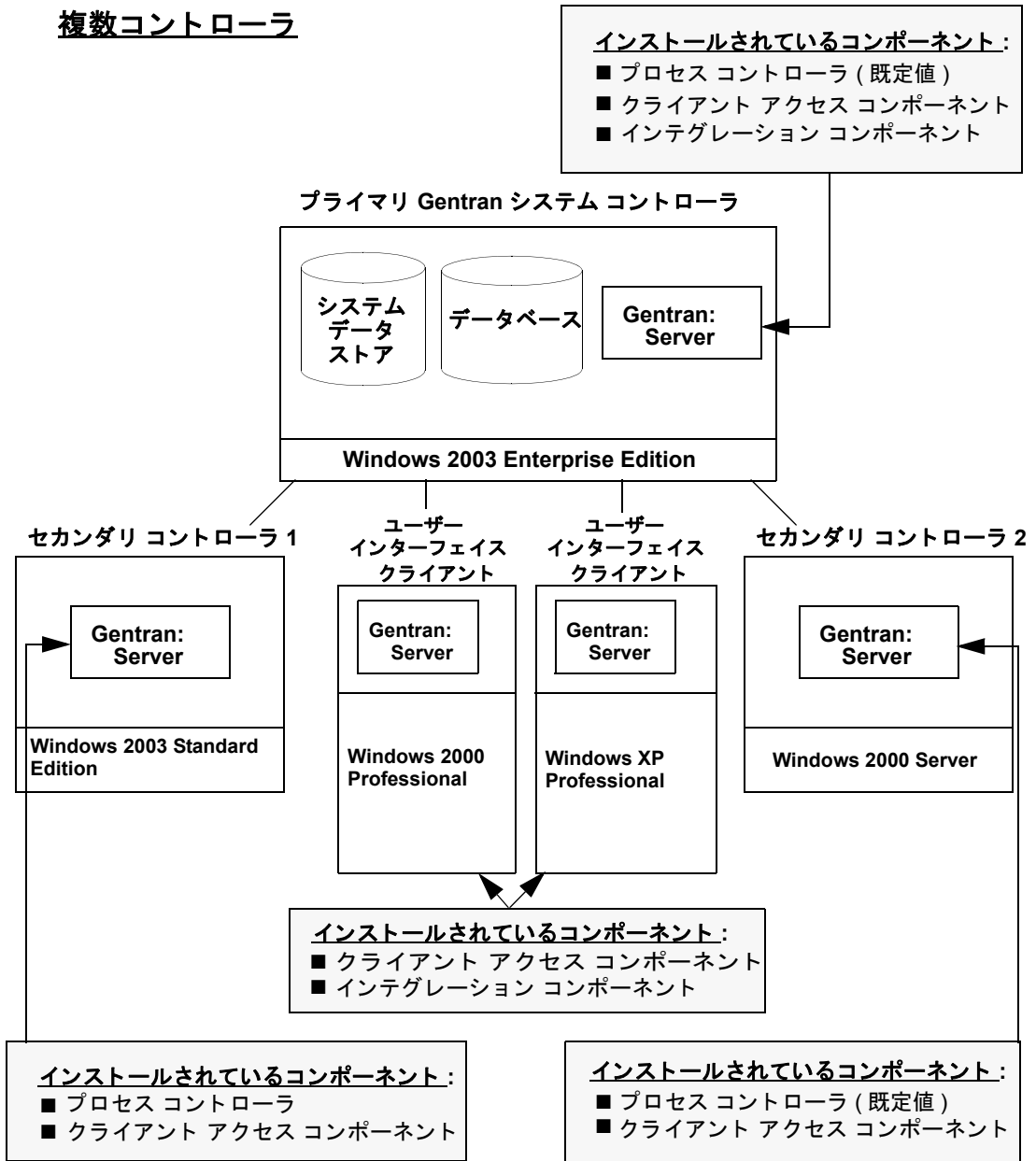
アプリケーション インテグレーションを使用して、必要となるトランスレーション オブジェクトのインストールを完了したら、必要に応じてプロセス コントローラやコミュニケーション コントローラを追加し、プロセスの負荷を分散できます。

論理コンポーネント
(続き)

システム コンポーネントの相互作用図

次の図に、Gentran:Server システムの論理コンポーネント間の相互作用を示します。

複数コントローラ



Gentran:Server の操作方法

概要

次の方法で、Gentran:Server [電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウ の機能を利用できます。

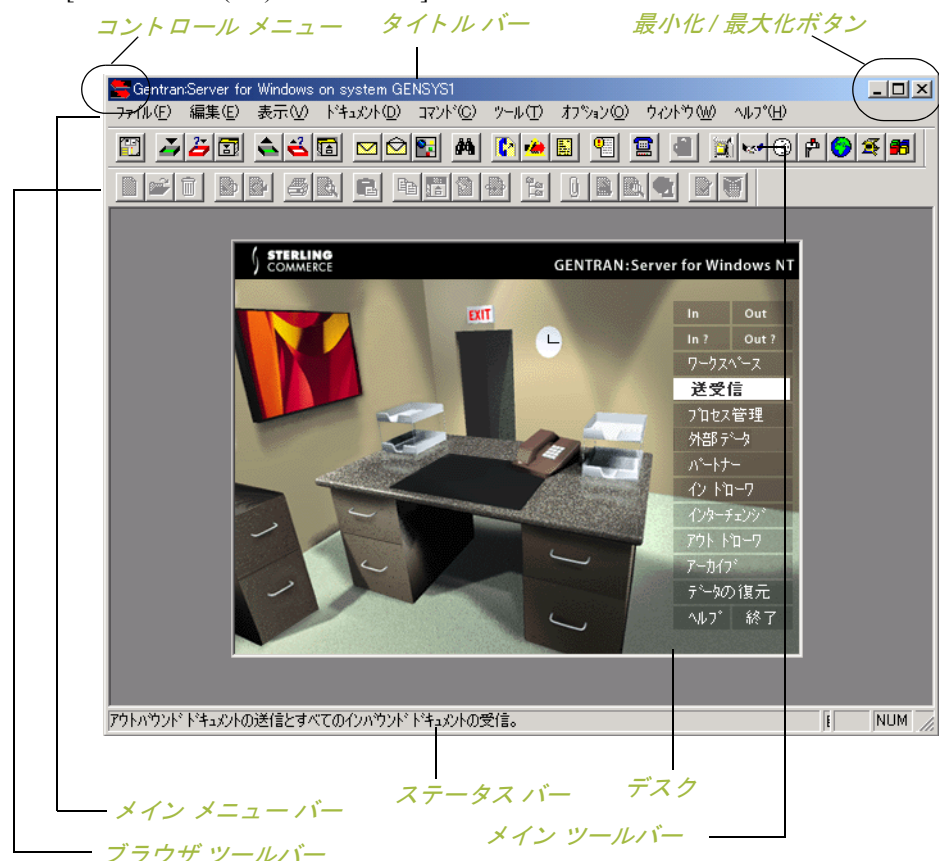
- ▶ メイン メニュー バーからメニュー オプションを選択します。
- ▶ メイン ツールバー上の適切なボタンをクリックします。
- ▶ ブラウザ ツールバーで該当するボタンをクリックします。
- ▶ [デスク] で該当する部分をクリックします。
- ▶ 選択したブラウザ ウィンドウ内の適切なボタンをクリックします。

メモ

F5 を押すか、または [リフレッシュ] (ほとんどのブラウザで使用可能) をクリックすると、[電子商取引 (EC) マネージャ] の表示がリフレッシュされます。

[電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウ

次に、[電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウを示します。



コンポーネント

Gentran:Server のメイン ウィンドウは、次のコンポーネントから構成されています。

コントロール メニュー

"コントロール メニュー"では、次のコマンドが選択できます。
[復元]、[移動]、[サイズ]、[最小化]、[最大化]、[閉じる]。

タイトル バー

Gentran:Server のデスクトップ上の "タイトルバー"には、アプリケーションの名前、およびログインしているシステムの名前が表示されます。タイトルバーをドラッグすることにより、デスクトップ上の [電子商取引 (EC) マネージャ] ウィンドウを移動することができます。

最小化 / 最大化ボタン

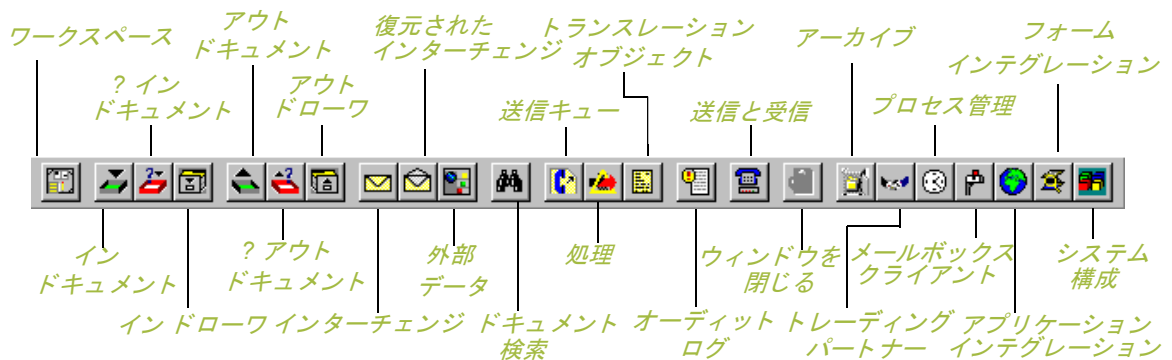
"最小化" ボタンをクリックすると、ウィンドウが縮小されてアイコンとして表示されます。"最大化" ボタンをクリックすると、ウィンドウが拡大されて最大サイズで表示されます。

メイン メニュー バー

"メイン メニューバー"には、以下のドロップダウン メニューが表示されます。これらのメニューに表示されるコマンドの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。使用できない項目はグレー表示になっています。

メイン ツールバー

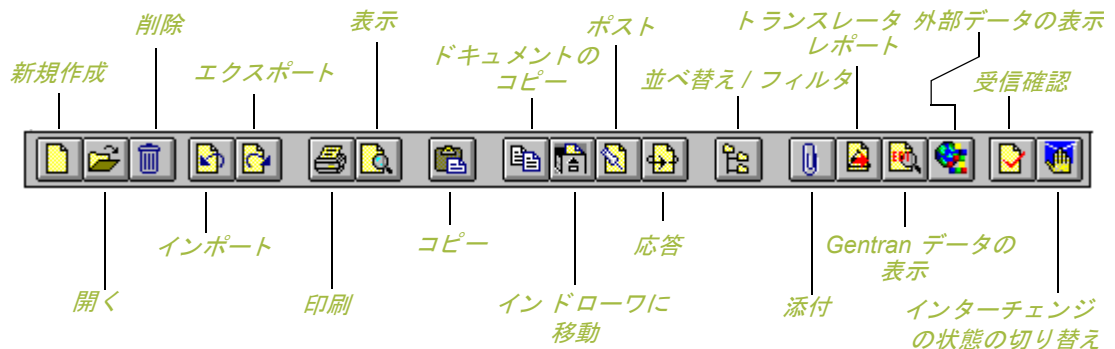
"メイン ツールバー"からは、Gentran:Server で頻繁に使用するブラウザおよび機能にアクセスできます。使用できない項目はグレー表示になっています。メイン ツールバーはドッキング可能なツールバーなので、EC マネージャ ウィンドウの端に配置することができます。次に、メイン ツールバーを示します。



(次のページへ続く)

ブラウザ ツールバー

"ブラウザ ツールバー" から、Gentran:Server のブラウザに備えられている機能を実行できます。使用できない項目はグレー表示になっています。ブラウザ ツールバーはドッキング可能なツールバーなので、EC マネージャ ウィンドウの端に配置することができます。次、ブラウザ ツールバーを示します。



デスク

"デスク" は、Gentran:Server コンポーネントとドキュメントの場所をグラフィカルに表したものです。デスクを使用すると、Gentran:Server で頻繁に使用するブラウザ、機能、およびサブシステムに、素早く簡単にアクセスすることができます。ブラウザ、機能、またはサブシステムにアクセスするには、それを表す [デスク] 上の適切な領域をクリックします。

ブラウザ アイコンには、ドキュメントの場所にドキュメントが存在する場合に、ドキュメントの絵として表示されるものもあります。また、パートナー エディタ サブシステム、ヘルプ システム、"プロセス管理" 機能 (時計のアイコン)、および "送受信" 機能 (電話のアイコン) にデスクからアクセスできます。さらに、[デスク] を使用して、Gentran:Server を終了することもできます (出口 / ドアのアイコン)。

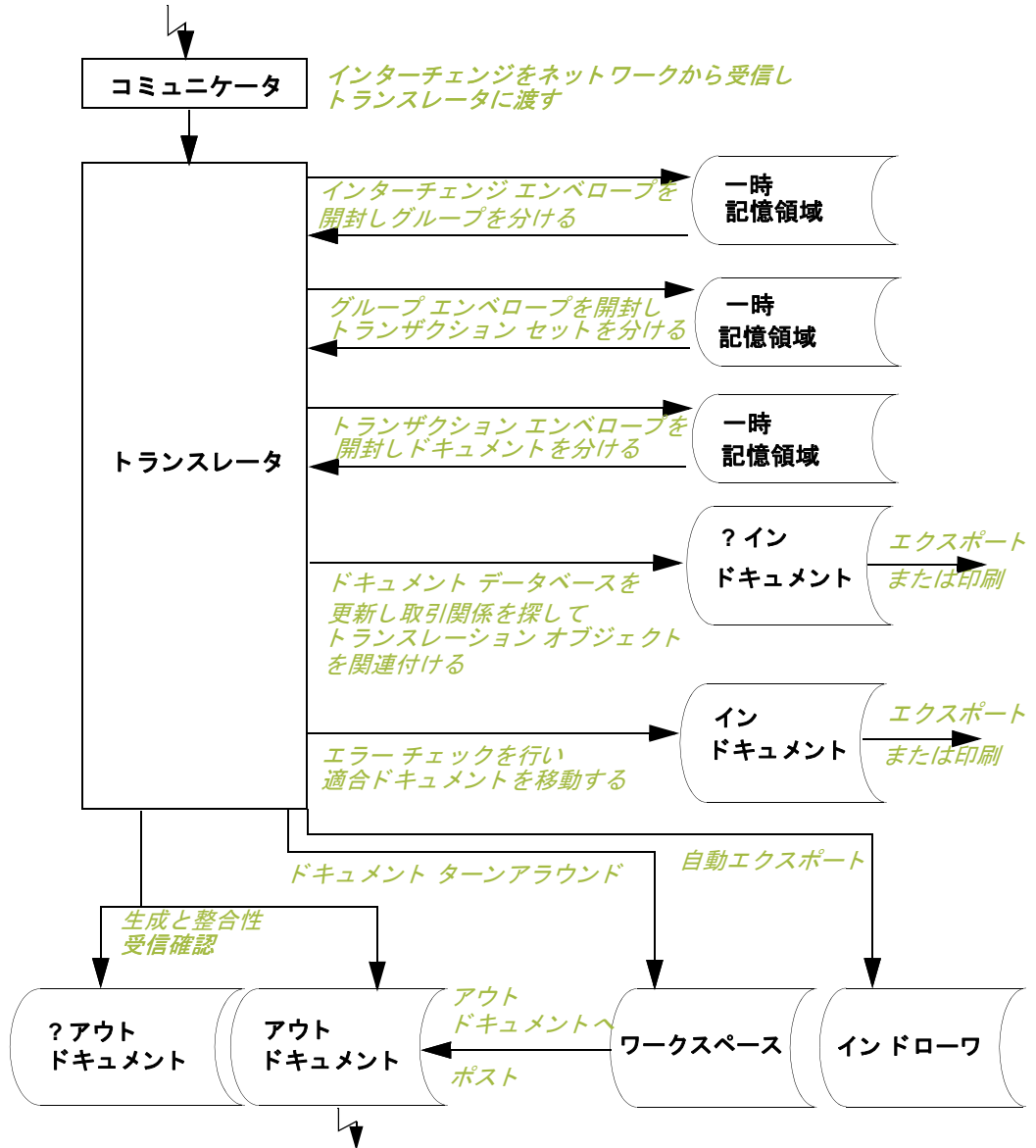
ステータス バー

"ステータス バー" には、選択、コマンド、および処理の状態情報が表示されます。また、メニューで反転表示したアイテムの定義、現在のキーボードの入力モード (たとえば、"Caps Lock" キーは CAP、"Num Lock" キーは NUM) も表示されます。

Gentran:Server データ トランスレーション処理

インバウンド データのトランス レーション

次に、インバウンド トランスレーション処理を示します。



インバウンド データのトランス レーション処理

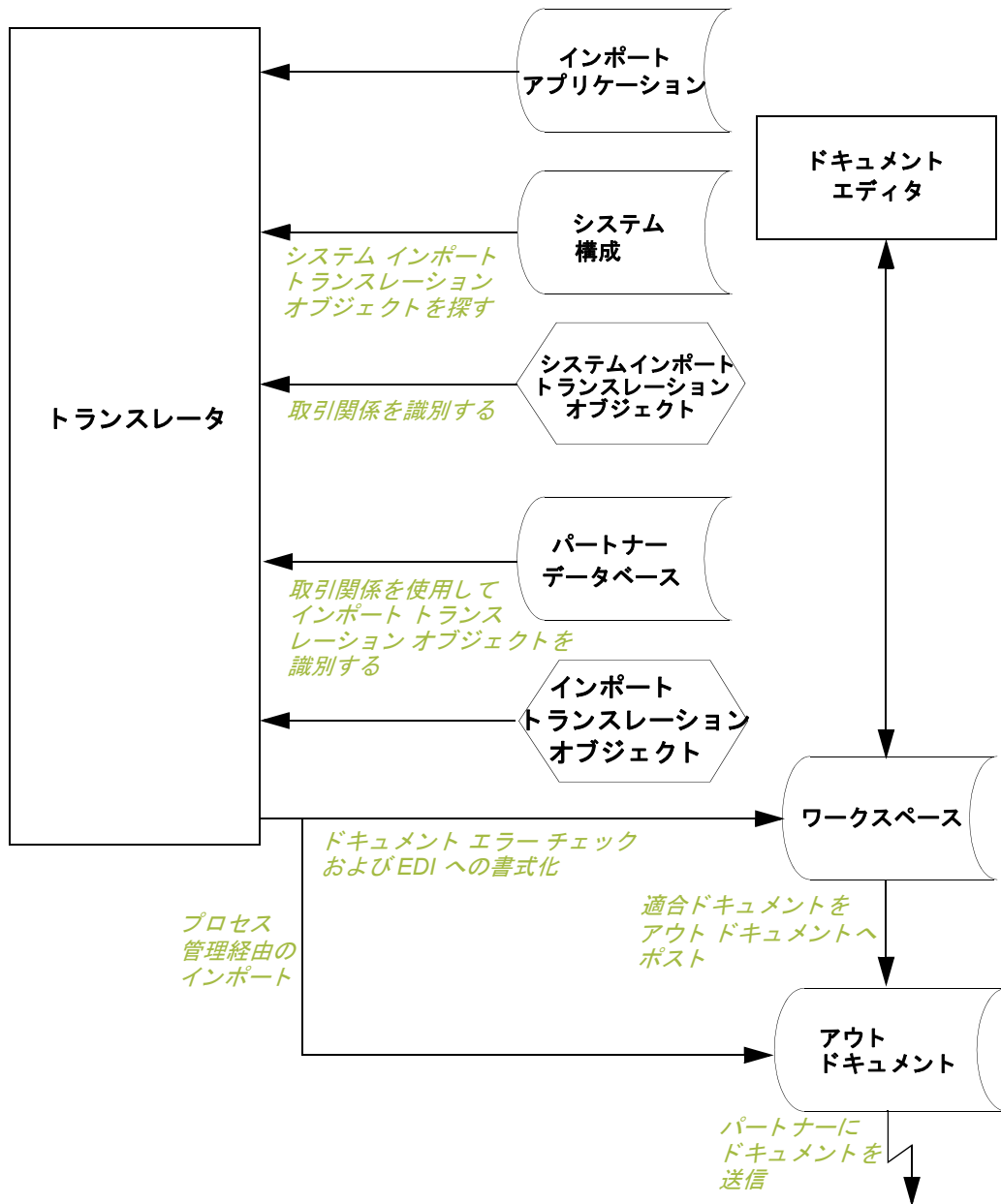
インバウンド データのトランスレーションは、以下の手順で処理されます。

段階	説明
1	コミュニケーターは、ネットワーク経由で、トレーディング パートナーからのインターチェンジを受信します。
2	コミュニケーターがインターチェンジをトランスレータに渡します。
3	トランスレータは、インターチェンジ エンベロープを開封し、各グループを一時記憶領域に分けるために、システム インターチェンジブレイク トランスレーション オブジェクトを使用します。
4	トランスレータは、グループ エンベロープを開封し、各トランザクション セットを一時記憶領域に分けるために、システム グループブレイク トランスレーション オブジェクトを使用します。
5	トランスレータは、システム トランザクション ブレイク トランスレーション オブジェクトを使用して、以下を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランザクション エンベロープを開封する ▶ 各ドキュメントを、システム データ ストアの別々のファイルに分ける ▶ ドキュメントに関する参照情報とともに、レコードをデータベースに書き込む
6	トランスレータが、各ドキュメントの取引関係を見つけるかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 見つける場合は、その関係と関連付けられているエクスポート、ドキュメント ターンアラウンド、および印刷の各トランスレーション オブジェクトの識別が行われます。取引関係およびトランスレーション オブジェクトが見つかった場合は、そのトランスレーション オブジェクトを使用してドキュメントのエラーチェックが行われます。 ▶ 見つけない場合 (取引関係またはトランスレーション オブジェクトが見つからない場合)、そのドキュメントは不適合としてマークされ、[? インドキュメント]に格納されます。
7	ドキュメントが、EDI スタンダードに適合しているかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 適合している場合は、ドキュメントの状態が適合に変更され、[インドキュメント]に格納されます。 ▶ 適合していない場合は、[? インドキュメント]に格納されたままとなります。詳細なエラー レポートが生成されるので、ユーザーはこれをもとに原因を究明することができます。

段階	説明
8	<p>取引関係で、ドキュメントのファンクショナル受信確認が生成されるように指定した場合、トランスレータは、システム受信確認トランスレーション オブジェクトを使用して受信確認を生成します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 適合している受信確認は、送信のため [アウト ドキュメント] に移されます。▶ 適合していない受信確認は [アウト ドキュメント] に移されます。受信確認トランスレーション オブジェクトでエラーが発生した場合も、受信確認は [アウト ドキュメント] に移されます。 <p>また、トランスレータは、受信確認タイプのトランスレーション (例 : 997、CONTRL など) を受信したときにも受信確認の整合性を取ります。</p>
9	<p>取引関係で自動エクスポートまたは自動ターンアラウンドを指定した場合は、指定されたエクスポートまたはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して、該当する応答ドキュメントがエクスポートまたは生成されます。</p>

アウトバウンド データのトランス レーション

次に、アウトバウンド トランスレーション処理を示します。



アウトバウンド データのトランス レーションプロセス

アウトバウンド データのトランスレーションは、次の手順で処理されます。

段階	説明
1	次のいずれかの方法で、アウトバウンド データのトランスレーションを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 時間限定セッションまたはポーリング セッションを使用して、プロセス管理システムでファイルをインポートします。すべての有効なドキュメントが適合状態でデータベースに書き込まれ、[アウト ドキュメント]に格納されます。無効なドキュメントは不適合状態となり、[?アウト ドキュメント]に格納されます。 ▶ アプリケーション ファイルをインポートします。手動でインポートしたドキュメントは、[ワークスペース]に格納されます。 ▶ [ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを入力します (適切なデータ入力トランスレーションオブジェクトが Gentran:Server に登録されている場合のみ)。これらのドキュメントは [ワークスペース]に格納されます。
2	ファイルをインポートする場合、システム構成からのインポート定義がチェックされ、ファイル名とシステム インポート トランスレーションオブジェクトが照合されます。
3	アプリケーション ファイル内の各ドキュメントに対応する取引関係 (パートナー エディタで確立) は、このシステム インポート トランスレーションオブジェクトを使用して識別されます。これにより、ドキュメントの処理にどのインポート マップを使用するかが識別されます。
4	ファイル内のドキュメントに対応する取引関係が識別され、その関係で指定されているインポート トランスレーションオブジェクトが確認されます。
5	トランスレータは、インポート トランスレーションオブジェクトを使用して、ドキュメントのエラー チェックを行います。適合している (有効な) ドキュメントは、"OK" とマークされます。適合していない (無効な) ドキュメントは、"失敗" とマークされます。
6	まだインポート ファイル内にドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントが処理されるまでステップ 3～5 が繰り返されます。

段階	説明
7	<p>[電子商取引 (EC) マネージャを介して手動でファイルをインポートしたり、[ドキュメント エディタ]を使用した場合は、適合ドキュメントを [アウト ドキュメント] にポストする必要があります。</p> <p>メモ [アウト ドキュメント] に格納されたドキュメントは、プロセス管理システムまたは [電子商取引 (EC) マネージャ] の伝送オプションを使用して送信できます。</p>

パスワードの変更

はじめに

Gentran:Server のパスワードは、ユーザー アクセス プロファイルに格納されています。

メモ

- ▶ パスワードを変更するには、これまでに使用されてきたパスワードを知っている必要があります。パスワードを忘れてしまった場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- ▶ 統合セキュリティを使用している場合、Windows のパスワードを変更するときに Gentran:Server のパスワードおよびデータベースのパスワードも変更する必要があるかもしれません。

参照

使用するセキュリティ モードについて質問がある場合には、システム管理者に問い合わせてください。

手順

パスワードを変更するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[オプション] メニューから [選択] を選択します。 システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[パスワードの変更] タブを選択し、オプションを表示します。
3	[旧パスワード] ボックスに、これまでに使用しているパスワードを入力します。
4	[新しいパスワード] ボックスに、新しいパスワードを入力します。
5	[新しいパスワードの確認] ボックスに、もう一度新しいパスワードを入力します。 メモ [新しいパスワード] ボックスと [新しいパスワードの確認] ボックスが一致しない場合には、パスワードを再度入力するよう要求されます。
6	完了したら、[OK] をクリックして、変更を保存します。 システムからの応答 システムが更新され、次のログオン時には新しいパスワードの入力が要求されます。

トランスレーション オブジェクトの 使い方

目次

-
- ▶ 概要..... 2-2
 - ▶ [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザ..... 2-3
 - ▶ [トランスレーション オブジェクトの登録]
ダイアログ ボックス..... 2-6
 - ▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録..... 2-8
 - ▶ トランスレーション オブジェクトの削除..... 2-10
-

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server でのトランスレーション オブジェクトの使用方法について説明します。

トランスレーション オブジェクトの定義

トランスレーション オブジェクトとは、定義、リンク、およびルールをまとめたものであり、これらの要素を組み合わせ、データの形式を変換するために必要なデータをトランスレータに送ります。Gentran:Server では、トランスレーション オブジェクトはトランスレータ サブシステムの処理を制御するために使用されます。

トランスレーション オブジェクトの作成

トランスレーション オブジェクトは、Gentran:Server のアプリケーション インテグレーション サブシステムまたはフォーム インテグレーション サブシステムを使用し、アプリケーション マップやフォーム定義をコンパイルして作成されます。

参照

これらのサブシステムについての詳細は、『アプリケーションインテグレーション ユーザー ガイド』および『Forms Integration User's Guide』を参照してください

トランスレーション オブジェクトの種類

トランスレーション オブジェクトには、2つの種類があります。

システム トランスレーション オブジェクト

システム トランスレーション オブジェクトでは、インターチェンジ、ファンクショナルグループ、およびトランザクション セットの作成と分割を制御します。また、ファンクショナル受信確認を生成したり、ファンクショナル受信確認との整合性をとるためにも使用されます。

ユーザー トランスレーション オブジェクト

ユーザー トランスレーション オブジェクトでは、画面入力、インポート、エクスポート、および印刷レポート作成を制御します。必要なシステム トランスレーション オブジェクトはすべて、Gentran:Server システムによって自動的にインストールされます。

[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザ

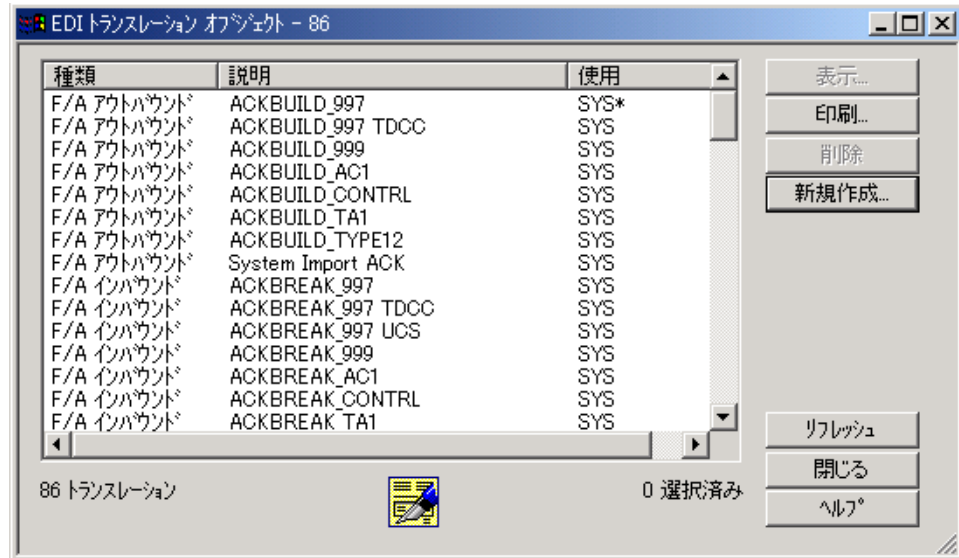
はじめに

次に、"EDI トランスレーション オブジェクト" 機能を構成するシステム コンポーネントを示します。

ブラウザまたはダイアログボックス	機能
EDI トランスレーション オブジェクト	トランスレーション オブジェクトの表示、印刷、削除、および登録に使用します。
トランスレーション オブジェクトの登録	システムに登録するトランスレーション オブジェクトの選択に使用します。

[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザの図

次に、[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザを示します。



各部と機能

次に、[EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
種類	エクスポート、インポート、またはシステム インポートなどの定義済みのトランスレーション オブジェクトの種類が表示されます。

各部	機能
説明	トランスレーション オブジェクトを正確に特定するための説明が表示されます。
使用	<p>現在、トランスレーション オブジェクトがインバウンド パートナー関係またはアウトバウンド パートナー関係に関連付けられているかどうかを示されます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Yes: トランスレーション オブジェクトが使用中であることを示します。 ▶ No: トランスレーション オブジェクトが使用されていないことを示します。 ▶ SYS*: システム トランスレーション オブジェクトが使用中であることを示します。 ▶ SYS: システム トランスレーション オブジェクトが使用されていないことを示します。 <p>メモ トランスレーション オブジェクトが現在使用中である (インバウンド パートナー関係またはアウトバウンド パートナー関係に関連付けられている) 場合、そのトランスレーション オブジェクトは削除できないことがあります。また、システム トランスレーション オブジェクト (SYS* または SYS) に指定されているトランスレーション オブジェクトも削除できません。</p> <p>システム トランスレーション オブジェクトとは、インポート、エクスポート、データ登録、画面入力、ターンアラウンド、および印刷以外のすべてのトランスレーション オブジェクトです。また、説明に "システム" と記述されているトランスレーション オブジェクトは、すべてシステム トランスレーション オブジェクトです。</p>
表示	<p>選択されたトランスレーション オブジェクトに対する情報を表示し、次の内容を含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスレーション オブジェクトの説明 ▶ トランスレーション オブジェクトのタイプ (例: エクスポート) ▶ 入出力 エージェンシー (例: ANSI X12 は X) ▶ 入出力 バージョン (例: 003030) ▶ 入出力 トランザクション ID (例: 850) ▶ 入出力 リリース (TRADACOMS のみ) ▶ トランスレーション オブジェクトのファイル名 (例: 3030.tpl)

各部	機能
印刷	<p>[印刷の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。これを使用して、選択したトランスレーション オブジェクトを印刷するか、または選択したトランスレーション オブジェクトの概要リストを印刷するのかを指定できます。</p> <p>メモ 書式化されたバージョンはトランスレーション オブジェクトの印刷時に必ず印刷されるので、書式化オプションは使用できません。</p> <p>次の表に従って、次に行う操作を決めます。</p>
削除	選択しているトランスレーション オブジェクトを削除します。
新規作成	[トランスレーション オブジェクトの登録]ダイアログ ボックスが表示され、これを使用してトランスレーション オブジェクトをシステムに認識させることができます。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	EDI トランスレーション オブジェクト ブラウザを終了します。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスを使用すると、選択しているトランスレーション オブジェクト ファイルを **Gentran:Server** に登録する (トランスレーション オブジェクトをシステムに認識させる) ことができます。

図

次に、[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次に、[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルが格納されているドライブとフォルダを選択します。
ファイル名	登録するファイルの名前を入力します。
ファイルの種類	開こうとするファイルの種類を選択します。 メモ トランスレーション オブジェクトのファイル拡張子は .TPL です。
開く	選択されているファイルを選択し、[開く] ダイアログ ボックスを閉じます。

各部	機能
キャンセル	ファイルを選択しないで、[開く]ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。



新しいトランスレーション オブジェクトの登録

はじめに

[トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスを使用すると、トランスレーション オブジェクト ファイルを **Gentran:Server** に登録し、そのトランスレーション オブジェクトがシステムで認識されるようにすることができます。

自動登録

トランスレーション オブジェクトをコンパイル時に自動的に登録する自動登録機能を設定することができます。自動登録オプションについての詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。

手順

トランスレーション オブジェクトを登録するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[表示] メニューから、[トランスレーション オブジェクト] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>システムに登録するトランスレーション オブジェクト ファイルをリスト ボックスから選択するか、[ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。</p> <p>メモ 複数のトランスレーション オブジェクトをまとめて反転表示にするには、1 番目のトランスレーション オブジェクトをクリックし、Shift キーを押しながら一番最後のトランスレーション オブジェクトをクリックします。隣接していない複数のトランスレーション オブジェクトを反転表示にするには、Ctrl キーを押しながら各トランスレーション オブジェクトをクリックします。</p>

ステップ	操作
4	<p>[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 トランスレーション オブジェクト ファイルが登録され、 [トランスレーション オブジェクトの登録] ダイアログ ボックス が終了します。</p> <p>メモ 選択したファイルが無効な場合は、警告メッセージが表示されま す。インストールできるのは、有効な Gentrans:Server トランスレー ション オブジェクトのみです。</p> <p>トランスレーション オブジェクトが重複している場合には、既存 のトランスレーション オブジェクトを上書きするかどうかを尋ね るメッセージが表示されます。</p>

トランスレーション オブジェクトの削除

はじめに

不要になったトランスレーション オブジェクトはシステムから削除できます。ただし、インバウンドまたはアウトバウンドのパートナー関係に関連付けられている場合 (EDI トランスレーション オブジェクト ブラウザの [使用] 列が [Yes]) は削除できません。

また、" システム トランスレーション オブジェクト " ("SYS*" または "SYS") として指定されているトランスレーション オブジェクトは、削除できないようになっています。

手順

トランスレーション オブジェクトを削除するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[表示] メニューから、[トランスレーション オブジェクト] を選択します。 システムからの応答 [EDI トランスレーション オブジェクト] ブラウザが表示されます。
2	削除するトランスレーション オブジェクトを選択します。
3	[削除] をクリックします。 システムからの応答 削除後に、削除したことを確認するメッセージが表示されます。
4	これらのトランスレーション オブジェクトを削除するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除する場合は、[はい] をクリックします。 ▶ 削除しない場合は、[いいえ] をクリックします。

第 3 章

パートナーの使い方

目次

▶	はじめに.....	3-3
パートナー プロファイルの使い方.....		3-4
▶	概要.....	3-4
▶	[パートナー エディタ] ダイアログ ボックス.....	3-6
▶	[パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス ..	3-8
▶	[インバウンド関係] ダイアログ ボックス.....	3-10
▶	[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス.....	3-15
▶	[インバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス.....	3-23
▶	[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス.....	3-25
▶	[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス ..	3-29
▶	[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス ..	3-31
▶	[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックス.....	3-35
▶	[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス.....	3-40
▶	[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス.....	3-45
▶	[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス.....	3-47
▶	[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス ..	3-52
▶	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス ..	3-54
▶	パートナーの定義の作成.....	3-58
▶	インバウンド関係の作成.....	3-60
▶	アウトバウンド関係の作成.....	3-68
▶	パートナーの定義の編集と削除.....	3-78
パートナー プロファイルのルーティング.....		3-80
▶	[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス.....	3-80
▶	[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス.....	3-82
▶	[パートナーのコピー] ダイアログ ボックス.....	3-84
▶	パートナー プロファイルのインポート.....	3-88
▶	パートナー プロファイルのエクスポート.....	3-90
▶	パートナー プロファイルのコピー.....	3-91
パートナー テーブルの使い方.....		3-94
▶	概要.....	3-94
▶	[パートナー テーブル] ダイアログ ボックス.....	3-95
▶	[新しいテーブル] ダイアログ ボックス.....	3-97

- ▶ [クロスリファレンス選択]ダイアログ ボックス..... 3 - 99
- ▶ [クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックス..... 3 - 100
- ▶ [照合の選択]ダイアログ ボックス 3 - 102
- ▶ [照合の登録]ダイアログ ボックス 3 - 103
- ▶ [テーブルエクスポート ファイルの組み込み]
ダイアログ ボックス 3 - 104
- ▶ [テーブル インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックス. 3 - 106
- ▶ パートナー テーブルの作成 3 - 108
- ▶ パートナー テーブルの編集 3 - 110
- ▶ パートナー テーブル内のエントリの削除 3 - 111
- ▶ パートナー テーブルの削除 3 - 112
- ▶ パートナー テーブルのエクスポート 3 - 113
- ▶ パートナー テーブルのインポート 3 - 116
- パートナー所在地の使い方..... 3 - 118**
 - ▶ 概要..... 3 - 118
 - ▶ [所在地の選択]ダイアログ ボックス..... 3 - 119
 - ▶ [所在地の登録]ダイアログ ボックス..... 3 - 120
 - ▶ パートナー所在地の作成 3 - 122
 - ▶ パートナー所在地の編集 3 - 123
 - ▶ パートナー所在地の削除 3 - 124



はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server の [パートナー エディタ] の使い方について説明します。主な内容は、次のとおりです。

- ▶ パートナー プロファイルの使い方
- ▶ パートナー プロファイルのルーティング
- ▶ パートナー テーブルの使い方
- ▶ パートナー所在地の使い方

パートナー エディタ

パートナー エディタでは、自社および全トレーディング パートナーについて、すべてのパートナー関係情報の定義、編集、削除を行うことができます。パートナー関係を使用すると、トレーディング パートナーとの間でデータを送受信できます。

[パートナー エディタ] では内部システム パートナー (Internal System User) が使用できるため、システムに対して自社を定義付けできます。

Gentran:Server for RosettaNet

RosettaNet[®] で使用するパートナーの定義については、『Gentran:Server for RosettaNet UserGentran's Guide』の「Using Partner Editor with Gentran:Server for RosettaNet」を参照してください。



パートナー プロファイルの使い方

概要

はじめに

パートナー プロファイルを設定する方法としては、インポート、コピー、作成という 3 通りがあります。どの方法で行うかは、元になるパートナー プロファイルがあるかどうかによって決まります。次の表に従って、どの方法で行うかを決めます。

パートナー プロファイルの作成方法	使用例
既存のプロファイルをインポートする	この方法は、パートナー プロファイルを Sterling Commerce から受信する場合や、パートナーの詳細をインポートできるプロファイルが既に存在する場合に使用します。別の Gentran:Server システムからエクスポートしたプロファイルも使用できます。 参照 詳細については「パートナー プロファイルのインポート 3-88 ページ」を参照してください。
既存のプロファイルをコピーする	この方法は、既存のプロファイルをコピーして、一意のパートナーの定義とキーとなるエンベロープ情報を入力する場合に使用します。 参照 詳細については、「パートナー プロファイルのコピー 3-91 ページ」を参照してください。
新しいプロファイルを作成する	この方法は、インポートまたはコピーできるプロファイルがない場合に使用します。 参照 詳細については、「パートナー プロファイルを定義する手順 3-5 ページ」を参照してください。

パートナーの定義

パートナー プロファイルを作成するには、まず "パートナーの定義" を行います。パートナーの定義には、パートナーに関する基本情報が含まれます。これらの情報は、パートナー プロファイルのほかの部分より前に定義する必要があります。データを交換する相手となる各パートナーについて、パートナーの定義を作成する必要があります。

**パートナー
プロフィール**

パートナー プロファイルを完成させるには、インバウンド関係またはアウトバウンド関係 (あるいはその両方) を定義する必要があります。

- ▶ このトレーディング パートナーから情報を受信して処理する場合は、適切な " インバウンド関係 " を定義する必要があります。
- ▶ このトレーディング パートナーに情報を送信する場合は、" アウトバウンド関係 " を定義する必要があります。

データを交換する相手となる各パートナーについて、パートナー プロファイルを作成する必要があります。

**パートナー
プロフィールを
定義する手順**

パートナー プロファイルを作成するには、次の手順に従います。

段階	説明
1	パートナーの定義を作成します。 参照 「パートナーの定義の作成 3 - 58 ページ」を参照してください。
2	必要に応じて、インバウンド関係を作成します。 参照 「インバウンド関係の作成 3 - 60 ページ」を参照してください。
3	必要に応じて、アウトバウンド関係を作成します。 参照 「アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ」を参照してください。
4	入力または受信したデータの補足や変換に、lookup テーブルおよびクロスリファレンス テーブルを使用するかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、「パートナー テーブルの作成 3 - 108 ページ」を参照してください。 ▶ 使用する必要がない場合は、ステップ 5 に進みます。
5	パートナーの住所および連絡先に関連する情報の格納に、所在地を使用するかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、「パートナー所在地の作成 3 - 122 ページ」を参照してください。 ▶ 使用する必要がない場合は、パートナー プロファイルの定義は以上で完了です。



[パートナー エディタ] ダイアログ ボックス

はじめに

[パートナー エディタ]を使用すると、自社およびパートナーの全パートナー情報を、定義、編集、削除することができます。

図

次に、[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
パートナーの選択	パートナー プロファイルが一覧表示されます。
コピー	[パートナーのコピー] ダイアログ ボックスが表示され、パートナー プロファイルがコピーできます。
インポート	[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示され、パートナー プロファイルをインポートできます。
エクスポート	[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスが表示され、パートナー プロファイルをエクスポートできます。
終了	[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスを閉じます。
編集	[パートナーの定義 (新規/編集)] ダイアログ ボックスが表示され、選択したパートナーの情報を変更できます。
新規作成	[パートナーの定義 (新規/編集)] ダイアログ ボックスが表示され、パートナーの定義を作成できます。
削除	選択したパートナー プロファイルがシステムから削除されます。
インバウンド	選択したパートナーの [インバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。
アウトバウンド	選択したパートナーの [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。
テーブル	選択したパートナーの [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。
所在地	選択したパートナーの [所在地の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
リフレッシュ	ダイアログ ボックスの表示を更新します。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。



[パートナーの定義 (新規作成 / 編集)] ダイアログ ボックス

はじめに

[パートナーの定義] ダイアログ ボックスを使用すると、新しいパートナーの定義を作成したり、作成済みのパートナーの定義を編集できます。

図

次に、[パートナーの定義 - 新規作成] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

[パートナーの定義] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
プロフィール ID	選択したパートナーの一意の識別子を指定します。
名前	パートナーの一意の名前を指定します。 メモ この名前がパートナー選択リストに表示されるので、なるべくそのまま説明になるような名前にします。
EDI コード	このパートナーの EDI 識別子を指定します。この値は、インバウンド処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。
アプリケーションコード	このパートナーの識別に使用するアプリケーション コードを指定します。この値は、アウトバウンド インポート処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。

各部	機能
既定のメールボックス	非 RosettaNet EDI 関係についてこのパートナーを識別するために使用する既定のメールボックスを指定します。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。
既定の E メールアドレス	非 RosettaNet EDI 関係についてこのパートナーを識別するために使用する既定の E メールアドレスを指定します。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[パートナーの定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。
メールボックスの新規作成	[メールボックスの新規作成] ウィザードが表示され、新しいメールボックスを作成できます。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。
メールボックスの編集	[メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、メールボックスを編集できます。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。



[インバウンド関係]ダイアログ ボックス

はじめに

インバウンド関係は、トレーディング パートナーから EDI ドキュメントを受信するためにシステムが必要とするパラメータを定義します。[インバウンド関係]ダイアログ ボックスによって、関係の設定に必要なすべてのダイアログ ボックスが制御されます。

受信するドキュメントは、正確に指定する必要があります。また、ターンアラウンドドキュメント、エクスポート ルール、あるいは印刷条件を定義するために使用するトランスレーション オブジェクトも定義します。

図

次に、"詳細" オプションを含めた [インバウンド関係]ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

[インバウンド関係]ダイアログボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
関係の説明	既存のインバウンド関係を選択します。
標準	<p>この関係で使用する EDI スタンドアードを指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーションオブジェクトに用意されているスタンドアードのみが表示されます。このボックスは既存の関係に対して変更することはできません。このボックスの選択は必須です。</p> <p>有効な値</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [A] - TRADACOMS ▶ [C] - CII ▶ [D] - NCPDP ▶ [E] - EDIFACT ▶ [O] - ODETTE ▶ [P] - OTHER ▶ [R] - ROSETTANET ▶ [T] - TDCC ▶ [U] - UCS ▶ [V] - VDA ▶ [X] - X12
バージョン	<p>この関係で使用する EDI スタンドアードのバージョンを選択します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーションオブジェクトに用意されている選択されたスタンドアードのバージョンのみが表示されます。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下で定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p>
トランザクションセット	<p>この関係で使用するトランザクションセットを選択します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーションオブジェクトに用意されている選択されたバージョンのトランザクションセットのみが表示されます。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下で定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p>



各部	機能
[リリース]	この関係で使用するリリース番号を選択します。 メモ 既存のトランザクション オブジェクトに用意されている、選択されたトランザクションセットのリリースのみが表示されます。このボックスは現在、TRADACOMS スタンドで定義されているメッセージにのみ使用されています。このボックスの選択は、全 TRADACOMS メッセージに対して必須です。
トランザクションは受信確認です	このパートナー関係で定義されているトランザクションが受信確認であるかどうかを指定します。
グループ	[インバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
インターチェンジ	[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
順番検査	システムで順番検査を使用するかどうか、およびその順番検査を連番で行うか日付順で行うかを指定します。Control Number の重複検査を行うよう指定することもできます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [なし] 順番検査は使用されません。 ▶ [重複] Control Number が重複していないかチェックします。 ▶ [連番] Control Number は最後の番号よりも 1 つ大きくなければなりません。 ▶ [日付順] Control Number は最後の番号よりも大きくなければなりません。 メモ 重複した Control Number が検出されたり、順番の間違っている連番または日付順 Control Number が検出された場合、ドキュメントは ? イン ドキュメントに格納されます。
最後に使用した Control Number	次のトランザクション セット Control Number またはメッセージ参照の順番検査に使用する値を指定します。この値は、受信した最後のトランザクション セットまたはメッセージの順序番号で置き換えられます。このボックスは最初は 0 に設定されます。 メモ このボックスは、[順番検査] が [なし] の場合には使用できません。

各部	機能
ドキュメントの重複	<p>ドキュメント名の重複をチェックするかどうかを指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 重複したドキュメント名が検出されるとそれらのドキュメントは？インドキュメントの中に置かれます。 ▶ 重複したドキュメントのチェックが関係でアクティブになっている場合、この関係で使用されるトランスレーションオブジェクトは、スタンダードルールまたは拡張ルールを介してドキュメント名を更新する必要があります。 <p>参照</p> <p>スタンダードルールと拡張ルールの使用に関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザーガイド』を参照してください。</p>
エラー チェックをしない	<p>この関係に関して、ドキュメントのエラー チェックを行うかどうかを指定します。</p>
受信確認の生成	<p>この関係で定義されているトランザクション セット (メッセージ) を受信したときに、このトレーディング パートナーへのファンクショナル受信確認を生成します。このボックスの既定値は [いいえ] です。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [いいえ] 受信確認を生成しません。 ▶ [はい - エラー詳細なし] エラー詳細がない受信確認を生成します。 ▶ [はい - エラー詳細あり] エラー詳細がある受信確認を生成します。 <p>メモ</p> <p>このボックス全体は、この関係の中のドキュメント (トランザクション セット) が受信確認の場合には非アクティブ (グレー表示) になっています。</p>
テスト インジケータ	<p>この関係定義をテスト モードとするか本番モードとするかを指定します。既定値は [本番] です。</p>
受信確認処理	<p>インバウンド ブレーク セッション (即時) または、スケジュール間隔 (延期) の間に、受信確認の整合を行うかどうかを指定します。既定値は [即時処理] です。</p>
保存	<p>変更した情報が保存されます。</p>
終了	<p>[インバウンド関係]ダイアログボックスを閉じます。</p>



各部	機能
新規作成	[新しいインバウンド関係]ダイアログ ボックスを開いて、新規の関係を作成できます。
削除	指定したインバウンド関係がシステムから削除されます。
トランスレーション	[インバウンド トランスレーション オブジェクト]ダイアログ ボックスが開きます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスは、この関係により定義されているデータを処理するために使用する トランスレーション オブジェクトを指定する場合に使用します。

次に、インバウンド トランスレーション レベルを (一番下のレベルから) 示します。

トランスレーション レベル	説明
ドキュメント	指定されている トランスレーション オブジェクトと突き合わせてドキュメントの妥当性を検査し、ドキュメントがスタンダードに適合していることを確認して、EDI から印刷またはアプリケーション書式にトランスレートします。
トランザクション	単一のドキュメントを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを除去します。
グループ	関連する トランザクションのセットを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを除去します (トランザクションは同じ種類である必要はありません)。
インターチェンジ	同じトレーディング パートナーについて定義されているグループを囲む EDI 固有のエンベロープを除去します。



次の図に、"詳細" オプションを含めた [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを示します。

インバウンド トランスレーション オブジェクト - PETZONE

トランスレーション オブジェクトの選択

ターゲットアカウント(T) 自動(U)

エクスポート ファイル(E) PET X 3030 850 Export 自動(O)

印刷 (P)

保存

終了

<< 詳細(A)

ヘルプ(H)

エクスポート ファイル名(E)

メールボックスへエクスポート

メールボックスへエクスポート

パートナー既定値のメールボックスと E メール アドレスを使用

受信メールボックス メールボックスの新規作成

受信 E メール アドレス メールボックスの編集

コンテンツ タイプ/サブ タイプ

アプリケーション ID(L):

アプリケーション エリアス バリュー(V): 850

トランスレーション オブジェクトの追加

インポート

画面入力(D)

トランザクション(R) ST Break Template

受信確認(K)

各部と機能

[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
ターンアラウンド / 自動	<p>すべてのターンアラウンド ドキュメント オプションが表示されます。ドキュメント受信時に作成されるターンアラウンド ドキュメントは、そのドキュメントのエレメントが可能な限り多く含まれる応答ドキュメントです。</p> <p>メモ 定義されているターンアラウンド処理を自動にしたい場合には、[自動] チェックボックスを選択します。[自動] ボックスが選択されていない場合には、受け取ったドキュメントは処理のため選択されるまでインドキュメントの中に残されます。</p>
エクスポート ファイル / 自動	<p>関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに関する登録済みのすべてのエクスポート トランスレーション オブジェクトが表示されます。これにより、EDI ドキュメントが届いたときに、そのドキュメントを出力ファイルにエクスポートするように指定できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを受け取ったときにエクスポート ファイルを自動的に作成したい場合に、[自動] チェックボックスを選択します。[自動] ボックスが選択されていない場合には、受け取ったドキュメントは処理のため選択されるまでインドキュメントの中に残されます。 ▶ この関係に対してエクスポート ファイル名を定義した場合、それぞれのドキュメントは個々に一意なファイルへエクスポートできます。書式制御文字をファイル名に使用すると、エクスポートされた各ドキュメントでドキュメント キーが変更され、(すべて同一のインターチェンジからエクスポートされたドキュメントの) プロセス ID は同じものが使われ、一意な ID は変更されます。したがって、(下記に定義している) 特殊文字のドキュメント キーおよび一意な ID を使用すると、一意なファイル名を作成できます。 <p>参照 これらの値の詳細については、「エクスポート ファイル名 3 - 18 ページ」を参照してください。</p>



各部	機能
印刷	<p>関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステム上の印刷 トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。選択した トランスレーション オブジェクトを使って、このパートナーから受信したドキュメントを印刷します。</p>
エクスポート ファイル名	<p>エクスポート操作を実行した結果として作成または追加されるファイルの名前を指定します。このファイル名には、英数字と書式文字を混在させることができます。書式文字は、トランスレータによってそれらの文字が表示ランタイム値に置き換えられます。</p> <p>サポートしている書式文字</p> <p>%y (2 桁表記の年次) %Y (4 桁年数) %m (略式月名) %M (10 進数としての月) %d (略式曜日名) %D (10 進数としての月間通算日) %H (24 時間形式の時間) %N (分) %S (秒) %K (ドキュメント キー) %P (プロセス識別子) %U (現在時間、エクスポート ファイル名、プロセス識別子、rand () 関数により派生させた一意的な数値)</p> <p>メモ</p> <p>ランタイム ファイル名はエクスポート 1 回ごとに生成されます。</p> <p>例</p> <p>以下は書式制御文字を使用したランタイム ファイル名の一例です。</p> <pre>d:\GENSRVNT\exports\dockey%Kprocid%Puniqueid%U.dat</pre>
空のエクスポート ファイルを削除 しますか？	<p>エクスポート操作の結果が空のエクスポート ファイルだった場合、このオプションがチェックされているとファイルが削除されます。チェックされていない場合、空のファイルは削除されません。</p>

各部	機能
メールボックスへ エクスポート	<p>インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバー マネージャに配信する “メールボックスへエクスポート” 機能呼び出します。これにより、メールボックス サーバー マネージャは、メッセージブローカーとして機能し、その最終的な宛先までデータを配信できるようにになります。</p> <p>メモ エクスポート ファイル名を指定した場合でも引き続き有効で、添付ファイル名になります。書式文字は、ファイル名にはまだ有効なため、ドキュメント キーが使用されると、複数の添付ファイルが作成される場合があります。たとえば、 「d:\GENSRVNT\exports\dockey%Kprocid%Puniqueid%U.dat」 という名前が使用されている場合、処理されたドキュメントごとにドキュメント キーが一意の名前を作成するため、各ドキュメントごとに新しい添付ファイルが作成されます。</p> <p>メールボックスへのエクスポートを設定するには、[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスで次のコンポーネントを設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [エクスポート ファイル名] ボックスに、ファイル名を入力します。 ▶ [メールボックスへエクスポート] チェック ボックスをオンにします。 ▶ [受信メールボックス] リストからメールボックスを選択します ([受信 E メール アドレス] はオプションです)。 ▶ [コンテンツ タイプ/サブ タイプ] ボックスで、コンテンツ タイプを入力します (コンテンツ サブタイプはオプションです)。
パートナー既定値のメールボックスと E メール アドレスを使用	このチェックボックスをオンにすると、インバウンド トランスレーションの出力が、このパートナーに既定のメールボックスおよび E メール アドレスにエクスポートされます。
受信メールボックス	インバウンド トランスレーション出力の配送先となるメールボックスを選択します。



各部	機能
メールボックスの 新規作成	<p>または、[メールボックスの新規作成]をクリックすると [メールボックスの新規作成ウィザード]が表示され、新しいメールボックスを作成できます。</p> <p>参照 詳細については、『Communications User's Guide』を参照してください。</p>
受信 E メール アドレス	<p>インバウンド トランスレーション出力の配信先となる E メール アドレスを指定します。</p>
メールボックスの 編集	<p>または、[メールボックスの編集]をクリックすると、[メールボックスの新規作成]ウィザードが表示され、メールボックスを編集できます。</p> <p>参照 詳細については、『Communications User's Guide』を参照してください。</p>
コンテンツ タイプ /サブ タイプ	<p>インバウンド トランスレーションの出力を含むメッセージのコンテンツ タイプ/サブタイプを指定します。</p> <p>参照 詳細については、『Communications User's Guide』を参照してください。</p>
アプリケーション ID	<p>ドキュメントの宛先を示すアプリケーション識別子を指定します。</p>
アプリケーション エイリアス バリュー	<p>アプリケーション インポート機能の実行中に、この関係に対する基準を定義します。</p> <p>例 そのアプリケーションには、請求書またはクレジット メモを生成できるデータが含まれています。請求書に対しては一方の関係定義を使い、クレジット メモに対しては他方の関係定義を使用することにします。</p> <p>これが請求書なのか、クレジット メモなのかを定義するボックスが、アプリケーションの中にあります。クレジット メモが作成される場合にはこのボックスに "CREDIT" という文字列が入り、請求書が作成される場合には "INVOICE" という文字列が入ります。クレジット メモを定義する関係のアプリケーション エイリアス バリューに "CREDIT" という文字列を入力し、請求書の関係定義に "INVOICE" という文字列を入力します。</p> <p>メモ このボックスは、アプリケーション エイリアス バリューを使用するように定義されている トランスレーション オブジェクトを受信する場合にのみ使用します。</p>

各部	機能
インポート	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトが格納されます。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行したりすることができます。</p> <p>メモ この関係について特定のインポート トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[インポート] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。インポート トランスレーション オブジェクトはインバウンド定義に適さない場合があります。</p>
画面入力	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行することができます。</p> <p>メモ この関係について特定のデータ登録トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合 (たとえば、インバウンド データの書式付き表示を変更したい場合) に、[画面入力] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p>
[トランザクション]	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクションおよびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行することができます。</p> <p>メモ この関係について特定のトランザクション ブレーク トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[トランザクション] リストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。</p>



各部	機能
受信確認	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクション およびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行したりすることができます。</p> <p>メモ この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認] リストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。</p> <p>システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>トランザクション セットが受信確認であり、受信確認追加トランスレーション オブジェクトを選択している場合、システムは受信確認の整合性を取るためにエクスポート トランスレーション オブジェクトの代わりに追加トランスレーション オブジェクトを使用します。</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[インバウンドグループ選択]ダイアログボックス

はじめに

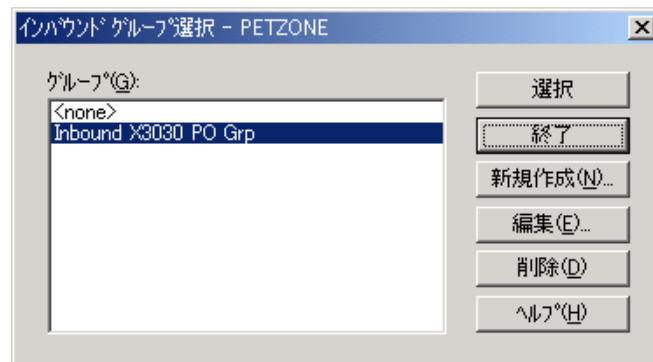
[インバウンドグループ選択]ダイアログボックスを使って、この関係と関連付けるべき既存のファンクショナルグループの定義を選択します。さらに、これを使って新規ファンクショナルグループの定義を開始したり、既存の定義を修正または削除することもできます。使用できるグループは、[インバウンド関係]ダイアログボックスで選択したバージョンによって決まります。

メモ

ファンクショナルグループは、ANSI X12、TDCC、およびUCSスタンダードには必須、EDIFACTとODETTEではオプション、そしてTRADACOMSについては指定されていません。

図

次に、[インバウンドグループ選択]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

[インバウンドグループ選択]ダイアログボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
グループ	このトレーディングパートナーについて設定されているすべてのファンクショナルグループ定義が表示されます。
選択	表示されているファンクショナルグループでこの関係とも使用するものを選択します。 メモ 使用しているスタンダードにグループが不要であり、使わない場合は、<none>を選択します。
終了	[インバウンドグループ選択]ダイアログボックスを閉じます。
新規作成	[インバウンドグループ登録]ダイアログボックスが表示され、新しいグループを作成できます。

各部	機能
編集	[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスが表示され、選択したグループを編集できます。
削除	選択したグループがシステムから削除されます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスは、ファンクショナルグループの定義を指定するために使用します。

図

次に、"詳細" オプションを含めた [インバウンド グループ登録] ダイアログボックスを示します。

各部と機能

[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
説明	ファンクショナルグループ説明の名前を指定します。
標準	この関係定義に使用されている EDI スタンドアードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンドアードのバージョンが表示されます。

各部	機能
ファンクショナルグループ ID	<p>ファンクショナルグループを指定します。これらの ID ボックスは、ドキュメントのようにそれぞれの適切なスタンダードのグループごとに定義されています。スタンダードでは、それぞれのドキュメントタイプで使用すべきファンクショナルグループ ID を定義しています。このボックスは必須です。</p> <p>例</p> <p>IN 810 X12 請求書 PO 850 X12 発注書 IG 830 UCS 請求書 OG 875 UCS P. O. INVOIC EDIFACT INVOIC ORDERS EDIFACT ORDERS INVOIC Tradacoms INVOIC ORDERS Tradacoms ORDERS</p> <p>このエレメントは次の場所にあります：</p> <p>ANSI X12: GS01 EDIFACT: UNG01 TRADACOMS: BAT</p>
順番検査	<p>インバウンド順番検査を使用するかどうか、およびその順番検査を連番で行うか日付順に行うかを指定します。Control Number の重複検査を行うよう指定することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [なし] 順番検査は使用されません。 ▶ [重複] Control Number が重複していないかチェックします。 ▶ [連番] Control Number は最後の番号よりも1つ大きくなければなりません。 ▶ [日付順] Control Number は最後の番号よりも大きくなければなりません。 <p>メモ 重複した Control Number が検出されたり、順番の間違っている連番または日付順 Control Number が検出された場合、ドキュメントは？インドキュメントに格納されます。</p>
最後に使用したグループ Control Number	<p>グループ Control Number の順番検査を行うために使用する値を指定します。この番号は、システムが受け取ったグループ Control Number で置き換えられます。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p>

各部	機能
受信確認グループ	<p>この関係で定義されているグループを受信したときに、このトレーディング パートナーへファンクショナル受信確認が送信されます。既定では、このボックスはチェックなし (受信確認を期待しない) です。</p> <p>メモ このチェックボックスは、トランザクション セットが受信確認の場合にはグレー表示 (非アクティブ) になっています。</p>
受信確認 トランザクション セット ID	<p>このグループに対して生成する受信確認を選択します。</p> <p>例 ANSI X12 = 997 ファンクショナル受信確認 UCS/EDIA = 999 受入 / 拒否アドバイス EDIFACT = CNTRL</p>
グループ トラン スレーションオブ ジェクト	<p>トレーディング パートナー グループの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のグループブレイク マップ トランスレーション オブジェクトを選択します。パートナー固有のグループ分けを実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
受信確認 トラン スレーションオブ ジェクト	<p>受信確認ブレイク マップがあれば選択します。</p> <p>メモ この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー グループに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認 トランスレーション オブジェクト] リストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
保存	<p>変更した情報が保存されます。</p>



各部	機能
終了	[インバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

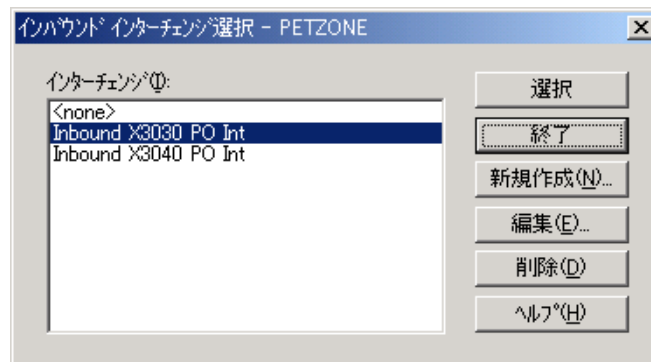
[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスは、この関係と関連付けるべき既存のインターチェンジの定義を選択するために使用します。さらに、これを使って新規インターチェンジの定義を開始したり、既存の定義を修正または削除することもできます。使用できるインターチェンジは、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスで選択したバージョンによって決まります。インターチェンジは、EDIFACT、ODETTE、TRADACOMS、および UCS には必須、ANSI X12 と TDCC にはオプションです。

図

次の図に、[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
インターチェンジ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのインターチェンジ定義が表示されます。
選択	表示されているインターチェンジでこの関係とともに使用するものを選択します。 メモ 使用しているスタンダードにインターチェンジが不要であり、使わない場合は、<none> を選択します。
終了	[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが表示され、新規のインターチェンジを作成できます。

各部	機能
編集	[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが表示され、選択したインターチェンジを編集できます。
削除	選択したインターチェンジがシステムから削除されます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを使って、新規インターチェンジの定義を指定します。

メモ

EDIFACT バージョン 4 は、8 ビット ASCII 以外の文字セットを使用してエンコードされているインターチェンジの作成 (および処理) をサポートするために必要なインフラストラクチャを定義します。Gentran:Server for Windows は、エンコードされているインターチェンジの処理をサポートしています。ただし、そのインターチェンジのエンコーディングが、Gentran:Server が実行しているオペレーティング システムの既定コード ページと一致する場合があります。

図

次に、" 詳細 " オプションを含めた [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
説明	インターチェンジの説明の名前が入ります。
標準	この関係定義に使用されている EDI スタンドアードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンドアードのバージョンが表示されます。
インターチェンジ ID	<p>インターチェンジのタイプを選択します。スタンドアードでは、それぞれのスタンドアードで使用すべきインターチェンジ ID が定義されています。このボックスは必須です。</p> <p>例</p> <p>ANSI X12 - ISA - ICS UCS - BG EDIFACT - UNB Tradacoms - STX</p>
順番検査	<p>システムで順番検査を使用するかどうか、およびその順番検査を連番で行うか日付順で行うかを指定します。Control Number の重複検査を行うよう指定することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [なし] 順番検査は使用されません。 ▶ [重複] Control Number が重複していないかチェックします。 ▶ [連番] Control Number は最後の番号よりも 1 つ大きくなければなりません。 ▶ [日付順] Control Number は最後の番号よりも大きくなければなりません。 <p>メモ 重複した Control Number が検出されたり、順番の間違っている連番または日付順 Control Number が検出された場合、ドキュメントは ? インドキュメントに格納されます。</p>
最後に使用した Control Number	<p>次のインターチェンジ Control Number の順番検査を行うために使用する値を指定します。この番号は、受け取った最後のインターチェンジの Control Number で置き換えられます。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p> <p>メモ このボックスは、[順番検査] が [なし] の場合には使用できません。</p>

各部	機能
受信確認インターチェンジ	この関係で定義されているインターチェンジセットを受信したときに、このトレーディング パートナーへファンクショナル受信確認が送信されます。既定では、このボックスはチェックなし (受信確認を期待しない) です。
受信確認 トランザクション セット ID	このインターチェンジに対して生成したい受信確認を指定します。 例 ANSI X12 = 997 ファンクショナル受信確認 UCS/EDIA = 999 受入 / 拒否アドバイス EDIFACT = CNTRL
インターチェンジ トランスレーション オブジェクト	トレーディング パートナー インターチェンジの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のインターチェンジブレーク マップ トランスレーション オブジェクトを選択します。パートナー固有のインターチェンジをシステムに実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。 注意 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。
受信確認 トラン スレーションオブ ジェクト	受信確認ブレーク マップがあれば選択します。 この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このトレーディング パートナー インターチェンジに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認 トランスレーション オブジェクト] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。 注意 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。



各部	機能
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[アウトバウンド関係]ダイアログボックス

はじめに

アウトバウンド関係により、EDIドキュメントをトレーディングパートナーへ送信するのに必要なパラメータが定義されます。[アウトバウンド関係]ダイアログボックスによって、関係の設定に必要なすべてのダイアログボックスが制御されます。

送信するドキュメントを、正確に指定する必要があります。また、データ登録ダイアログボックス、インポートルール、または印刷条件を定義するために使用するトランスレーションオブジェクトも指定しなければなりません。加えて、トレーディングパートナーとの間で合意した特定のEDIエンベロープ条件を定義するよう求められます。

図

次の図に、"詳細"オプションを含めた[アウトバウンド関係]ダイアログボックスを示します。

各部と機能

[アウトバウンド関係]ダイアログボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
関係の説明	関係の説明を選択します。
標準	<p>この関係で使用する EDI スタンドアードを指定します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーションオブジェクトに用意されているスタンドアードのみが表示されます。このボックスは既存の関係に対して変更することはできません。このボックスの選択は必須です。</p> <p>有効な値</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [A] - TRADACOMS ▶ [C] - CII ▶ [D] - NCPDP ▶ [E] - EDIFACT ▶ [O] - ODETTE ▶ [P] - OTHER ▶ [R] - ROSETTANET ▶ [T] - TDCC ▶ [U] - UCS ▶ [V] - VDA ▶ [X] - X12
バージョン	<p>この関係で使用する EDI スタンドアードのバージョンを選択します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーションオブジェクトに用意されている選択されたスタンドアードのバージョンのみが表示されます。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下で定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p>
トランザクションセット	<p>この関係で使用するトランザクションセットを選択します。</p> <p>メモ 既存のトランスレーションオブジェクトに用意されている選択されたバージョンのトランザクションセットのみが表示されます。このボックスを既存の関係に対して変更した場合、その下で定義されているすべての情報がクリアされるので、再度選択しなければなりません。このボックスの選択は必須です。</p>

各部	機能
[リリース]	<p>この関係で使用するリリース番号を選択します。</p> <p>メモ 既存のトランザクションオブジェクトに用意されている、選択されたトランザクションセットのリリースのみが表示されます。このボックスは現在、TRADACOMS スタンダードで定義されているメッセージにのみ使用されています。このボックスの選択は、全 TRADACOMS メッセージに対して必須です。</p>
グループ	<p>[アウトバウンド グループ選択]ダイアログボックスが開きます。</p>
インターチェンジ	<p>[アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログボックスが開きます。</p>
最後に使用した Control Number	<p>次のトランザクションセット Control Number またはメッセージ参照の生成に使用する値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも 1 つ上です。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p>
受信確認を期待	<p>パートナーがこの関係で定義されているトランザクションセット (メッセージ) を受信した際に、システムでこのトレーディング パートナーからファンクショナル受信確認が受け取られることが想定されます。既定では、このボックスはチェックなし (受信確認を期待しない) です。</p>
時間切れ	<p>予期しているファンクショナル受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を定義します。このボックスは、[受信確認を期待]ボックスがチェックされている場合にのみ有効です。このフィールドの既定値は 48 なので、2 日経過した受信確認が時間切れとみなされます。このフィールドに値「0」を入力すると、受信確認は即座に時間切れとみなされます。</p> <p>メモ このボックスは、[受領確認を期待]がチェックされていない場合には使用できません。</p>



各部	機能
ドキュメントの重複	<p>ドキュメント名の重複をチェックするかどうかを指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ワークスペース]に手動でドキュメントをインポートした場合、この機能によって重複ドキュメントがチェックされます。重複したドキュメントは、削除しない限りはワークスペース内に残ります。重複したドキュメントを移動またはポストしようとする、警告メッセージが表示されます。[プロセス管理]のインポート機能を使用してドキュメントをインポートした場合、重複ドキュメントは[?アウトドキュメント]に格納されます。 • 重複したドキュメントのチェックが関係でアクティブになっている場合、この関係で使用されるトランスレーション オブジェクトは、スタンダード ルールまたは拡張ルールを介してドキュメント名を更新する必要があります。 <p>参照</p> <p>スタンダード ルールと拡張ルールの使用に関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザーガイド』を参照してください。</p>
テスト インジケータ	この関係定義をテスト モードとするか本番モードとするかを指定します。既定値は[本番]です。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[新しいアウトバウンド関係]ダイアログ ボックスを開いて、新規の関係を作成できます。
削除	指定したアウトバウンド関係がシステムから削除されます。
トランスレーション	[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト]ダイアログ ボックスを開きます。

各部	機能
エンベロープ	<p>指定したバージョンに応じて、以下のアウトバウンドエンベロープダイアログボックスのいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アウトバウンド UNH エンベロープ ▶ アウトバウンド MHD エンベロープ ▶ アウトバウンド ST エンベロープ <p>参照 各エンベロープダイアログボックスの詳細については、[パートナー エディタ]のオンラインヘルプを参照してください。</p>
詳細	<p>詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。</p>
ヘルプ	<p>オンラインヘルプを表示します。</p>



[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス

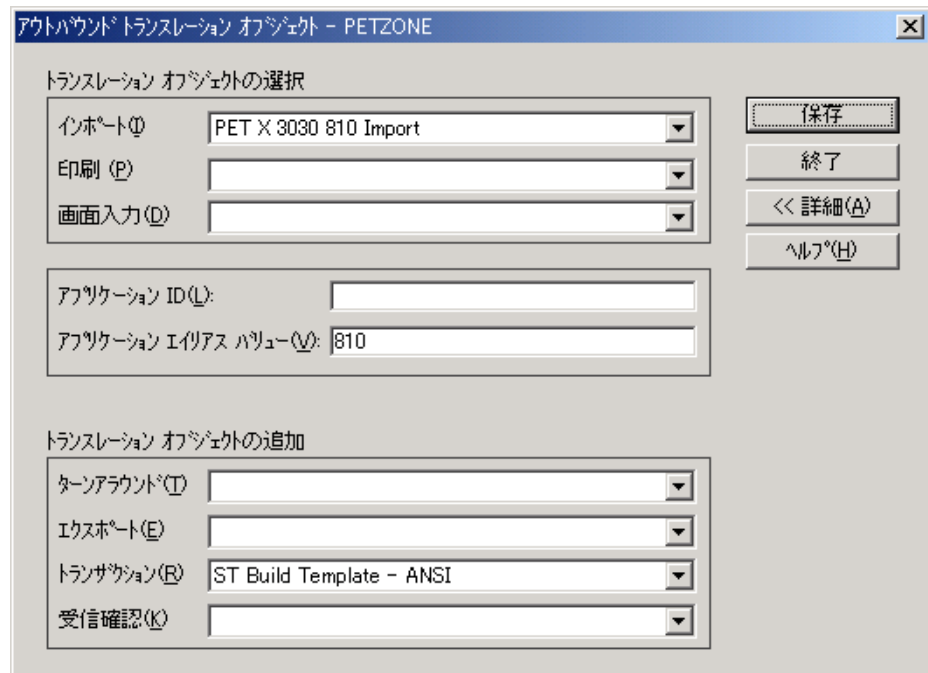
はじめに

[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスは、この関係により定義されているデータを処理するために使用するトランスレーション オブジェクトの指定に使用します。

次に、アウトバウンド トランスレーション レベルを (一番下のレベルから) 示します。

トランスレーション レベル	説明
ドキュメント	インポート書式または画面入力から EDI に変換します。
トランザクション	単一のドキュメントを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを作成します。
グループ	関連するトランザクションのセットを囲んでいる EDI 固有のエンベロープを作成します (トランザクションは同じ種類でなくてもかまいません)。
インターチェンジ	同じトレーディング パートナーについて定義されているグループを囲む EDI 固有のエンベロープを作成します。

次に、" 詳細 " オプションを含めた [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
インポート	関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステムのインポート トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。
印刷	関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステムの印刷 トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。選択した トランスレーション オブジェクトを使って、このパートナーに送信されるドキュメントを印刷します。
画面入力	関係により定義されているスタンダード、バージョン、トランザクション セット、およびリリースに対するシステムの画面入力 トランスレーション オブジェクトすべてが表示されます。



各部	機能
アプリケーション ID	ドキュメントの宛先を示すアプリケーション識別子を指定します。
アプリケーション エイリアス バリユー	<p>アプリケーション インポート機能の実行中に、この関係に対する基準を定義します。</p> <p>例 そのアプリケーションには、請求書またはクレジット メモを生成できるデータが含まれています。請求書に対しては一方の関係定義を使い、クレジット メモに対しては他方の関係定義を使用することにします。</p> <p>これが請求書なのか、クレジット メモなのかを定義するボックスが、アプリケーションの中にあります。クレジット メモが作成される場合にはこのボックスに "CREDIT" という文字列が入り、請求書が作成される場合には "INVOICE" という文字列が入ります。クレジット メモを定義する関係のアプリケーション エイリアス バリユーに "CREDIT" という文字列を入力し、請求書の関係定義に "INVOICE" という文字列を入力します。</p> <p>メモ このボックスは、アプリケーション エイリアス バリユーを使用するように定義されている トランスレーション オブジェクトを受信する場合にのみ使用します。</p>
ターンアラウンド	<p>関係と関連付けられたほかの トランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクション およびドキュメントの トランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有の トランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行することができます。</p> <p>この関係について特定のターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[ターンアラウンド] リストから トランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>メモ ターンアラウンド トランスレーション オブジェクトは、アウトバウンド 関係に適さない場合があります。</p>

各部	機能
<p>エクスポート</p>	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクション およびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行することができます。</p> <p>この関係について特定のエクスポート トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[エクスポート] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。エクスポート トランスレーション オブジェクトを使って、アウトバウンド ドキュメントをファイルへエクスポートします。</p>
<p>トランザクション</p>	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクション およびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行することができます。</p> <p>この関係について特定のトランザクション ビルド トランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[トランザクション] リストからトランスレーション オブジェクトを選択します。</p>



各部	機能
受信確認	<p>関係と関連付けられたほかのトランスレーション オブジェクトを選択します。これにより、トランザクション およびドキュメントのトランスレーション レベルでシステムの動作を変更することができます。必要に応じてパートナー固有のトランスレーション オブジェクトを使用したり、必要に応じた数の機能を実行することができます。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー関係に対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認] リストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。システムは、受信確認を生成するときに、受信確認詳細が格納されている内部ファイルに受信確認を書き込んでから、その内部ファイルをマップします。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスを閉じます。
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックス

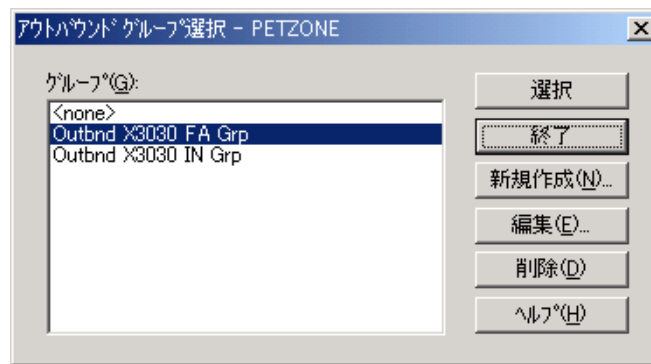
はじめに

[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを使って、この関係と関連付けるべき既存のファンクショナルグループの定義を選択します。さらに、これを使って新規ファンクショナルグループの定義を開始したり、既存の定義を修正または削除したりすることもできます。使用できるグループは、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックス上で選択したバージョンによって異なります。

ファンクショナルグループは、ANSI X12、TDCC、および UCS 標準には必須、EDIFACT と ODETTE ではオプション、TRADACOMS については指定されていません。

図

次の図に、[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
グループ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのファンクショナルグループ定義が表示されます。
選択	示されているファンクショナルグループをこの関係に使用するものとして選択します。
終了	[アウトバウンド グループ選択] ダイアログ ボックスを終了します。
新規作成	[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスが表示され、新しいグループを作成できます。
編集	[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスが表示され、選択したグループを編集できます。
削除	選択したグループがシステムから削除されます。



各部	機能
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを使って、新規のファンクショナルグループの定義を指定します。

図

次の図に、「詳細」オプションを含めた [アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
説明	ファンクショナルグループ説明の名前を指定します。
標準	この関係定義に使用されている EDI スタンドアードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンドアードのバージョンが表示されます。

各部	機能																						
ファンクショナルグループ ID	<p>ファンクショナルグループを指定します。これらの ID ボックスは、ドキュメントのようにそれぞれの適切なスタンダードのグループごとに定義されています。スタンダードでは、それぞれのドキュメントタイプで使用すべきファンクショナルグループ ID を定義しています。このボックスは必須です。</p> <p>例</p> <table border="0"> <tr><td>IN</td><td>810 X12 請求書</td></tr> <tr><td>PO</td><td>850 X12 発注書</td></tr> <tr><td>IG</td><td>830 UCS 請求書</td></tr> <tr><td>OG</td><td>875 UCS P. O.</td></tr> <tr><td>INVOIC</td><td>EDIFACT INVOIC</td></tr> <tr><td>ORDERS</td><td>EDIFACT ORDERS</td></tr> <tr><td>INVOIC</td><td>Tradacoms INVOIC</td></tr> <tr><td>ORDERS</td><td>Tradacoms ORDERS</td></tr> </table> <p>このエレメントは次の場所にあります：</p> <table border="0"> <tr><td>ANSI X12:</td><td>GS01</td></tr> <tr><td>EDIFACT:</td><td>UNG01</td></tr> <tr><td>TRADACOMS:</td><td>BAT</td></tr> </table>	IN	810 X12 請求書	PO	850 X12 発注書	IG	830 UCS 請求書	OG	875 UCS P. O.	INVOIC	EDIFACT INVOIC	ORDERS	EDIFACT ORDERS	INVOIC	Tradacoms INVOIC	ORDERS	Tradacoms ORDERS	ANSI X12:	GS01	EDIFACT:	UNG01	TRADACOMS:	BAT
IN	810 X12 請求書																						
PO	850 X12 発注書																						
IG	830 UCS 請求書																						
OG	875 UCS P. O.																						
INVOIC	EDIFACT INVOIC																						
ORDERS	EDIFACT ORDERS																						
INVOIC	Tradacoms INVOIC																						
ORDERS	Tradacoms ORDERS																						
ANSI X12:	GS01																						
EDIFACT:	UNG01																						
TRADACOMS:	BAT																						
最後に使用したグループ Control Number	<p>次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも 1 つ上です。このボックスは最初は 0 に設定されます。</p> <p>メモ</p> <p>受領確認が正常に動作するかを確認するには、同じパートナー内の個々のグループの関係に異なる Control Number を定義しなければいけません。</p>																						
受信確認を期待	<p>パートナーがこの関係で定義されているグループを受信した際に、システムでこのトレーディングパートナーからファンクショナル受信確認が受け取られることが想定されます。既定では、このボックスはチェックなし (受信確認を期待しない) です。</p>																						
時間切れ	<p>予期しているファンクショナル受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を指定します。このボックスは、[受信確認を期待] ボックスがチェックされている場合にのみ有効です。このフィールドの既定値は 48 なので、2 日経過した受信確認が時間切れとみなされます。このフィールドに値「0」(ゼロ)を入力すると、受信確認は即座に時間切れとみなされます。</p> <p>メモ</p> <p>このボックスは、[受領確認を期待] がチェックされていない場合には使用できません。</p>																						

各部	機能
グループからの順番	このグループ設定に対する、トランザクション セット Control Number の割り当てを、グループのレベルで管理するかどうかを指定します。このボックスがチェックされていない場合には、次の 2 つのフィールドは使用できません。
最後に使用した Control Number	このファンクショナルグループ内で定義されているセットに対して、次のトランザクション セット Control Number の生成に使用される値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも 1 つ上です。このボックスは最初は 0 に設定されます。 メモ このボックスは、[グループからの順番] がチェックされていない場合には使用できません。
書式	生成されるトランザクション セット Control Number の書式を選択します。 [正常] 番号は、最後に使用した Control Number を増分することにより生成されます。番号の長さはスタンダードで定義しています。 6/3 番号は 2 つの数値で構成されます。最初の 6 桁はファンクショナルグループ Control Number の最後の 6 桁です。最後の 3 桁はファンクショナルグループ内の 1 から始まるカウンタです。この書式は、トレーディング パートナーが指示している場合にしか使用しません。 5/4 番号は 2 つの数値で構成されます。最初の 5 桁はファンクショナルグループ Control Number の最後の 5 桁です。最後の 4 桁はファンクショナルグループ内の 1 から始まるカウンタです。これは通常の TDCC 番号割り当て規則です。自動車、鉄道、および船舶輸送業界で使用します。 5/3 番号は 2 つの数値で構成されます。最初の 5 桁はファンクショナルグループ Control Number の最後の 5 桁です。最後の 3 桁はファンクショナルグループ内の 1 から始まるカウンタです。これは通常の UCS 規則で、食料雑貨業界や倉庫業界で使用します。 メモ このボックスは、[グループからの順番] がチェックされていない場合には使用できません。



各部	機能
グループ トランスレーションオブジェクト	<p>トレーディング パートナー グループの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のグループビルド マップ トランスレーション オブジェクトが入ります。パートナー固有のグループ分けを実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
受信確認 トランスレーションオブジェクト	<p>受信確認ビルド マップがあれば選択します。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このパートナー グループに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認 トランスレーション オブジェクト] リストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーション オブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
エンベロープ	<p>[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで指定したバージョンに応じて、次のアウトバウンド ファンクショナルグループ エンベロープのダイアログ ボックスのいずれかにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド UNG ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド BAT ファンクショナルグループ] <p>参照 各エンベロープ ダイアログ ボックスの詳細については、[パートナー エディタ] のオンライン ヘルプを参照してください。</p>

各部	機能
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

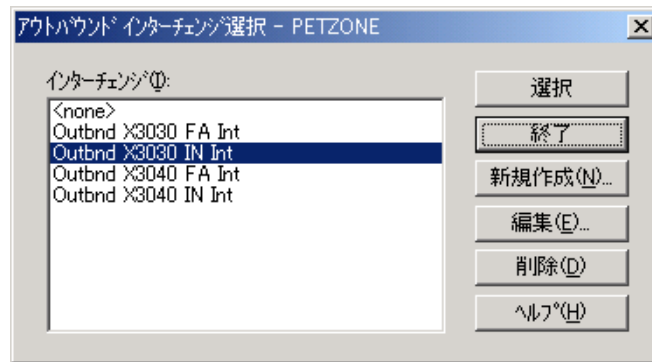
[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスを使って、この関係と関連付けるべき既存のインターチェンジの定義を選択します。さらに、これを使って新規インターチェンジの定義を開始したり、既存の定義を修正または削除することもできます。使用できるインターチェンジは [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで選択したバージョンによって決まります。インターチェンジは、EDIFACT、ODETTE、TRADACOMS、および UCS には必須、ANSI X12 と TDCC ではオプションです。

図

次に、[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
インターチェンジ	このトレーディング パートナーについて設定されているすべてのインターチェンジ定義が表示されます。
選択	表示されているインターチェンジでこの関係とともに使用するものを選択します。 メモ 使用しているスタンダードにインターチェンジが不要であり、使わない場合は、<none> を選択します。
終了	[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスを閉じます。

各部	機能
新規作成	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが表示され、新規のインターチェンジを作成できます。
編集	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスが表示され、選択したインターチェンジを編集できます。
削除	選択したインターチェンジがシステムから削除されます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを使って、新規のインターチェンジの定義を指定します。

メモ

EDIFACT バージョン 4 は、8 ビット ASCII 以外の文字セットを使用してエンコードされているインターチェンジの作成 (および処理) をサポートするために必要なインフラストラクチャを定義します。Gentran:Server for Windows は、エンコードされているインターチェンジの処理をサポートしています。ただし、そのインターチェンジのエンコーディングが、Gentran:Server が実行しているオペレーティング システムの既定コード ページと一致する場合があります。

図

次に、" 詳細 " オプションを含めた [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
説明	インターチェンジの説明の名前が表示されます。
標準	この関係定義に使用されている EDI スタンドアードが表示されます。
バージョン	この関係に使用されている EDI スタンドアードのバージョンが表示されます。
インターチェンジ ID	指定したインターチェンジのタイプが表示されます。スタンドアードでは、それぞれのスタンドアードで使用すべきインターチェンジ ID が定義されています。このボックスは必須です。 例 ANSI X12 - ISA ICS UCS - BG EDIFACT - UNB Tradacoms - STX
既定値のメールボックスと E メールアドレスを使用	[パートナーの定義] ダイアログ ボックス (新規作成 / 編集) で指定した規定のメールボックスと E メールアドレスが使用されることを示します。
メールボックス	RosettaNet 関係についてこのパートナーを識別するために使用するメールボックスを指定します。
メールボックスの新規作成	または、[メールボックスの新規作成] をクリックすると [メールボックスの新規作成ウィザード] が表示され、新しいメールボックスを作成できます。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。
E メールアドレス	RosettaNet 関係についてこのパートナーを識別するために使用する E メールアドレスを指定します。
メールボックスの編集	または、[メールボックスの編集] をクリックすると [メールボックス プロパティ] ダイアログ ボックスが表示され、メールボックスを編集できます。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。



各部	機能
コンテンツ タイプ	インターチェンジのコンテンツ タイプを指定します。
1つのインター チェンジにおける ドキュメントの最 大数を設定	この関係において、1つのインターチェンジで使用できるドキュメントは、指定された最大数だけであることを指定します。
1つのインター チェンジにおける ドキュメントの最 大数	この関係において、1 インターチェンジにつき使用できるドキュメント数の上限を指定します。
最後に使用した Control Number	次のインターチェンジ Control Number を生成するために使用する値を指定します。生成される番号は常にこのボックスの中の番号よりも1大きな番号です。このボックスは最初は0に設定されます。
受信確認を期待	パートナーがこの関係で定義されているインターチェンジセットを受信した際に、システムでこのトレーディングパートナーからファンクショナル受信確認が受け取られることが想定されます。既定では、このボックスはチェックなし(受信確認を期待しない)です。
時間切れ	<p>予期しているファンクショナル受信確認を時間切れであるとみなすまでの経過時間数を指定します。このボックスは、[受信確認を期待]ボックスがチェックされている場合にのみ有効です。このフィールドの既定値は48なので、2日経過した受信確認が時間切れとみなされます。このフィールドに値「0」を入力すると、受信確認は即座に時間切れとみなされます。</p> <p>メモ このボックスは、[受領確認を期待]がチェックされていない場合には使用できません。</p>
インターチェンジ トランスレーショ ンオブジェクト	<p>トレーディング パートナー インターチェンジの動作が通常のシステムの動作と異なる場合に、そのパートナー固有のインターチェンジビルド マップ トランスレーションオブジェクトを選択します。パートナー固有のインターチェンジをシステムに実行させたい場合に、このリストからトランスレーション オブジェクトを選択する必要があります。</p> <p>注意 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>

各部	機能
受信確認 トランスレーションオブジェクト	<p>受信確認ビルド マップがあれば選択します。</p> <p>この関係について特定のトランスレーション オブジェクトを既に作成しており、このトレーディング パートナー インターチェンジに対するシステムの動作を変更したい場合に、[受信確認トランスレーションオブジェクト] リストからトランスレーションオブジェクトを選択する必要があります。システムは、受信確認の整合性を取るときに、その受信確認を内部ファイルにマップしてから処理を行います。受信確認の処理方法を変更する必要がある場合には、[受信確認] リストから、さらにトランスレーションオブジェクトを選択しなければなりません。</p> <p>注意 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認トランスレーション オブジェクト] リスト内のトランスレーションオブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
エンベロープ	<p>[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで指定したバージョンに応じて、次のアウトバウンド インターチェンジエンベロープ ダイアログ ボックスの1つにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アウトバウンド ISA エンベロープ ▶ アウトバウンド ICS エンベロープ ▶ アウトバウンド BG エンベロープ ▶ アウトバウンド UNB エンベロープ ▶ アウトバウンド UNA エンベロープ ▶ アウトバウンド STX エンベロープ ▶ アウトバウンド VDA エンベロープ ▶ アウトバウンド NCPDP エンベロープ ▶ アウトバウンド エンベロープ PIP の開始 <p>参照 各エンベロープ ダイアログ ボックスの詳細については、[パートナー エディタ] のオンライン ヘルプを参照してください。</p>
詳細	詳細オプションの表示 / 非表示を切り替えます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。



パートナーの定義の作成

はじめに

パートナーの定義には、パートナーに関する基本情報が含まれます。これらの情報は、パートナー プロファイルのほかの部分より前に定義する必要があります。

前提知識

新しいパートナーの定義を設定するためには、次の情報が必要となります。

- ▶ このパートナーとのコミュニケーションに使用するコミュニケーションプロファイル名
- ▶ このパートナーの EDI コード
- ▶ インポート ファイルでこのパートナーの識別に使用するアプリケーションコード
このアプリケーション コードは、インポート機能を使用してメッセージを処理する場合にのみ必要となります。

手順

パートナーの定義を作成するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [パートナーの定義 (新規 / 編集)] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[プロファイル ID] ボックスに、このパートナーのプロファイル ID を入力します。プロファイル ID は英数字からなり、一意である必要があります。 メモ 特殊文字は使用しないでください。
4	[名前] ボックスにパートナー名を入力します。
5	[EDI コード] ボックスに、このパートナーの EDI 識別子を入力します。 メモ この識別子は、インバウンド処理の際のパートナーの選択に使用されます。

ステップ	操作
6	<p>必要に応じて、このパートナーを識別するためのアプリケーションコードを [アプリケーション コード] ボックスに入力します。</p> <p>メモ アプリケーション コードは、アウトバウンドのインポート処理の際、パートナーの選択に使用されます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [既定のメールボックス] リスト ボックスから適切なメールボックスを選択します。 <p>あるいは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [メールボックスの新規作成] をクリックして、新しいメールボックスを作成します。 <p>メモ メールボックスの作成の詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。</p>
8	<p>パートナーの定義の情報をすべて入力したら、[保存] をクリックします。</p>
9	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p>メモ パートナー プロファイルを完成させるには、インバウンド関係またはアウトバウンド関係 (あるいはその両方) を作成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このトレーディング パートナーから情報を受信して処理する場合は、適切なインバウンド関係を定義する必要があります。 ▶ このトレーディング パートナーに情報を送信する場合は、アウトバウンド関係を定義する必要があります。



インバウンド関係の作成

はじめに

トレーディングパートナーからの情報を正しく受信して処理するには、データファイルの受信に必要なパラメータを定義する適切なインバウンド関係を確立する必要があります。それぞれのインバウンド関係では、パートナーからどのビジネスドキュメントを受信するかを定義します。

必要なパラメータ

インバウンド関係の作成に使用するパラメータを、いくつか設定する必要があります。これらのパラメータにより、次が指定できます。

- ▶ 受信するデータのタイプ
- ▶ 受信した情報を検証する際の基準
- ▶ 受信が想定されているドキュメントのファンクショナルグループおよびインターチェンジ

トランスレーションオブジェクト

それぞれのインバウンド関係には、1つ以上のインバウンド トランスレーションオブジェクトを関連付ける必要があります。このトランスレーションオブジェクトによって、受信したデータの処理方法が決まります。ターンアラウンドドキュメントのエクスポート、印刷、作成のルール定義に、どのトランスレーションオブジェクトを使用するかを指定する必要があります。最低限、1つのトランスレーションオブジェクトが使用できなければなりません。

メモ

新しいトランスレーションオブジェクトが必要となる場合は、インバウンド関係を作成する前にトランスレーションオブジェクトを登録しなければなりません。登録する方法については、新しいトランスレーションオブジェクトの登録 2-8 ページを参照してください。

インバウンドグループとインバウンドインターチェンジ

インバウンド関係の設定を完了するには、インバウンドインターチェンジとインバウンドファンクショナルグループを定義または選択する必要があります。インバウンドファンクショナルグループでは、ファンクショナルグループの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。インバウンドインターチェンジでは、インターチェンジの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。

ただし、ファンクショナルグループまたはインターチェンジの選択がオプションとなるトランザクションもあります。トレーディングパートナーがインターチェンジを使用しない場合には、これらを選択する必要はありません。インバウンドのファンクショナルグループおよびインターチェンジを選択する必要があるかどうかについては、次に示すスタンダードごとの説明を参照してください。

- ▶ **ANSI X12** ドキュメントの場合は、ファンクショナルグループは必須ですが、インターチェンジはオプションとなることがあります。ただし、ほとんどのドキュメントでは、インターチェンジとファンクショナルグループの両方が必須となります。
- ▶ **TDCC** の場合は、インターチェンジはオプション、ファンクショナルグループは必須です。

インバウンドグループとインバウンド インターチェンジ (続き)

- ▶ **UCS** の場合は、インターチェンジとファンクショナル グループの両方が必須です。
- ▶ **EDIFACT** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナル グループはオプションです。
- ▶ **ODETTE** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナル グループはオプションです。
- ▶ **TRADACOMS** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナル グループはありません。

メモ

オプションのファンクショナルグループまたはインターチェンジを使用しない場合でも、該当するダイアログボックスで **<none>** を選択することにより、グループまたはインターチェンジを使用しないことを指定しておく必要があります。

始める前に

インバウンド関係を設定するには、その前にパートナーの実装を計画するため、次の情報が必要となります。

- ▶ トレーディング パートナーが使用する EDI スタンドアード (ANSI など)
- ▶ トレーディング パートナーが使用するスタンダードのバージョン (たとえば、ANSI の場合は 003020、EDIFACT の場合は 090001)
- ▶ トレーディング パートナーが使用するトランザクション セットのコード (たとえば、EDIFACT 請求書の場合は "INVOIC")
- ▶ パートナーからの受信時に、トランザクション セットを収めるファンクショナル グループおよびインターチェンジの種類

[インバウンド関係] ダイアログボックス

パートナーの実装が計画できたら、[インバウンド関係] ダイアログボックスを使用してインバウンド関係を作成できます。[インバウンド関係] ダイアログボックスによって、関係の設定に使用するすべてのダイアログボックスが制御されます。

インバウンド関係の定義

次に、インバウンド関係を定義する際の手順を説明します。

段階	説明
1	新しいインバウンド関係を作成します。
2	この関係で使用するインバウンド トランスレーション オブジェクトを作成し、登録します。 参照 トランスレーション オブジェクトの作成に関する詳細は『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』および「新しい トランスレーション オブジェクトの登録 2-8 ページ」を参照してください。
3	少なくとも 1 つのインバウンド トランスレーション オブジェクトを選択します。



段階	説明
4	<p>パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも1つのインバウンドグループを選択します。</p> <p>メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナルグループまたはインターチェンジがオプションとなります。(使用するスタンダードでオプションになるかどうかを判断するには、「インバウンドグループとインバウンドインターチェンジ 3-60 ページ」を参照してください。)</p>
5	<p>パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも1つのインバウンドインターチェンジを選択します。</p> <p>メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナルグループまたはインターチェンジがオプションとなります。(使用するスタンダードでオプションになるかどうかを判断するには、「インバウンドグループとインバウンドインターチェンジ 3-60 ページ」を参照してください。)</p>
6	<p>インバウンド関係にドキュメントを受信した結果としてファンクショナル受信確認を生成する場合、対応するアウトバウンド関係を設定する必要があります。このアウトバウンド関係は、パートナーへの受信確認を生成するために使用します。</p> <p>参照 詳細については、「アウトバウンド関係の作成 3-68 ページ」を参照してください。</p>

手順

インバウンド関係を作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
新しいインバウンド関係の作成	
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インバウンド関係を作成するパートナー プロファイルを選択します。 ▶ [インバウンド] をクリックします。 <p>システムからの応答 [インバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ 既に、このパートナーのパートナーの定義が作成されている必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「パートナーの定義の作成 3 - 58 ページ」を参照してください。</p>
3	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいインバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>説明ボックスに、一意の関係名 (たとえば「インバウンド請求書」) を入力します。</p>
5	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 インバウンド関係が作成され、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



ステップ	操作
6	<p>[インバウンド関係] ダイアログ ボックスの適切なドロップダウンリストから次を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 標準 ▶ バージョン ▶ トランザクション セット ▶ リリース (TRADACOMS の場合のみ) <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ これらのリストの内容は、Gentran:Server に登録されたトランスレーションオブジェクトから表示されます。たとえば、Gentran に登録された ANSI X12 バージョンにはトランスレーションオブジェクトがない場合、このダイアログ ボックスではそのバージョンを選択することができません。 ▶ 送信されてきたトランザクションの詳細がトレーディング パートナー側で定義されている場合、このダイアログ ボックスに必要な情報はそのパートナーから入手する必要があります。
7	<p>[順番検査]、[最後に使用した Control Number]、[ドキュメントの重複]、[受信確認の生成] など、パートナーの処理要件に合わせてパラメータを定義する必要がある場合は、[詳細] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド関係] ダイアログ ボックスに [詳細] フィールドが表示されます。</p>
インバウンド トランスレーション オブジェクトの選択	
1	<p>[インバウンド関係] ダイアログ ボックスで [トランスレーション] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>ドロップダウン リストで、このインバウンド関係に必要なトランスレーションオブジェクトを選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リストに、トランスレーションオブジェクトの種類 (たとえば、インポート、印刷など) とトランザクション セットに適切な、システムに登録されているすべてのトランスレーションオブジェクトが表示されます。 ▶ トランスレーションオブジェクトがドロップダウンリストに表示されない場合は、その種類のトランスレーションオブジェクトが、関係で定義したドキュメントのバージョン用には登録されていません。

ステップ	操作
3	エクスポート ファイルトランスレーション オブジェクトを選択し、特定のファイルにエクスポートする場合には、[エクスポート ファイル名]ボックスにファイルのUNC (汎用命名規則) 名を入力します。
4	インバウンド トランスレーション オブジェクトの出力をメールボックス サーバー マネージャに直接戻すよう配送するためにメールボックスとEメールアドレスを指定するときに "メールボックスへエクスポート" 機能を使用するかどうかによって、次を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合には、[メールボックスへエクスポート]チェックボックスをオンにし、適切なボックスに入力します。次のステップに進みます。 <p>参照 詳細については、「[インバウンド トランスレーション オブジェクト]ダイアログ ボックス 3-15 ページ」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用しない場合は、次のステップに進みます。
5	[保存]をクリックして選択内容を保存し、[インバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります。
インバウンド ファンクショナル グループの選択	
1	[インバウンド関係]ダイアログ ボックスで、[グループ]をクリックして既存のグループのリストを表示します。 <p>システムからの応答 [インバウンド グループの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	必要なグループが、[グループ]リストに表示されているかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、グループを選択します。または、グループを使用していない場合は[<none>]を選択して、[選択]をクリックします。「インバウンド インターチェンジの選択 3-66 ページ」に進みます。 <p>システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[インバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、次のステップに進んでグループを作成します。
3	[インバウンド グループ選択]ダイアログ ボックスで、[新規作成]をクリックします。 <p>システムからの応答 [インバウンド グループの登録]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>



ステップ	操作
4	[説明] ボックスに、グループの説明を入力します。
5	[ファンクショナルグループ ID] ボックスに、指定しているファンクショナルグループの ID を入力します。 メモ 各種のドキュメントでどのファンクショナルグループ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドアードによって定義されています。
6	ファンクショナルグループの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックしてファンクショナルグループ設定オプションをすべて表示します。 システムからの応答 [インバウンドグループ登録] ダイアログ ボックスに [詳細] フィールドが表示されます。
7	このダイアログ ボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存] をクリックして情報を格納し、[インバウンドグループ選択] ダイアログ ボックスに戻ります。
8	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいグループを反転表示にします。 ▶ [選択] をクリックします。 システムからの応答 グループが選択され、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。
インバウンド インターチェンジの選択	
1	[インバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[インターチェンジ] をクリックして既存のインターチェンジのリストを表示します。 システムからの応答 [インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	必要なインターチェンジが、[インターチェンジ] リストに表示されているかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、グループを選択します。または、グループを使用していない場合は [<none>] を選択して、[選択] をクリックします。「インバウンド関係のまとめ 3-67 ページ」に進みます。 システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、次のステップに進んでインターチェンジを作成します。

ステップ	操作
3	<p>[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスで、 [新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジの登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[説明] ボックスに、インターチェンジの説明を入力します。</p>
5	<p>[インターチェンジ ID] ボックスに、指定しているインターチェンジの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメントでどのインターチェンジ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドードによって定義されています。</p>
6	<p>インターチェンジの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックしてインターチェンジ設定オプションをすべて表示します。</p> <p>システムからの応答 [インバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスに [詳細] フィールドが表示されます。</p>
7	<p>このダイアログ ボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存] をクリックして情報を格納し、[インバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいインターチェンジを反転表示にします。 ▶ [選択] をクリックします。 <p>システムからの応答 インターチェンジが選択され、[インバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
インバウンド関係のまとめ	
1	<p>[インバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[保存] をクリックしてインバウンド関係を保存します。</p>
2	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



アウトバウンド関係の作成

はじめに

トレーディングパートナーに情報を送信する場合は、アウトバウンド関係を定義する必要があります。アウトバウンド関係は、トレーディングパートナーにデータファイルを送信するために必要なパラメータを定義するものです。それぞれのアウトバウンド関係では、1つのビジネスドキュメントの書式、そのビジネスドキュメントの書式の設定方法、および指定したトレーディングパートナーへの送信方法を定義します。

必要なパラメータ

アウトバウンド関係の作成に使用するパラメータを、いくつか設定する必要があります。これらのパラメータにより、次が指定できます。

- ▶ 要求されたメッセージの作成方法
- ▶ 入力情報の妥当性を検証する際の基準
- ▶ 送信準備において、ファンクショナルグループおよびインターチェンジエンベロープを作成する方法

トランスレーションオブジェクト

それぞれのアウトバウンド関係には、1つ以上のアウトバウンドトランスレーションオブジェクトを関連付ける必要があります。このトランスレーションオブジェクトにより、送信したデータの書式設定方法が決まります。画面入力やファイルインポートのルールの変換に、どのトランスレーションオブジェクトを使用するかを指定する必要があります。最低限、1つのトランスレーションオブジェクトが使用できなければなりません。

メモ

新しいトランスレーションオブジェクトが必要となる場合は、アウトバウンド関係を作成する前にトランスレーションオブジェクトを登録しなければなりません。登録する方法については、新しいトランスレーションオブジェクトの登録 2-8 ページを参照してください。

アウトバウンドグループとアウトバウンドインターチェンジ

アウトバウンド関係の設定を完了するには、アウトバウンドインターチェンジとアウトバウンドファンクショナルグループを定義または選択する必要があります。アウトバウンドファンクショナルグループでは、ファンクショナルグループの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。アウトバウンドインターチェンジでは、インターチェンジの書式、および書式の検証に使用するパラメータを定義します。

ただし、ファンクショナルグループまたはインターチェンジの選択がオプションとなるトランザクションもあります。トレーディングパートナーがインターチェンジを使用しない場合には、これらを選択する必要はありません。アウトバウンドのファンクショナルグループおよびインターチェンジを選択する必要があるかどうかについては、次に示すスタンダードごとの説明を参照してください。

- ▶ **ANSI X12** ドキュメントの場合は、ファンクショナルグループは必須ですが、インターチェンジはオプションとなることがあります。ただし、ほとんどのドキュメントでは、インターチェンジとファンクショナルグループの両方が必須となります。

アウトバウンドグループとアウトバウンド インターチェンジ (続き)

- ▶ **TDCC** の場合は、インターチェンジはオプション、ファンクショナルグループは必須です。
- ▶ **UCS** の場合は、インターチェンジとファンクショナルグループの両方が必須です。
- ▶ **EDIFACT** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナルグループはオプションです。
- ▶ **ODETTE** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナルグループはオプションです。
- ▶ **TRADACOMS** の場合は、インターチェンジは必須、ファンクショナルグループはありません。

メモ

オプションのファンクショナルグループまたはインターチェンジを使用しない場合でも、該当するダイアログボックスで **<none>** を選択することにより、グループまたはインターチェンジを使用しないことを指定しておく必要があります。

始める前に

アウトバウンド関係を設定するには、その前にパートナーの実装を計画するため、次の情報が必要となります。

- ▶ トレーディング パートナーが使用する EDI スタンド (ANSI X12 など)
- ▶ パートナーが使用するスタンドのバージョン (たとえば、ANSI の場合は 003020、EDIFACT の場合は 090001)
- ▶ トレーディング パートナーが使用するトランザクションセットのコード (たとえば、EDIFACT 請求書の場合は "INVOIC")
- ▶ パートナーへの送信時に、トランザクションセットを収めるファンクショナルグループおよびインターチェンジエンベロープの種類

[アウトバウンド関係]ダイアログボックス

パートナーの実装が計画できたら、[アウトバウンド関係]ダイアログボックスを使用してアウトバウンド関係を作成できます。[アウトバウンド関係]ダイアログボックスによって、関係の設定に使用するすべてのダイアログボックスが制御されます。

アウトバウンド関係の定義

次に、アウトバウンド関係を定義する際の手順を説明します。

段階	説明
1	新しいアウトバウンド関係を作成します。
2	スタンダードとして EDIFACT、ODETTE、または TRADACOMS を使用する場合は、この種類のドキュメントに使用するエンベロープ (ヘッダー) 情報を指定する必要があります。ANSI、UCS、および TDCC の場合は、エンベロープ情報はオプションです。



段階	説明
3	<p>この関係で使用するインバウンド トランスレーション オブジェクトを作成し、登録します。</p> <p>参照 トランスレーション オブジェクトの作成に関する詳細は『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』および「新しい トランスレーション オブジェクトの登録 2-8 ページ」を参照してください。</p>
4	<p>少なくとも 1 つのアウトバウンド トランスレーション オブジェクトを選択します。</p>
5	<p>パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも 1 つのアウトバウンド グループ (エンベロープ情報を含む) を作成して選択します。</p> <p>メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナル グループまたはインターチェンジがオプションとなります。(使用するスタンダードでオプションになるかどうかを判断するには、「アウトバウンド グループとアウトバウンド インターチェンジ 3-68 ページ」を参照してください。)</p>
6	<p>パートナーからドキュメントを受信する方法を定義するため、少なくとも 1 つのアウトバウンド インターチェンジ (エンベロープ情報を含む) を作成して選択します。</p> <p>メモ 使用するスタンダードに応じて、ファンクショナル グループまたはインターチェンジがオプションとなります。(使用するスタンダードでオプションになるかどうかを判断するには、「アウトバウンド グループとアウトバウンド インターチェンジ 3-68 ページ」を参照してください。)</p>
7	<p>アウトバウンド ドキュメントに対してファンクショナル受信確認を受信する場合、対応するインバウンド関係を設定します。このインバウンド関係は、パートナーから受信確認を受信するために使用します。</p> <p>参照 詳細については、「インバウンド関係の作成 3-60 ページ」を参照してください。</p>

手順

アウトバウンド関係を作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
新しいアウトバウンド関係の作成	
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アウトバウンド関係を作成するパートナー プロファイルを選択します。 ▶ [アウトバウンド] をクリックします。 <p>システムからの応答 [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ 既に、このパートナーのパートナーの定義が作成されている必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「パートナーの定義の作成 3 - 58 ページ」を参照してください。</p>
3	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいアウトバウンド関係] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>説明ボックスに、一意の関係名を入力します。</p>
5	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 アウトバウンド関係が作成され、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



ステップ	操作
6	<p>[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスの適切なドロップダウン リストから次を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 標準 ▶ バージョン ▶ トランザクション セット ▶ リリース (TRADACOMS の場合のみ) <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ これらのリストの内容は、Gentran:Server に登録されたトランスレーション オブジェクトから表示されます。たとえば、Gentran に登録された ANSI X12 バージョンにはトランスレーション オブジェクトがない場合、このダイアログ ボックスではそのバージョンを選択することができません。 ▶ 送信されてきたトランザクションの詳細がトレーディング パートナー側で定義されている場合、このダイアログ ボックスに必要な情報はそのパートナーから入手する必要があります。
7	<p>[最後に使用した Control Number]、[受信確認の生成]、[時間切れ]、[ドキュメントの重複]、[テスト インジケータ]など、パートナーの処理要件に合わせてパラメータを定義する必要がある場合は、[詳細] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに [詳細] フィールドが表示されます。</p>
<p>トランザクション エンベロープの選択 (EDIFACT、ODETTE、および TRADACOMS では必須、ANSI、UCS、および TDCC ではオプション)</p>	
1	<p>スタンダードとして EDIFACT、ODETTE、または TRADACOMS を使用する場合は、[エンベロープ] をクリックしてエンベロープ (ヘッダー) 情報を指定します。</p> <p>メモ ANSI、UCS、および TDCC の場合は、エンベロープ情報はオプションです。</p> <p>システムからの応答 次のいずれかのダイアログ ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド UNH エンベロープ] ダイアログ ボックス ▶ [アウトバウンド MHD エンベロープ] ダイアログ ボックス ▶ [アウトバウンド ST エンベロープ] ダイアログ ボックス
2	<p>適切な情報を入力し、[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 情報が保存され、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

ステップ	操作
アウトバウンド トランスレーション オブジェクトの選択	
1	<p>[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[トランスレーション] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>ドロップダウン リストで、このアウトバウンド関係に必要なトランスレーション オブジェクトを選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リストには、トランスレーション オブジェクトの種類 ([インポート]、[印刷] など) およびトランザクション セットに使用できるすべてのトランスレーション オブジェクトが表示されます (ただし、システムに登録されているもののみ)。 ▶ トランスレーション オブジェクトがドロップダウン リストに表示されない場合は、その種類のトランスレーション オブジェクトが、関係で定義したドキュメントのバージョン用には登録されていません。
3	<p>インポート トランスレーション オブジェクトを選択した場合は、次を定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アプリケーション ID] ボックスに、ドキュメントの送信先を示すアプリケーション ID を入力します。 ▶ [アプリケーション エイリアス バリュウ] ボックスに、アプリケーション インポート機能の実行時に、この関係をほかの関係と区別するための基準を入力します。
4	<p>[保存] をクリックして選択内容を保存し、[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
アウトバウンド ファンクショナル グループの選択	
1	<p>[アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスで、[グループ] をクリックして既存のグループのリストを表示します。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド グループの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>



ステップ	操作
2	<p>必要なグループが、[グループ]リストに表示されているかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、グループを選択します。または、グループを使用していない場合は[<none>]を選択して、[選択]をクリックします。「アウトバウンド インターチェンジの選択 3-75 ページ」に進みます。 <p>システムからの応答 反転表示したグループが選択され、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、次のステップに進んでグループを作成します。
3	<p>[アウトバウンド グループ選択]ダイアログ ボックスで、[新規作成]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド グループ登録]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[説明]ボックスに、グループの説明を入力します。</p>
5	<p>[ファンクショナルグループ ID]ボックスに、ファンクショナルグループの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメントでどのファンクショナルグループ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドアードによって定義されています。</p>
6	<p>ファンクショナルグループの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド グループ登録]ダイアログ ボックスに[詳細]フィールドが表示されます。</p> <p>推奨事項 [グループ トランスレーション オブジェクト]および[受信確認 トランスレーション オブジェクト]リスト内のトランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>

ステップ	操作
7	<p>[エンベロープ]をクリックして、ファンクショナルグループセグメントの生成に使用するパラメータを設定します。</p> <p>システムからの応答 次に表示されるアウトバウンドファンクショナルグループダイアログボックスは、[アウトバウンド関係]ダイアログボックスで選択したスタンダードによって異なります。次のいずれかになります</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド GS ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド UNG ファンクショナルグループ] ▶ [アウトバウンド BAT ファンクショナルグループ]
8	<p>エンベロープを設定するダイアログボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存]をクリックして情報を格納し、[アウトバウンドグループ登録]ダイアログボックスに戻ります。</p>
9	<p>[アウトバウンドグループ登録]ダイアログボックスで[保存]をクリックして情報を格納し、[アウトバウンドグループ選択]ダイアログボックスに戻ります。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいグループを反転表示にします。 ▶ [選択]をクリックします。 <p>システムからの応答 グループが選択され、[アウトバウンド関係]ダイアログボックスに戻ります。</p>
アウトバウンド インターチェンジの選択	
1	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログボックスで[インターチェンジ]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジの選択]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>必要なインターチェンジが、[インターチェンジ]リストに表示されているかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されている場合は、インターチェンジを選択します。または、インターチェンジを使用していない場合は[<none>]を選択して、[選択]をクリックします。「アウトバウンド関係のまとめ 3-77 ページ」に進みます。 <p>システムからの応答 反転表示したインターチェンジが選択され、[アウトバウンド関係]ダイアログボックスに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示されていない場合は、次のステップに進んでインターチェンジを作成します。



ステップ	操作
3	<p>[アウトバウンド インターチェンジ選択] ダイアログ ボックスで、 [新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジの登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[説明] ボックスに、インターチェンジの説明を入力します。</p>
5	<p>[インターチェンジ ID] ボックスに、インターチェンジの ID を入力します。</p> <p>メモ 各種のドキュメントでどのインターチェンジ ID を使用する必要があるかは、EDI スタンドर्डによって定義されています。</p>
6	<p>インターチェンジの処理についてより複雑な要件を設定する場合は、[詳細] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスに [詳細] フィールドが表示されます。</p> <p>推奨事項 [インターチェンジ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内の トランスレーション オブジェクトは、特に理由がない限り変更しないようにしてください。</p>
7	<p>既定のメールボックスと E メール アドレスを使用するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、ステップ 9 に進みます。 ▶ 使用しない場合は、次のステップに進みます。
8	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [既定のメールボックス] リスト ボックスから適切なメールボックスを選択します。 <p>あるいは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [メールボックスの新規作成] をクリックして、新しいメールボックスを作成します。 <p>メモ メールボックスの作成の詳細については、『Communications User's Guide』を参照してください。</p>

ステップ	操作
9	<p>[エンベロープ]をクリックして、インターチェンジ セグメントの生成に使用するパラメータを設定します。</p> <p>システムからの応答 次に表示されるアウトバウンド インターチェンジ ダイアログ ボックスは、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで選択したスタンダードによって異なります。次のいずれかになります</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド ISA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド ICS エンベロープ] ▶ [アウトバウンド BG エンベロープ] ▶ [アウトバウンド UNB エンベロープ] ▶ [アウトバウンド UNA エンベロープ] ▶ [アウトバウンド STX エンベロープ] ▶ [アウトバウンド PIP の開始]
10	<p>エンベロープを設定するダイアログ ボックスで必要なパラメータを設定したら、[保存]をクリックして情報を格納し、[アウトバウンド インターチェンジ登録]ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
11	<p>[アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスで [保存]をクリックして情報を格納し、[アウトバウンド インターチェンジ選択]ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいインターチェンジを反転表示にします。 ▶ [選択]をクリックします。 <p>システムからの応答 インターチェンジが選択され、[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスに戻ります</p>
アウトバウンド関係のまとめ	
1	<p>[アウトバウンド関係]ダイアログ ボックスで、[保存]をクリックしてアウトバウンド関係を保存します。</p>
2	<p>[終了]をクリックして[パートナー エディタ]ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



パートナーの定義の編集と削除

はじめに

パートナーの定義には、パートナーについての基本プロファイル情報が含まれています。これらの情報は、パートナーのレコードの残り部分に関連付けられています。パートナーの定義は、[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスを使用して編集および削除できます。

パートナー プロファイルの編集

パートナーのプロファイルを編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答) [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [パートナーの選択] リスト ボックスから編集するパートナーを選択します。 ▶ [編集] をクリックします。 <p>システムからの応答 そのパートナーの [パートナーの定義] ダイアログ ボックス (新規または編集) が表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要な変更を行います。 ▶ [保存] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー関係のほかの部分 (インバウンド関係、アウトバウンド関係など) を編集することもできます。この場合は、[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスの適切なボタン ([インバウンド] または [アウトバウンド]) をクリックします。 ▶ 編集不可になっているボックス (関係の "キー") を編集することはできません。この場合は、そのパートナーのインバウンド関係またはアウトバウンド関係を新たに作成する必要があります。 <p>参照 詳細については、「インバウンド関係の作成 3 - 60 ページ」および「アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ」を参照してください。</p>

**パートナー プロ
ファイルの削除**

パートナーのプロファイルを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [パートナーの選択] リスト ボックスから編集するパートナーを選択します。 ▶ [削除] をクリックします。 <p>システムからの応答 削除を確認するメッセージが表示されます。</p> <p>注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー関係を削除すると、そのパートナーに関連付けられたドキュメントおよびインターチェンジも削除されます。 ▶ 削除しようとするパートナーのドキュメントまたはインターチェンジが存在している場合、実際に削除される前に警告メッセージが表示されます。
3	<p>選択したパートナー プロファイルを削除するには、[はい] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 パートナー プロファイルと、これに関連付けられたすべてのレコードが削除されます。</p>



パートナー プロファイルのルーティング

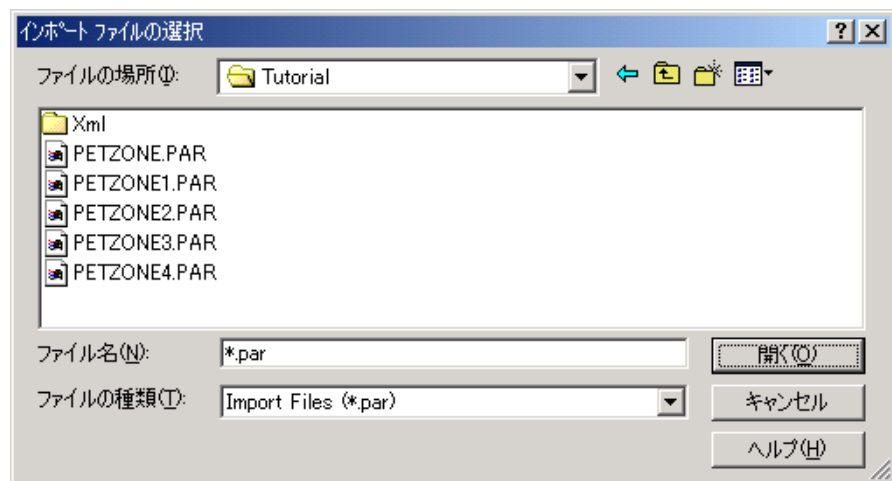
[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスを使用すると、パートナーをシステムにインポートできます。

図

次に、[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次に、[インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能を示します。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルを検索するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	インポートするファイルの名前を指定します。
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。 メモ パートナーの既定ファイル拡張子は .par です。
開く	選択したパートナー ファイルのインポート処理を開始します。
キャンセル	操作を取り消してダイアログ ボックスを終了します。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。



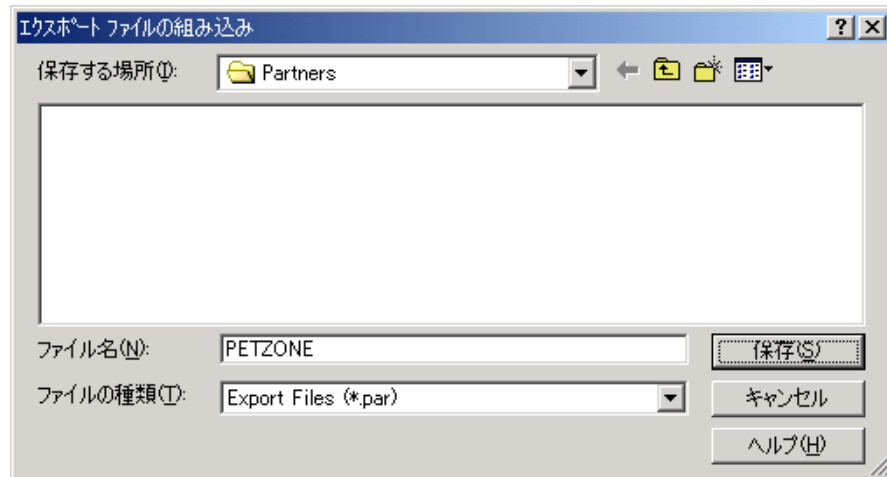
[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス

はじめに

[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスを使うと、パートナー エクスポート ファイル名を指定してエクスポート処理を開始できます。

図

次に、[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
保存先	ファイルを保存するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前を指定します。 メモ [パートナー名] フィールドは、ファイル名の生成に使用されます。Windows 用に予約された文字 (/、 \、 :、 *、 ?、 "、 <、 >、 など) が [パートナー名] に使用された場合、ファイル名にはそれらの文字が使われずに空白スペースに置き換えられます (名前の中にある該当文字 1 文字につき、空白スペースが 1 つ挿入されます)。 例 [パートナー名] が「AB/CD-TEST」の場合、ファイル名は「AB CD TEST.par」となります。
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。 メモ パートナーの既定ファイル拡張子は .par です。

各部	機能
保存	エクスポート処理を開始します。
キャンセル	選択を行わずにダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[パートナーのコピー] ダイアログ ボックス

はじめに

パートナーのコピー機能を使って、パートナー情報をコピーすることができます。パートナーをコピーした後、このダイアログ ボックスを使ってパートナーの定義やコピーされたパートナーのその他の識別ボックスを変更することができます。

メモ

コピーする前にパートナー プロファイルをエクスポートする必要があります。詳細については、「パートナー プロファイルのエクスポート 3 - 90 ページ」を参照してください。パートナー プロファイルで使用している EDI スタンドアードがわからない場合には、そのプロファイルをチェックしてその情報を取得してから、エクスポートとコピーを行ってください。

図

次に、[パートナーのコピー] ダイアログ ボックスを示します。

Group Receiver Qualifier (G):		EDIFACT は UNG のみ
Group Receiver ID (V):		ANSI/EDIFACT/UCS/TDCC
Interchange Receiver Qualifier (P):		ANSI/EDIFACT/UCS/TDCC
Interchange Receiver ID (T):		ANSI/EDIFACT/UCS/TDCC
Interchange Communication ID (D):		UCS
Interchange Password (W):		UCS
Recipient Code (Q):		Tradacoms
Recipient Name (R):		Tradacoms
Receiver DUNS+4 (U):		RosettaNet

各部と機能

[パートナーのコピー]ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
プロファイル ID	選択したパートナーの一意の識別子を指定します。
パートナーの選択	[インポート ファイルの選択]ダイアログ ボックスが表示され、コピーするパートナー プロファイルを選択できます。
名前	パートナーの一意の名前を指定します。 メモ この名前がパートナー選択リストに表示されるので、なるべくそのまま説明になるような名前にします。
EDI コード	このパートナーの EDI 識別子を指定します。この値は、インバウンド処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。
アプリケーションコード	このパートナーの識別に使用するアプリケーション コードを指定します。この値は、アウトバウンド インポート処理の際に正しいトレーディング パートナーの定義を選択するために使用されます。
既定のメールボックス	このパートナーを識別するメールボックスを選択します。 参照 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。
Group Receiver Qualifier	UNG グループ ヘッダー上に置かれるときのパートナーの修飾子を指定します。修飾子は EDI スタンドによって定義済みです。 メモ パートナー プロファイルで EDIFACT または ODETTE スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。
Group Receiver ID	パートナーのグループ ID を指定します。最長 15 文字です。 メモ パートナー プロファイルで ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、または TDCC スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。



各部	機能
Interchange Receiver Qualifier	<p>インターチェンジ ヘッダー上に置かれるときのトレーディング パートナーの修飾子を指定します。修飾子は EDI スタンドによって定義済みです。最長 14 文字です。</p> <p>メモ パートナー プロファイルで ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、または TDCC スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。</p>
Interchange Receiver ID	<p>パートナーのインターチェンジ ID を指定します。最長 15 文字です。</p> <p>メモ パートナー プロファイルで ANSI、EDIFACT、ODETTE、UCS、または TDCC スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。</p>
Interchange Communication ID	<p>BG コミュニケーション識別子を指定します。この ID は BG インターチェンジ ヘッダー上に表示されます。</p> <p>メモ パートナー プロファイルで UCS スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。</p>
Interchange Password	<p>自社とトレーディング パートナーとの間で取り決めたパスワードを指定します。このパスワードは BG インターチェンジ ヘッダー上に表示されます。</p> <p>メモ パートナー プロファイルで UCS スタンドを使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。</p>

各部	機能
Recipient Code	<p>自社とトレーディング パートナーとの間で合意しているコードを指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイルで TRADACOMS スタANDARD を使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。 ▶ Recipient Code は、[Recipient Name] ボックスに入力していない場合に必須です。
Recipient Name	<p>このパートナーの名前を指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイルで TRADACOMS スタANDARD を使っている場合には、このボックスへの入力が必要です。入力されていない場合は、コピーされたパートナー プロファイルのエンベロープ情報から値が取り出されます。 ▶ Recipient Name は、[Recipient Code] ボックスに入力していない場合に必須です。
Receiver DUNS+4	<p>パートナーの DUNS 番号を指定します。</p> <p>メモ</p> <p>この値は必須です。</p>
保存	<p>変更した情報が保存されます。</p>
クリア	<p>ダイアログ ボックスの情報をクリアします。</p>
終了	<p>[パートナーのコピー]ダイアログ ボックスを終了します。</p>
ヘルプ	<p>オンライン ヘルプを表示します。</p>



パートナー プロファイルのインポート

はじめに

パートナー プロファイルでは、インバウンド データおよびアウトバウンド データの処理と構造を制御するパラメータを定義します。結果として、パートナー プロファイルは非常に複雑なものになり、かなりの数のパラメータを定義しなければならない場合もあります。

この作業を簡素化するため、Gentran:Server には、パートナーの詳細をファイルからインポートするための機能が用意されています。パートナーの詳細ファイルには、別の Gentran:Server システムからエクスポートしたパートナー プロファイルを使用できます。

また、インポート機能を使って、既存のパートナーの情報を更新することもできます。既存のパートナー プロファイルに情報をインポートすることにより、新しい取引関係を追加することができます。この際、既存の関係は変更されません。

メモ

パートナー プロファイルに関連付けられているテーブル (クロスリファレンス、照合、または所在地) もインポートされます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「パートナー ファイルの配置」を参照してください。

始める前に

パートナー プロファイルをロードする前に、そのパートナーのメールボックスを作成する必要があります。詳細については、『Communications Guide』を参照してください。

手順

パートナーのプロファイルをインポートするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[インポート] をクリックします。 システムからの応答 [インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	次の手順に従って、パートナー ファイルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドロップダウン リストを使ってフォルダを選択します。 ▶ ファイルを選択するか、ファイル名ボックスにファイル名を入力します。

ステップ	操作
4	<p>[開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [インポート] ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <p>メモ このダイアログ ボックスでは、このトレーディング パートナーが正しいかどうかを検証できます。</p>
5	<p>[保存] をクリックして次に進みます。</p>
6	<p>追加のパートナー情報の入力を指示するメッセージが表示されたら、情報を入力して [保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 パートナーの詳細 (まだシステム上に存在していない場合) と、トランスレーション オブジェクトが存在する関係がインポートされます。このプロセスでは、適切な [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示され、必要な追加情報の入力が指示されます。サイトに関する情報が必要な場合は、ダイアログ ボックスが表示されます。通常は、アウトバウンド EDI エンベロープの生成に使用する EDI 識別子によって制限されます。[パートナー エディタ] ダイアログ ボックスは、必要な情報がすべて入力されるまで表示されます。</p> <p>インポートが終了すると、[インポート処理は完了しました。警告やエラーに注意してください。] というメッセージが表示されます。</p>
7	<p>[OK] をクリックして [インポート] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



パートナー プロファイルのエクスポート

はじめに

Gentran:Server には、既存のパートナーの詳細をファイルにエクスポートする機能も用意されています。パートナーをディスクにエクスポートして、パートナーシステムのバックアップとして使用することもできます。

メモ

パートナー プロファイルに関連付けられているテーブル (クロスリファレンス、照合、または所在地) もエクスポートされます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「パートナー ファイルの配置」を参照してください。

手順

パートナーのプロファイルをエクスポートするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナーを選択します。 ▶ [エクスポート]をクリックします。 システムからの応答 [エクスポート ファイルの組み込み]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	次の手順に従って、エクスポート ファイルの名前を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ リストを使ってフォルダを選択します。 ▶ [ファイル名]ボックスに名前を入力します。 メモ パートナーの名前および .par 拡張子をもとに、エクスポート ファイルの名前を指定するよう指示されます。
4	[保存]をクリックして、パートナーをエクスポートします。

パートナー プロファイルのコピー

はじめに

パートナーのコピー機能を使用すると、パートナーの情報をコピーできます。つまり、類似のパートナー プロファイルであれば、一から入力する必要はありません。既存のプロファイルのコピーすれば、一意のパートナーの定義とキーとなるエンベロープ情報を入力するだけです。

パートナーのコピー機能は、取引関係が類似している、または同一のパートナーを簡単に作成できるように設計されています。

メモ

コピーする前にパートナー プロファイルをエクスポートする必要があります。パートナー プロファイルで使用している EDI スタンドがわからない場合には、そのプロファイルをチェックしてその情報を取得してから、エクスポートとコピーを行ってください。

参照

詳細については、「パートナー プロファイルのエクスポート 3 - 90 ページ」を参照してください。

手順

パートナーのプロファイルのコピーするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[コピー] をクリックします。 システムからの応答 [パートナーのコピー] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[パートナーの選択] をクリックします。 システムからの応答 [インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	次の手順で、コピーするファイルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ リストを使ってフォルダを選択します。 ▶ [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
5	[開く] をクリックして、そのパートナーをコピーします。 メモ モデルパートナー プロファイルの名前は、[パートナーのコピー] ダイアログ ボックスのタイトル バーに表示されます。エクスポートされたパートナーの既定ファイル拡張子は .par です。
6	[パートナーのコピー] ダイアログ ボックスの [プロファイル ID] ボックスに、一意のプロファイル ID を入力します。

ステップ	操作
7	[名前] ボックスにパートナー名を入力します。
8	<p>[EDI コード] ボックスに、このパートナーの EDI 識別子を入力します。</p> <p>メモ この識別子は、インバウンド処理の際のパートナーの選択に使用されます。</p>
9	<p>必要に応じて、このパートナーを識別するためのアプリケーションコードを [アプリケーション コード] ボックスに入力します。</p> <p>メモ アプリケーション コードは、アウトバウンドのインポート処理の際、パートナーの選択に使用されます。</p>
10	<p>[既定のメールボックス] リスト ボックスから適切なメールボックスを選択します。</p> <p>メモ 詳細については、『Communications User’s Guide』を参照してください。</p>
11	<p>ダイアログ ボックスの [エンベロープ] セクションの適切なボックスに情報を入力します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ コピーしたパートナー プロファイルで使用しているスタンダードで、必要とされるボックスのみを入力するようにします。スタンダードは、各ボックスの右に表示されています。 ▶ コピーしたパートナー プロファイルでスタンダードを使用している場合は、そのスタンダードで必要となるすべてのエンベロープ ボックスを入力する必要があります。そのスタンダードで必要となるボックスが入力されていない場合は、コピーしたパートナー プロファイルのエンベロープから、必要な情報が自動的に取得されます。 <p>例 たとえば、コピーしたパートナー プロファイルで UCS スタンダードを使用している場合は、特に [インターチェンジ コミュニケーション ID] ボックスを入力する必要があります。</p>
12	<p>パートナーの情報をすべて入力したら、[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトバウンド インターチェンジの登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

ステップ	操作
13	<p>既定のメールボックスを変更する必要があるかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更する必要がある場合は、[既定のメールボックス] リストボックスから適切なメールボックスを選択します。または、[メールボックスの新規作成] をクリックして、新しいメールボックスを作成します。 続いて、[保存] をクリックします。 ▶ 変更する必要がある場合は [保存] をクリックします。 <p>システムからの応答 コピー処理が正常に完了すると、そのことを通知するメッセージが表示されます。</p>
14	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
15	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



パートナー テーブルの使い方

概要

はじめに

ファイルまたはドキュメント エディタ機能からシステムにドキュメントが登録された場合には、トランスレーション処理によりテーブルを設定して、パートナー データベースの情報を使用することができます。

テーブルの使用

[パートナー エディタ]では内部システム パートナー (内部システム ユーザー) が使用できるため、システムに対して自社を定義付けできます。テーブルは、トレーディング パートナーあるいは特別なシステム パートナーとともに使用するよう設定できます。

- ▶ 特定のパートナーに基づいて作成されたテーブルは、そのパートナーに対してのみ有効です。
- ▶ 内部システム ユーザーに基づいて設定されたテーブルは、全体で使用できません。

テーブルの使い方

パートナー テーブルまたはシステム パートナー テーブルの使用は、設計時にトランスレーション オブジェクト内で定義します。これにより、名前や住所などのよく使用するアイテムを、入力し直すことなくアウトバウンド データに挿入することができます。また、lookup テーブルおよびクロスリファレンス テーブルを使用して、入力したデータまたはインバウンドで受信したデータを補足したり変換したりすることもできます。

クロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルは、Gentran:Server 内に新たに作成することも、既存のテーブルをインポートおよびエクスポートして作成することもできます。

メモ

- ▶ Gentran:Server パートナー テーブルのみインポート / エクスポートできます。
 - ▶ テーブルが使用できるのは、特定のテーブルにアクセスできるトランスレーション オブジェクトが作成されている場合のみです。
-

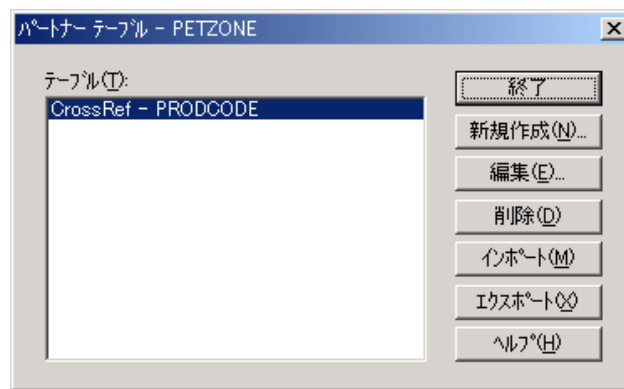
[パートナー テーブル] ダイアログ ボックス

はじめに

[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスを使うと、クロスリファレンスまたは lookup テーブルを作成、編集、削除できます。テーブルは、そのデータを含むように指定されているトランスレーション オブジェクトでしか使用されません。スターリング 子マース社からトランスレーション オブジェクトを受け取った場合には、そのトランスレーション オブジェクトとともに使用するテーブルを作成する必要があるかどうか通知されます。



次に、[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
テーブル	現在定義されているパートナー テーブルがすべて表示されます。
終了	[パートナー テーブル] ダイアログ ボックスを終了します。
新規作成	[新しいテーブル] ダイアログ ボックスが開き、新しいテーブルを作成できます。
編集	[クロスリファレンス選択] ダイアログ ボックスまたは [照合の選択] ダイアログ ボックスが開き、選択したテーブルを編集できます。
削除	選択したパートナー テーブルがシステムから削除されます。
インポート	[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスが開き、パートナー テーブルをインポートできます。



各部	機能
エクスポート	[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスが開き、パートナー テーブルをエクスポートできます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[新しいテーブル] ダイアログ ボックス

はじめに

[新しいテーブル] ダイアログ ボックスを使うと、クロスリファレンスまたは lookup テーブルを作成できます。

図

次に、[新しいテーブル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[新しいテーブル] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
テーブル名	<p>テーブルの名前を指定します。</p> <p>メモ テーブル名は、そのテーブルを必要とするトランスレーションオブジェクトで使用した名前と同じである必要があります。データベースが大文字と小文字-を区別する場合、スタンダードルールと拡張ルールを使ったテーブルの参照するときには、テーブルの正確な名前を指定しなければいけません。</p> <p>参照 スタンダードルールと拡張ルールの使用に関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
テーブルの種類	<p>テーブルの種類を指定します。有効な値は次の通りです。</p> <p>[クロスリファレンス] アウトバウンド処理の際に自社の値をトレーディングパートナーの値に変換したり、インバウンド処理の際にトレーディングパートナーの値を自社の値に変換したりするのに使用されます。</p> <p>[照合] インバウンド データまたはアウトバウンド データの中の値を検索する場合に使用します。</p>
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[新しいテーブル] ダイアログ ボックスが閉じます。



各部	機能
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

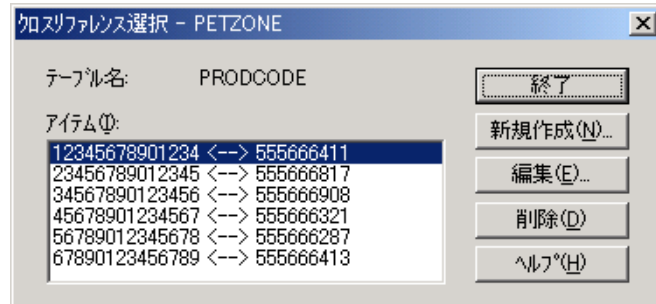
[クロスリファレンス選択]ダイアログボックス

はじめに

[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスには、すべてのクロスリファレンスパートナーテーブルが含まれます。

図

次に、[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
アイテム	テーブルアイテムの一覧が表示されます。
終了	[クロスリファレンス選択]ダイアログボックスを閉じます。
新規作成	[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックスが開き、新しいテーブルアイテムを作成できます。
編集	[クロスリファレンスの登録]ダイアログボックスが開き、選択したテーブルアイテムを編集できます。
削除	選択したテーブルアイテムが削除されます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。

[クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックス

はじめに

[クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックスを使用すると、新しいテーブルアイテムを作成できます。

図

次に、[クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

[クロスリファレンスの登録]ダイアログ ボックスの各項目とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
自社の値	パートナーのデータ値に対応する自社のデータ値を指定します。
パートナーの値	自社のデータ値に対応するパートナーのデータ値を指定します。
説明	コードの説明を指定します。
参照データ	特定のコード値と関連付けられているときにマップできる値が、最高4つまで指定します。 メモ これらのボックスは、現在 Gentran:Server では使用されていません。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[クロスリファレンス登録]ダイアログ ボックスを閉じます。

各部	機能
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

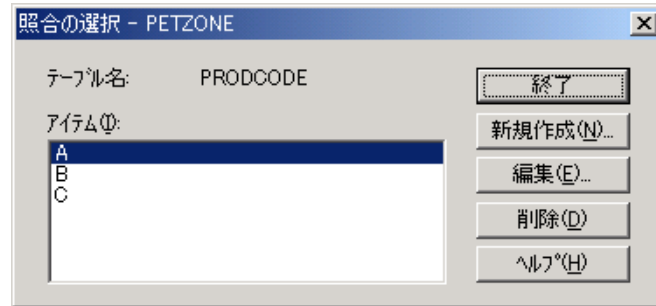
[照合の選択]ダイアログボックス

はじめに

[照合の選択]ダイアログボックスには、すべての照合パートナーテーブルが含まれます。

図

次に、[照合の選択]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

[照合の選択]ダイアログボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
アイテム	テーブルアイテムの一覧が表示されます。
終了	[照合の選択]ダイアログボックスを閉じます。
新規作成	[照合の登録]ダイアログボックスが開き、新しいテーブルアイテムを作成できます。
編集	[照合の登録]ダイアログボックスが開き、選択したテーブルアイテムを編集できます。
削除	選択したテーブルアイテムが削除されます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。

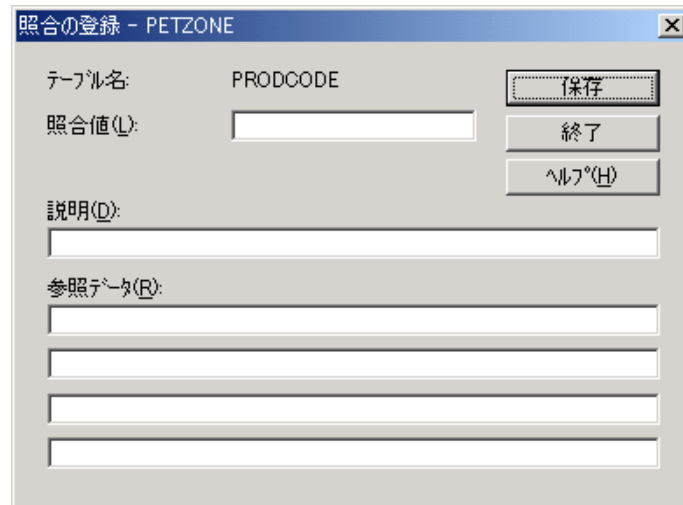
[照合の登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[照合の登録] ダイアログ ボックスを使用すると、新しいテーブル アイテムを作成できます。

図

次に、[照合の登録] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[照合の登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
照合値	インバウンドまたはアウトバウンド処理の際にデータ内の照合される値を指定します。
説明	コードの説明を指定します。
参照データ	特定のコード値と関連付けられているときにマップできる値が、最高4つまで指定します。 メモ これらのボックスは、現在 Gentran:Server では使用されていません。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[クロスリファレンス登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックス

はじめに

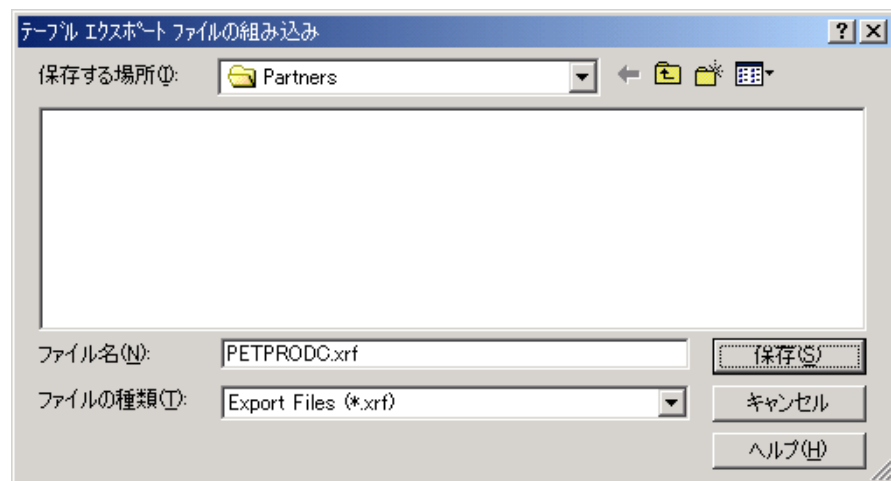
"テーブル エクスポート" 機能を使って、パートナーのクロスリファレンスおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルに書き出すことができます。これにより、あるトレーディング パートナーのテーブルを定義しておき、そのテーブルを別のパートナー プロファイルにコピーすることができます。

メモ

- ▶ Gentran:Server パートナー テーブルをエクスポートできます。
- ▶ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .xrf です。照合エクスポート テーブルの既定のファイル拡張子は .lkp です。

図

次に、[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
保存先	ファイルを保存するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前を指定します。

各部	機能
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。 メモ クロスリファレンス テーブルの既定ファイル拡張子は .xrf、lookup テーブルの既定ファイル拡張子は .lkp です。
保存	テーブルのエクスポート処理を開始します。
キャンセル	選択を行わずにダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックス

はじめに

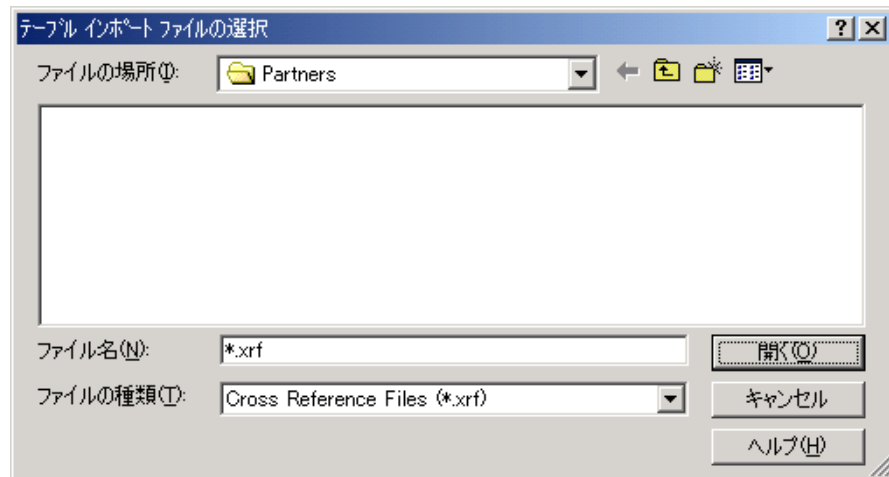
テーブルのインポート機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルからインポートすることができます。これにより、ほかのパートナーのプロファイルについて作成したテーブルをインポートし、Gentran:Server のほかのユーザーとテーブルを共有し、エクスポート ファイル配置でデータを書式設定することにより、Gentran:Server の外部でテーブルを作成することができます。

メモ

- ▶ Gentran:Server パートナー テーブルをインポートできます。
- ▶ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .xrf です。照合エクスポート テーブルの既定のファイル拡張子は .lkp です。

図

次に、[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルを検索するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	インポートするファイルの名前を指定します。

各部	機能
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。 メモ クロスリファレンス テーブルの既定ファイル拡張子は .xrf、lookup テーブルの既定ファイル拡張子は .lkp です。
開く	選択したパートナー テーブル ファイルのインポート処理を開始します。
キャンセル	操作を取り消してダイアログ ボックスを終了します。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。



パートナー テーブルの作成

手順

パートナー テーブルを作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルを作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいテーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[テーブル名] ボックスに、一意のテーブル名を入力します。</p> <p>メモ テーブル名は、そのテーブルを必要とするトランスレーション オブジェクトで使用した名前と同じである必要があります。データベースが大文字と小文字を区別する場合、スタンダード ルールと拡張ルールを使ったテーブルの参照するときには、テーブルの正確な名前を指定しなければいけません。</p> <p>参照 スタンダード ルールと拡張ルールの使用に関する詳細は、『アプリケーション インテグレーション ユーザー ガイド』を参照してください。</p>
5	<p>[テーブルの種類] で、[クロスリファレンス] または [照合] を選択します。</p>
6	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 入力した情報が保存され、ステップ 5 で選択したテーブルの種類に応じて、[クロスリファレンス選択] ダイアログ ボックスまたは [照合の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

ステップ	操作
7	<p>[新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 ステップ 5 で選択したテーブルの種類に応じて、[クロスリファレンス登録] ダイアログ ボックスまたは [照合の登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
8	<p>次のテーブル値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンスの場合は 2 つの値、lookup テーブルの場合は 1 つの値 ▶ 説明 <p>メモ 入力するデータをどのように使用するかは、トランスレーション オブジェクトがどのように定義されているかによって異なります。何が必要かが不明な場合は、トランスレーション オブジェクトの設計者に問い合わせてください。</p>
9	<p>1 つのテーブルレコードを入力するたびに [保存] をクリックして情報を保存してから、次のレコードの入力に移ります。</p>
10	<p>登録がすべて完了したら、[終了] をクリックして [クロス-リファレンスの選択] または [照合の選択] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
11	<p>[終了] をクリックして [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



パートナー テーブルの編集

手順

パートナー テーブルを編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルを編集するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 編集するテーブルを選択します。 ▶ [編集] をクリックします。 <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンスの選択] ダイアログ ボックスまたは [照合の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 編集するアイテムを選択します。 ▶ [編集] をクリックします。 <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンスの登録] ダイアログ ボックスまたは [照合の登録] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	編集を加えます。
6	<p>編集がすべて完了したら、[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [クロスリファレンスの選択] または [照合の選択] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
7	<p>[終了] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

パートナー テーブル内のエントリの削除

手順

パートナー テーブルのエントリを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テーブル エントリを削除するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 編集するテーブルを選択します。 ▶ [編集] をクリックします。 <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンスの選択] ダイアログ ボックスまたは [照合の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 編集するアイテムを選択します。 ▶ [削除] をクリックします。 <p>システムからの応答 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。</p>
5	<p>[はい] をクリックして削除を実行します。</p> <p>システムからの応答 テーブルの種類に応じて、[クロスリファレンスの選択] ダイアログ ボックスまたは [照合の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>[終了] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>

パートナー テーブルの削除

手順

パートナー テーブルを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none">▶ テーブルを削除するパートナー プロファイルを選択します。▶ [テーブル] をクリックします。 システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none">▶ 削除するテーブルを選択します。▶ [削除] をクリックします。 システムからの応答 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい] をクリックして削除を実行します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナー テーブルのエクスポート

はじめに

" テーブルのエクスポート " 機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルにエクスポートできます。これにより、あるトレーディング パートナーのテーブルを定義しておき、そのテーブルを別のパートナー プロファイルにコピーすることができます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「パートナー ファイルの配置」を参照してください。

エクスポート ファイルの配置

通常、別のパートナー プロファイル用に作成したテーブルをエクスポートしてからインポートします。ただし、必要に応じて、エクスポート ファイルのデータを整形することによって、Gentran:Server の外部でテーブルを作成することもできます。

エクスポート ファイルは、フリーフォーマットの ASCII テキスト ファイルです。フィールドが可変長であるため、各フィールドを 16 進数 01 で区切る (分割する) 必要があります。

メモ

ファイルの作成には、テキスト エディタ (メモ帳など) を使用します。照合エクスポート ファイルの既定のファイル拡張子は .lkp です。クロス-リファレンス ファイルの既定のファイル拡張子は .xrf です。

lookup テーブルのフィールド

次に lookup テーブルのフィールドを示します。必須フィールドは、アスタリスク (*) で示します。

フィールド	説明
PartnerKEY*	パートナーの一意の識別子
TableCode	lookup テーブルの場合は "L"
TableName*	分かりやすいテーブルの名前 テーブル選択リストに表示される値です。
Item*	インバウンド処理またはアウトバウンド処理の際にデータ内で照合される値
Description	アイテムに関する簡単な説明
Text1、Text2、Text3、Text4	このテーブルを使用するトランスレーション オブジェクトで必要となる追加の参照情報

(éüÇÃÉyÅ[ÉWÇ÷è±Ç])



エクスポート ファイルの配置 (続き)

次にクロスリファレンス テーブルのフィールドを示します。

次にクロスリファレンス テーブルのフィールドを示します。必須フィールドは、アスタリスク (*) で示します。

フィールド	説明
PartnerKEY*	パートナーの一意の識別子
TableCode	クロスリファレンスの場合は "C"
TableName*	分かりやすいテーブルの名前 テーブル選択リストに表示される値です。
MyItem*	パートナーのデータ値に対応する自社のデータ値
PartnerItem*	自社のデータ値に対応するパートナーのデータ値
Description	アイテムに関する簡単な説明
Text1、Text2、Text3、 Text4	このテーブルを使用するトランスレーション オブジェクトで必要となる追加の参照情報

手順

パートナー テーブルをエクスポートするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルをエクスポートするパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[エクスポート] をクリックします。 システムからの応答 [テーブル エクスポート ファイルの組み込み] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[保存する場所] ドロップダウン リストで、エクスポート テーブル ファイルの場所を選択します。 メモ Gentran:Server パートナー テーブルをエクスポートできます。

ステップ	操作
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ファイル名] ボックスにエクスポート ファイル名を入力します。 あるいは、 ▶ リストから選択します。 <p>メモ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .xrf です。 lookup テーブルの既定のファイル拡張子は .lkp です。</p>
6	<p>[保存] をクリックして、エクスポート処理を開始します。</p> <p>メモ エクスポート処理が完了すると、情報ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[終了] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



パートナー テーブルのインポート

はじめに

テーブルのインポート機能を使用すると、パートナーのクロスリファレンス テーブルおよび lookup テーブルをシーケンシャル ファイルからインポートすることができます。これにより、別のパートナー プロファイル用に作成したテーブルをインポートし、エクスポート ファイルのデータを整形することによって、Gentran:Server の外部でテーブルを作成することができます。

参照

詳細については、『管理 ガイド』の付録「パートナー ファイルの配置」を参照してください。

手順

パートナー テーブルをインポートするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クロスリファレンス テーブルまたは lookup テーブルをインポートするパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [テーブル] をクリックします。 システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[インポート] をクリックします。 システムからの応答 [テーブル インポート ファイルの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[ファイルの場所] ドロップダウン リストで、テーブル ファイルの場所を選択します。
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ファイル名] ボックスにインポート ファイル名を入力します。 あるいは、 ▶ リストから選択します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ Gentran:Server パートナー テーブルをインポートできます。 ▶ クロスリファレンス テーブルの既定のファイル拡張子は .xrf です。lookup テーブルの既定のファイル拡張子は .lkp です。

ステップ	操作
6	<p>[開く] をクリックして、インポート処理を開始します。</p> <p>メモ インポート処理が完了すると、情報ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー テーブル] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
8	<p>[終了] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>



パートナー所在地の使い方

概要

はじめに

1つのパートナー プロファイルに、複数の所在地テーブルが関連付けられている場合があります。所在地テーブルには、パートナーの住所および連絡先に関連する情報を格納できます。所在地テーブルには、さまざまな使用方法があります。所在地は、所在地キー(参照コード)の1つを使用して、トランスレーション オブジェクト内で参照されます。所在地が使用できるのは、特定の所在地にアクセスできるトランスレーション オブジェクトを使用している場合のみです。

例

たとえば、パートナーの店舗の住所、倉庫の住所、あるいは"請求先"の住所のリストが必要になることがあります。これらの情報は、所在地テーブルに格納できます。

必要なパラメータ

次の情報を含む2つのパラメータを設定する必要があります。

- ▶ トレーディング パートナーの所在地の名前
- ▶ この所在地を識別するために使用する参照コード

これらのパラメータは、パートナー所在地の作成に使用します。

始める前に

パートナー所在地を設定するには、パートナーの実装を計画するため、まず次の情報が必要となります。

- ▶ このパートナー所在地を表す一意の名前
 - ▶ 所在地を示す少なくとも1つの参照コード
-

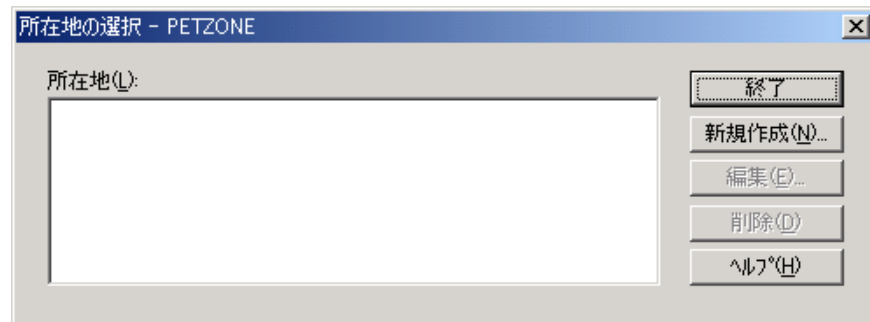
[所在地の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[所在地の選択] ダイアログ ボックスを使って、パートナー固有の名前や住所の情報を追加、編集、および削除できます。所在地は、そのデータを含むように指定されているトランスレーション オブジェクトでしか使用されません。

図

次に、[所在地の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[所在地の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
所在地	定義済みの所在地がすべて表示されます。
終了	[所在地の選択] ダイアログ ボックスを閉じます。
新規作成	[所在地の登録] ダイアログ ボックスが開き、新しい所在地を作成できます。
編集	[所在地の登録] ダイアログ ボックスが開き、選択した所在地を編集できます。
削除	選択した所在地がシステムから削除されます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[所在地の登録] ダイアログ ボックス

はじめに

[所在地の登録] ダイアログ ボックスにより、所在地情報を作成および編集できます。

図

次に、[所在地の登録] ダイアログ ボックスを示します。

The screenshot shows a dialog box titled "所在地の登録 - PETZONE". It contains the following fields and buttons:

- 名前(N): [Text Input]
- 参照コード1(R): [Text Input]
- 参照コード2(F): [Text Input]
- 担当者(C): [Text Input]
- 住所 1(A): [Text Input]
- 住所 2(D): [Text Input]
- 住所 3(E): [Text Input]
- 市(Y): [Text Input]
- 都道府県(S): [Text Input]
- 郵便番号(Z): [Text Input]
- 国(U): [Text Input]
- 電話(P): [Text Input]
- ファックス(X): [Text Input]
- Buttons: 保存 (Save), 終了 (End), ヘルプ(H) (Help)

各部と機能

[所在地の登録] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
名前	このトレーディング パートナーの所在地の名前を指定します。この名前が所在地選択リストに表示されるので、その所在地を正確に表した名前にしなければなりません。 メモ このボックスでの指定は必須です。
参照コード 1	定義されている所在地を識別するための参照コード (たとえば DUNS 番号) を指定します。 メモ このボックスでの指定は必須です。
参照コード 2	定義されている所在地を識別するための参照コード (たとえば DUNS 番号) を指定します。
担当者	担当者個人名を指定します。

各部	機能
住所 1 住所 2 住所 3	パートナーの会社住所を指定します。
市	パートナー所在地の市名を指定します。
都道府県	パートナー所在地の都道府県名を指定します。
郵便番号	パートナー所在地の郵便番号を指定します。
国	パートナー所在地の国名を指定します。
電話番号	パートナーの電話番号を指定します。
ファックス	パートナーのファックス番号を指定します。
保存	変更した情報が保存されます。
終了	[所在地の登録] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。



パートナー所在地の作成

手順

パートナー所在地を作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所在地を作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [所在地]をクリックします。 システムからの応答 [所在地の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	[新規作成]をクリックします。 システムからの応答 [所在地の登録]ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[名前]ボックスに、パートナー内でこの所在地を定義する一意の識別子を入力します。
5	[参照コード 1]ボックスに、定義する所在地の一意の識別子を入力します。 例 所在地の DUNS 番号
6	必要に応じて、その他のボックスに入力します。 メモ [参照コード 2]を使用する場合は、この識別子も一意である必要があります。
7	[保存]をクリックします。 システムからの応答 所在地情報が保存され、空の [所在地の登録]ダイアログ ボックスが表示されます。
8	このパートナーの別の所在地を登録する場合は、必要に応じてステップ 4～7を繰り返します。
9	[終了]をクリックします。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナー所在地の編集

手順

パートナー所在地を編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所在地を作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [所在地]をクリックします。 システムからの応答 [所在地の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [所在地]リストから所在地を選択します。 ▶ [編集]をクリックします。 システムからの応答 [所在地の登録]ダイアログ ボックスが表示されます。
4	必要な変更を加えます。 メモ [参照コード 1]ボックスは必須です。
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所在地情報を保存して[所在地の選択]ダイアログ ボックスに戻るには、[保存]をクリックします。 あるいは、 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 変更内容を保存せずに[所在地の選択]ダイアログ ボックスに戻るには、[終了]をクリックします。
6	[終了]をクリックします。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスに戻ります。

パートナー所在地の削除

手順

パートナー所在地と、これに関連付けられたすべてのレコードを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール]メニューから、[パートナー エディタ]を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 所在地を作成するパートナー プロファイルまたはシステム パートナー (Internal System User) を選択します。 ▶ [所在地]をクリックします。 システムからの応答 [所在地の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [所在地]リストから所在地を選択します。 ▶ [削除]をクリックします。 システムからの応答 削除を確認するダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい]をクリックして、削除を確定します。
5	[終了]をクリックします。 システムからの応答 [パートナー エディタ]ダイアログ ボックスに戻ります。

第 4 章

ドキュメントの使い方

目次

▶	はじめに.....	4-3
	ドキュメント ブラウザ.....	4-4
▶	ドキュメント ブラウザへのアクセス方法.....	4-4
▶	ブラウザ ページ サイズと位置のオプション.....	4-6
▶	[イン ドキュメント]ブラウザ.....	4-7
▶	[?イン ドキュメント]ブラウザ.....	4-9
▶	[イン ドローワ]ブラウザ.....	4-11
▶	[ワークスペース]ブラウザ.....	4-13
▶	[アウト ドキュメント]ブラウザ.....	4-15
▶	[?アウト ドキュメント]ブラウザ.....	4-17
▶	[アウト ドローワ]ブラウザ.....	4-18
▶	[処理中]ブラウザ.....	4-20
	関連のダイアログ ボックス.....	4-21
▶	[表示の選択]ダイアログ ボックス.....	4-21
▶	[印刷の選択]ダイアログ ボックス.....	4-23
▶	[エクスポート方法の選択]ダイアログ ボックス.....	4-25
▶	[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス.....	4-27
▶	[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックス.....	4-29
▶	[ドキュメントの検索]ダイアログ ボックス.....	4-31
▶	[検索結果]ダイアログ ボックス.....	4-33
▶	[フィルタ]ダイアログ ボックス.....	4-35
	ドキュメントの作成と編集.....	4-37
▶	ドキュメントの作成方法.....	4-37
▶	ドキュメントの開き方と編集方法.....	4-40
	ドキュメントの管理.....	4-44
▶	ドキュメントの表示方法.....	4-44
▶	現在処理中のドキュメントの表示.....	4-47
▶	ドキュメント内の特定のテキストの検索方法.....	4-48
▶	ドキュメントの検索方法.....	4-51
▶	ドキュメントの並べ替え方法.....	4-52
▶	[アウト ドローワ]での状況によるドキュメントの フィルタ方法.....	4-53



▶	ドキュメントの削除方法	4-54
▶	ドキュメントの印刷方法	4-55
	ドキュメントのルーティング.....	4-57
▶	ドキュメントのインドロワーへの移動.....	4-57
▶	ドキュメントのコピー(再処理と再送).....	4-58
▶	ドキュメントのポスト.....	4-59
▶	ドキュメントのアンポスト	4-60
▶	ドキュメントへの応答方法	4-61
▶	ドキュメントのインポート	4-63
▶	ドキュメントのエクスポート	4-65

はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server のドキュメント機能の使い方について、以下の項目に沿って説明します。

- ▶ ドキュメントの作成と編集
- ▶ ドキュメントの管理
- ▶ ドキュメントのルーティング

EDI ドキュメント

Gentran:Server では、EDI ドキュメントとそれに対応するアプリケーション データの関係をトラックできます。インポート処理の場合、処理の開始時にアプリケーション データの固定コピーがシステム内で作成されます。インバウンド (エクスポート) 処理の場合、ドキュメントに一意的識別子が割り当てられます。この識別子は、受信したドキュメントに関連するすべてのデータベースに反映されます。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ ドキュメントのインポート 4 - 63 ページ
- ▶ ドキュメントのエクスポート 4 - 65 ページ
- ▶ 本書の第 9 章「トラッキングの使い方」

ドキュメント エディタ

ドキュメント エディタは、Gentran:Server の画面入力ツールとして機能します。この機能を使用すると、ドキュメントの作成、修正、表示を行うことができます。

メモ

ドキュメント エディタを使用するには、システムで適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを登録して、対応するアウトバウンド関係をパートナーごとに設定する必要があります。

ドキュメント ブラウザ

ドキュメント ブラウザへのアクセス方法

はじめに

Gentran:Server では、次の 3 通りの方法でドキュメント ブラウザにアクセスできます。

- ▶ [デスク]を使用すると、[インドキュメント]、[?インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[?アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、および[アウトドローワ]にアクセスできます。
- ▶ [メイン ツールバー]を使用すると、[インドキュメント]、[?インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[?アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、[アウトドローワ]、および[送信キュー]にアクセスできます。
- ▶ [表示]メニューを使用すると、[インドキュメント]、[?インドキュメント]、[ワークスペース]、[アウトドキュメント]、[?アウトドキュメント]、[インターチェンジ]、[インドローワ]、[アウトドローワ]、および[送信キュー]にアクセスできます。

概要ダイアログボックス

上記 3 つの方法で、[インドキュメント]、[?インドキュメント]、[アウトドキュメント]、[?アウトドキュメント]、[インドローワ]、または[アウトドローワ]の各ブラウザを選択すると、そのブラウザの概要ダイアログボックスが表示されます。

概要ダイアログボックスには、そのブラウザに含まれている各パートナーの各種ドキュメントの番号が表示されます。これにより、ブラウザに表示するドキュメントに、ドキュメントの種類とパートナーでフィルタをかけることができます。

ブラウザの列

次に、すべてのブラウザで表示される列を示します。

各部	機能
パートナー	トレーディング パートナーを示します。
種類	EDI ドキュメントの種類を示します。 例 810 は、請求書を表します。
名前	ユーザーが割り当てたドキュメント名を表示します。
状況	使用できる状況は、ブラウザによって異なります。 参照 状況値の詳細については、「用語解説」を参照してください。

各部	機能
参照データ	このドキュメントを識別するためにトランスレーションオブジェクト設計者が割り当てた参照データを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ セグメント/エレメント固定値(たとえば発注書の PO 番号) ▶ ブランク(参照データは割り当てられていません)

メモ

ブラウザの列タイトルをクリックして、列の値で表示の並べ替えをすることができます。

手順

ドキュメント ブラウザにアクセスするには、次の手順を完了します。

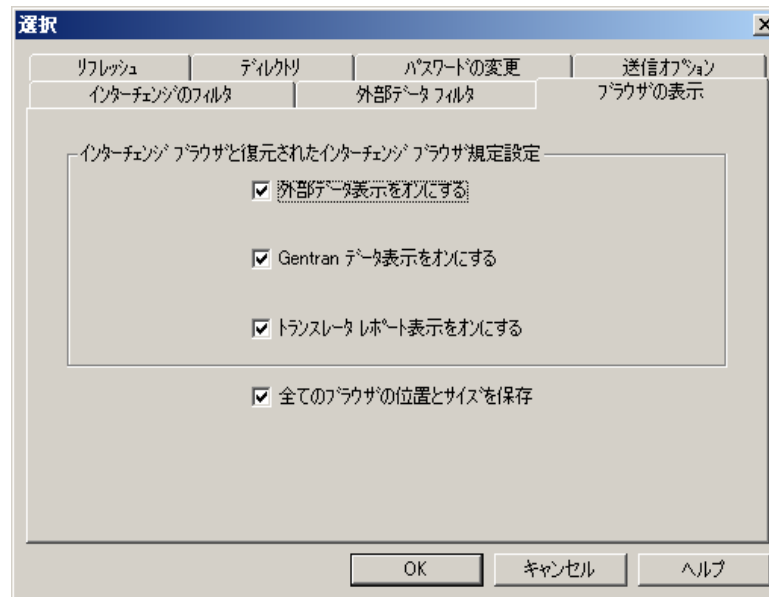
ステップ	操作
1	デスクの適切な領域から、ブラウザを選択します。 システムからの応答 そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のパートナー/ドキュメントの種類の組み合わせを反転表示にするには、1 番目のパートナー/ドキュメントの種類をクリックし、Shift を押しながらグループの一番最後のパートナー/ドキュメントの種類をクリックします。 ▶ 概要ダイアログ ボックスで隣接していない複数のパートナー/ドキュメントの種類を反転表示にするには、Ctrl を押しながらそれぞれのパートナー/ドキュメントの種類をクリックします。
3	[表示] をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントがブラウザに表示されます。

ブラウザ ページ サイズと位置のオプション

Gentran:Server は、既定で最後に変更されたページ サイズと位置を保持します。ウインドウ サイズと位置は既定値にリセットできます。

図

次に、[選択] ダイアログ ボックスを示します。



手順

[選択] ダイアログ ボックスにアクセスして既定の表示に設定するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[オプション] > [ブラウザの表示] を選択します。 システムからの応答 ダイアログ ボックスが表示されます。
2	既定の表示にリセットするには、[全てのブラウザの位置とサイズを保存] チェック ボックスの選択を解除します。
3	[OK] をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントがブラウザに表示されます。

[イン ドキュメント]ブラウザ

はじめに

[イン ドキュメント]ブラウザには、システムによって受信されたが、ユーザーが未処理のドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理(印刷またはエクスポート)が終了すると、ドキュメントは[イン ドローウ]に転送されます。

図

次に、[イン ドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

[イン ドキュメント]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。 メモ ドキュメントが受信確認処理(受信確認の生成または整合)を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまで削除できません。
エクスポート	[エクスポート方法の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントをエクスポートします。

各部	機能
移動	選択したドキュメントを [インドローワ] に移動します。
受信	[コミュニケーションセッション] ダイアログが表示され、受信専用セッションを開始できます。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

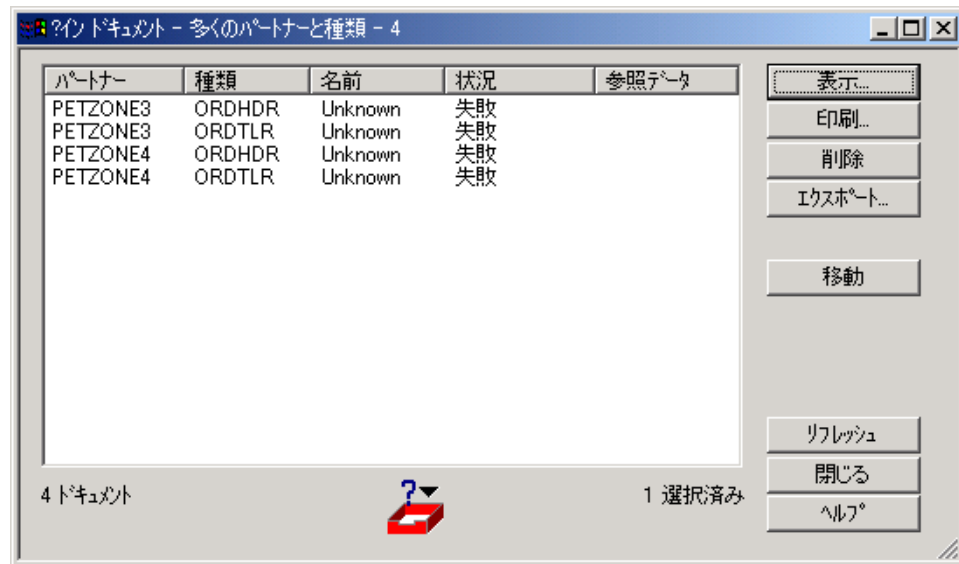
[? インドキュメント]ブラウザ

はじめに

[? インドキュメント]ブラウザには、システムによって受信されたが、エラーチェックに合格しなかったドキュメント、または識別可能なパートナーまたはトランザクションセットを持たないドキュメントのリストが表示されます。

図

次に、[? インドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

[? インドキュメント]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。 メモ ドキュメントが受信確認処理(受信確認の生成または整合)を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまで削除されません。
エクスポート	[エクスポート方法の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントをエクスポートします。

各部	機能
移動	選択したドキュメントを [イン ドローワ] に移動します。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

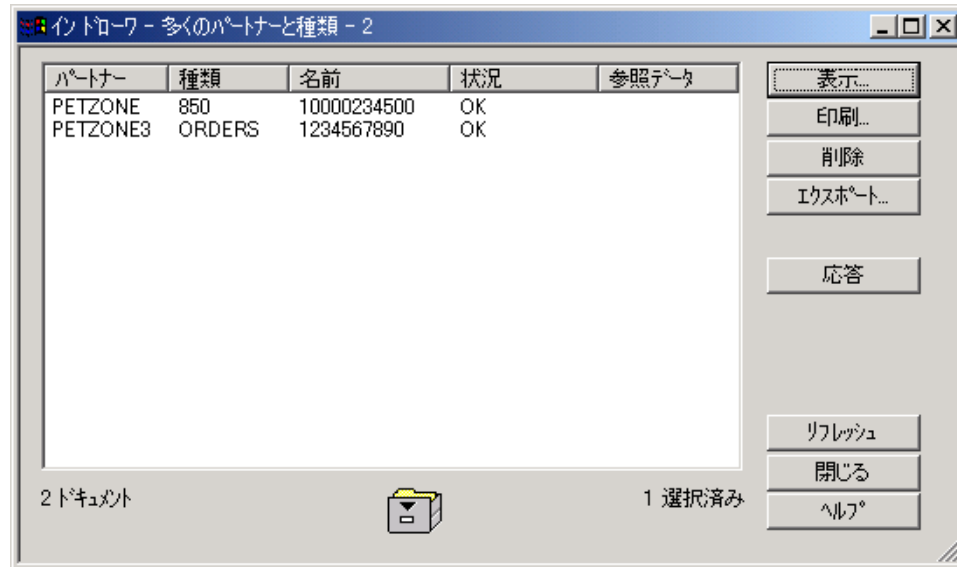
[イン ドローウ]ブラウザ

はじめに

[イン ドローウ]ブラウザには、システムによって受信され、処理されたドキュメントがリストされます。

図

次に、[イン ドローウ]ブラウザを示します。



各部と機能

[イン ドローウ]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	[エクスポート方法の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントをエクスポートします。

各部	機能
応答	<p>選択したドキュメントに対応するターンアラウンドドキュメントを作成します。</p> <p>メモ " 応答 " 機能は、1つ以上のドキュメントが選択されていて、かつ選択したドキュメントにターンアラウンドトランスレーションオブジェクトが存在する場合にのみ有効になります。</p> <p>参照 詳細については、「[インバウンドトランスレーションオブジェクト]ダイアログボックス 3 - 15 ページ」を参照してください。</p>
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。

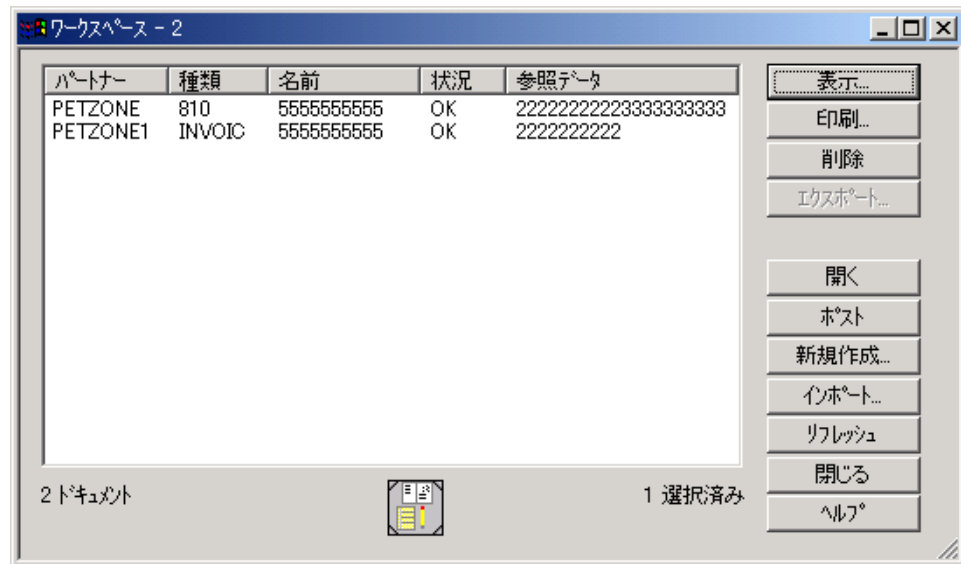
[ワークスペース]ブラウザ

はじめに

[ワークスペース]ブラウザには、システムによって受信されたが、ユーザーが未処理のドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理(印刷またはエクスポート)が終了すると、ドキュメントは[インドロワー]に転送されます。

図

次に、[ワークスペースブラウザ]を示します。



各部と機能

[ワークスペース]ブラウザの各部分、およびその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	このブラウザに対しては、無効な機能です。
開く	選択したドキュメントの編集に使用する[ドキュメントエディタ]にアクセスします。

各部	機能
ポスト	<p>選択した適合ドキュメントを [アウト ドキュメント] ブラウザに移動します。</p> <p>メモ ドキュメントを送信する前に [アウト ドキュメント] にポストします。</p>
新規作成	<p>[ドキュメント エディタ] で新しいドキュメントを入力するときの、パートナーとトランザクション セットの組み合わせを選択するとき使用する [新しいドキュメントの作成] ダイアログ ボックスにアクセスします。</p> <p>メモ ドキュメント エディタでは、関連付けられている画面入力トランスレーション オブジェクトを使用して、情報をシステムに入力します。</p> <p>参照 詳細については、「アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ」を参照してください。</p>
インポート	<p>[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、外部アプリケーションのファイルからデータをインポートすることができます。</p> <p>メモ ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーション オブジェクトの情報を入力するように求められます。インポート機能を実行しても、選択しているドキュメントには影響を与えません。</p>
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

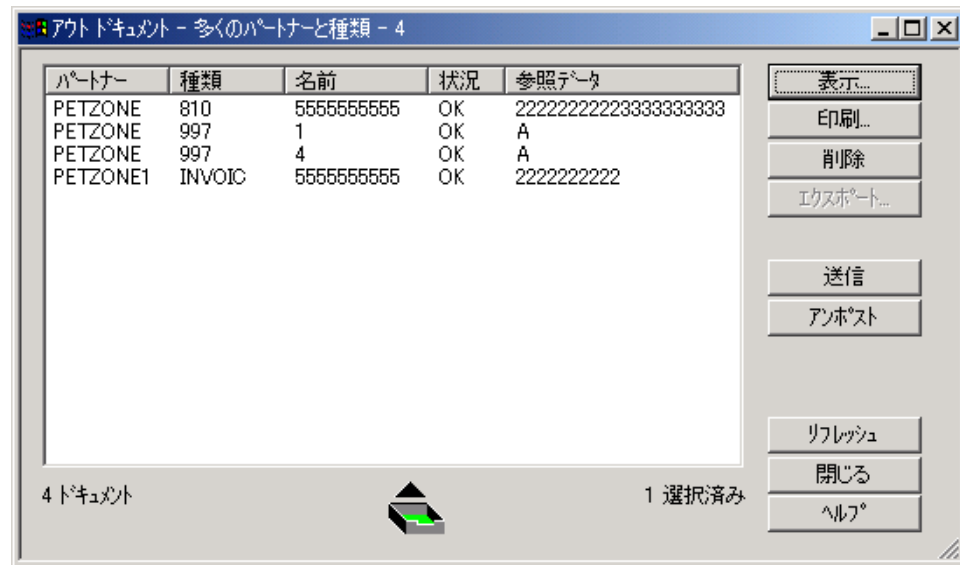
[アウト ドキュメント]ブラウザ

はじめに

[アウト ドキュメント]ブラウザには、送信の準備が完了しているドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントは、正常に送信された後、自動的に[アウト ドローワ]に転送されます。

図

次に、[アウト ドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

[アウト ドキュメント]ブラウザの各部分、およびその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	この機能は、このブラウザからは実行できません。

各部	機能
送信	<p>[送信 / 受信] ダイアログ ボックスが表示され、データを送信するコミュニケーション セッションを手動で開始できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択されたドキュメントのみがエンベロープに収められて送信されます。ドキュメントが選択されていない場合は、すべてのドキュメントが送信されます。正常に送信されたドキュメントは、[アウト ドローワ]に移動します。 ▶ また、送信セッションを開始すると、受信待ちの状態にあるドキュメントを受信する処理がシステム内で実行されます。 ▶ "送信" 機能は、現在選択されているブラウザが[アウト ドキュメント]であり、かつドキュメントが存在する場合、またはインターチェンジブラウザのインターチェンジが"準備完了"の状態になっている場合にのみ有効になります。
アンポスト	選択したドキュメントを移動して、[ワークスペース] ブラウザに戻します。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

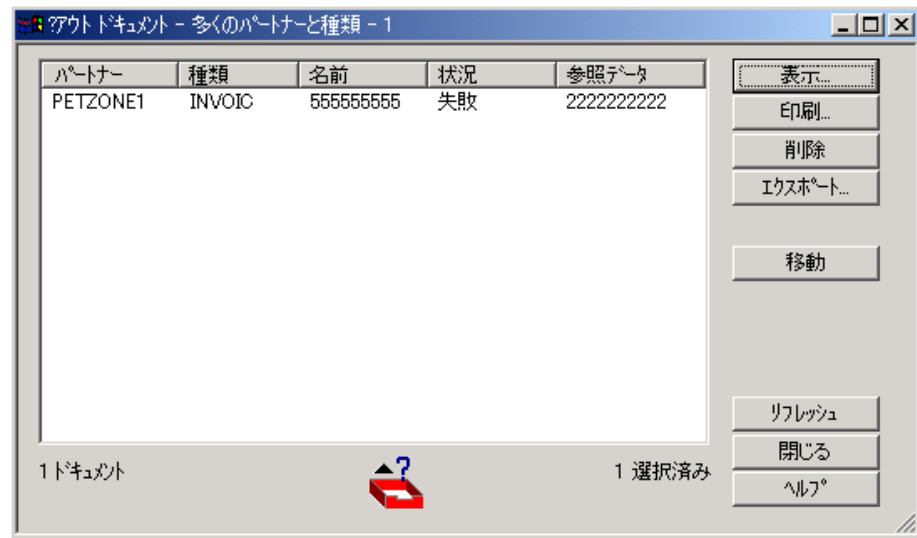
[? アウト ドキュメント]ブラウザ

はじめに

[? アウト ドキュメント]ブラウザには、システムにインポートされ、無効になったドキュメントのリストが表示されます。

図

次に、[? アウト ドキュメント]ブラウザを示します。



各部と機能

[? アウト ドキュメント]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	この機能は、このブラウザからは実行できません。
移動	選択したドキュメントを [アウト ドロワ] に移動します。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

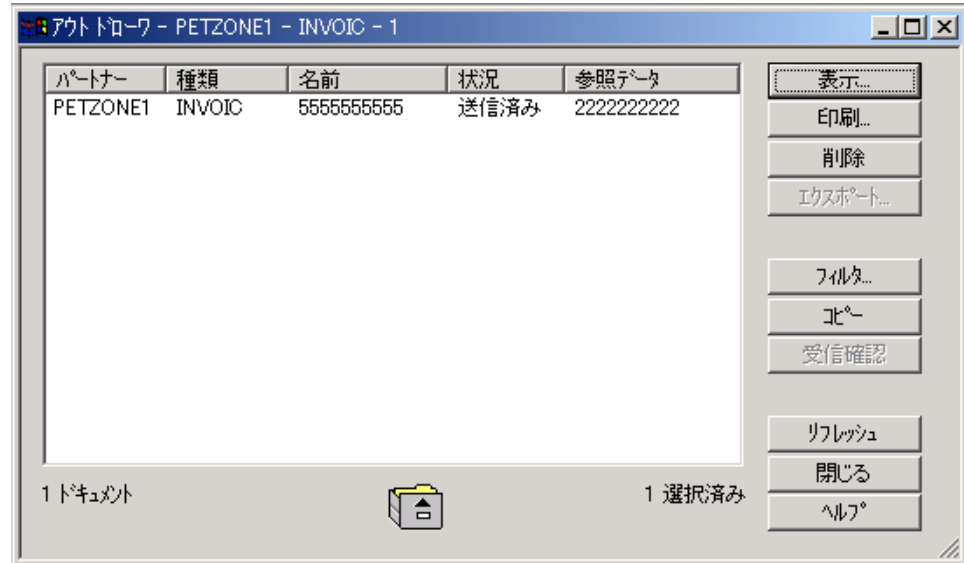
[アウト ドローワ]ブラウザ

はじめに

[アウト ドローワ]ブラウザには、正常に送信されたドキュメントのリストが表示されます。

図

次の図に、[アウト ドローワ]ブラウザを示します。



各部と機能

[アウト ドローワ]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
削除	選択したドキュメントを削除します。
エクスポート	この機能は、このブラウザからは実行できません。
コピー	選択したドキュメントをワークスペースにコピーします。 メモ この機能を使用すると、送信済みのドキュメントの再処理および再送信を行うことができます。
受信確認	選択したドキュメントの状態を受信確認に変更します。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。

各部	機能
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

[処理中]ブラウザ

はじめに

[処理中]ブラウザには、現在処理中のドキュメントのリストが表示されます。

メモ

[処理]ブラウザは、現在の処理ドキュメントを表示します。処理中のドキュメントの状況コードは **1** です。ドキュメントまたは受信確認が延期の場合、状況コードは **2** です。

図

次に、[処理中]ブラウザを示します。



各部と機能

[処理中]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
リセット	処理は既に終了しているにもかかわらず、このダイアログボックスに表示されているドキュメントを、元の場所に戻します。 メモ 通常、この機能はドキュメントの処理が正常に終了しなかった場合に使用します。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプを表示します。

関連のダイアログ ボックス

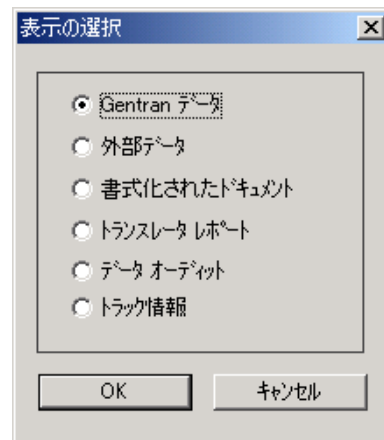
[表示の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[表示の選択] ダイアログ ボックスで、選択したドキュメントの表示方法を指定できます。

図

次に、[表示の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[表示の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。これらのオプションから 1 つのみ選択することができます。

各部	機能
Gentran データ	EDI データを表示します。
外部データ	トランスレーション内で使用するデータ ファイルを表示します。 メモ このオプションは、トランスレーション内で使用するデータ ファイルが存在しない場合は選択できません。
書式化されたドキュメント	画面入力トランスレーション オブジェクトを使用して [ドキュメント エディタ] のデータが表示されます。 メモ このオプションは、画面入力トランスレーション オブジェクトが存在しない場合は選択できません。

各部	機能
トランスレータ レポート	トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、およびEDIまたはトランスレーションオブジェクトに関するエラーのリストです。 参照 トランスレータ レポートの詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。
データ オーディット	1つのドキュメントについて使用可能なドキュメントトラック情報を表示します。 メモ この機能は、ドキュメントレベルのオーディットが無効になっている場合は使用できません。
トラック情報	外部データ ファイルのトラック情報を表示します。
OK	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が実行されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。

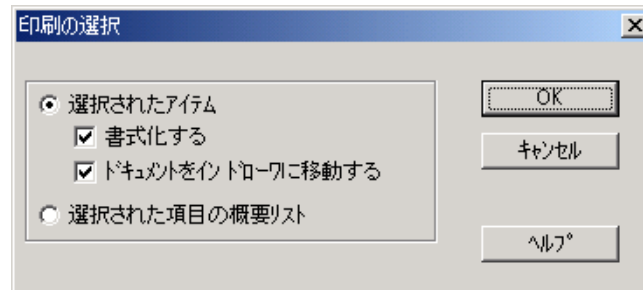
[印刷の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

[印刷の選択] ダイアログ ボックスで、選択されているアイテム (ドキュメントやトランスレーション オブジェクト) を印刷するのか、またはブラウザに表示されているすべてのアイテムの概要リストを印刷するのかを指定できます。

図

次に、[印刷の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[印刷の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
選択されたアイテム	選択したアイテム (次の2つのフィールド) を実行することをシステムに通知します。
書式化	対応するトランスレーション オブジェクトを使用して、書式化したとおりにアイテムを印刷することをシステムに通知します。 メモ トランスレーション オブジェクト (常に書式化済み) を印刷する場合、または対象のアイテムに対応しないトランスレーション オブジェクトを印刷する場合には、このオプションは利用できません。
ドキュメントをインドローワに移動する	ドキュメントを [インドローワ] に移動することをシステムに通知します。 メモ このオプションは、[インドキュメント] ブラウザおよび [インドキュメント] ブラウザでのみ利用できます。
項目の概要リスト	ブラウザで選択されている項目の概要リストを印刷することをシステムに通知します。
OK	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が実行されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。

各部	機能
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[エクスポート方法の選択] ダイアログ ボックス

はじめに

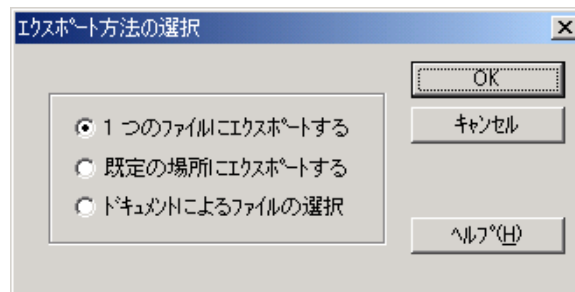
[エクスポート方法の選択] ダイアログ ボックスを使用すると、ドキュメントを外部ファイルに書き込んで、これを別のアプリケーションで処理することができます。

メモ

- このオプションを利用するには、ドキュメント用のシステム エクスポート トランスレーション オブジェクト、または各パートナーに固有のドキュメント用エクスポート トランスレーション オブジェクトが必要です。
- “エクスポート”機能は、[インドキュメント]、[インドローワ]、または、[? インドキュメント] のブラウザでドキュメントを選択している場合のみ使用できます。

図

次に、[エクスポート方法の選択] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[エクスポート方法の選択] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。これらのオプションから1つのみ選択することができます。

各部	機能
1つのファイルにエクスポートする	選択されているすべてのファイルをデータに変換し、[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスにアクセスして、これらのデータを1つのファイルに書き込みます。
既定のファイルにエクスポートする	選択したドキュメントを、パートナーのインバウンド関係で設定したファイルに書き込みます。 参照 エクスポート ファイルの指定についての詳細は、「[インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3 - 15 ページ」を参照してください。
ドキュメントによるファイルの選択	[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスで、選択したドキュメントの名前を変更してエクスポートすることができます。

各部	機能
OK	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が実行されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックス

はじめに

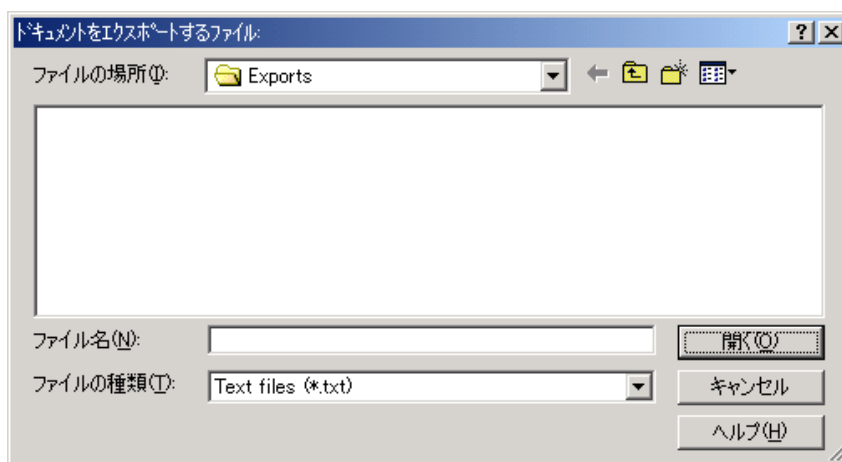
このダイアログ ボックスで、選択したドキュメントのエクスポート先となるファイルの名前を指定できます。

メモ

- このオプションを利用するには、ドキュメント用のシステム エクスポート トランスレーション オブジェクト、または各パートナーに固有のドキュメント用エクスポート トランスレーション オブジェクトが必要です。
- "エクスポート" 機能は、[インドキュメント]、[インドロウ]、または [? インドキュメント] のブラウザでドキュメントを選択している場合にのみ使用できます。

図

次に、[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[ドキュメントをエクスポートするファイル] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルを検索するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前を指定します。
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。
開く	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が実行されます。

各部	機能
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックス

はじめに

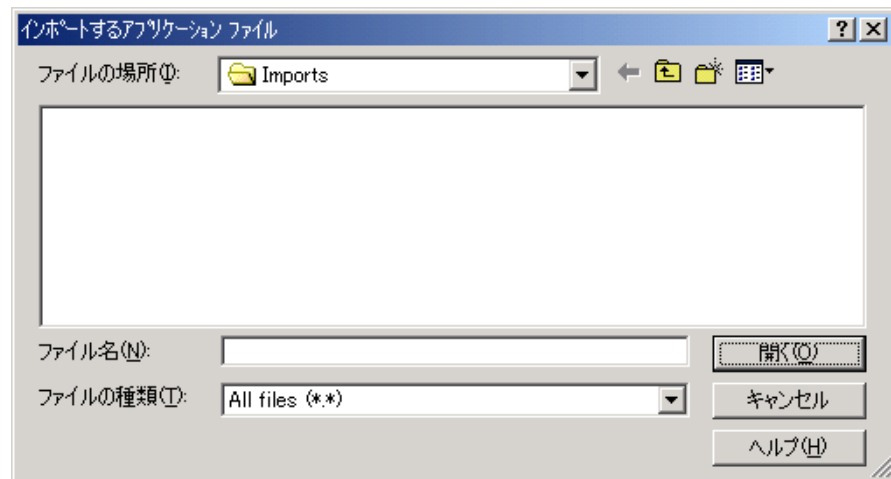
[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスを使用して、外部アプリケーションのファイルからデータをインポートできます。

メモ

ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーション オブジェクトの情報を入力するように求められます。インポート機能によって、選択できるドキュメントの種類が制限されることはありません。

図

次に、[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次の表に、[インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルを検索するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前を指定します。
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。
開く	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が実行されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。

各部	機能
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[ドキュメントの検索]ダイアログボックス

はじめに

[ドキュメントの検索]ダイアログボックスを使用して、Gentran:Server でシステム全体を検索するときの基準を指定することができます。また、このダイアログボックスを使用すると、個々のブラウザを手動で検索せずに、ドキュメントのサブセットを迅速に見つけることができます。

図

次に、[ドキュメントの検索]ダイアログボックスを示します。

各部と機能

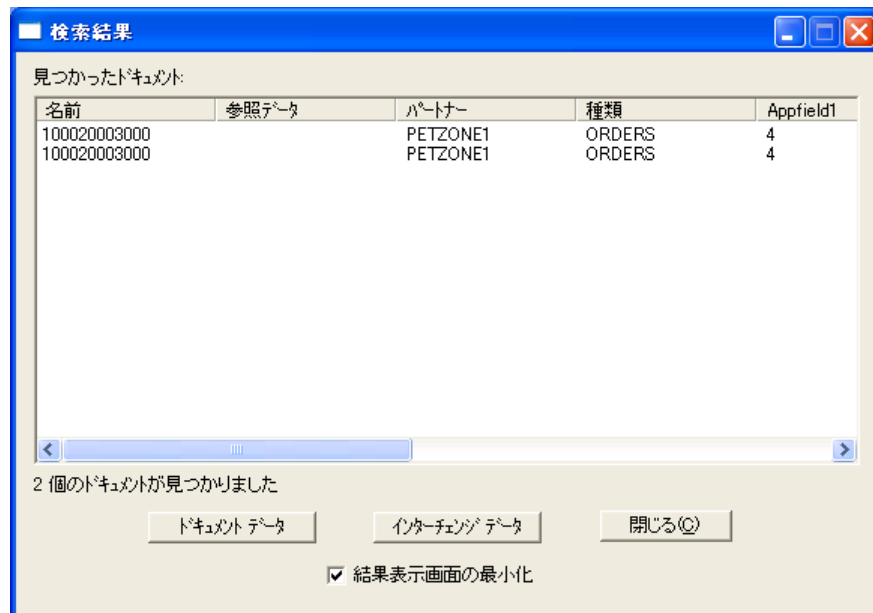
ドキュメント検索条件と説明をまとめます。

機能	説明
ドキュメント名	ユーザーによって割り当てられたドキュメント名でドキュメントを検索します。
参照データ	指定した参照データ (トランスレーション オブジェクトの設計者によって割り当てられたデータ) でドキュメントを検索します。

機能	説明
パートナー	選択されたパートナー ID (ドキュメントを作成または受信するときの、相手先パートナーを示します) でドキュメントを検索します。
ドキュメントの種類	指定した EDI の種類でドキュメントを検索します。 例 810 は、請求書を表します。
アプリケーションフィールド 1	アプリケーションフィールド 1 に指定した値でドキュメントを検索します。
アプリケーションフィールド 2	アプリケーションフィールド 2 に指定した値でドキュメントを検索します。
アプリケーションフィールド 3	アプリケーションフィールド 3 に指定した値でドキュメントを検索します。
アプリケーションフィールド 4	アプリケーションフィールド 4 に指定した値でドキュメントを検索します。
アプリケーションフィールド 5	アプリケーションフィールド 5 に指定した値でドキュメントを検索します。
アプリケーションフィールド 6	アプリケーションフィールド 6 に指定した値でドキュメントを検索します。

[検索結果] ダイアログ ボックス

条件を入力して[検索]をクリックすると、[検索結果]ダイアログ ボックスが次のように表示されます。



各部と機能

機能と説明をまとめます。

機能	説明
ドキュメント データ	ドキュメントのデータを表示します。ドキュメントのデータを表示するには、リストからドキュメントを選択して[ドキュメント データ]をクリックします。 メモ ドキュメントを右クリックして、[ドキュメント データ]を選択する機能も使えます。
インターチェンジ データ	[インターチェンジブラウザ]を開いて、ドキュメントのインターチェンジデータを表示します。ドキュメントのインターチェンジデータを表示するには、リストからドキュメントを選択して[インターチェンジ データ]をクリックします。 メモ ドキュメントを右クリックして、[インターチェンジ データ]を選択する機能も使えます。

機能	説明
結果表示画面の最小化	データ、トラック情報、またはインターチェンジの表示の際に、[検索結果] ダイアログ ボックスを最小化します。結果を最小化するには、チェック ボックスを選択します。
ダブルクリック	ドキュメントのトラック情報を表示します。情報を表示するには、項目を選択してダブルクリックします。

[フィルタ]ダイアログボックス

はじめに

[アウトドローワ]では、状況によってドキュメントの表示にフィルタをかけるようになっている場合に、「フィルタ」機能を使用できます。

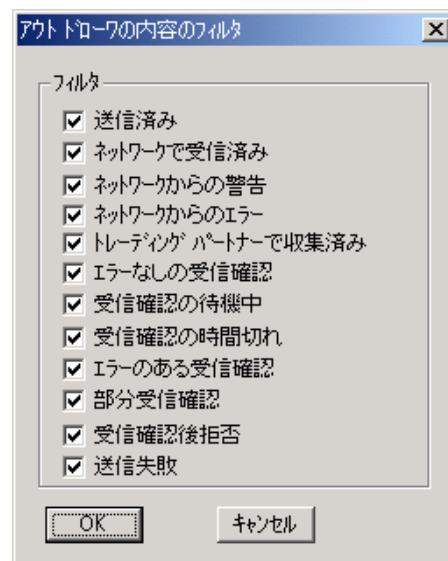
[アウトドローワ]内のドキュメントを状況でフィルタをかけて表示する場合は、各状況の隣のチェックボックスをオフにします。これにより、特定の状況のドキュメントが表示されないようにすることができます。

メモ

チェックボックスの選択を解除すると、状況はオフに変更表示されます。既定ではドキュメントは状況に関係なく表示されます。

図

次に、[フィルタ]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

フィルタ条件と説明をまとめます。

各部	機能
送信済み	正常に送信されたドキュメントでフィルタします。
ネットワークで受信済み	付加価値ネットワーク (VAN) に正常に配送されたドキュメントでフィルタします。
ネットワークからの警告	VAN に配送され、データに致命的なエラーが検知されなかったドキュメントでフィルタします。
ネットワークからのエラー	VAN に配送され、データに致命的なエラーが検知されたドキュメントでフィルタします。

各部	機能
トレーディング パートナーで収集 済み	VAN 経由でトレーディング パートナーに正常に配送されたドキュメントでフィルタします。
エラーなしの受信 確認	パートナーによってエラーなしで受信確認されたドキュメントでフィルタします。
受信確認の待機中	インバウンド ファンクショナル受信確認との整合性がとられるのを待っているドキュメントでフィルタします。
受信確認の時間 切れ	インバウンド ファンクショナル受信確認との整合性がとられるのを待機していて、受信確認が遅いとみなされる待ち時間を越えたドキュメントでフィルタします。
エラーのある受信 確認	パートナーによってエラーありで受信確認されたドキュメントでフィルタします。エラーがあつたにもかかわらず、パートナーはこのインターチェンジを受け入れました。
部分受信確認	部分的に受信確認されたドキュメントでフィルタします。 メモ パートナーがインターチェンジレベルまたはグループレベルで部分的な受信確認を発行する場合、その受信確認では、受け入れるかまたは拒否するかをトランザクションレベルで示す必要があります。
受信確認後拒否	パートナーによってエラーありで受信確認されたドキュメントでフィルタします。パートナーは、ドキュメントの受取を拒否しました。
送信失敗	送信が失敗したドキュメントでフィルタします。

ドキュメントの作成と編集

ドキュメントの作成方法

はじめに

ドキュメント エディタを使用してドキュメントを作成するには、必要なパートナー/トランザクション セットの組み合わせの画面入力サポートされるようにシステムを設定する必要があります。

メモ

また、適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを登録し、対応するアウトバウンド関係をパートナーに設定する必要があります。

参照

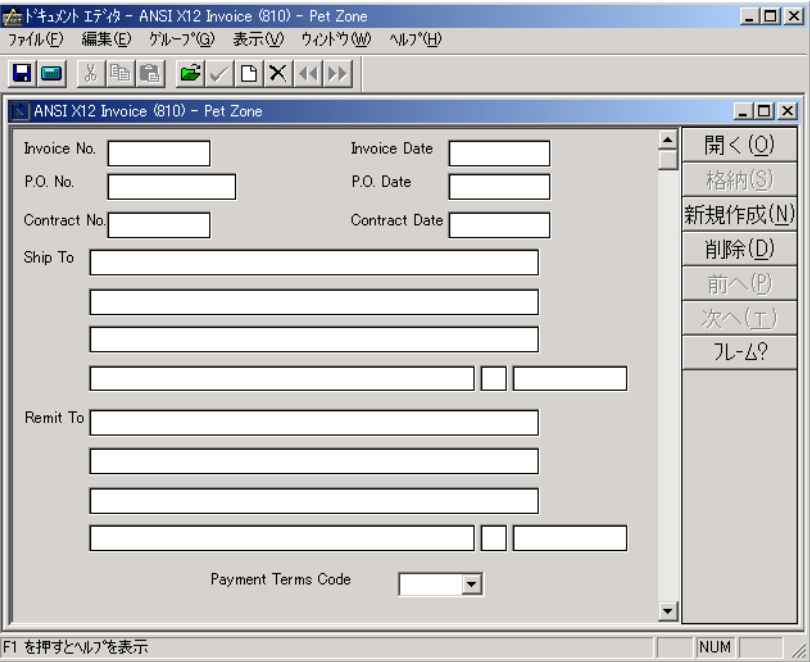
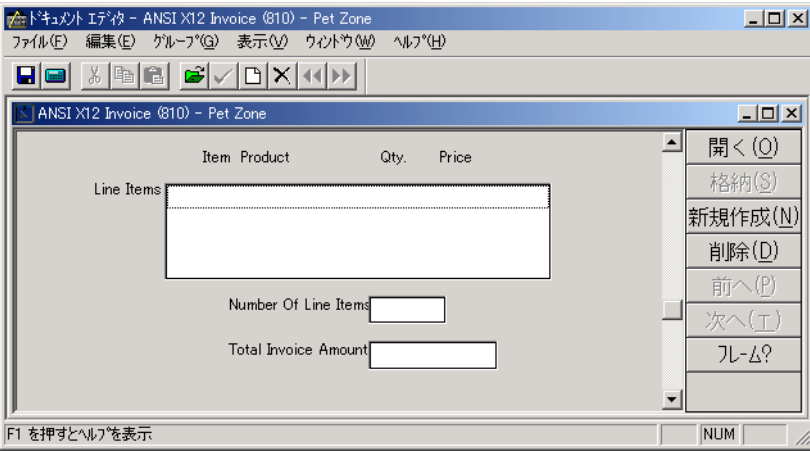
詳細については、以下を参照してください。

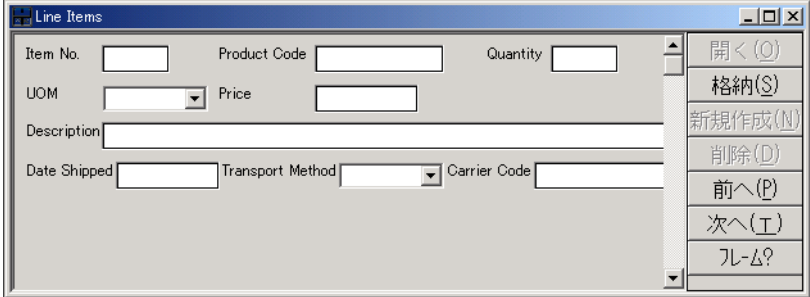
- ▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録 2 - 8 ページ
- ▶ アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ
- ▶ Gentran:Server オンライン ヘルプ

手順

ドキュメントを作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[ワークスペース] を選択します。 システムからの応答 [ワークスペース] ブラウザが表示されます。
2	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [新しいドキュメントの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ	操作
3	<p>リスト から適切なパートナー/トランザクション セットの組み合わせを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 次に示すように、選択した組み合わせのトランスレーション オブジェクトが表示されます。</p> 
4	<p>ドキュメント トランスレーション オブジェクト上の各ボックスに、必要なデータ アイテムをすべて入力します。</p> <p>メモ ドキュメントにループ構造 (ライン アイテムなどの下位レベルの詳細レコード) が含まれている場合、入力トランスレーション オブジェクトには、次に示すようにリストが格納されます。</p> 

ステップ	操作
5	<p>リスト内のアイテムにアクセスするには、最初のエントリを反転表示にして [新規作成] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 次に示すように、リスト アイテムの詳細が表示されます。</p> 
6	<p>アイテムのデータを入力します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 2 番目以降のアイテムを入力するには、[次へ] をクリックするか、または ALT + T を押します。 ▶ すべてのループ アイテムを入力したら、[格納] をクリックして保存し、[ループ] ダイアログ ボックスを終了します。 ▶ ドキュメントにコードが含まれている場合は、それぞれのコード フィールドで Shift を押しながら F1 を押すとコードのリストを表示できます。
7	<p>ドキュメントに計算フィールドが含まれている場合は、ドキュメントを保存する前に、[ファイル] メニューから [再計算] を選択します。</p> <p>システムからの応答 合計が更新され、ドキュメントのエラー チェックが行われます。</p>
8	<p>データの入力が終わったら、[ファイル] メニューから [保存] を選択します。</p> <p>システムからの応答 情報が保存され、再計算およびエラー チェックが自動的に行われます。エラーが検出された場合は、メッセージが表示されます。</p>
9	<p>[ファイル] メニューの [終了] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ドキュメント エディタ] が終了します。終了の前に、ドキュメントを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p> <p>メモ これで、このドキュメントを [ワークスペース] ブラウザで開いて編集できるようになりました。</p>

ドキュメントの開き方と編集方法

はじめに

[ドキュメント エディタ]を使用してドキュメントを編集するには、編集するパートナー トランザクション セットの組み合わせの画面入力がサポートされるようにシステムを設定する必要があります。

メモ

適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを読み込み、対応するアウトバウンド関係をパートナーに設定する必要があります。

参照

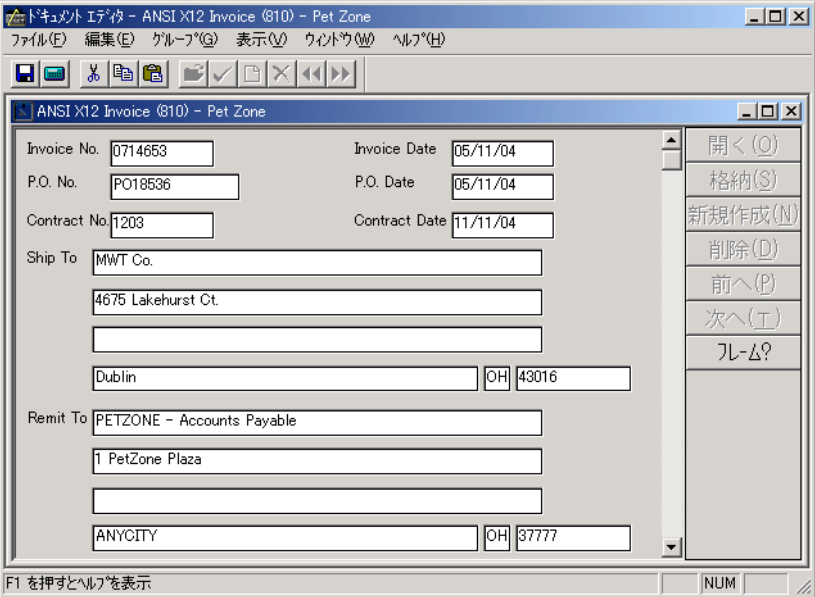
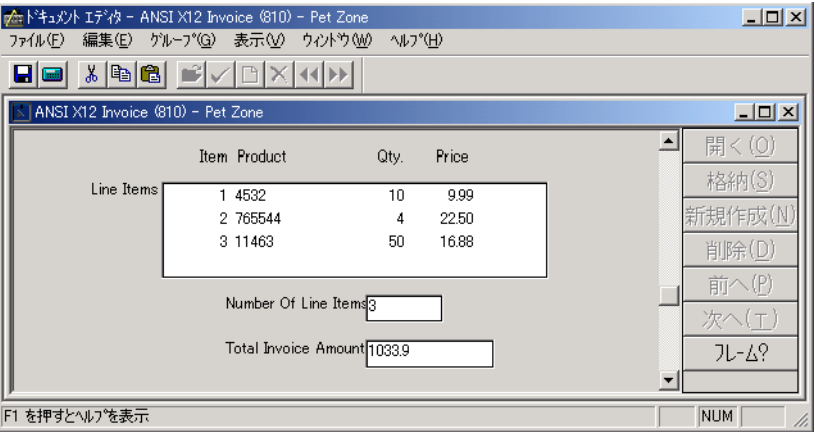
詳細については、以下を参照してください。

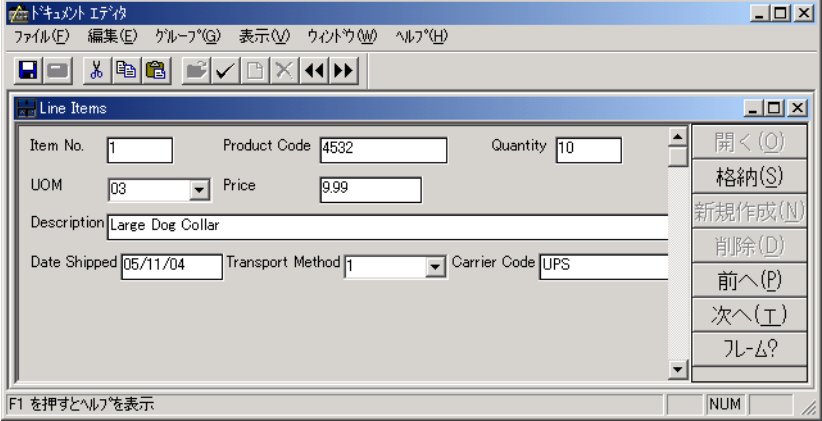
- ▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録 2 - 8 ページ
- ▶ アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ
- ▶ Gentran:Server オンライン ヘルプ (ドキュメント エディタ)

手順

ドキュメントを開いて編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[ワークスペース]から目的のドキュメントを選択します。</p> <p>メモ 編集できるのは、[ワークスペース]内のドキュメントのみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントが、既に[アウト ドキュメント]に移されている場合でも、まだ送信されていない場合は"アンポスト"機能を使用して[ワークスペース]に戻すことができます(「ドキュメントのアンポスト 4 - 60 ページ」を参照してください)。 ▶ ドキュメントが送信済みである場合は修正できません。ただし、[アウト ドローワ]から[ワークスペース]へドキュメントのコピーを移動し、それを修正して送信することができます。(「ドキュメントのコピー (再処理と再送)4 - 58 ページ」を参照してください)。

ステップ	操作
3	<p>[開く]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 次に示すように、[ドキュメント エディタ]にドキュメントが表示されます。</p> 
4	<p>必要に応じてデータを修正します。</p> <p>メモ ドキュメントにループ構造 (ライン アイテムなどの下位レベルの詳細レコード) が含まれている場合、入力トランスレーションオブジェクトには、次に示すようにリストが格納されます。</p> 

ステップ	操作
5	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 新しいライン アイテムを追加するには、最初のエントリを反転表示にして [新規作成] をクリックします。 ▶ このリスト内のアイテムにアクセスするには、変更するエントリを反転表示にして [開く] をクリックするか、アイテムをダブルクリックします。 <p>システムからの応答 次に示すように、リスト アイテムの詳細が表示されます。</p> 
6	<p>これで、アイテムを変更したり、データを入力したりできます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エントリ間を移動するには、[次へ] と [前へ] を使用します。 ▶ 2 番目以降のアイテムを入力するには、[次へ] をクリックするか、または ALT + T を押します。 ▶ すべてのループ アイテムを入力したら、[格納] をクリックして保存し、[ループ] ダイアログ ボックスを終了します。 ▶ ドキュメントにコードが含まれている場合は、それぞれのコード フィールドで Shift を押しながら F1 を押すとコードのリストを表示できます。
7	<p>ドキュメントに計算フィールドが含まれている場合は、ドキュメントを保存する前に、[ファイル] メニューから [再計算] を選択します。</p> <p>システムからの応答 合計が更新され、ドキュメントのエラー チェックが行われます。</p>
8	<p>データの入力が終わったら、[ファイル] メニューから [保存] を選択します。</p> <p>システムからの応答 情報が保存され、再計算およびエラー チェックが自動的に行われます。エラーが検出された場合は、メッセージが表示されます。</p>

ステップ	操作
9	<p>[ファイル]メニューの[終了]を選択します。</p> <p>システムからの応答 終了の前に、ドキュメントを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。</p>

ドキュメントの管理

ドキュメントの表示方法

表示機能

"表示"機能を使用すると、[表示の選択]ダイアログボックスで選択した書式に応じて、さまざまな種類の情報を表示できます。表示の種類は次のとおりです。

- ▶ 生の入力データ
- ▶ 外部データ
- ▶ EDI フォーマットのデータ
- ▶ トランスレータ レポート
- ▶ データ オーディット
- ▶ トラック情報

メモ

- ▶ 書式付き表示オプションは、画面入力トランスレーション オブジェクトがパートナー関係レコード内で使用可能である場合にのみアクティブになります。
- ▶ 外部データ オプションは、トランスレーション内で使用するデータ ファイルが使用可能である場合にのみアクティブになります。
- ▶ 生の入力データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。

表示機能の使用

"表示"機能は以下の場合に使用できます。

- ▶ ドキュメント ブラウザがアクティブで、1つのドキュメントが選択されている場合
- ▶ [インターチェンジ]または[復元されたインターチェンジ]ブラウザがアクティブで、インターチェンジ内の1つのドキュメントが選択されている場合

参照

[インターチェンジ]ブラウザの詳細については、「インターチェンジ内のドキュメントの表示 7-15 ページ」を参照してください。

ドキュメント ブラウザからの ドキュメントの表示

ドキュメント ブラウザからドキュメントを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、ドキュメント ブラウザを1つ選択します。</p> <p>システムからの応答 そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

ステップ	操作
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したドキュメントがブラウザに表示されます。</p>
3	<p>該当するブラウザからドキュメントを1つ選択します。</p>
4	<p>[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [表示の選択]ダイアログボックスが表示されます。</p>
5	<p>入力データをどのように表示するかオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 生の EDI データを表示するには [Gentran データ] を選択します。 ▶ トランスレーションで使用されるデータ ファイルを表示するには、[外部データ] を選択します。 <p>メモ このオプションは、トランスレーション内で使用するデータファイルが存在しない場合は選択できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 画面入力トランスレーション オブジェクトを使用して [ドキュメント エディタ] のデータを表示するには、[書式化されたドキュメント] を選択します。 <p>メモ このオプションは、画面入力トランスレーション オブジェクトが存在しない場合は選択できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、および EDI またはトランスレーション オブジェクトに関するエラーのリストを表示するには、[トランスレータ レポート] を選択します。 <p>参照 トランスレータ レポートの詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 1つのドキュメントについて使用可能なドキュメント トラック情報を表示するには、[データ オーディット] を選択します。 <p>メモ この機能は、ドキュメント レベルのオーディットが無効になっている場合は使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データ ファイルのトラック情報を表示するには、[トラック情報] を選択します。
6	<p>[OK] をクリックして、指定した方法で表示します。</p>

インターチェンジ ブラウザからの ドキュメントの表示

[インターチェンジ] または [復元されたインターチェンジ] ブラウザからドキュメントを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[インターチェンジ] ブラウザを選択します。
2	ドキュメントを 1 つ選択します。
3	<p>ツールバーの [データ] アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 インターチェンジの EDI データを表示します ([インターチェンジ] ブラウザの [データの表示] ウィンドウまたは [復元されたインターチェンジ] ブラウザに表示されています)。</p> <p>メモ 生の入力データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16進] 形式に切り換えることができます。</p>

現在処理中のドキュメントの表示

[処理中]ブラウザ

[処理中]ブラウザには、Gentran:Server システムで現在処理中のドキュメントが表示されます。このブラウザを使用すると、Gentran:Server システム内のユーザーによって処理中のドキュメントがどれであるかを確認することができます。

メモ

現在 Gentran:Server システムで処理中のドキュメントは、該当するブラウザにグレーで表示されます。その処理が完了して解放されるまで、このドキュメントにはアクセスできません。

リセット機能

[処理中]ブラウザでは、"リセット"機能を使用すると、ブラウザに表示されており、処理が中断された任意のドキュメントを元の場所に戻すことができます。通常、この機能はドキュメントの処理が正常に終了しなかった場合に使用します。

手順

現在処理中のドキュメントを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから [処理中] を選択します。 システムからの応答 [処理中]ブラウザが表示されます。
2	現在処理中のドキュメントを表示するか、次の表のいずれかの機能を実行します。 メモ "リセット"機能を使用すると、ブラウザに表示されており、処理が中断された任意のドキュメントを元の場所に戻すことができます。通常、この機能はドキュメントの処理が正常に終了しなかった場合に使用します。

ドキュメント内の特定のテキストの検索方法

検索機能

この機能を使用すると、アクティブなデータ表示ウィンドウ内で、特定のテキストを検索できます。

検索機能の使用

"検索"機能は、データ表示ウィンドウがアクティブな場合にのみ使用できます。データ表示ウィンドウには次のようなものがあります。

- ▶ オーディット ログ
- ▶ ドキュメントトラッキング
- ▶ インターチェンジトラッキング
- ▶ インターチェンジの未加工データ表示
- ▶ ドキュメントの未加工データ表示
- ▶ インターチェンジの外部データ表示
- ▶ ドキュメントの外部データ表示

手順

特定のテキストを検索するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	次のデータ表示ウィンドウのいずれかを表示します。	
	メモ 生の入力データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]形式に切り換えることができます。	
	ウィンドウ	表示方法
	オーディットログ	[表示]メニューから[オーディット ログ]を選択します。
ドキュメントトラッキング	1. ブラウザでドキュメントを選択します。 2. [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 3. [トラック情報]オプションをクリックします。 4. [OK]をクリックします。	
インターチェンジトラッキング	1. インターチェンジブラウザでインターチェンジを選択します。 2. [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 3. [トラック情報]オプションをクリックします。 4. [OK]をクリックします。	

ステップ	操作	
1 (続き)	ウィンドウ	表示方法
	インターチェンジの生データ表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. [デスク]の適切な領域から[インターチェンジ]を選択します。 2. [インターチェンジ]ブラウザでインターチェンジを選択します。 3. [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 4. [インターチェンジ]カスケードメニューから[データ]を選択します。
	ドキュメントの生データ表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. [インターチェンジ]ブラウザでドキュメントを選択します。 2. [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 3. [表示の選択]ダイアログボックスで[OK]をクリックします。
	インターチェンジの外部データ表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. [デスク]の適切な領域から[インターチェンジ]を選択します。 2. [インターチェンジ]ブラウザでインターチェンジを選択します。 3. [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 4. [インターチェンジ]カスケードメニューから[外部データ]を選択します。
	ドキュメントの外部データ表示	<ol style="list-style-type: none"> 1. [インターチェンジ]ブラウザでドキュメントを選択します。 2. [コマンド]メニューから[表示]を選択します。 3. [表示の選択]ダイアログボックスで[外部データ]を選択し、[OK]をクリックします。
2	<p>[編集]メニューから[検索]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [検索]ダイアログボックスが表示されます。</p>	
3	[検索する文字列]ボックスに、検索するテキストを入力します。	
4	<p>システムに大文字と小文字を区別させるかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 区別させる場合は、[大文字と小文字を区別する]チェックボックスを選択してステップに進みます。 ▶ 区別させない場合は、ステップに進みます。 	

ステップ	操作
5	<p>[次を検索]をクリックして、指定したテキストに最初に一致するテキストを検索します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 指定したテキストが見つかり、データ表示ウィンドウ内でそのテキストが反転表示になります。▶ 指定したテキストが見つからなかった場合にはビープ音が鳴ります。その場合はステップ7に進みます。
6	続けて[次を検索]をクリックし、後続の一致するテキストを検索します。
7	<p>[キャンセル]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 データ表示ウィンドウに戻ります。</p>

ドキュメントの検索方法

はじめに

[ドキュメントの検索]を使用すると、システム内の特定のドキュメントを素早く簡単に見つけることができます。また、一致したドキュメントのトラック情報も提供されます。

手順

ドキュメントを検索するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[コマンド]メニューから[ドキュメントの検索]を選択します。 システムからの応答 [ドキュメントの検索]ダイアログボックスが表示されます。
2	適切な検索条件を入力します。
3	[検索]をクリックします。 システムからの応答 指定した条件を満たすドキュメントが検出され、各ドキュメントのトラッキングデータが表示されます。
4	ドキュメントをダブルクリックすると、関連するトラック情報が表示されます。

ドキュメントの並べ替え方法

手順

各ドキュメント ブラウザまたは[送信キュー]ブラウザでドキュメントを並べ替えるには、該当する値の列タイトルをクリックします。

[アウト ドローワ]での状況によるドキュメントのフィルタ方法

はじめに

[アウト ドローワ]ブラウザがアクティブの際、状況によってドキュメントの表示にフィルタをかける "フィルタ" 機能を使用できます。

[アウト ドローワ]ブラウザでの並べ替え

[アウト ドローワ]ブラウザでドキュメント表示にフィルタをかけるには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウト ドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウト ドローワ概要]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドローワ]ブラウザが表示されます。
3	[フィルタ]をクリックします。 システムからの応答 [フィルタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[アウト ドローワ]内のドキュメントを状況でフィルタをかけて表示する場合は、各状況の隣のチェックボックスをオフにします。これにより、特定の状況のドキュメントが表示されないようにすることができます。 メモ チェックボックスをオフにすると、その状況のドキュメントは表示されなくなります。既定では、ステータスに関係なく、すべてのドキュメントが表示されます。
5	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドローワ]ブラウザの内容のフィルタが実行されます。

ドキュメントの削除方法

はじめに

"削除"機能は、1つまたは複数のドキュメントをシステムから削除する場合に使用します。

メモ

- ドキュメントを削除すると、関連するドキュメント情報、トラック情報、およびトランスレータレポート情報もすべて削除されます。また、インターチェンジ内のすべてのドキュメントを削除すると、インターチェンジエントリも削除されます。
- [送信キュー]のドキュメントは、[インターチェンジ]ブラウザからのみ削除することができます。

手順

ドキュメントまたはドキュメントのグループを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域で、ドキュメントの現在の場所を選択します。 システムからの応答 ドキュメント ブラウザを1つ選択すると、そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。
2	概要ダイアログ ボックスが表示されたら、適切なパートナーのドキュメントの種類を選択して[表示]をクリックします。 システムからの応答 ブラウザにドキュメントが表示されます。
3	[削除]をクリックします。 システムからの応答 確認ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい]をクリックします。 システムからの応答 ドキュメントが削除されます。

ドキュメントの印刷方法

はじめに

ドキュメントが選択されていない場合、"印刷"機能はブラウザ内の全ドキュメントの概要リストを印刷します。ドキュメントを選択している場合は、次のいずれかが印刷されます。

- ▶ 生の EDI データ
- ▶ パートナー関係が確立された印刷トランスレーション オブジェクトを使用した書式付きドキュメント
- ▶ これらのドキュメントの概要リスト

手順

ドキュメントまたはドキュメントのグループを印刷するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域で、ドキュメントの現在の場所を選択します。</p> <p>システムからの応答 ドキュメント ブラウザを1つ選択すると、そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したドキュメントがブラウザに表示されます。</p>
3	<p>ドキュメントの概要リストを印刷するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、[印刷]をクリックして[印刷]ダイアログ ボックスを開きます。ステップ 6 に進みます。 ▶ 印刷しない場合は、ステップ 4 に進みます。
4	<p>選択したドキュメント (書式付きまたは書式なし) または選択したドキュメントの概要リストを印刷するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、1つまたは複数のドキュメントを選択して[印刷]をクリックし、ステップ 5 に進みます。 <p>システムからの応答 [印刷の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷しない場合は、ステップ 6 に進みます。

ステップ	操作
5	<p>[印刷の選択]ダイアログ ボックスで次のオプションのうちいずれか1つを選択して[OK]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択した書式なしドキュメントを印刷するには、[選択されたアイテム]オプションを選択します。 ▶ 選択したドキュメントを書式付きとして印刷するには、[選択されたアイテム]オプションを選択し、[書式化する]チェックボックスをオンにします(書式付きとして印刷するには、印刷トランスレーションオブジェクトが必要です)。 ▶ [インドキュメント]ブラウザまたは[? インドキュメント]ブラウザから印刷する場合は、ドキュメントを[インドラウ]ブラウザに移動するか、そのままの場所に残しておくかを選択できます。 ▶ 選択したドキュメントの概要リストを印刷するには、[アイテムの概要リスト]オプションを選択します。 <p>システムからの応答 [印刷]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
6	<p>[印刷]ダイアログ ボックスで、適切なオプションを設定して[OK]をクリックします。</p> <p>メモ ブラウザからドキュメントを選択せずに[印刷]をクリックした場合、および[印刷の選択]ダイアログ ボックスから[選択された項目の概要リスト]を選択した場合は、[印刷]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

ドキュメントのルーティング

ドキュメントのイン ドローワへの移動

はじめに

この機能を使用すると、選択した1つまたは複数のドキュメントを[イン ドローワ]に移動できます。エクスポートまたは印刷が正常に完了すると、ドキュメントは[イン ドキュメント]または[?イン ドキュメント]から[イン ドローワ]に自動的に移されます。しかし、ターンアラウンド(応答)ドキュメントを作成するため、ドキュメントを手動で[イン ドローワ]ブラウザに移動したい場合もあります。

手順

ドキュメントまたはドキュメントのグループを移動するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[イン ドキュメント]ブラウザまたは[?イン ドキュメント]ブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 そのブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したドキュメントがブラウザに表示されます。</p>
3	<p>[イン ドローワ]ブラウザに移動するドキュメントを選択して、[移動]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 選択したドキュメントが、イン ドローワ ブラウザに移されます。</p>

ドキュメントのコピー (再処理と再送)

はじめに

"コピー"機能は、既に正常に送信されたドキュメントを [ワークスペース] ブラウザにコピーし、これを修正して再送することができます。"コピー"機能は、[アウト ドロワー] がアクティブである場合にのみ使用できます。

メモ

この機能を使用すると、重複したドキュメントがトレーディング パートナーに送信される可能性があります。

参照

ドキュメントを修正したら、これを再送することができます。詳細については、「ドキュメントの再送 5-9 ページ」を参照してください。

手順

ドキュメントまたはドキュメントのグループをコピーするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[アウト ドロワー] を選択します。 システムからの応答 [アウト ドロワー 概要] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示] をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドロワー] ブラウザが表示されます。
3	[ワークスペース] ブラウザにコピーするドキュメントを選択して、[コピー] をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントが、[ワークスペース] ブラウザにコピーされます。

ドキュメントのポスト

はじめに

"ポスト"機能を使用すると、選択した1つまたは複数の適合ドキュメントを [アウトドキュメント] ブラウザに移動することができます。適合ドキュメントとは、トランスレーションオブジェクトで定義されている検証ルールに準拠したドキュメントです。[状況]列に [OK] と表示されている場合は、ドキュメントが適合していることを意味します。[状況]列に "失敗" と表示されている場合は、ドキュメントが適合していないためポストされません。

メモ

"ポスト"機能は、[ワークスペース]がアクティブである場合にのみ使用できません。

手順

ドキュメントまたはドキュメントのグループをポストするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。 システムからの応答 [ワークスペース]ブラウザが表示されます。
2	[アウトドキュメント]ブラウザに移動する適合ドキュメントを選択します。 メモ [状況]列に "OK" と表示されている場合は、ドキュメントが適合していることを意味します。[状況]列に "失敗" と表示されている場合は、ドキュメントが適合していないためポストされません。
3	[ポスト]をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントが、[アウトドキュメント]ブラウザに移されます。

ドキュメントのアンポスト

はじめに

"アンポスト"機能を使用すると、選択した1つまたは複数のドキュメントを [ワークスペース] ブラウザに戻すことができます。これにより、ドキュメントがトレーディングパートナーに送信されないようにしたり、送信前に修正するためにドキュメントを移動したりできます。"アンポスト"機能は、[アウトドキュメント] ブラウザがアクティブブラウザである場合にのみ使用できます。

メモ

ドキュメントを修正する場合は、送信する前にポストし直す必要があります。

手順

ドキュメントまたはドキュメントのグループをアンポストするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウトドキュメント]を選択します。 システムからの応答 [アウトドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウトドキュメント]ブラウザが表示されます。
3	[ワークスペース]ブラウザに戻すドキュメントを選択して、[アンポスト]をクリックします。 システムからの応答 選択したドキュメントが、[ワークスペース]ブラウザに戻されます。

ドキュメントへの応答方法

はじめに

" 応答 " 機能を使用すると、インバウンド ソースドキュメントからデータを転送することによって、応答ドキュメントを自動的に生成できます。" 応答 " 機能は次の条件がすべて満たされた場合にのみ有効です。

- ▶ [イン ドローワ] ブラウザが現在選択されている。
- ▶ ドキュメントが 1 つ以上選択されている。
- ▶ 選択されたドキュメントに対してターンアラウンド トランスレーション オブジェクトが存在する。

ターンアラウンドドキュメント

" 応答 " 機能は、現在選択されているドキュメントに対する応答として、パートナー関係からのターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用してターンアラウンドドキュメントを作成します。詳細については、「インバウンド トランスレーション オブジェクトの選択 3 - 64 ページ」を参照してください。ターンアラウンドドキュメントは、適合ドキュメントだけでなく、不適合ドキュメント (状況が " 失敗 " のドキュメントに対しても作成できます。

ドキュメントの修正

ターンアラウンド プロセスによって生成されたドキュメントは [ワークスペース] に配置され、送信する前に修正できます。

メモ

ドキュメントを修正するには、作成したドキュメントのアウトバウンド関係に画面入力トランスレーション オブジェクトが設定されている必要があります。

参照

適切な画面入力トランスレーション オブジェクトを設定する方法については、「アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ」を参照してください。

手順

ドキュメントへ応答するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[イン ドローワ] を選択します。 システムからの応答 [イン ドローワの概要] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示] をクリックします。 システムからの応答 [イン ドローワ] ブラウザが表示されます。

ステップ	操作
3	<p data-bbox="595 310 1409 373">ターンアラウンド (応答) ドキュメントを作成するドキュメントを選択し、[応答] をクリックします。</p> <p data-bbox="595 401 855 428">システムからの応答</p> <ul data-bbox="595 436 1409 661" style="list-style-type: none"><li data-bbox="595 436 1409 562">▶ 選択した各ドキュメントへの応答として、パートナー関係で指定したターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して、自動的にターンアラウンド ドキュメントが作成されます。<li data-bbox="595 571 1409 661">▶ 作成されたターンアラウンド ドキュメントは [ワークスペース] 内に表示され、[アウト ドキュメント] ブラウザにポストする前に必要に応じて修正できます。 <p data-bbox="595 688 655 716">参照</p> <p data-bbox="595 724 1409 772">登録する方法については、ドキュメントのポスト 4 - 59 ページ を参照してください。</p>

ドキュメントのインポート

はじめに

Gentran:Server では、ドキュメント エディタを使用してデータを直接入力する代わりに、データをデータ ファイルからインポートすることができます。ドキュメントをインポートするには、インポートするトランザクションセットのシステム インポート トランスレーション オブジェクトおよびインポート トランスレーション オブジェクトを、システムに登録しておく必要があります。

参照

詳細については、「新しいトランスレーション オブジェクトの登録 2 - 8 ページ」を参照してください。

その他の構成作業

[システム構成] プログラムの [インポート] タブで、各種インポート ファイルのインポート仕様を定義する必要があります。このインポート仕様では、インポート プロセスでトランスレーションを開始するのに、どのインポート トランスレーション オブジェクトまたはシステム インポート トランスレーション オブジェクトを使用するかを指定します。

次のいずれかにあてはまる場合は、ファイルをインポートできない可能性があります。UNC ファイルパスまたはファイル名のシステム構成プログラムへの追加に際しては、システム管理者に相談してください。

- ▶ ファイルを UNC ファイルパスから選択。システム構成プログラムでは、そのファイルタイプのインポートにローカルドライブが指定されている。
- ▶ ファイルをローカルドライブから選択。システム構成プログラムでは、そのファイルタイプのインポートに UNC ファイル名が指定されている。

参照

インポート仕様の詳細については、『管理ガイド』の「インポート仕様の編集方法」を参照してください。

手順

ドキュメントをインポートするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[ワークスペース] を選択します。 システムからの応答 [ワークスペース] ブラウザが表示されます。
2	[インポート] をクリックします。 システムからの応答 [インポートするアプリケーション ファイル] ダイアログ ボックスが表示されます。

ステップ	操作
3	<p>インポートするファイルを選択して [開く] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 ドキュメントが [ワークスペース] にインポートされます。</p> <p>ドキュメントの状況は "OK" または "失敗" になります。"OK" は、ドキュメントが正常に読み込まれてエラー チェックにパスしたことを示し、"失敗" はエラー チェックにパスしなかったことを示します。</p> <p>メモ 不適合ドキュメントは送信できない可能性があります。こうした場合は、データ ファイルからそれらのドキュメントを削除して再処理するか、[ドキュメント エディタ] を使用してドキュメントを訂正します (それらのドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトがある場合のみ)。</p> <p>参照 [ドキュメント エディタ] でのドキュメントの修正については、「ドキュメントの開き方と編集方法 4 - 40 ページ」を参照してください。</p> <p>重要 ファイルをインポートしても [ワークスペース] にドキュメントが表示されない場合は、[オーディット ログ] を確認してください。</p>

ドキュメントのエクスポート

はじめに

ドキュメントをデータ ファイルにエクスポートするには、トランザクション セットのエクスポート トランスレーション オブジェクトが次のように設定されている必要があります。

- ▶ システムにロードされ、登録されていること
- ▶ そのパートナーのインバウンド関係レコードのエクスポート トランスレーション オブジェクトとして設定されていること

メモ

- ▶ エクスポート コマンドを実行した後で、同じエクスポート ファイルに続けてエクスポートを行うと、そのファイルに新しい外部データが追加されてファイル サイズが増加します。
- ▶ [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスの " メールボックスにエクスポート " コマンドを設定すると、ドキュメントは指定されたメールボックスにエクスポートされます。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ 新しいトランスレーション オブジェクトの登録 2 - 8 ページ
- ▶ [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3 - 40 ページ
- ▶ [インバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックス 3 - 15 ページ (" メールボックスへエクスポート " 機能の設定)

手順

ドキュメントをエクスポートするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク] の適切な領域から、[インドキュメント] ブラウザ、[? インドキュメント] ブラウザ、または [イン ドローワ] ブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 選択したブラウザの概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 該当するドキュメント ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>エクスポートするドキュメントを選択し、[エクスポート] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [エクスポート方法の選択] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>

ステップ	操作
4	<p>次のいずれかのオプションを選択し、[OK] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択したすべてのドキュメントをデータに変換し、1つのファイルに書き込むには、[1つのファイルにエクスポートする] オプションを選択します。 <p>システムからの応答 [ドキュメントをエクスポートするファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択したドキュメントを、パートナーのインバウンド関係で設定したファイルに書き込むには、[既定のファイルにエクスポートする] オプションを選択します。 ▶ 選択したドキュメントの名前を変更するには、[ドキュメントによるファイルの選択] オプションを選択します。 <p>システムからの応答 [ドキュメントをエクスポートするファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。</p>

コミュニケーションズの使い方

目次

- ▶ 概要.....5-2
 - ▶ [送信キュー]ブラウザ.....5-3
 - ▶ [コミュニケーションセッション]ダイアログ ボックス.....5-4
 - ▶ [ファイル処理]ダイアログ ボックス.....5-5
 - ▶ ドキュメントの送信.....5-6
 - ▶ 全ドキュメントの送信.....5-7
 - ▶ ドキュメントの再送.....5-9
 - ▶ ドキュメントの受信.....5-11
 - ▶ 送信キューの表示.....5-13
 - ▶ データ ファイルの処理.....5-14
-

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server 上でコミュニケーションズを使用する方法について説明します。

コミュニケーションズ機能

"コミュニケーションズ"機能を使用すると、トレーディング パートナーとの間でデータの送信および受信を行うことができます。Gentran:Server ではコミュニケーションに必要な処理を"コミュニケータ"で実行します。

送信処理

次に、インターチェンジを送信するときが発生するシステム処理を示します。

段階	説明
1	選択したインターチェンジ内のドキュメントが EDI エンベロープに一括して送られ、必要な Control Number がパートナープロファイル内の情報から生成されます。
2	インターチェンジがビルドされると、そのインターチェンジは [インターチェンジ] ブラウザ内のリストに表示されます。 参照 詳細については、「インターチェンジの表示 7-11 ページ」を参照してください。
3	リモート エンドとのコミュニケーションが確立されます。コミュニケーションセッションが成功したかどうかに応じて、メッセージのステータスが更新されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックスが設定されていない、メールボックス サービスが開始されていない、などの理由でコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "送信準備完了" の状態のままとなります。 ▶ モデムが見つからないためにコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "順番待ち" の状態のままとなります。 メモ この時点では、ユーザ側の動作はいっさい必要ありません。送信に失敗したインターチェンジは、次回の伝送セッションの一部として自動的に送信されます。
4	コミュニケーションが成功すると、ドキュメントはアウト ドローワに移動し、インターチェンジの状態は "送信済み" に設定されます。

[送信キュー]ブラウザ

はじめに

[送信キュー]ブラウザには、現在送信の順番待ちの状態にあるドキュメントのリストが表示されます。

メモ

[送信キュー]のドキュメントを削除するには、[インターチェンジ]ブラウザを開いてドキュメントを削除する必要があります。

図

次に、[送信キュー]ブラウザを示します。



各部と機能

[送信キュー]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
表示	[表示の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを表示します。
印刷	[印刷の選択]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、選択したドキュメントを印刷します。
リフレッシュ	ブラウザの表示を更新します。
閉じる	ブラウザを閉じます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。

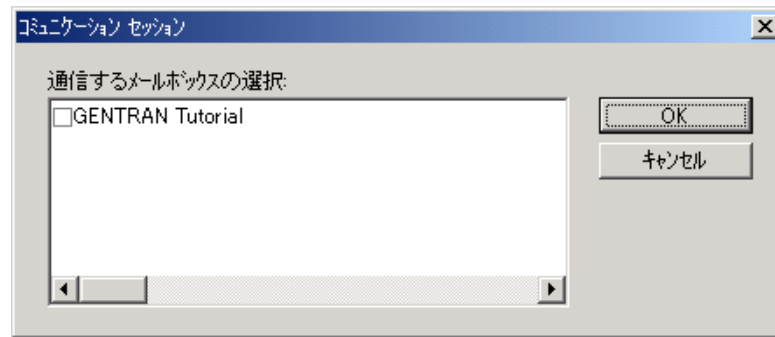
[コミュニケーション セッション] ダイアログ ボックス

はじめに

[コミュニケーション セッション] ダイアログ ボックスでは、メールボックスを選択し、コミュニケーション セッションを開始してデータを送信および受信することができます。

図

次に、[コミュニケーション セッション] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[コミュニケーション セッション] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
通信するメールボックスの選択	Gentran:Server のメールボックスのリストが表示されます。
OK	ダイアログ ボックスを閉じて、選択したメールボックスでコミュニケーション セッションを開始します。
キャンセル	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が取り消されます。

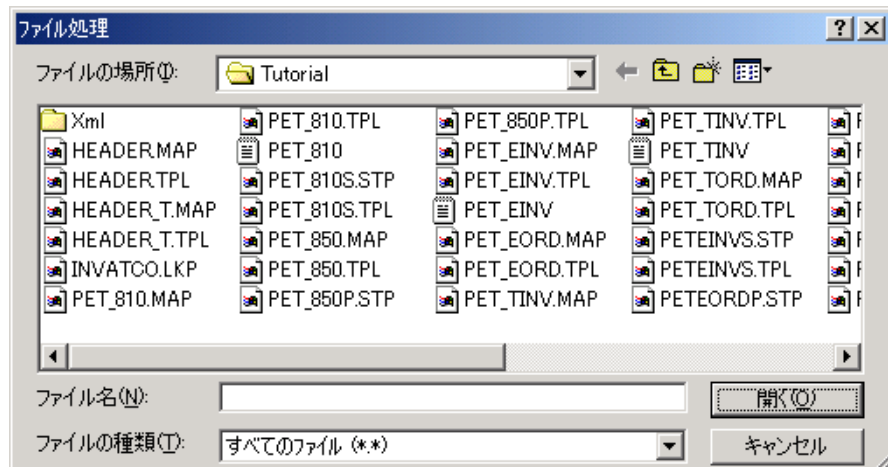
[ファイル処理] ダイアログ ボックス

はじめに

"ファイル処理"機能を使用すると、コミュニケーションセッションを介してファイルを受信した場合と同じように、EDIファイルでコミュニケーション後の処理を呼び出すことができます。

図

次に、[ファイル処理]ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[ファイル処理]ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
ファイルの場所	ファイルを検索するフォルダを選択します。現在のフォルダが表示されます。
ファイル名	エクスポートするファイルの名前を指定します。
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。
開く	ダイアログ ボックスが閉じて、選択した機能が実行されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。

ドキュメントの送信

手順

選択されたドキュメントを送信するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アウトドキュメント]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>メモ 送信するドキュメントが[アウトドキュメント]ブラウザに表示されていない場合は、ドキュメントを[ワークスペース]から[アウトドキュメント]にポストする必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「ドキュメントのポスト 4-59 ページ」を参照してください。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>送信する1つまたは複数のドキュメントを選択します。</p> <p>メモ 複数のドキュメントを選択するには、1番目のドキュメントをクリックし、Shiftを押しながら最後のドキュメントをクリックします。アウトドキュメントのリスト内で隣接していない複数のドキュメントを選択するには、Ctrlを押しながら各ドキュメントをクリックします。</p>
4	<p>[送信]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows]ダイアログボックスが表示されます。</p>
5	<p>[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。</p>

全ドキュメントの送信

はじめに

[アウトドキュメント]内のすべてのドキュメントを送信するには、次の2つの方法があります。

- ▶ [デスク]で[送信]アイコンを選択する
- ▶ [アウトドローワ]ブラウザを表示して、[送信]をクリックする。

手順：方法 1

ドキュメントを送信するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows]ダイアログボックスが表示されます。</p>
2	<p>[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。</p> <p>システムからの応答 [コミュニケーションセッション]ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ データの送信先のメールボックスを1つまたは複数選択します。 ▶ [OK]をクリックすると、コミュニケーションセッションが開始されてデータが送信されます(伝送セッションを取り消す場合には[キャンセル]をクリックします)。 <p>メモ この動作により、[アウトドキュメント]内の全ドキュメントが、選択したメールボックスのいずれか1つを使用しているパートナーに送信されます。</p> <p>[アウトドキュメント]にドキュメントがない場合、または[インターチェンジ]ブラウザに状態が"準備完了"のインターチェンジがない場合は、受信専用セッションが実行され、データの受信に伴って[インドキュメント]または[?インドキュメント]が更新されます。</p>

手順：方法 2

ドキュメントを送信するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アウトドキュメント]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>メモ 送信するドキュメントが[アウトドキュメント]に表示されていない場合は、ドキュメントを[ワークスペース]から[アウトドキュメント]にポストする必要があります。</p> <p>参照 詳細については、「ドキュメントのポスト 4-59 ページ」を参照してください。</p>
2	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント]ブラウザが表示されます。</p>
3	<p>ドキュメントを選択しないでください。ドキュメントが選択されている場合は、Ctrlを押しながら第1マウスボタンをクリックして選択を解除してください。</p>
4	<p>[送信]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows]ダイアログボックスが表示されます。</p>
5	<p>[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。</p> <p>メモ [アウトドキュメント]内のすべてのドキュメントが、該当するメールボックスへ送信されます。</p>

ドキュメントの再送

はじめに

ドキュメントがエンベロープに収められ、正常に送信されると、[アウト ドローワ]に格納されます。ドキュメントを再送するには、そのドキュメントのコピーを作成して送信プロセスを再実行する必要があります。

手順

ドキュメントを再送するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウト ドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウト ドローワ 概要] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウト ドローワ] ブラウザが表示されます。
3	再送するドキュメントを選択します。 メモ 複数のドキュメントを選択するには、1 番目のドキュメントをクリックし、 Shift を押しながら最後のドキュメントをクリックします。アウト ドローワのリスト内で隣接していない複数のドキュメントを選択するには、 Ctrl を押しながら各ドキュメントをクリックします。
4	[コピー]をクリックしてドキュメントのコピーを作成し、これをワークスペースに格納します。
5	[デスク]の適切な領域から、[ワークスペース]を選択します。 システムからの応答 [ワークスペース] ブラウザが表示されます。
6	必要に応じて、ドキュメントに変更を加えます。 メモ ドキュメントを修正できるのは、パートナー関係の画面入力トランスレーション オブジェクトが存在する場合のみです。
7	ドキュメントを選択し、[ポスト]をクリックします。 システムからの応答 ドキュメントが、[アウト ドキュメント] ブラウザにポストされます。

ステップ	操作
8	<p>[デスク] の適切な領域から、[アウトドキュメント] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント概要] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
9	<p>該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [アウトドキュメント] ブラウザが表示されます。</p>
10	<p>ドキュメントを選択し、[送信] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
11	<p>[はい] をクリックして、伝送セッションを開始します。</p>

ドキュメントの受信

はじめに

送信セッションが実行されると、メールボックスに受信待ちの情報がないかどうか自動的にチェックされます。メールボックスにデータがある場合は、これらが自動的に受信されます。

送信を行わずに受信する必要がある場合は、次のいずれかの方法で受信専用セッションを開始する必要があります。

- ▶ [コマンド]メニューから、[受信]コマンドを選択する
- ▶ [インドキュメント]ブラウザを表示して、[受信]をクリックする

手順：方法 1

受信のみのセッションを開始するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[コマンド]メニューから[受信]を選択します。 システムからの応答 [コミュニケーションセッション]ダイアログボックスが表示されます。
2	コミュニケーションセッションを開始してデータを送信するには、[OK]をクリックします。 メモ これにより受信専用セッションが開始され、受信したデータによって[インドキュメント]ブラウザおよび[? インドキュメント]ブラウザが更新されます。

手順：方法 2

受信のみのセッションを開始するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[インドキュメント]を選択します。 システムからの応答 [インドキュメント概要]ダイアログボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。 システムからの応答 [インドキュメント]ブラウザが表示されます。
3	[受信]をクリックします。 システムからの応答 [コミュニケーションセッション]ダイアログボックスが表示されます。

ステップ	操作
4	<ul style="list-style-type: none">▶ データの送信先のメールボックスを1つまたは複数選択します。▶ コミュニケーションセッションを開始してデータを送信するには、[OK]をクリックします。 <p>メモ これによりコミュニケーションセッションが開始され、受信したデータによって[インドキュメント]ブラウザおよび[? インドキュメント]ブラウザが更新されます。</p>

送信キューの表示

はじめに

[送信キュー]ブラウザには、現在送信待ちのドキュメントのリストが表示されます。このブラウザでは、メインシステムブラウザと同様のドキュメントベースの作業を行うことができます。

メモ

[送信キュー]には、伝送セッションが失敗した場合にのみドキュメントが格納されます。こうしたドキュメントは、伝送セッションが正常に実行されるまで[送信キュー]に格納されています。ユーザの介入は必要ありません。

手順

[送信キュー]を表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[送信キュー]を選択します。 システムからの応答 [送信キュー]ブラウザが表示されます。
2	ドキュメントを選択します。
3	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]をクリックして、次のドキュメントなどの内容を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> — 選択したドキュメント (生の EDI データ) — 書式化されたドキュメント — トランスレーションレポート <p>参照 詳細については、「ドキュメントの表示方法 4 - 44 ページ」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [印刷]をクリックして、選択したドキュメントまたはドキュメントの概要を印刷する <p>参照 詳細については、「ドキュメントの印刷方法 4 - 55 ページ」を参照してください。</p>



データ ファイルの処理

はじめに

"ファイル処理"機能を使用すると、コミュニケーションセッションを介してファイルが受信されるのと同様に、どのデータファイルを使ってもコミュニケーションズ後の処理を呼び出すことができます。これにより、ディスクやシステム上にあるデータファイルを処理することができます。

手順

コミュニケーターにデータファイルを送信するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[コマンド]メニューから[ファイル処理]を選択します。 システムからの応答 [ファイル処理]ダイアログボックスが表示されます。
2	データファイルを選択して、[開く]をクリックします。 システムからの応答 ファイルがコミュニケーションセッションで受信された場合と同様に、そのファイルに対するコミュニケーション後処理が即座に呼び出されます。

外部データの使い方

目次

-
- ▶ 概要.....6-2
 - ▶ [外部データの概要]ビューア.....6-3
 - ▶ [外部データフィルタ]ダイアログボックス.....6-6
 - ▶ 外部データファイルの表示.....6-8
 - ▶ 外部データファイルのフィルタ.....6-10
-

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server で外部データを使用する方法について説明します。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ アーカイブデータの復元 10-45 ページ
- ▶ [インターチェンジ]ブラウザ 7-3 ページ

外部データ

Gentran:Server では、EDI ドキュメントやインターチェンジとこれらに対応する外部データ (アプリケーションデータ) との関係をトラッキングできます。重要な処理の場合、処理の開始時に外部データの固定コピーがシステム内で作成されます。インバウンド処理 (ファイル処理とエクスポート) の場合、永続ストレージのために、外部データ ファイルのコピーが再度作成されます。Gentran:Server では、外部データをアーカイブすることもできます。

システム構成サブシステム内の外部データ フォルダにコピーする外部データ (ファイル処理、インポート、およびエクスポート) を指定します。

メモ

エクスポート、インポート、またはファイル処理機能の少なくとも 1 つに対して外部データをコピーするように指定しないと、この外部データを表示するオプションは利用できません。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ ドキュメントのインポート 4-63 ページ
- ▶ ドキュメントのエクスポート 4-65 ページ
- ▶ トラッキングの使い方 9-1 ページ
- ▶ アーカイブと復元の使い方 10-1 ページ
- ▶ 『管理ガイド』の「システム構成 - [外部データ] タブ」

外部データ ビューア

外部データ ビューアを使用して、次の処理を実行できます。

- ▶ 送信済みまたは受信済みのドキュメントやインターチェンジに関連付けられている、すべての外部データ ファイルのリストの表示
- ▶ 外部データの表示に関するフィルタ条件の設定
- ▶ 外部データ、関連する EDI データ、および関連するトランスレータ レポートの表示 (これらが利用可能な場合)

メモ

EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。

[外部データの概要]ビューア

はじめに

外部データの概要ビューアを使用して、送信済みまたは受信済みのドキュメントやインターチェンジに関連付けられている、すべての外部データファイルのリストを表示することができます。外部データ概要ビューアは、常に使用可能です。

情報の編成

[外部データの概要]ビューアでは、以下の表のような階層によって情報が編成されています。

レベル	アクセス方法	表示される情報
外部データファイル(番号付き)	[外部データの概要ビューア]を開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイルのパスおよび名前 ▶ ファイルが作成された日時
ドキュメントまたはインターチェンジ	外部データファイルをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントやインターチェンジの Control Number ▶ 関連付けられているパートナー ▶ ドキュメントの種類 ▶ 受信確認の状態 ▶ ドキュメント名 ▶ 参照データ ▶ ドキュメントが作成された日時 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のグループに適切でない場合には、表示されません。</p>

外部データの概要ビューアの機能







[外部データの概要ビューア]で、次の機能を実行できます。

- ▶ [外部データフィルタ]ダイアログボックスで、日/時や動作によって、外部データの表示にフィルタをかけます。
- ▶ 外部データ、ロー EDI データ、および選択した外部データファイルのトランスレータレポートデータをブラウザの対応するペインに表示します。
- ▶ 選択したアイテムを印刷します。
- ▶ 外部データフォルダから外部データファイルを削除します。

各部	機能
右中央のペイン - Gentran データ	<p>関連ドキュメントが EDI 書式で表示されます (このオプションを [表示] メニューの [外部データ] から選択した場合)。</p> <p>メモ トランスレーションで使ったドキュメントがない場合、このオプションは利用できません。</p>
右下のペイン - エクスポート ドキュメント概要 トランスレータ レポート	<p>トランスレータがこのドキュメントに対して実行した外部動作のレポート、および EDI または トランスレーション オブジェクトに関する確認エラーのリストが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [外部データ] から選択した場合)。</p> <p>参照 詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。</p>

アイコン

[外部データ概要]ビューアで使用されるアイコンは、次の表のとおりです。

アイコン	説明
	ファイル処理またはメールボックスのファイル処理のシステム アクティビティを示します。
	送信のシステム アクティビティを示します。
	インポートまたはメールボックス インポートのシステム アクティビティを示します。
	エクスポートのシステム アクティビティを示します。
	外部データ ファイルに関連するインターチェンジを示します。
	<p>外部データ ファイルに関連するドキュメントを示します。</p> <p>メモ このアイコンの色が赤の場合は、ドキュメントにエラーがあることを示します。</p>

[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックス

はじめに

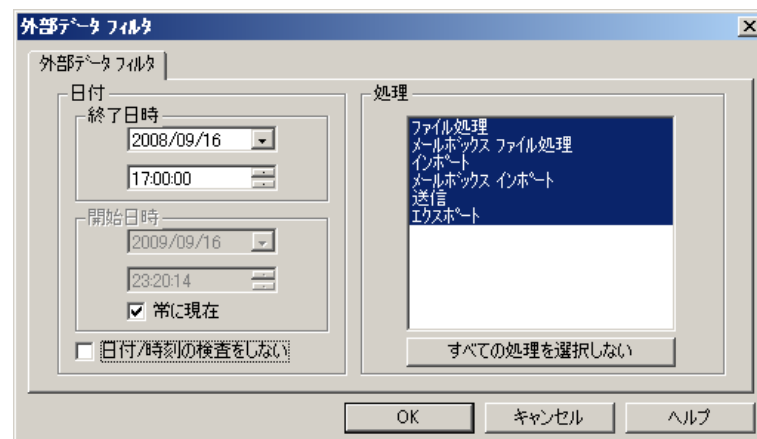
[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックスを使用すると、日付およびこのファイルに対して実行された動作(ファイル処理、メールボックス ファイル処理、インポート、メールボックス インポート、送信、およびエクスポート)をフィルタ条件にして外部データ ファイルを表示することができます。

アクセス方法

[外部データ] ブラウザがアクティブである場合、[コマンド] メニューから [フィルタ] を選択します。または、[オプション] メニューから [選択] を選択して [外部データ フィルタ] タブをクリックします。

図

次に、[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[外部データ フィルタ] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
開始日時	<p>日付範囲の始まりの日を選択します。この日付をフィルタ条件として、外部データ ファイルが表示されます。</p> <p>メモ [開始日] ボックスは、[日付/時刻の検査をしない] チェックボックスがオフの場合にのみアクティブになります。</p>

各部	機能
終了日	<p>日付範囲の終わりの日を選択します。この日付をフィルタ条件として、外部データ ファイルが表示されます。</p> <p>メモ [終了日時] ボックスは、[日付 / 時刻の検査をしない] チェックボックスまたは [常に現在] チェックボックスのいずれかが選択されている場合にはアクティブになりません。</p>
常に現在	<p>日付範囲の終わりの日付を常に現在のシステム日付および時刻とします。</p> <p>メモ [常に現在] チェックボックスは、[日付 / 時刻の検査をしない] チェックボックスが選択されていない場合にのみアクティブになります。</p>
日付 / 時刻の検査をしない	<p>日付および時刻をフィルタ条件にして (選択した場合)、外部データ ファイルを表示するかどうかを指定します。</p>
操作	<p>外部データ ファイルを使用して実行できる動作のすべてがリスト表示されます。このリストを使用すると、指定した動作をフィルタ条件にして外部データ ファイルを表示できます。</p> <p>メモ 既定の設定ではすべての動作が表示されますが、これらをクリアすることもできます。</p>
すべての動作を選択しない	<p>すべての動作をクリアします。</p> <p>メモ このオプションを使用すると、指定した動作をフィルタ条件にして外部データ ファイルを表示できます。</p> <p>注意 少なくとも 1 つの動作を選択する必要があります。</p>
OK	<p>ダイアログ ボックスを閉じて、選択した内容を保存します。</p>
キャンセル	<p>選択した内容を保存しないで、ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
ヘルプ	<p>オンライン ヘルプを開きます。</p>

外部データ ファイルの表示

手順

外部データ ファイルを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	[表示]メニューから [外部データ]>[ブラウザ] を選択します。 システムからの応答 [外部データの概要]ビューアが表示されます。	
2	外部データ ファイルを、動作または日付でフィルタをかけるかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、「外部データ ファイルのフィルタ 6-10 ページ」を参照してください。 ▶ フィルタをかけない場合は、ステップ 3 に進みます。 	
3	外部データ ファイルを選択します。	
4	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
5	選択したファイルの外部データを表示する	[表示]>[外部データ]>[関連外部データ]を選択します。 メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進] に切り換えることができます。
6	関連する EDI データを表示する	[表示]>[外部データ]>[Gentran データ]を選択します。 メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から [16進] に切り換えることができます。
7	外部データに対して行った動作のトランスレータレポートを表示する	[表示]>[外部データ]>[トランスレータレポート]を選択します。
8	外部データ フォルダから外部データ ファイルを削除する	1. ビューアの左のペインから、適切なファイルを選択します。 2. [表示]>[削除]を選択します。

ステップ	操作	
3	外部データ ファイル、EDI データ、またはトランスレータ レポートを印刷する	<ol style="list-style-type: none"><li data-bbox="919 304 1407 361">1. ビューアの右のペインから、適切なアイテムを選択します。<li data-bbox="919 380 1407 413">2. [ファイル]>[印刷]を選択します。

外部データ ファイルのフィルタ

はじめに

[外部データの概要]ビューアがアクティブであれば、フィルタ機能を使用して、外部データ ファイルを日付および動作でフィルタをかけて表示できます。

手順

外部データ ファイルを、日付や動作の順に並べ替えて表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[表示]メニューから[外部データ]>[ブラウザ]を選択します。 システムからの応答 [外部データの概要]ビューアが表示されます。
2	[コマンド]メニューから[フィルタ]を選択します。 システムからの応答 [外部データフィルタ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3	外部データ ファイルを、日付でフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオフにしてステップ 4 に進みます。 ▶ フィルタをかけない場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオンにしてステップ 6 に進みます。
4	[開始日時]スライド バーを使用して、表示する外部データ ファイルの日付範囲の始まりを指定します。
5	日付範囲の終わりを、常に現在のシステム日付および時刻にするかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 常に現在のシステム日時にする場合は、[常に現在]チェックボックスをオンにします。 ▶ 現在のシステム日時にしない場合は、[常に現在]チェックボックスをオフにし、[終了日時]スライド バーで日付範囲の終わりを設定します。

ステップ	操作
6	<p>外部データ ファイルを、動作でフィルタをかけるかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかける場合は、表示する動作を [動作] リストから選択します。 <p>メモ 既定ではすべての動作が表示されますが、動作をクリックして選択を解除し、表示を変更することもできます。また、[すべての動作を選択しない] をクリックしてすべての動作をオフにしてから、1つまたは複数の動作を選択することもできます。少なくとも1つの動作を選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ フィルタをかけない場合は、ステップ 7 に進みます。
7	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 指定した基準でフィルタされた外部データ ファイルが表示されます。</p>

インターチェンジの使い方

目次

▶ 概要	7-2
▶ [インターチェンジ]ブラウザ	7-3
▶ [インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックス	7-8
▶ インターチェンジの表示	7-11
▶ インターチェンジの表示のフィルタ方法	7-13
▶ インターチェンジ内のドキュメントの表示	7-15
▶ パートナーへのインターチェンジの添付	7-17
▶ インターチェンジの再送	7-19
▶ インターチェンジ、グループ、またはドキュメントの手動受信確認	7-22

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server でインターチェンジを使用する方法について説明します。

参照

[復元されたインターチェンジ]ブラウザについての詳細は、「アーカイブデータの復元 10 - 45 ページ」を参照してください。

インターチェンジ ブラウザ

[インターチェンジ]ブラウザを使用して、以下の処理を実行できます。

- ▶ 送信または受信したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストが表示されます。
- ▶ インターチェンジの状態に関する情報 (ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など) を表示します。
- ▶ インターチェンジの表示をフィルタ操作します。
- ▶ インターチェンジ内のドキュメントを表示します。
- ▶ 外部データ、EDI データ、および関連するトランスレータ レポートを表示します (利用可能な場合)。

メモ

EDI データを見る場合、[表示]メニューを選択し、テキストから 16 進に表示を変更することができます。

[インターチェンジ]ブラウザ

はじめに

インターチェンジブラウザを使用して、送信または受信したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストを表示できます。インターチェンジブラウザはいつでも使用できます。このブラウザには、インターチェンジに関するステータス情報（ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認のステータスなど）が表示されます。

情報の編成

インターチェンジブラウザでは、情報が階層構造で編成されています。次の表に、[インターチェンジ]ブラウザにおける情報の階層構造をまとめました。

レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン)
インターチェンジ	インターチェンジブラウザを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジの方向 ▶ インターチェンジが作成された日時 ▶ パートナー名 ▶ Control Number ▶ インターチェンジ処理の状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ インターチェンジ受信確認の状態 ▶ メッセージの状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のインターチェンジに適切でない場合には、表示されません。</p>
グループ	インターチェンジをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ Control Number ▶ グループの種類 ▶ グループ受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のグループに適切でない場合には、表示されません。</p>



レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン)
ドキュメント	グループをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントの適合状況 ▶ ドキュメント Control Number ▶ ドキュメントの種類 ▶ ドキュメント名 ▶ 参照データ ▶ ドキュメントの適合状況 ▶ トランザクション受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のドキュメントに適切でない場合には、表示されません。</p>
ドキュメントデータ	ドキュメントをダブルクリックします。	<p>ドキュメント データ</p> <p>メモ</p> <p>システム上で対象のドキュメントの画面入力トランスレーションオブジェクトを利用できることが、必須条件です。</p>

ブラウザの機能

インターチェンジブラウザでは、次の機能を実行できます。

- ▶ [インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスで日付、パートナー、および方向 (インバウンドとアウトバウンド) をフィルタ条件に設定して、インターチェンジを表示できます。
- ▶ 外部データ、生の EDI データ、および選択したインターチェンジまたはドキュメントのトランスレータ レポート データを、ブラウザ内の適当なペインに表示できます。

メモ

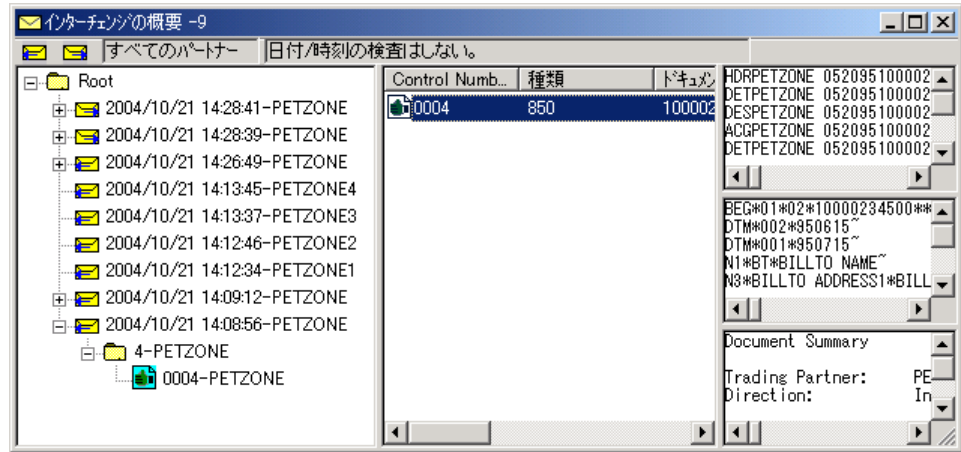
EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。

- ▶ インターチェンジのステータスを送信準備完了から保留に (またはその逆に) 切り替えることができます。
- ▶ グループのステータスを、手動で受信確認に変更できます。
- ▶ 選択したアイテムを印刷または削除できます。

メモ

インターチェンジをすぐには送信しない場合、この切り替え機能を使用するとよいでしょう。

図 次に、外部データ、EDI データ、およびトランスレータ レポートのオプションが選択されているインターチェンジのブラウザを示します。



各部と機能

[インターチェンジ]ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。




各部	機能
ステータス バー	<p>[インターチェンジフィルタ]ダイアログ ボックスで指定したフィルタの仕様が反映します。</p> <p>メモ 中央のペインからアイテムを1つ選択すると、[電子商取引 (EC) マネージャ]のステータス バーが更新されます。</p>
左のペイン - インターチェンジ ツリー	<p>送信または受信したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストが表示されます。また、作成時刻およびパートナー名も表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、F5 を押します。</p> <p>参照 詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 情報の編成 7-3 ページ ▶ ドキュメント レベルの状態 アイコン 7-7 ページ



各部	機能
中央のペイン - 詳細なリスト	<p>選択されたすべてのインターチェンジ、グループ、またはドキュメントのリストの詳細が表示されます。階層に依存した情報が表示されます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のアイテムを選択するには、Ctrl を押したままアイテムを選択します。 ▶ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから [リフレッシュ] を選択します (または、F5 を押します)。
右上のペイン - 外部データ	<p>トランスレーションで使用したデータ ファイルが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションは、詳細リストから 1 アイテムだけ選択された場合のみ有効です。 ▶ このオプションは、トランスレーション内で使用するデータ ファイルが存在しない場合は選択できません。 ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。
右中央のペイン - Gentran データ	<p>データが EDI 書式で表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションは、詳細リストから 1 アイテムだけ選択された場合のみ有効です。 ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。
右下のペイン - トランスレータレポート	<p>トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、および EDI またはトランスレーションオブジェクトに関する確認エラーのリストが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <p>このオプションは、詳細リストから 1 アイテムだけ選択された場合のみ有効です。</p> <p>参照</p> <p>詳細については、『管理 ガイド』の「エラー メッセージ」を参照してください。</p>

**ドキュメント
レベルの状態
アイコン**

次に、[インターチェンジ]ブラウザのドキュメントレベルで使用される状態アイコンをまとめます。

状態	アイコン	説明
OK		(緑)-ドキュメントが EDI スタンドに完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。
失敗		<p>(赤)- 次のいずれかの状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントが、EDI スタンドに適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータレポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI スタンドに完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。 ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディング パートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは "不明" とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ]ブラウザからドキュメントを添付します。 ▶ 適切な取引関係またはトランスレーションオブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーションオブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディットログに記録されます。この問題を解決するには、パートナーエディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンドトランスレーションオブジェクトを定義する必要があります。 ▶ インターチェンジ、ファンクショナルグループ、またはトランザクションレベルエンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。最初と最後の Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータレポートにエラーが表示されます。
重複		(黄色)- このドキュメントに、システム上の別のドキュメントと同じ名前が付けられていることを示します。



[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックス

はじめに

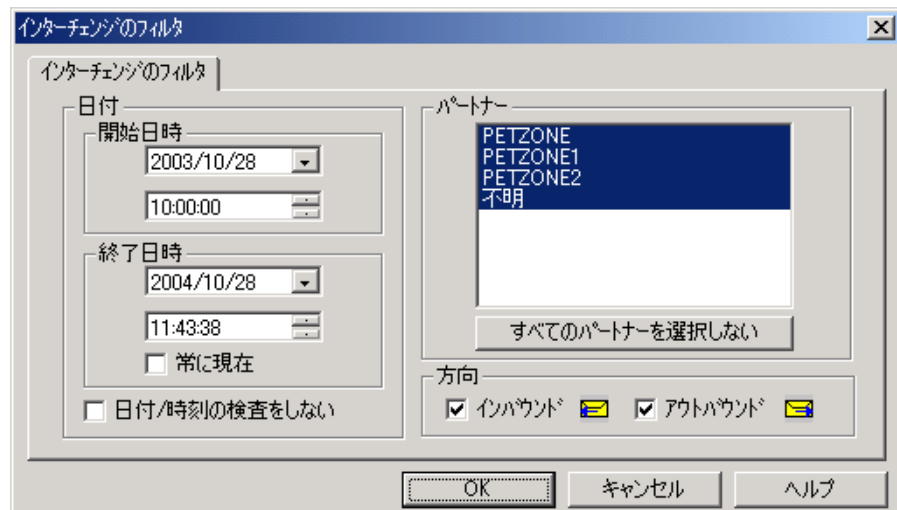
[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスを使用すると、日付、パートナー、および方向 (インバウンドとアウトバウンド) をフィルタ条件としてインターチェンジを表示できます。

メモ

Gentran:Server の [選択] ダイアログ ボックス内の [インターチェンジのフィルタ] タブで、グローバル インターチェンジのフィルタをカスタマイズすることができます。[選択] ダイアログ ボックスを開くには、[オプション] メニューから [選択] を選択します。

図

次に、[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
開始日時	<p>日付範囲の始まりの日を選択します。この日付をフィルタ条件として、インターチェンジが表示されます。</p> <p>メモ [開始日] ボックスは、[日付 / 時刻の検査をしない] チェックボックスがオフの場合にのみアクティブになります。</p>

各部	機能
終了日	<p>日付範囲の終わりの日を選択します。この日付をフィルタ条件として、インターチェンジが表示されます。</p> <p>メモ [終了日]ボックスは、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスまたは[常に現在]チェックボックスのいずれかが選択されている場合にはアクティブになりません。</p>
常に現在	<p>日付範囲の終わりの日付を常に現在のシステム日付および時刻とします。</p> <p>メモ [常に現在]チェックボックスは、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスが選択されていない場合にのみアクティブになります。</p>
日付/時刻の検査をしない	<p>日付および時刻をフィルタ条件にして(選択した場合)、インターチェンジを表示するかどうかを指定します。</p>
パートナー	<p>システム上に存在するすべてのパートナー プロファイルがリスト表示されます。このリストを使用すると、指定したパートナーをフィルタ条件にしてインターチェンジを表示できます。</p> <p>メモ 既定の設定ではすべてのパートナーが表示されますが、パートナー プロファイルをクリックしてクリアすることができます。</p>
すべてのパートナーを選択しない	<p>すべてのパートナー プロファイルをクリアします。</p> <p>メモ これにより、指定したパートナーをフィルタ条件としてインターチェンジを表示できるようになります。</p> <p>注意 少なくとも1つのパートナーを選択する必要があります。</p>
インバウンド アウトバウンド	<p>方向(インバウンドとアウトバウンド)をインターチェンジの表示のフィルタとして選択します。</p> <p>メモ 既定では、インバウンド インターチェンジおよびアウトバウンド インターチェンジの両方が表示されます。</p> <p>注意 このオプションを利用するには、[インバウンド]チェックボックスまたは[アウトバウンド]チェックボックスのいずれか1つを選択する必要があります。</p>
OK	<p>ダイアログ ボックスを閉じて、選択した内容を保存します。</p>



各部	機能
キャンセル	選択した内容を保存しないで、ダイアログ ボックスを閉じます。

インターチェンジの表示

手順

インターチェンジを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作					
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>					
2	<p>インターチェンジを、状態でフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、「インターチェンジの表示のフィルタ方法 7-13 ページ」を参照してください。 ▶ フィルタをかけない場合は、ステップ 3 に進みます。 <p>メモ "フィルタ"機能を使用すると、インターチェンジの表示に、日付、パートナー、および方向(インバウンドまたはアウトバウンド)によるフィルタをかけることができます。</p>					
3	<p>インターチェンジを選択します。</p>					
4	<p>次の表に従って、次に行う操作を決めます。</p> <table border="1" data-bbox="571 1220 1425 1814"> <tr> <td data-bbox="571 1220 911 1518"> <p>選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する</p> </td> <td data-bbox="911 1220 1425 1518"> <p>[表示]>[インターチェンジ]>[関連外部データ]を選択します。</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="571 1518 911 1814"> <p>選択したインターチェンジの内容を生の EDI データ書式で表示する</p> </td> <td data-bbox="911 1518 1425 1814"> <p>[表示]>[インターチェンジ]>[Gentran データ]を選択します。</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p> </td> </tr> </table>		<p>選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する</p>	<p>[表示]>[インターチェンジ]>[関連外部データ]を選択します。</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>	<p>選択したインターチェンジの内容を生の EDI データ書式で表示する</p>	<p>[表示]>[インターチェンジ]>[Gentran データ]を選択します。</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>
<p>選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する</p>	<p>[表示]>[インターチェンジ]>[関連外部データ]を選択します。</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>					
<p>選択したインターチェンジの内容を生の EDI データ書式で表示する</p>	<p>[表示]>[インターチェンジ]>[Gentran データ]を選択します。</p> <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>					



ステップ	操作	
4 (続き)	選択したインターチェンジのトランスレータレポートを表示する	[表示] > [インターチェンジ] > [トランスレータレポート] を選択します。
	選択したインターチェンジまたはインターチェンジの概要を印刷する	[ファイル] メニューから [印刷] を選択します。
	選択したインターチェンジと、これに関連するすべてのドキュメントを削除する	<p>[ドキュメント] > [削除] を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 状態が Queued のインターチェンジを削除すると、アウトドキュメントおよびトレーディング パートナーのインボックスで、特定のメッセージを削除する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。そのまま続けると、パートナーの処理結果が Control Number の順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジの Control Number を修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。 ▶ 状態が Ready to send のインターチェンジを削除すると、パートナーの処理結果が Control Number の順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジの Control Number を修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。 ▶ インターチェンジのドキュメントが受信確認処理(受信確認の生成、または、整合)を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまで削除できません。
	パートナーにインターチェンジを添付する	[ドキュメント] > [添付] を選択します。

インターチェンジの表示のフィルタ方法

はじめに

[インターチェンジ]ブラウザがアクティブになっている場合、"フィルタ"機能を使用すると、インターチェンジの表示に、日付、パートナー、および方向(インバウンドとアウトバウンド)によるフィルタをかけることができます。

手順

インターチェンジをパートナーおよび日付順でフィルタ表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	[コマンド]メニューから[フィルタ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックスが表示されます。
3	インターチェンジを、日時でフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオフにしてステップ4に進みます。 ▶ フィルタをかけない場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオンにしてステップ6に進みます。
4	[開始日時]スライドバーを使用して、表示するインターチェンジの日付範囲の始まりを指定します。
5	日付範囲の終わりを、常に現在のシステム日付および時刻にするかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 常に現在のシステム日時にする場合は、[常に現在]チェックボックスをオンにします。 ▶ 現在のシステム日時にしない場合は、[常に現在]チェックボックスをオフにし、[終了日時]スライドバーで日付範囲の終わりを設定します。

ステップ	操作
6	<p>インターチェンジを、パートナーでフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、表示するパートナーを [パートナー] リスト ボックス (すべてのパートナー プロファイルを表示) から選択します。 <p>メモ 既定ではすべてのパートナーが表示されますが、パートナー プロファイルをクリックして選択を解除し、表示を変更することもできます。[すべてのパートナーを選択しない] をクリックして、すべてのパートナー プロファイルの選択を解除できます。その後、1つ以上のパートナー プロファイルをクリックすれば、そのプロファイルを選択できます。少なくとも1つのパートナーを選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかけない場合は、ステップ7に進みます。
7	<p>インターチェンジをどの方向でフィルタをかけて表示するかによって次の操作を実行します。</p> <p>既定値 既定では、インバウンド インターチェンジおよびアウトバウンド インターチェンジの両方が表示されます。方向をクリアするには、[インバウンド] または [アウトバウンド] チェックボックスをクリックします。</p> <p>メモ 少なくとも1つの方向チェックボックスが選択されている必要があります。</p>
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 指定した基準でフィルタされたインターチェンジが表示されます。</p>

インターチェンジ内のドキュメントの表示

はじめに

インターチェンジ内の個々のドキュメントを表示するためには、各ドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。

手順

インターチェンジ内のドキュメントを表示するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	<p>[デスク] の適切な領域から、[インターチェンジ] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジ] ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none">▶ インターチェンジブラウザには、送受信されたすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントが表示されます。▶ [インターチェンジ] ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカット メニューから [リフレッシュ] を選択します (または、F5 を押します)。
2	<p>ドキュメントを選択して次のステップに進むか、ドキュメントをダブルクリックして表示します。</p> <p>メモ このドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。</p>

ステップ	操作	
3	ドキュメントを選択したら、次の表に従って次に行う操作を決めます。	
	このドキュメントのトランスレータレポートを表示する	[表示]>[インターチェンジ]>[トランスレータレポート]を選択します。
	選択したインターチェンジの内容を EDI データ書式で表示する	[表示]>[インターチェンジ]>[Gentran データ]を選択します。 メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。
	選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する	[表示]>[インターチェンジ]>[関連外部データ]を選択します。 メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。
	選択したドキュメントまたはトランスレータレポートを印刷する	[ファイル]>[印刷]を選択します。
	選択したドキュメントを削除する	[ドキュメント]>[削除]を選択します。
	適切なブラウザにドキュメントをコピーする	1. [ドキュメント]>[コピー]を選択します。 2. サブメニューから適切なブラウザを選択します。 (適合するインバウンドドキュメントの場合は[?インドキュメント]ブラウザまたは[インドキュメント]ブラウザ、アウトバウンドドキュメントの場合は[ワークスペース]ブラウザ)

パートナーへのインターチェンジの添付

はじめに

[パートナーへの添付]ダイアログ ボックスは、インターチェンジブラウザがアクティブで、インターチェンジを1つ選択している場合に表示できます。添付機能を使用すると、インターチェンジをパートナーに連結することができます。この機能は、識別可能なパートナーがなく、[? インドキュメント]ブラウザにパートナーなしで表示されているドキュメントを受信した場合に使用します。

メモ

こうしたドキュメントのインターチェンジは、インターチェンジブラウザにパートナーなしで表示されます。

手順

パートナーにインターチェンジを添付するには、次の手順に従います。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	インターチェンジを1つ選択します。
3	パートナーが既に存在しているかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 存在する場合は、ステップ 4 に進みます。 ▶ 存在しない場合は、次に進む前にパートナーを作成する必要があります。 参照 登録する方法については、パートナーの定義の作成 3 - 58 ページを参照してください。
4	[ドキュメント]メニューから [添付] を選択します。 システムからの応答 [パートナーの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
5	リストからパートナーを選択し、[OK] をクリックします。 システムからの応答 選択したインターチェンジがこのパートナーに結合され、インターチェンジブラウザに戻ります。
6	インターチェンジを添付するパートナーには、複数のインターチェンジ定義があるかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数の定義がある場合は、ダイアログ ボックスにメッセージが表示されます。次のステップに進みます。 ▶ 複数の定義がない場合は、ステップ に進みます。

ステップ	操作	
7	次にダイアログ ボックスで何を選択したらよいかをまとめます。	
	パートナーに複数のインターチェンジ定義がある場合	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切なインターチェンジ定義を選択します。 2. [OK] をクリックします。
	パートナーに複数のグループ定義がある場合	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切なグループ定義を選択します。 2. [OK] をクリックします。
	パートナーに複数の関係があり、インターチェンジ内のドキュメントタイプに定義されている場合	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な関係定義を選択します。 2. [OK] をクリックします。
8	<p>インターチェンジをパートナーに添付したら、[デスク]の適切な領域から [? インドキュメント] を選択して開きます。</p> <p>メモ ドキュメントは、エクスポートしたり、印刷したり、[インドローワ]ブラウザに移動したりできます。</p>	

インターチェンジの再送

はじめに

インターチェンジの再送方法には2通りあります。

- ▶ すべてのアウトバウンド インターチェンジを自動的に再送するために、[送信オプション]を設定できます。
- ▶ アウトバウンド インターチェンジを再送するには、[インターチェンジ]ブラウザから[再送]コマンドを使用する必要があります。
- ▶ 次回のコミュニケーション セッションの間にインターチェンジを再送するには、[インターチェンジ]ブラウザから[再送キュー]コマンドが使用できます。

メモ

再送できるインターチェンジは、以前に送信されたものか、状態が[送信準備完了]のもののみです。

インターチェンジの自動再送

[送信キュー]に滞っているインターチェンジを自動的にチェックするように設定することができます。[送信キュー]のチェック間隔は、30分間が既定値としてレジストリに設定されます。しかし、UPIDValidationInterval キー内のこの値を変更することが可能です。

最初のシステム チェックの間に、Gentran エグゼクティブ サービスは滞っているインターチェンジをチェックし、キューに置きます。次のシステム チェックで、エグゼクティブ サービスはこれらのインターチェンジが引き続きキューに存在しているかをチェックします。2 回目のチェックでキューにあったインターチェンジは、次のコミュニケーション セッションの間に送信されるようにフラグがたてられます。

アウトバウンド インターチェンジを自動的に再送するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[オプション]メニューの[選択.]を選択します。 システムからの応答 [選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[送信 オプション]タブをクリックします。
3	[未送信のインターチェンジをチェック]のボックスをクリックします。
4	[OK]をクリックします。
5	オプション レジストリ内のシステムチェック間隔の値を変更します。(既定値は30分です。)
6	リスタート サービス

次のコミュニケーションセッションセッションで送信するインターチェンジのキューイング

送信の順番待ちのインターチェンジは、次の適合するコミュニケーションセッションで送信されます。次のセッションの対象が特定のパートナーまたはメールボックス、および条件に適合しないインターチェンジの場合は再送されません。

例 1

インターチェンジはメールボックス SIB への再送の順番待ちの状態です。Gentran Tutorial メールボックスに対するコミュニケーションセッションが実行します。それらの順番待ちのインターチェンジは送信されません。

例 2

PETZONE パートナーのインターチェンジが再送の順番待ちの状態です。PETZONE2 パートナーのデータのみコミュニケーションセッションが実行します。それらの順番待ちのインターチェンジは送信されません。

次のコミュニケーションセッションで送信するインターチェンジのキューイング方法は次のとおりです。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	再送する必要があるアウトバウンド インターチェンジを選択します。Shift または Ctrl キーを使って複数のインターチェンジを選択できます (Windows エクスプローラ と同様)。
3	[ドキュメント]メニューから [再送キュー]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ処理状態]は [送信準備完了] に変わります。

特定のインターチェンジの再送

特定のアウトバウンド インターチェンジを再送するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	再送するアウトバウンド インターチェンジを選択します。
3	[ドキュメント]メニューから [再送]を選択します。 システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい]をクリックして、伝送セッションを開始します。

再送プロセス

次に、インターチェンジを再送するときに発生するシステム処理を示します。

段階	説明
1	<p>再送コマンドが実行されると、まずは TRADACOMS インターチェンジであるかどうか判别されます。インターチェンジが TRADACOMS である場合、FIL セグメント内の現在のバージョン番号が 1 増分されます。インターチェンジは、この更新の後にほかのインターチェンジと同じ方法で再送されます。</p>
2	<p>リモート エンドとのコミュニケーションが確立されます。コミュニケーション セッションが成功したかどうかに応じて、メッセージのステータスが更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックスが設定されていない、メールボックス サービスが開始されていない、などの理由でコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは“送信準備完了”の状態のままとなります。 ▶ モデムが見つからないためにコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは“順番待ち”の状態のままとなります。 <p>メモ この時点では、ユーザ側の動作はいっさい必要ありません。送信に失敗したインターチェンジは、次回の伝送セッションの一部として自動的に送信されます。</p>
3	<p>ドキュメントは [アウト ドローワ] ブラウザに移動し、インターチェンジの状態が“送信済み”に設定されます。</p>



インターチェンジ、グループ、またはドキュメントの手動受信確認

はじめに

"受信確認"機能では、単にアウトバウンドドキュメントの状態が変更されるだけで、受信確認が生成されるわけではありません。[インターチェンジ]ブラウザ内のインターチェンジ、グループ、およびドキュメントの状態は、さまざまな理由により、手動で受信確認済みに設定しなければならない場合があります。

例

時間切れとなったドキュメントについてパートナーに連絡を取ったとします。パートナーが確認して、ドキュメントを受信していたにもかかわらず受信確認を送信していなかったことがわかりました。

手順

インターチェンジ、グループ、またはドキュメントの状態を受信確認済みに変更するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[インターチェンジ]を選択します。 システムからの応答 [インターチェンジ]ブラウザが表示されます。
2	受信確認の済んでいないインターチェンジ、グループ、またはドキュメントを選択します。 メモ 受信確認の済んでいないドキュメントは、次のいずれかの状態になっています。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ “時間切れ” ▶ “待機中” ▶ “送信済み” ▶ “ネットワーク上” ▶ “収集済み” ▶ “ネットワークエラー” ▶ “ネットワーク警告”
3	[ドキュメント]メニューから[受信確認]を選択します。 システムからの応答 ドキュメントの状態が受信確認済みに設定されます。

受信確認の使い方

目次

-
- ▶ 概要.....8-2
 - ▶ インバウンド受信確認の基準の定義.....8-3
 - ▶ アウトバウンド受信確認の基準の定義.....8-6
 - ▶ ドキュメントを手動で受信確認する方法.....8-10
 - ▶ EDIFACT 受信確認の注意事項.....8-11
 - ▶ 受信確認の時間切れチェック.....8-13
-

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server の受信確認の使用方法を説明します。次のトピックで構成されます。

- ▶ インバウンド受信確認の基準の定義
- ▶ アウトバウンド受信確認の基準の定義
- ▶ ドキュメント、グループ、またはインターチェンジの手動受信確認
- ▶ 受信確認の時間切れのチェック

受信確認

受信確認は、伝送を受信したことをトレーディング パートナーに通知するために送信します。エラーが発生した場合は、そのエラーに関する情報も通知されません。トレーディング パートナーから受け取る受信確認、およびトレーディング パートナーに送る受信確認のレベルを定義する必要があります。

インバウンド受信確認の基準の定義

はじめに

インバウンドのドキュメント、ファンクショナルグループ、およびインターチェンジの受信確認に使用する基準は、[パートナー エディタ]または[インバウンド関係]ダイアログ ボックスを使用してパートナー レベルで定義します。ファンクショナル受信確認を生成するために使用されるトランスレーション オブジェクトは、システム トランスレーション オブジェクトとして含まれており、Gentran:Server のインストール時に自動的に登録されています。

メモ

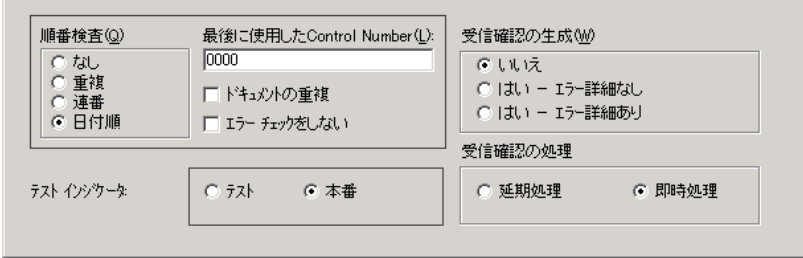
インバウンド関係にドキュメントを受信した結果としてファンクショナル受信確認を生成する場合、対応するアウトバウンド関係を設定する必要があります。このアウトバウンド関係は、パートナーへの受信確認を生成するために使用しません。

参照

受信確認の生成に使用するアウトバウンド関係を確立する方法については、「アウトバウンド関係の作成 3 - 68 ページ」を参照してください。

手順

受信確認生成の基準を定義するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>ドキュメントの受信確認基準は、パートナー関係を設定する際に、次に示す [インバウンド関係] ダイアログ ボックスの [詳細] オプションを使用して定義します。</p>  <p>メモ 受信確認の処理で [即時処理] を選択した場合、インバウンド ブレイク セッション中に受信確認の整合が行われます。受信確認の処理で [延期処理] (既定値) を選択した場合、スケジュール間隔にしたがって整合が行われます。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信確認の延期処理の詳細については、『管理 ガイド』の「システム構成 n [システム] タブ」を参照してください。 [インバウンド関係] ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「インバウンド関係の作成 3 - 60 ページ」を参照してください。

ステップ	操作
2	<p>ファンクショナルグループの受信確認基準は、インバウンドグループ登録を設定する際に、次に示す [インバウンドグループ登録] ダイアログボックスの [詳細] オプションを使用して定義します。</p> <div data-bbox="598 464 1374 722" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p> <input type="radio"/> なし 最後に使用したグループ Control Number(L): <input type="text" value="0"/> </p> <p> <input type="radio"/> 重複 </p> <p> <input type="radio"/> 連番 </p> <p> <input checked="" type="radio"/> 日付順 </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 受信確認グループ(W) </p> <p> 受信確認トランザクション セット ID: <input type="text" value="997"/> </p> <hr/> <p> グループトランスレーション オブジェクト(O): <input type="text"/> </p> <p> 受信確認トランスレーション オブジェクト(A): <input type="text" value="ACKBUILD_997"/> </p> </div> <p>参照 [インバウンドグループ登録] ダイアログボックスのパラメータ設定の詳細については、「インバウンドファンクショナルグループの選択」を参照してください。</p>
3	<p>インターチェンジの受信確認基準は、インバウンドインターチェンジ登録を設定する際に、次に示す [インバウンドインターチェンジ登録] ダイアログボックスの [詳細] オプションを使用して定義します。</p> <div data-bbox="598 1094 1409 1381" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p> <input type="radio"/> なし 最後に使用したControl Number(L): <input type="text" value="00000000"/> </p> <p> <input type="radio"/> 重複 </p> <p> <input type="radio"/> 連番 </p> <p> <input checked="" type="radio"/> 日付順 </p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 受信確認のインターチェンジ(W) </p> <p> 受信確認トランザクション セット ID: <input type="text"/> </p> <hr/> <p> インターチェンジトランスレーション オブジェクト(O): <input type="text"/> </p> <p> 受信確認トランスレーション オブジェクト(A): <input type="text"/> </p> </div> <p>参照 [インバウンドインターチェンジ登録] ダイアログボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「インバウンドインターチェンジの選択 3 - 66 ページ」を参照してください。</p>

アウトバウンド受信確認の基準の定義

はじめに

ドキュメントと受信確認の整合性の維持は、システムによって自動的に行われます。受信した受信確認の処理に必要なトランスレーションオブジェクトは、システムトランスレーションオブジェクトとして含まれており、Gentran:Serverのインストール時に登録されています。

ただし、パートナーエディタの[アウトバウンド関係]ダイアログボックスを使用して、受信確認のレベルを設定する必要があります。

メモ

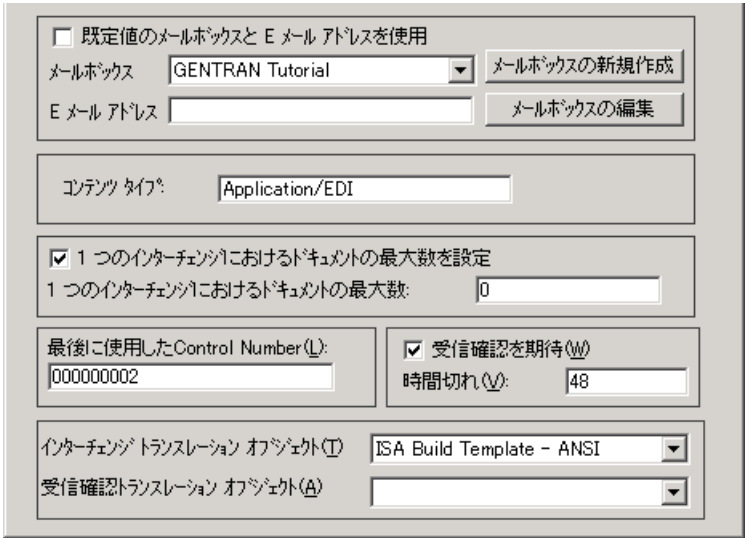
アウトバウンド関係にドキュメントを送信した結果としてファンクショナル受信確認を生成する場合、対応するインバウンド関係を設定する必要があります。このインバウンド関係は、受信確認を受信するために使用します。

参照

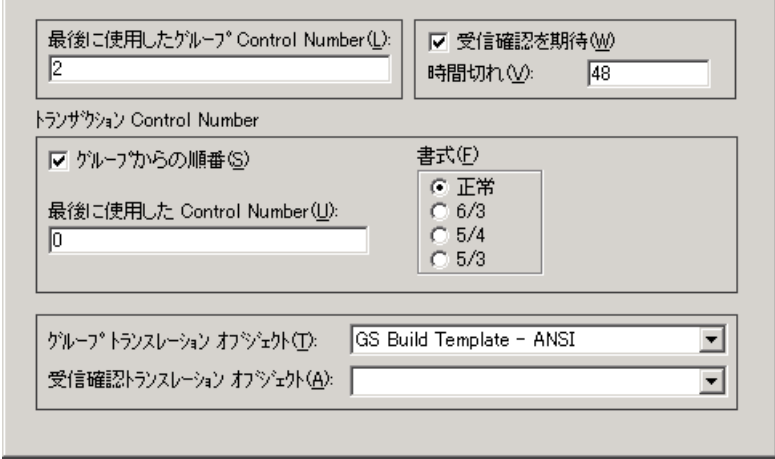
受信確認を受信するためのインバウンド関係を確立する方法については、「インバウンド関係の作成 3-60 ページ」を参照してください。

手順

パートナーから受信する受信確認のレベルを設定するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>インターチェンジの受信確認を受信する際の要件は、次に示す [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスの [詳細] セクションを使用して設定します。</p>  <p>参照 [アウトバウンド インターチェンジ登録] ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「アウトバウンド インターチェンジの選択 3-75 ページ」を参照してください。</p> <p>推奨事項 [インターチェンジ トランスレータ オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内の トランスレーション オブジェクトは、結果がどうなるか不明な場合は変更しないようにしてください。</p>



ステップ	操作
2	<p>ファンクショナルグループの受信確認を受信する際の要件は、[アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスの [詳細] セクションを使用して設定します。</p>  <p>推奨事項 [グループ トランスレーション オブジェクト] および [受信確認 トランスレーション オブジェクト] リスト内の トランスレーション オブジェクトは、結果がどうなるか不明な場合は変更しないようにしてください。</p> <p>メモ 受信確認が時間切れの場合 ([時間切れ] ボックスに指定した時間内に受信されない場合) は、インターチェンジブラウザでは [時間切れ] という状態で示されます。</p> <p>参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アウトバウンド グループ登録] ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「アウトバウンド ファンクショナルグループの選択 3-73 ページ」を参照してください。 ▶ インターチェンジブラウザを表示する手順については、「インターチェンジ内のドキュメントの表示 7-15 ページ」を参照してください。

ステップ	操作
3	<p>トランザクション セットの受信確認を受信する際の要件は、[アウトバウンド関係登録] ダイアログ ボックスの [詳細] セクションを使用して設定します。</p> <div data-bbox="592 436 1422 611" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>最後に使用したControl Number(L): <input type="text" value="0000"/></p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 受信確認を期待(W) <input type="checkbox"/> ドキュメントの重複 時間切れ(W): <input type="text" value="48"/> テスト インサート: <input type="radio"/> テスト <input checked="" type="radio"/> 本番 </p> </div> <p>参照 [アウトバウンド関係] ダイアログ ボックスにおけるパラメータの設定についての詳細は、「アウトバウンド関係のまとめ 3-77 ページ」を参照してください。</p>

ドキュメントを手動で受信確認する方法

はじめに

"受信確認"機能では、単にアウトバウンドドキュメントの状態が変更されるだけで、受信確認が生成されるわけではありません。アウトドローワブラウザ内のドキュメントの状況は、さまざまな理由により、手動で“受信確認済み”に設定しなければならない場合があります。

例

たとえば、時間切れドキュメントに関してパートナーに問い合わせたところ、そのドキュメントが受信されているにもかかわらず受信確認が送信されていないという場合は、手動で状況を変更する必要があります。

参照

詳細については、「インターチェンジ、グループ、またはドキュメントの手動受信確認 7-22 ページ」を参照してください。

手順

ドキュメントの状況を手動で“受信確認済み”に変更するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アウトドローワ]を選択します。 システムからの応答 [アウトドローワ概要]ダイアログボックスが表示されます。
2	該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします。 システムからの応答 [アウトドローワ]ブラウザが表示されます。
3	“受信確認済み”に設定するドキュメントを選択します。 メモ 受信確認の済んでいないドキュメントは、次のいずれかの状況になっています。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ "時間切れ" ▶ "待機中" ▶ "送信済み" ▶ "ネットワーク上" ▶ "収集済み" ▶ "ネットワークエラー" ▶ "ネットワーク警告"
4	[受信確認]をクリックします。 システムからの応答 ドキュメントの状況が“受信確認済み”に設定されます。

EDIFACT 受信確認の注意事項

はじめに

アウトバウンドの EDIFACT Control ドキュメントを作成するとき、システムは、Internal System User パートナーから Sender ID と Receiver ID を抽出します。EDIFACT スタンドアロッドによると、Control ドキュメントの UCI と UCF レコードの Sender ID と Receiver ID は、それぞれ、インバウンドの UNB と UNG セグメントの値を含んでいなければいけません。

Gentran:Server の製品 CD (Maps¥Special ディレクトリ内) には、トランスレーション オブジェクト CntrlBld_DLL.tpl が入っています。User Exit の GentranAutomation.DLL へのアクセスを通して、このマップによりインバウンド データ ファイルから Sender ID と Receiver ID が取得できます。GentranAutomation.DLL は、製品をインストールまたはアップグレードしたときに自動的に登録されます。この DLL は、現在、CntrlBld_DLL.map によってのみ使用されています。

メモ

この機能の使用は任意です。Outbound Control Build の関係で選択されているデフォルトのトランスレーション オブジェクトは、ACKBUILD_CONTRL です。

手順

Sender ID と Receiver ID を取得するために CntrlBld_DLL.tpl 機能を使うには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[ツール] メニューから、[パートナー エディタ] を選択します。 システムからの応答 [パートナー エディタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	アウトバウンドの コントロール ビルド の関係を選択するため、[パートナー の選択] を選択し、[アウトバウンド] をクリックします。 システムからの応答 [アウトバウンド 関係] ダイアログ ボックスが表示されます。が表示されます。
3	[アウトバウンド 関係] ダイアログ ボックスで、[トランスレーション] をクリックします。 システムからの応答 [アウトバウンド トランスレーション オブジェクト] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	インポート リストから、[ACKBUILD_CONTRL_DLL] を選択します。 メモ Outbound Control Build の関係で選択されているデフォルトのトランスレーション オブジェクトは、ACKBUILD_CONTRL です。

ステップ	操作
5	[保存]をクリックして選択内容を保存し、[アウトバウンド関係]ダイアログボックスに戻ります。

受信確認の時間切れチェック

はじめに

受信確認の時間切れは、"時間切れチェック"機能を使用して手動でチェックできます。

メモ

受信確認の時間切れを自動的にチェックする頻度は、システム構成プログラムで指定できます。これにより、時間切れ受信確認チェックが行われる間隔を狭めたり、チェックを完全に無効にしたりできます。

参照

詳細については、『管理ガイド』の「時間切れ受信確認のチェック頻度を変更する方法」を参照してください。

手順

時間切れ受信確認をチェックするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[コマンド]メニューから[時間切れチェック]を選択します。</p> <p>システムからの応答 インターチェンジ、グループ、またはドキュメントにおいて、要求された受信確認が時間切れ(受信確認が指定時間を過ぎたのに届いていない状態)になっていないかが自動的にチェックされます。時間切れのインターチェンジ、グループ、またはドキュメントの状態が、[インターチェンジ]ブラウザで“時間切れ“に設定されます。</p> <p>参照 インターチェンジブラウザの使い方についての詳細は、「インターチェンジの表示 7-11 ページ」を参照してください。</p>

トラッキングの使い方

目次

-
- ▶ 概要.....9-2
 - ▶ インバウンド情報のトラッキング.....9-3
 - ▶ アウトバウンド情報のトラッキング.....9-6
 - ▶ データ オーディット情報の表示および印刷.....9-9
 - ▶ トラック情報の表示および印刷.....9-10
-

概要

本章の内容

この章では、Gentran:Server のトラッキング システムの使用方法について説明します。

トラッキング機能

ドキュメントで発生する重大なイベントごとに、ドキュメントトラッキングレコードが書き込まれます。たとえば、ドキュメントが作成、修正、またはエクスポートされた場合にドキュメントトラッキングレコードが書き込まれます。

インバウンド情報のトラッキング

はじめに

インバウンド処理では、Gentran:Server のファイル処理コマンドまたはメールボックス メッセージ (コンテンツ タイプが [Application/EDI] の場合) を介してインバウンド伝送ファイル (外部データなど) を受信することがあります。このようなファイルをシステム内で受信した後は、そのファイルをエクスポートすることも、自動的にエクスポートされるようにシステムを構成することもできます。

ファイル処理プロセス

"ファイル処理" コマンドによってデータ ファイルがシステムに直接取り込まれると、このファイルに含まれる情報を保存するために Commpost が次の動作を実行します。

段階	説明
1	システム構成でファイル処理データをコピーするように設定されている場合は、コミュニケーション ポストによってファイルが外部データに直接コピーされます。
2	コミュニケーション ポストで ExtData_tb を新しいレコードに更新します。このレコードには、保存されている外部データの種類 (ExtData など)、外部データ キー (新しいレコードの割り当て後)、およびこの外部データ参照に含まれるその他の関連データの情報が記録されています。
3	コミュニケーション ポストでこのファイルをインターチェンジに分割し、トランスレータ用の INT ファイル (インターチェンジ) および IPC ファイルが作成されます。
4	コミュニケーション ポストがトランスレータを呼び出します。トランスレータではインバウンド処理を続行し、外部データ参照を今作成したインターチェンジにリンクさせる ExtDataXref_tb にレコードを作成します。各インターチェンジに 1 つの IPC ファイルがあり、IPC ファイルからトランスレータに情報が渡されます。たとえば、そのインターチェンジに対応する伝送ファイルの開始および終了オフセット インジケータ、および外部データの種類やキーについての情報などです。

こうすることにより、トラック情報または外部データを表示するときに、システムがこのファイル (外部データ) を参照できるようになります。

メモ

外部情報をコピーするように Gentran:Server を構成していない場合、外部データビューアは使用できません。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ データ ファイルの処理 5-14 ページ
- ▶ ドキュメントのエクスポート 4-65 ページ



- 『管理ガイド』の「システム構成-[外部データ]タブ」と「データベーステーブルの使い方」

メールボックス ファイル処理

メールボックスからシステムにデータが入ると、次の処理によって関連するすべてのメッセージ ID がトラッキングされます。

段階	説明
1	トレーディングパートナーによってデータファイル(コンテンツタイプは[Application/EDI]に設定される)が作成されます。[アウトボックス]内に関連するメッセージ ID が作成されます。
2	トレーディングパートナーは、このメッセージ ID を Gentran Application の [インボックス] に送ります。これによって、新しいターゲットメッセージ ID が作成されます。
3	コミュニケーション管理機能 (Gentran:Server エグゼクティブ サービス) では、コンテンツタイプが [アプリケーション/EDI] であると認識します。前述したと同様の方法で、CommMgr はデータを受信し、前の項と同じ方法で ExtData_tb に外部データ参照を保存します。ただし、CommMgr がデータを受信するため、このデータベース登録が保存されます。
4	コミュニケーション管理機能では、GDW_Process_MBFile コマンドを使用して、実行する自動処理の一時セッションファイルを作成します。また、プロセス管理がコミュニケーションポストを呼び出します。
5	コミュニケーションポストでは、IPC ファイルが作成されます。このとき、外部データキーおよび開始と終了のオフセットインジケータがそのインターチェンジの伝送ファイルに書き込まれます。
6	コミュニケーションポストはデータ処理を終了するために各インターチェンジのトランスレータを呼び出し、外部データ参照を Gentran データにリンクさせる ExtDataXref_tb に登録を書き込みます。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- 本書の第 11 章「プロセス管理の使い方」
- 『Communications User's Guide』
- 『管理ガイド』の「データベーステーブルの使い方」

エクスポート処理

エクスポートするデータはシステム内にあるので、エクスポート ファイルを作成する外部データはトランスレータで取り扱います。つまり、トランスレータでは、データベース内のトラック情報を保存します。

段階	説明
1	トランスレータは、ドキュメントをエクスポート トランスレーション オブジェクトへの入力として使います。
2	エクスポート ファイルは、トランスレーション オブジェクトの仕様に応じて、システム内で作成されます。
3	トランスレータでは、新しく生成されたエクスポート ファイルをシステム データ格納先の External Data フォルダにコピーし、ExtData_tb を適当な情報に更新し、さらに ExtDataXref_tb を外部データおよび関連ドキュメント情報に更新します。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ ドキュメントのエクスポート 4 - 65 ページ
- ▶ 『管理ガイド』の「データベース テーブルの使い方」



アウトバウンド情報のトラッキング

はじめに

アウトバウンド処理では、Gentran:Server の " インポート " コマンドまたはメールボックス メッセージ (コンテンツ タイプ が [Application/Import] に構成されている場合) を使用して外部データをインポートすることができます。ファイルがシステム内にインポートされれば、そのファイルを送信することも、自動的に送信されるようにプロセス管理を構成することもできます。送信コマンドの実行後に新しいメールボックス メッセージが作成され、その後の送信伝送の際には、最初にインポートされたものと同じ外部データ ファイルに関連付けられている新規のメールボックス メッセージが作成されます。

インポート処理

次の処理によってデータがインポートされます。

段階	説明
1	外部データは Gentran:Server に直接インポートされます。このデータは、自動プロセス管理 (GDW_Import) によってインポートすることも、手動でインポートすることもできます。
2	データのインポート方法に応じて、Unattend または Edimgr のいずれかで外部データ ファイルをシステム データ保管先の外部データ フォルダにコピーします。
3	Unattend または Edimgr では、ExtData_tb をファイル名、ファイルのタイムスタンプの日時、動作が実行された日時、および ExtDataKEY を示す登録に更新します。
4	Unattend または Edimgr では、IPC ファイルに ExtDataType パラメータと ExtDataKEY パラメータを書き込みます (このファイル内でそれぞれ " タイプ "、" キー " と呼ばれます)。
5	トランスレータがインポート トランスレーション オブジェクトを実行します。これによって、IPC ファイルから ExtDataType および ExtDataKEY が取得され、Edimgr または Unattend が作成した外部データ参照にドキュメントをリンクさせる ExtDataXref_tb が書き込まれます。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ ドキュメントのインポート 4-63 ページ
- ▶ プロセス管理の使い方 11-1 ページ
- ▶ 『管理ガイド』の「データベース テーブルの使い方」

**メールボックス
インポート処理**

収集メールボックスを使用して外部データ ファイルをインポートすると、次のように関連するすべてのメッセージ識別子がトラッキングされます。

段階	説明
1	アウトバウンド データがシステム内を流れるとき、収集メールボックスでデータ ファイルおよび対応するメッセージ ID を [アウトボックス] に作成します (コンテンツ タイプの設定は [Application/Import])。
2	<p>収集メールボックスによって、このメッセージ ID が Gentran Application の [インボックス] に送信され、新しいターゲット メッセージ ID が作成されます。</p> <p>メモ メールボックス インポートの場合、[システム構成] の [インポート] タブで UNC パスとファイル名を指定する必要があります。このとき、[システム構成] の [ディレクトリ] タブで TRANSIN ディレクトリに設定したパスと同一のパスを指定してください。</p> <p>参照 詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 『Communications User’s Guide』の「How to Create a File System Mailbox」 ▶ 『管理ガイド』の「システム構成 - [ディレクトリ] タブ」 ▶ 『管理ガイド』の「システム構成 - [インポート] タブ」
3	CommMgr では、コンテンツ タイプ が [Application/Import] であると認識して、このファイルのインポートを開始します。
4	コミュニケーション管理機能では外部データ参照を ExtData_tb に保存してから、自動処理セッション ファイルを (新しい GDW_MBImport コマンドで) 作成して、データを Gentran:Server にインポートします。
5	セッション ファイルが作成されると、自動処理によって、IPC ファイルの作成およびトランスレータがインポートを実行するために必要な外部データ情報の書き込みが行われます。
6	トランスレータがインポート マップを実行し、トラック情報が ExtDataXref_tb に保存されます。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ 本書の第 11 章「プロセス管理の使い方」
- ▶ 『Communications User’s Guide』
- ▶ 『管理ガイド』の「データベース テーブルの使い方」



送信処理

ファイルがインポートされると、次の手順で作成した Gentran:Server ドキュメントをメールボックスに送信することができます。

段階	説明
1	対応するメールボックスメッセージが Gentran Application メールボックスに作成されます。
2	このメッセージはパートナーのメールボックスに送信されます。ファイル処理やインポート動作と同じく、送信動作では外部データに関連付けられたソース メッセージ ID とターゲット メッセージ ID を使用します。ただし、他の動作とは異なり、外部データとしてメッセージを使用し、そのメッセージはインターチェンジに関連付けられます。
3	送信されたインターチェンジと送信先のメールボックス メッセージとのリンクは、ExtDataXref_tb に保存されます。この情報が必要な場合、[外部データの概要]ビューアに表示することができます。

例

この例では、ユーザーが 1 つのインターチェンジ内の複数のドキュメントを送信します。トランスレータがインターチェンジをビルドした後、CommMgr がインターチェンジをメールボックスへ送信します。コミュニケーション管理機能は、インターチェンジの送信中にメールボックスのメッセージ ID を受信し、Gentran Application メールボックスにメッセージを作成します。続いて、タイプがメッセージである ExtData_tb に外部データ参照を作成します。これで、インターチェンジをメッセージにリンクさせる ExtDataXref_tb にレコードを作成するための十分な情報が、コミュニケーション管理機能に集められたこととなります。

参照

詳細については、以下を参照してください。

- ▶ ドキュメントの送信 5-6 ページ
- ▶ 『Communications User's Guide』
- ▶ 『管理ガイド』の「データベース テーブルの使い方」

データ オーディット情報の表示および印刷

はじめに

通常、ドキュメントの問題を解決するための情報を得るには、データ オーディット (1つのドキュメントで利用可能なドキュメント トラック情報) を表示します。これらのレコードは、どのドキュメント ブラウザからでも表示できます。

手順

データ オーディット情報の表示または印刷をするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、ブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドキュメント]、[?インドキュメント]、[アウトドキュメント]、[?アウトドキュメント]、[インドローワ]、または[アウトドローワ]の各ブラウザを選択すると、そのブラウザの適切な概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>ドキュメントが含まれるブラウザにアクセスするには、該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします</p>
3	<p>ドキュメントを1つ選択し、[コマンド]メニューから[表示]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [表示の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[データのオーディット]を選択し、[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 そのドキュメントの[ドキュメント オーディット]ウィンドウが表示されます。</p> <p>メモ [ドキュメント オーディット]ウィンドウには、選択したドキュメントとオーディット メッセージが表示されます。また、メッセージの重要度、イベント ID、イベント名、オーディット番号、ユーザー名、マシン名、およびメッセージも表示されます。</p> <p>参照 詳細については、『管理ガイド』の「オーディット通知システムの使い方」を参照してください。</p>
5	<p>表示されているデータ オーディット情報を印刷するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。 ▶ 印刷しない場合は、[閉じる]をクリックして[トラック情報]ウィンドウを閉じます。

トラック情報の表示および印刷

はじめに

外部データ ファイルのトラック情報を表示します。これらのレコードは、どのドキュメント ブラウザからでも表示できます。

手順

トラック情報の表示または印刷をするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、ブラウザを選択します。</p> <p>システムからの応答 [インドキュメント]、[?インドキュメント]、[アウトドキュメント]、[?アウトドキュメント]、[インドローワ]、または[アウトドローワ]の各ブラウザを選択すると、そのブラウザの適切な概要ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>ドキュメントが含まれるブラウザにアクセスするには、該当するパートナーのドキュメントの種類を選択し、[表示]をクリックします</p>
3	<p>ドキュメントを1つ選択し、[コマンド]メニューから[表示]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [表示の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[トラック情報]を選択し、[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 そのドキュメントの[トラック情報]ウィンドウが表示されます。</p> <p>メモ [トラック情報]ウィンドウには、相関関係にあるファイルのセットが1つのエントリとして表示されます。イベントがウィンドウに表示しきれない場合は、スクロールバーを使用して残りのレコードを表示できます。</p>
5	<p>表示されているトラック情報を印刷するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 印刷する場合は、[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。 ▶ 印刷しない場合は、[閉じる]をクリックして[トラック情報]ウィンドウを閉じます。

第 10 章

アーカイブと復元の使い方

目次

▶	はじめに.....	10 - 2
データのアーカイブ.....		10 - 3
▶	概要.....	10 - 3
▶	アーカイブ マネージャ	10 - 5
▶	[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス.....	10 - 11
▶	[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス.....	10 - 13
▶	[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス.....	10 - 16
▶	[グループの検索] ダイアログ ボックス	10 - 19
▶	[ドキュメントの検索] ダイアログ ボックス.....	10 - 21
▶	[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス	10 - 23
▶	[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス	10 - 25
▶	[メールボックスの検索] ダイアログ ボックス	10 - 27
▶	[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス	10 - 29
▶	[外部データ選択基準] ダイアログ ボックス.....	10 - 31
▶	[外部データの検索] ダイアログ ボックス.....	10 - 32
▶	[検索結果] ダイアログ ボックス	10 - 34
▶	[ソート順] ダイアログ ボックス	10 - 36
▶	アーカイブ定義の作成.....	10 - 37
▶	データのアーカイブ	10 - 39
▶	アーカイブ データの表示.....	10 - 40
▶	アーカイブ データの検索.....	10 - 44
アーカイブ データの復元.....		10 - 45
▶	概要.....	10 - 45
▶	[復元されたインターチェンジ] ブラウザ.....	10 - 47
▶	復元されたインターチェンジの表示.....	10 - 52
▶	復元されたインターチェンジの表示のフィルタ方法	10 - 54
▶	復元されたドキュメントの表示	10 - 56
▶	復元されたドキュメントの再処理.....	10 - 58
▶	復元されたインターチェンジの再送.....	10 - 59



はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server での対話型のアーカイブ機能および復元機能について説明します。

アーカイブ機能

"アーカイブ"すると、過去のインターチェンジ (インバウンドおよびアウトバウンド)、アプリケーション データ、およびメールボックス メッセージの記録を入手できます。これにより、定義済みの格納パラメータ (アーカイブ定義) に基づいて、インターチェンジ、外部データ、またはメールボックス メッセージのオフライン アーカイブ データ ファイルを作成できます。アーカイブ データ ファイルは、長期にわたって保管できます。

また、Gentran:Server プロセス管理を使用すると、定義した間隔でデータを削除したりアーカイブしたりできます。

参照

自動アーカイブ セッションの設定については、本書の第 11 章「プロセス管理の使い方」を参照してください。

復元機能

復元機能を使用すると、アーカイブ データを Gentran:Server で再処理することができます。この機能では、アーカイブ データ ファイルのデータが、アクティブなシステムにコピーされます。インターチェンジが復元されたら、必要に応じ、インターチェンジの復元ブラウザに表示して再処理できます。

アーカイブの タイミング

システム データは、毎週アーカイブすることをお勧めします。この機能は、大規模なシステムでは特に重要です。

データのアーカイブ

概要

アーカイブできるデータの種類

アーカイブできるファイルの種類は次のとおりです。

- ▶ インバウンドおよびアウトバウンド インターチェンジ (Gentran EDI)
- ▶ メールボックス メッセージ (およびその添付)
- ▶ 外部データ

メモ

ドキュメントが受信確認処理 (受信確認の生成または整合) を待っている場合、そのドキュメントの処理が終わるまでアーカイブはできません。

アーカイブ定義

"アーカイブ" 機能は、格納されている "アーカイブ定義" を使用して構成できます。アーカイブ定義とは、アーカイブするデータを指定するために使用するアーカイブパラメータのセットです。アーカイブ定義ファイルは *.ARD ファイルとして保存され、これを繰り返し処理することによって、パラメータを定義し直すことなく同じアーカイブ処理を実行できます。

参照

詳細については、「アーカイブ定義の作成 10 - 37 ページ」を参照してください。

アーカイブ処理

次の表に、アーカイブ処理についてまとめます。

段階	説明								
1	アーカイブ パラメータを定義します (*.ARD ファイル)。使用できるアーカイブ パラメータは、アーカイブするデータの種類によって異なります。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>使用できるアーカイブ パラメータ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Gentran EDI</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイル ID ▶ インターチェンジがインバウンドかアウトバウンドか ▶ 期間 ▶ 処理状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ 受信確認状態 </td> </tr> <tr> <td>メールボックス メッセージ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックス (特定またはすべてのメールボックス) ▶ 場所 (インボックス、アウトボックス、または両方) ▶ 期間 ▶ 状況 ▶ コンテンツ タイプ </td> </tr> <tr> <td>外部データ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実行する操作 ▶ 経過期間 </td> </tr> </tbody> </table>	選択	使用できるアーカイブ パラメータ	Gentran EDI	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイル ID ▶ インターチェンジがインバウンドかアウトバウンドか ▶ 期間 ▶ 処理状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ 受信確認状態 	メールボックス メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックス (特定またはすべてのメールボックス) ▶ 場所 (インボックス、アウトボックス、または両方) ▶ 期間 ▶ 状況 ▶ コンテンツ タイプ 	外部データ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 実行する操作 ▶ 経過期間
	選択	使用できるアーカイブ パラメータ							
	Gentran EDI	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイル ID ▶ インターチェンジがインバウンドかアウトバウンドか ▶ 期間 ▶ 処理状態 ▶ ネットワークの状態 ▶ 受信確認状態 							
メールボックス メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックス (特定またはすべてのメールボックス) ▶ 場所 (インボックス、アウトボックス、または両方) ▶ 期間 ▶ 状況 ▶ コンテンツ タイプ 								
外部データ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 実行する操作 ▶ 経過期間 								
2	<p>アーカイブ処理を実行します。これにより、アーカイブ ファイル (*.ARV) が Archive フォルダに作成されます。</p> <p>メモ 定義は、対話的に実行することも、プロセス管理を使用して自動的に実行することもできます。</p> <p>参照 アーカイブ処理のスケジュールについては、本書の第 11 章「プロセス管理の使い方」を参照してください。</p>								
3	アーカイブ処理では、データはデータベース テーブルとシステム データ ストアの両方からコピー (または削除) されます。								

アーカイブ マネージャ

はじめに

アーカイブ マネージャは、データのアーカイブと復元を行うための機能を備えています。[アーカイブ マネージャ]では、次のものを表示できます。

- ▶ アーカイブ定義ファイル
- ▶ アーカイブされた管理情報の概要データ
- ▶ アーカイブ データ ファイルに格納されたデータの詳細内容

メモ

- ▶ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。
- ▶ [アーカイブ]ツリーは、ファイル名または日/時を基準にして並べ替えることができます。

また、アーカイブ マネージャの検索機能では、特定の情報の検索に使用する検索パラメータをすばやく定義することもできます。条件に適合する結果が、[データのアーカイブ方法]に表示されます。その中から必要な情報を選択すると、アーカイブ マネージャのツリー表示でその情報が反転表示になります。

表示可能な アーカイブ情報

アーカイブ マネージャには、アーカイブした情報に関するさまざまなデータが保持されていて、これらのデータを簡単に表示することができます。

参照

詳細については、「アーカイブ データの表示 10 - 40 ページ」を参照してください。

アーカイブ マネージャのユーザー インターフェイスでは、アーカイブ データの階層レベルをツリー構造で表示します。次の表に、Gentran EDI、メールボックス、および外部データのアーカイブ登録の各レベルで使用可能な情報をまとめます。

メモ

「なし」は、そのアイテムがアーカイブ データの種類を示す目的のみに使用されるグラフィック記号であることを示します。

選択の内容	表示できる情報
Gentran EDI、メールボックス、または外部データレベルのアーカイブファイル	次の事項などに関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アーカイブを開始した日時 ▶ アーカイブが終了した日時 ▶ アーカイブしたアイテムの数 ▶ 削除したアイテムの数(削除した場合)

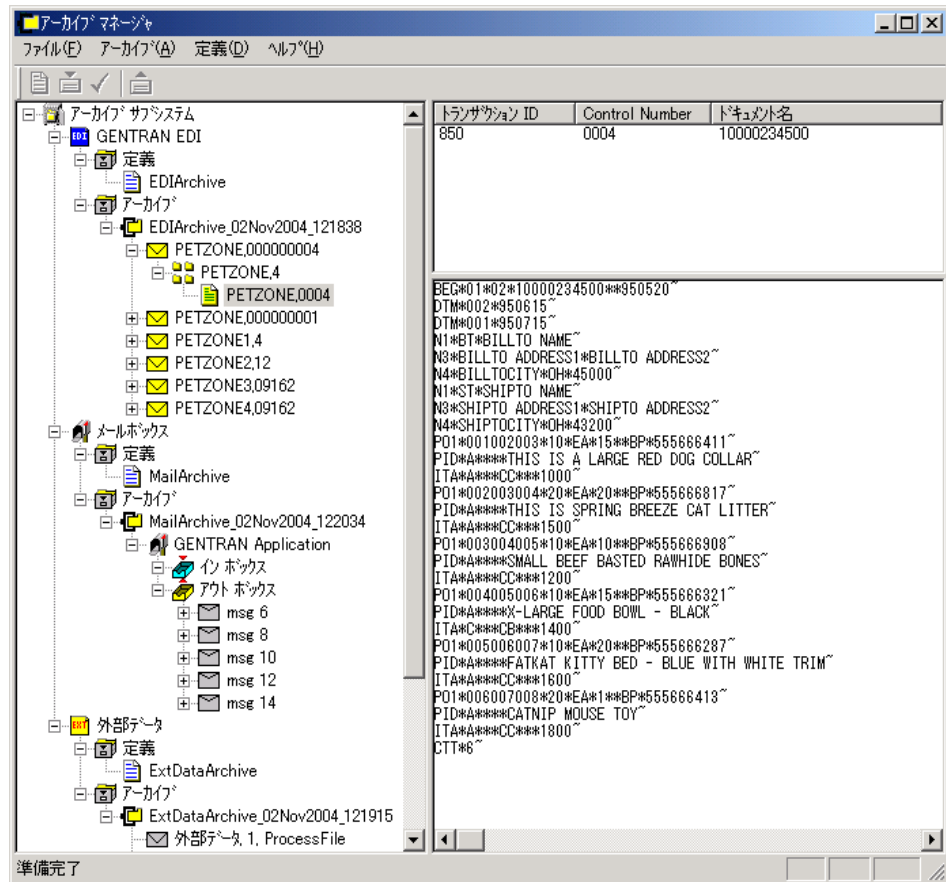
選択の内容	表示できる情報
インターチェンジ	次の事項などに関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ パートナー プロファイル ID ▶ 方向 ▶ 日 / 時 ▶ インターチェンジ Control Number
	データ オーディット
	トラック情報
グループ	次の事項などに関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ Control Number ▶ ファンクショナル グループ ID ▶ グループ管理キー
	データ オーディット
	トラック情報
ドキュメント	次の事項などに関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランザクション ID ▶ トランザクション Control Number ▶ ドキュメント名
	データ オーディット
	トラック情報
メールボックス	該当なし
イン ボックス / アウト ボックス	該当なし
メッセージ	次の事項などに関する概要情報 <ul style="list-style-type: none"> ▶ シリーズ ID ▶ メッセージ ID ▶ ソース ID ▶ コンテンツ タイプ ▶ 送信者 ID / 受信者 ID ▶ 送信者名 / 受信者名 ▶ 送信者メールボックス E メール / 受信者メール ボックス E メール ▶ 件名 ▶ 状態 ▶ メッセージが作成された時間
	データ オーディット

選択の内容	表示できる情報
添付	次の事項などに関する概要情報 ｡ 添付 ID ｡ コンテンツ タイプ ｡ ファイル名
	データ オーディット
	外部ビューア (既定のビューアはメモ帳) または [アーカイブ マネージャ] の画面のいずれかに表示されるファイル メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。
外部データ	次のうちいずれか 1 つ ｡ 外部データの種類 ｡ 外部データ キー ｡ 操作 ｡ 操作が実行された日時 ｡ 元のファイル名
	データ オーディット
右上のペイン	次の事項 (選択したアーカイブ情報のレベルおよび種類によって異なります) ｡ ファイル情報 (アーカイブの開始と終了、アーカイブされたアイテムの数、および削除されたアイテム) ｡ インターチェンジの情報 ｡ グループの情報 ｡ ドキュメントの情報 ｡ メッセージの情報 ｡ 添付の情報 ｡ 外部データの情報 ｡ データ オーディット情報 ｡ トラック情報
右下のペイン	選択した添付アイテムの内容









次に、[アーカイブ マネージャ]を示します。[アーカイブ] ツリーを展開し、メールボックス メッセージの1つが選択されています。



各部と機能

次に、アーカイブ マネージャの各部とその機能を示します。

各部	機能
[ファイル] メニュー	アーカイブ マネージャを終了します。

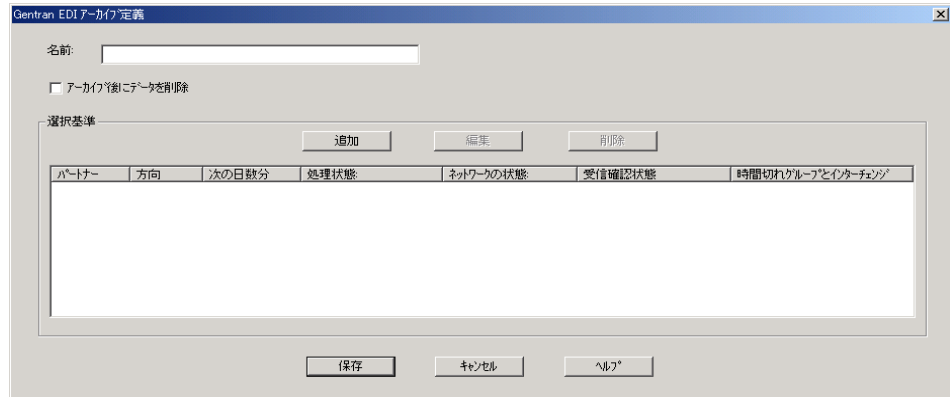
各部	機能
[アーカイブ]メニュー	次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ データを復元します。 ▶ 復元するデータにマークを付けます (1 つまたはすべてのアイテム)。 ▶ データのマークを消去します (1 つまたはすべてのアイテム)。 ▶ リフレッシュ (アーカイブ レベル) ▶ インターチェンジ、ドキュメント、メッセージ、または外部データのレベルでデータ オーディットを表示します。 ▶ インターチェンジ、ドキュメント、メッセージ、または外部データの各レベルでのデータ オーディットおよびデータを表示します。 ▶ アーカイブ ファイルを削除します。 ▶ 特定のアーカイブ データを検索します。 ▶ [アーカイブ] のデータの並べ替え方法を選択します。
[定義]メニュー	次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規アーカイブ定義を作成します。 ▶ アーカイブ定義を編集または削除します。 ▶ データをアーカイブします。
[ヘルプ]メニュー	アーカイブ マネージャに関するアーカイブ ヘルプおよび情報を表示します。
	新規アーカイブ定義を作成します。
	データをアーカイブします。
	システムに復元する選択済みのアイテムにマークを付けます。
	マークが付けられているデータをシステムに復元します。
左のペイン	データのアーカイブ、表示、および復元



各部	機能
右上のペイン	<p>次の事項のいずれか1つが表示されますが、選択するアーカイブ ファイルのレベルや種類によって表示内容が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイル情報 (アーカイブの開始と終了、アーカイブされたアイテムの数、および削除されたアイテム) ▶ インターチェンジの情報 ▶ グループの情報 ▶ ドキュメントの情報 ▶ メッセージの情報 ▶ 添付の情報 ▶ 外部データの情報 ▶ データ オーディット情報 ▶ トラック情報
右下のペイン	<p>選択したインターチェンジ、ドキュメント、添付、または外部データ ファイルの内容が表示されます。</p>

[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス

次に、[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次に、[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

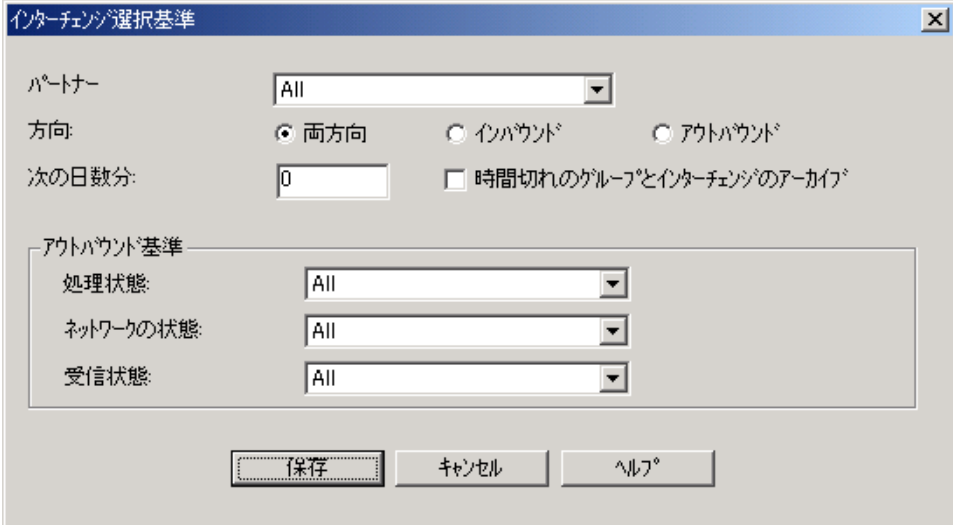
各部	機能
名前	アーカイブ定義ファイルの名前を指定します。 メモ この名前は、一意にする必要があります。
アーカイブ後にデータを削除	アーカイブ後にインターチェンジデータを削除するように指定します
追加	[メールボックス選択基準] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、新しいアーカイブ基準を定義できます。
編集	選択した基準の [メールボックス選択基準] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、アーカイブ基準を変更できます。
削除	選択した Gentran EDI 基準をシステムから削除します。 注意 基準を削除するとき、削除してよいかどうかを確認するメッセージは表示されません。
パートナー	パートナー プロファイル ID を指定します。
方向	インターチェンジの方向を示します。



各部	機能
次の日数分	インターチェンジの経過日数を表示します。
処理状態	インターチェンジの処理済みのステータスを表示します。既定値は [All] です。
ネットワークの状態	インターチェンジのネットワークのステータスを表示します。既定値は [All] です。
受信確認状態	インターチェンジの受信確認のステータスを表示します。既定値は [All] です。
時間切れグループとインターチェンジ	時間切れのグループおよびインターチェンジをアーカイブするか表示します。既定値は [N] (No) です。
保存	アーカイブ定義を保存して、[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス

図 次に、[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次に、[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

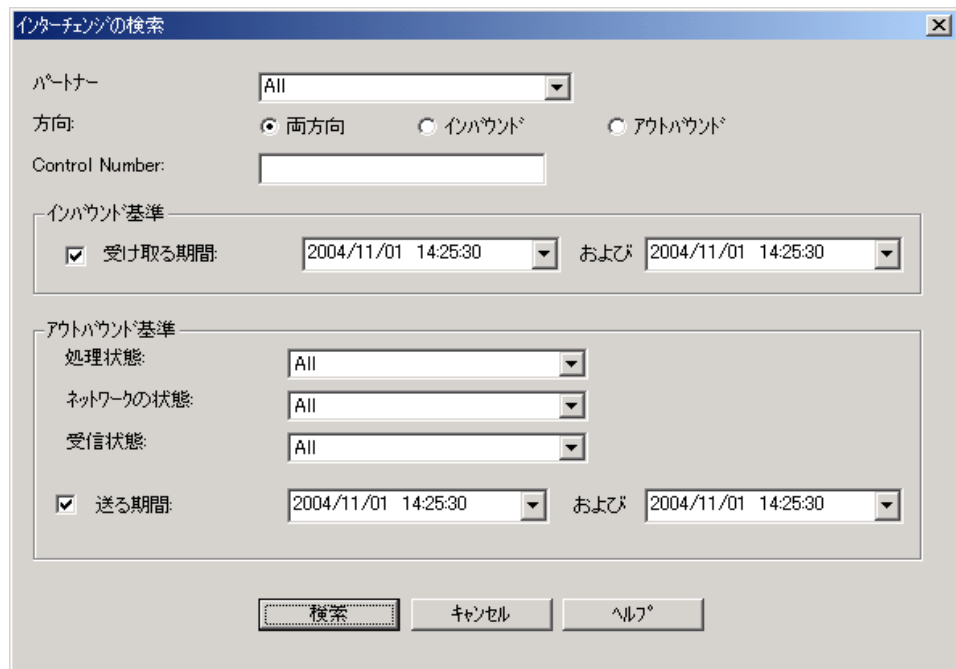
各部	機能
パートナー	パートナー プロファイル ID (既定値は [All]) を選択します。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
次の日数分	アーカイブされるインターチェンジの経過日数 (日付) を指定します。

各部	機能
時間切れのグループとインターチェンジのアーカイブ	<p>時間切れのグループおよびインターチェンジをアーカイブするか指定します。既定ではアーカイブしない設定となっています。チェックボックスが選択された場合、時間切れグループおよびインターチェンジがアーカイブされる場所に "受信確認 (延期)" の実装前のシステムの動作が適用されます (ユーザーが受信確認状態に [All] または [ReconcileOverdue] を選択し、方向が [両方向] または [アウトバウンド] の場合)。</p> <p>チェックボックスが選択されない場合は、アウトバウンド時間切れグループおよびインターチェンジはアーカイブされません。</p>
処理状態	<p>アーカイブされるインターチェンジの処理済みステータスを選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [All] (既定値) ● [Received] ● [Sent] ● [ReadyToSend] ● [Queued] ● [Held] ● [SendFailed]
ネットワークの状態	<p>アーカイブされるインターチェンジのネットワークのステータスを選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [All] (既定値) ● [NotSent] ● [ReceivedOK] ● [ReceivedWarning] ● [ReceivedError] ● [PickedUp] ● [ThirdParty]

各部	機能
受信確認状態	アーカイブされるインターチェンジの受信確認のステータスを選択します。有効な値は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none">▶ [All] (既定値)▶ [ReconcileNotRequired]▶ [ReconcileWaiting]▶ [ReconciledOK]▶ [ReconciledErrors]▶ [ReconciledPartial]▶ [ReconciledReject]▶ [ReconcileOverdue]
保存	選択基準を保存して、[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックス

図 次に、[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

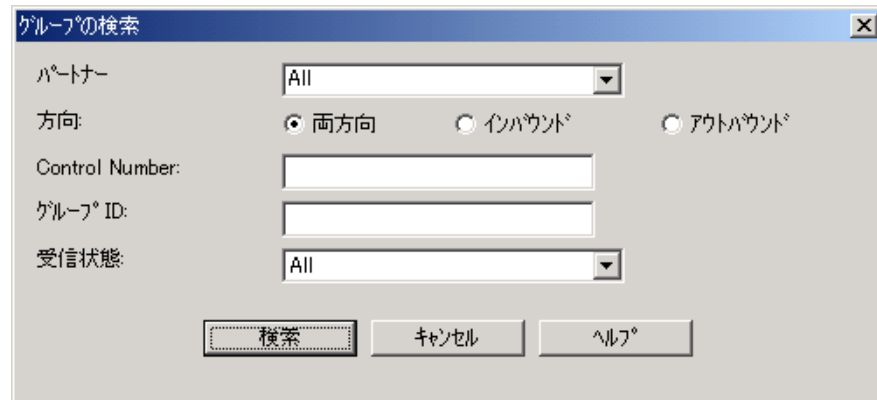
[インターチェンジの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
パートナー	パートナー プロファイル ID を選択します (既定値は [All])。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
Control Number	Control Number を指定します。
受け取る期間	検索日時の範囲を定義します (YYYY/MM/DD および HH:MM:SS 形式)。

各部	機能
処理状態	<p>検索するインターチェンジの処理済みの状態を選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [Received] ▶ [Sent] ▶ [ReadyToSend] ▶ [Queued] ▶ [Held] ▶ [SendFailed]
ネットワークの状態	<p>検索するインターチェンジのネットワークの状態を選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [NotSent] ▶ [ReceivedOK] ▶ [ReceivedWarning] ▶ [ReceivedError] ▶ [PickedUp] ▶ [ThirdParty]
受信確認状態	<p>検索するインターチェンジの受信確認の状態を選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [ReconcileNotRequired] ▶ [ReconcileWaiting] ▶ [ReconciledOK] ▶ [ReconciledError] ▶ [ReconciledPartial] ▶ [ReconciledReject] ▶ [ReconcileOverdue]
送る期間	<p>送信したインターチェンジを検索する日時の範囲を定義します (YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ 矢印をクリックすると、カレンダー上で日付を指定できます。</p>
検索	<p>ユーザーが選択した条件に基づいて該当するインターチェンジを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックスに表示されます。</p>
キャンセル	<p>ダイアログ ボックスを閉じます。</p>
ヘルプ	<p>オンライン ヘルプにアクセスします。</p>

[グループの検索] ダイアログ ボックス

図 次に、[グループの検索] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

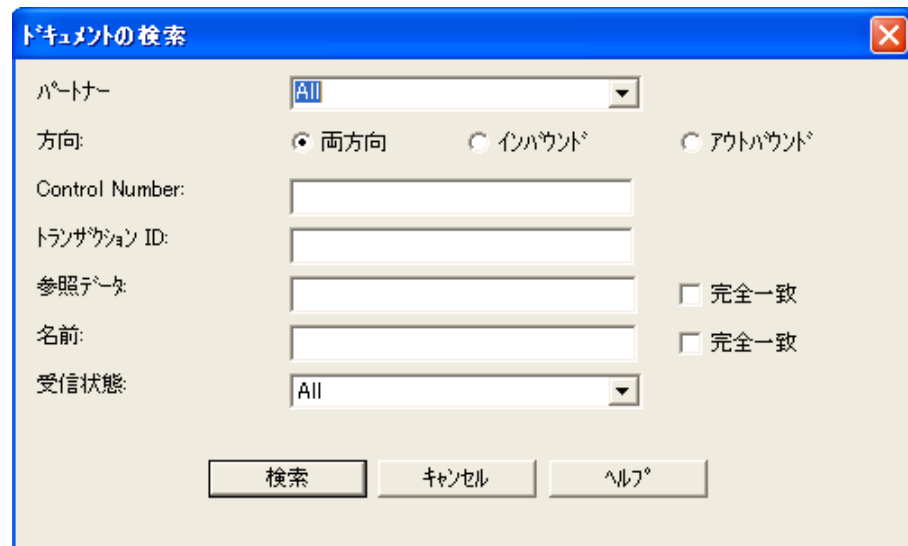
次の表に、[グループの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
パートナー	パートナー プロファイル ID を選択します (既定値は [All])。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
Control Number	Control Number を指定します。
グループ ID	グループ ID を指定します。
受信確認状態	<p>検索するグループの受信確認のステータスを選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [ReconcileNotRequired] ▶ [ReconcileWaiting] ▶ [ReconciledOK] ▶ [ReconciledErrors] ▶ [ReconciledPartial] ▶ [ReconciledReject] ▶ [ReconcileOverdue]

各部	機能
検索	ユーザーが選択した条件に基づいて該当するグループを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログボックスに表示されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[ドキュメントの検索]ダイアログボックス

次に、[ドキュメントの検索]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

次に、[ドキュメントの検索]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

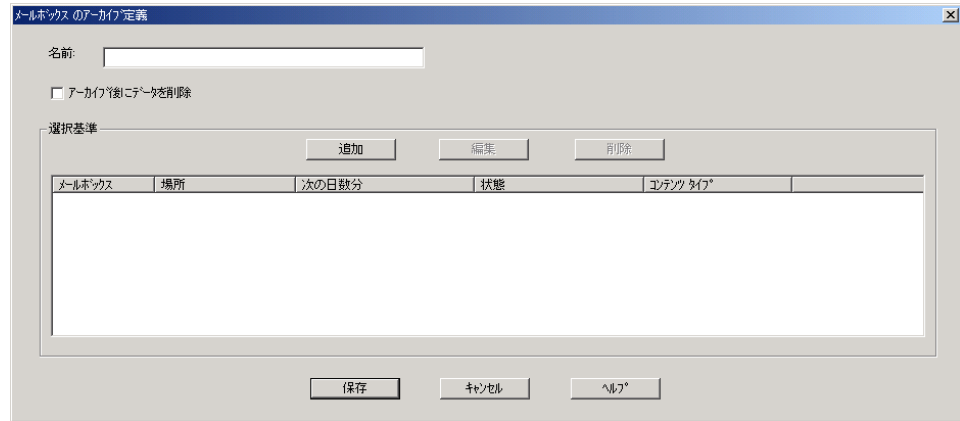
各部	機能
パートナー	パートナー プロファイル ID (既定値は [All]) を選択します。
方向	[両方向] (インバウンドおよびアウトバウンド)、[インバウンド]、または [アウトバウンド] を選択します。
Control Number	Control Number を指定します。
トランザクション ID	トランザクション ID を指定します。
参照データ	トランスレーション オブジェクトから参照データを指定します。
ドキュメント名	トランスレーション オブジェクトに対して設定されているドキュメント名を指定します。

各部	機能
受信状態	<p>検索するドキュメントの受信確認のステータスを選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [Received] ▶ [ReconcileWaiting] ▶ [ReconciledOK] ▶ [ReconciledErrors] ▶ [ReconciledPartial] ▶ [ReconciledReject] ▶ [ReconcileOverdue]
完全一致	フィールドの完全一致を検索します。部分一致 (既定値) ではありません。
検索	ユーザーが選択した条件に基づいて該当するドキュメントを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックスに表示されます。
キャンセル	ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス

図

次に、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

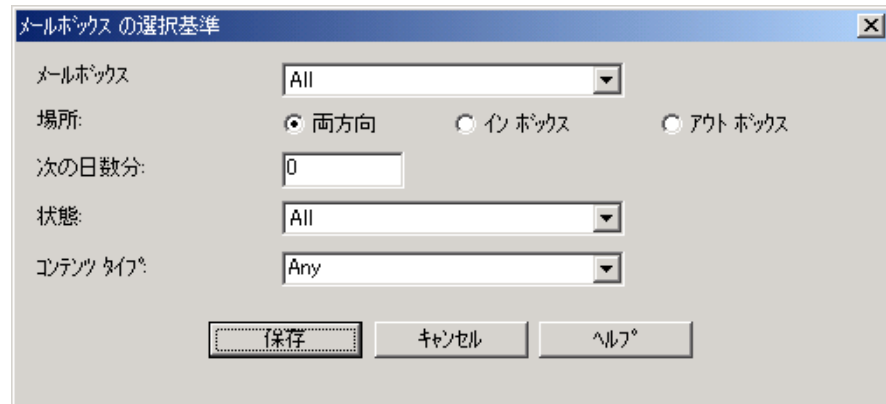
次に、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前	アーカイブ定義ファイルの名前を指定します。 メモ この名前は、一意にする必要があります。
アーカイブ後にデータを削除	アーカイブ後にメッセージデータをシステムから削除するように指定します。
追加	[メールボックス選択基準] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、新しいアーカイブ基準を定義できます。
編集	選択したメールボックス基準の [メールボックス選択基準] ダイアログ ボックスが開きます。これを使用して、アーカイブ基準を変更できます。
削除	選択したメールボックス基準をシステムから削除します。 注意 基準を削除するとき、削除してよいかどうかを確認するメッセージは表示されません。
メールボックス	メールボックス名を表示します。
場所	メッセージが格納されている場所を表示します。

各部	機能
次の日数分	メッセージをアーカイブする経過期間 (日付) を表示します。
状態	保存するメッセージのステータスを表示します。既定値は [All] です。
コンテンツ タイプ	メッセージのコンテンツ タイプを表示します。既定値は [Any] です。
保存	アーカイブ定義を保存して、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス

図 次に、[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

次に、[メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
メールボックス	メールボックス (既定値は [All]) を選択します。
場所	[両方向] (インボックスおよびアウトボックス)、[インボックス]、または [アウトボックス] を選択します。
次の日数分	アーカイブされるメッセージの経過日数 (日付) を指定します。
状態	アーカイブされるメッセージのステータスを選択します。有効な値は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [Delivered] ▶ [Picked Up] ▶ [Read] ▶ [Sent] ▶ [Sent Third Party]

各部	機能
コンテンツ タイプ	<p>メッセージのコンテンツ タイプを選択します。有効な値は次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ [Any] (既定値) ◆ [Application/EDI] ◆ [Application/Document-EDI] ◆ [Application/Import] ◆ [Application/rosettanet-agent] (Gentran:Server for RosettaNet がインストールされている場合のみ) <p>メモ この編集ボックスを使用して、作成済みのコンテンツ タイプを入力することができます。</p>
保存	選択基準を保存して、[メールボックス選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[メールボックス選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[メールボックスの検索] ダイアログ ボックス

図 次に、[メールボックスの検索] ダイアログ ボックスを示します。

各部と機能

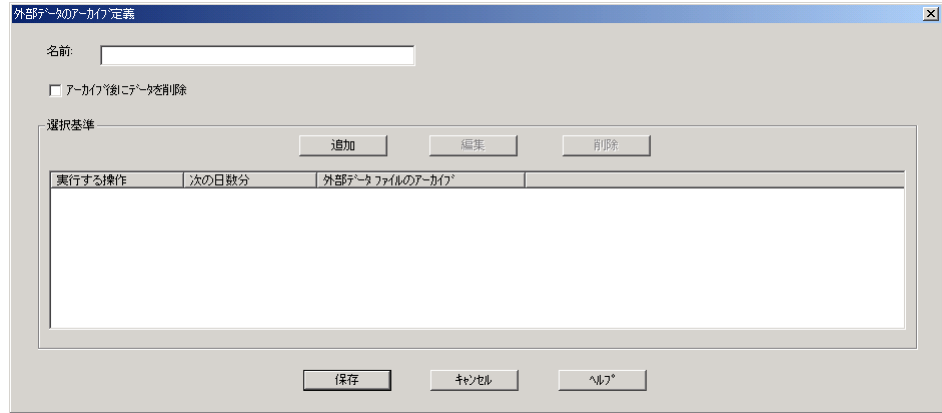
次に、[メールボックスの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
メールボックス	メールボックス (既定値は [All]) を選択します。
場所	[両方向] (インボックスおよびアウトボックス)、[インボックス]、または [アウトボックス] を選択します。
状態	アーカイブするメッセージの状態を指定します。有効な値は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [All] (既定値) ▶ [Sent] ▶ [Read] ▶ [Delivered] ▶ [Picked Up] ▶ [Sent Third Party]
コンテンツタイプ	メッセージのコンテンツタイプを選択します。既定値は [任意] ですが、ユーザーが作成した任意のコンテンツタイプを入力できます。

各部	機能
作成する期間	この日時の範囲に作成したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式)。 メモ 矢印をクリックすると、カレンダー上で日付を指定できます。
送る期間	この日時の範囲に送信したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式)。 メモ 矢印をクリックすると、カレンダー上で日付を指定できます。
受け取る期間	この日時の範囲に受信したデータを検索するように定義します (YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式)。 メモ 矢印をクリックすると、カレンダー上で日付を指定できます。
検索	ユーザーが選択した条件に基づいて該当するメッセージを検索し、その結果が [検索結果] ダイアログ ボックスに表示されます。
キャンセル	[メールボックスの検索] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[外部データのアーカイブ定義]ダイアログボックス

次に、[外部データのアーカイブ定義]ダイアログボックスを示します。



各部と機能

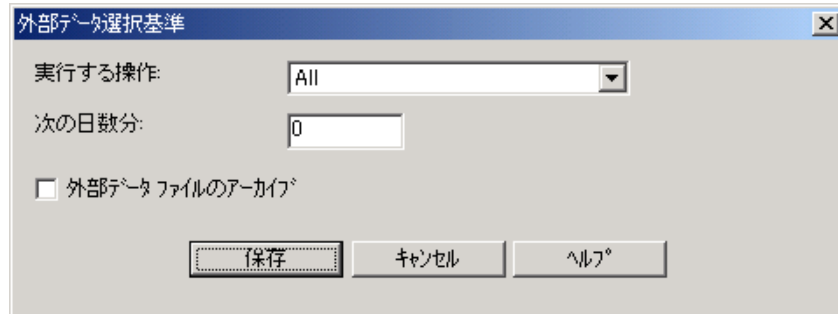
次に、[外部データのアーカイブ定義]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
名前	アーカイブ定義ファイルの名前を指定します。 メモ この名前は、一意にする必要があります。
アーカイブ後にデータを削除	アーカイブ後にメッセージデータを削除するように指定します。既定では選択されています。
追加	[外部データ選択基準]ダイアログボックスが開きます。これを使用して、新しいアーカイブ基準を定義できます。
編集	選択した基準の [外部データ選択基準]ダイアログボックスが開きます。これを使用してアーカイブ基準を変更できます。
削除	選択した外部データ基準をシステムから削除します。 注意 基準を削除するとき、削除してよいかどうかを確認するメッセージは表示されません。

各部	機能
実行する操作	外部データ ファイルに対して実行された動作が表示されます。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ [All] (既定値) ◆ [ProcessFile] ◆ [MBProcessFile] ◆ [Import] ◆ [MBImport] ◆ [Send] ◆ [Export]
次の日数分	アーカイブされる外部データ ファイルの経過日数 (日付) を指定します。
外部データファイルのアーカイブ	アーカイブされた外部データファイルを表示します。
保存	アーカイブ定義を保存して、[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[外部データ選択基準] ダイアログ ボックス

図 次に、[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

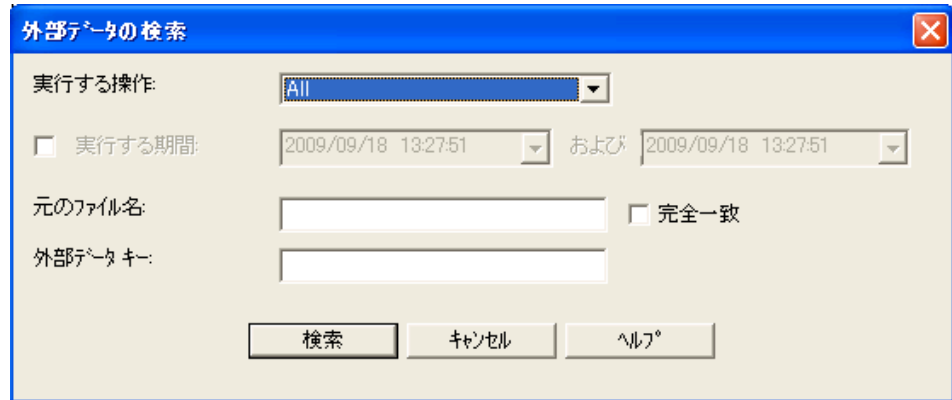
次に、[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
実行する操作	外部データ ファイルに対して実行された動作を選択します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● [All] (既定値) ● [ProcessFile] ● [MBProcessFile] ● [Import] ● [MBImport] ● [Send] ● [Export]
次の日数分	アーカイブされる外部データ ファイルの経過日数 (日付) を指定します。
外部データ ファイルのアーカイブ	外部データ ファイルがアーカイブされることを示します。
保存	選択基準を保存して、[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
キャンセル	[外部データ選択基準] ダイアログ ボックスを閉じます。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。

[外部データの検索] ダイアログ ボックス

図

次に、[外部データの検索] ダイアログ ボックスを示します。



各部と機能

[外部データの検索] ダイアログ ボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

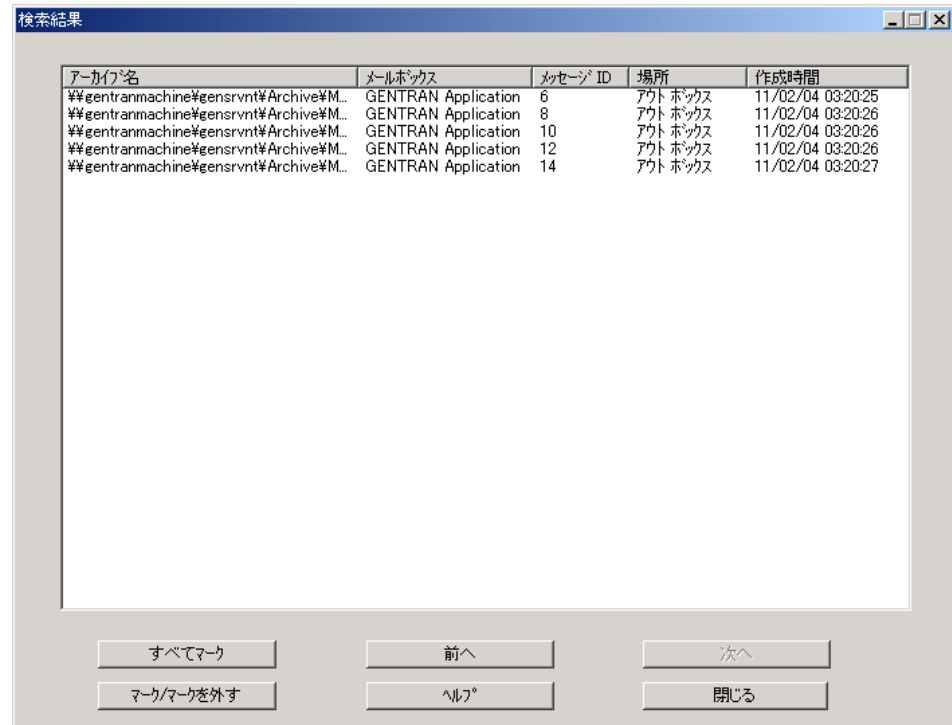
各部	機能
実行する操作	<p>検索する外部データ ファイルに対して実行する動作を選択します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [All] (既定値) ● [ProcessFile] ● [MBProcessFile] ● [Import] ● [MBImport] ● [Send] ● [Export]
実行する期間	<p>外部データ ファイルに対して動作が実行されたタイミングを指定することにより、検索を行う日時の範囲を定義します (YYYY/MM/DD HH:MM:SS 形式)。</p> <p>メモ 矢印をクリックすると、カレンダー上で日付を指定できます。</p>
元のファイル名	<p>検索する外部データ ファイルの元のファイル名を指定します。</p>
外部データ キー	<p>検索する外部データ キーを指定します。</p>

各部	機能
完全一致	フィールドの完全一致を検索します。部分一致(既定値)ではありません。
検索	ユーザーが選択した条件に基づいて該当するメッセージを検索し、その結果が[検索結果]ダイアログボックスに表示されます。
キャンセル	[外部データ検索]ダイアログボックスを閉じます。
ヘルプ	オンラインヘルプにアクセスします。

[検索結果] ダイアログ ボックス

図

次に [検索結果] を示します。アーカイブされたメールボックス メッセージに対して実行した検索の結果が表示されています。



各部と機能

次に、[検索結果] ダイアログ ボックスの各部とその機能をまとめます。

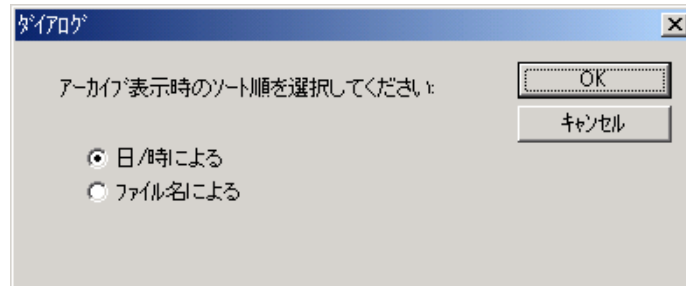
各部	機能
(リスト)	検索した対象 (インターチェンジ、グループ、ドキュメント、メッセージ、または外部データ) に応じて、各状況に対応した情報が表示されます。
すべてマーク	[検索結果] ダイアログ ボックス内のすべてのアイテムに、復元されることを示すマークを付けます。
前へ	リスト内の前のアイテムを選択します。 メモ このボタンは、アーカイブ ファイルを選択した場合にのみ有効になります。

各部	機能
次へ	リスト内の次のアイテムを選択します。 メモ このボタンは、アーカイブ ファイルを選択した場合にのみ有効になります。
マーク / マークを外す	復元するために選択したアイテム (または選択解除したアイテム) にフラグを付けます。 メモ この切り替えボタンは、アーカイブ ファイルを選択した場合にのみ有効になります。
ヘルプ	オンライン ヘルプにアクセスします。
閉じる	[検索結果] ダイアログ ボックスを終了します。

[ソート順]ダイアログボックス

図

次に、[アーカイブ]ツリー表示でのアーカイブデータの並び替え方法を選択するとき使用する[ソート順]ダイアログボックスを示します。



アクセス方法

[アーカイブ]メニューから[選択]を選択します。

各部と機能

次に、[ソート順]ダイアログボックスの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
アーカイブ表示時のソート順を選択してください	次の並び替えオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [日/時による] ▶ [ファイル名による]
OK	選択した並び替え順を実行し、ダイアログボックスを終了します。
キャンセル	並び替え順を変更せずに、ダイアログボックスを終了します。

アーカイブ定義の作成

手順

アーカイブの定義ファイルを作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。</p>
2	<p>アーカイブ ツリーを展開します。</p> <p>メモ この操作は、新しいアーカイブ定義を作成するために必要となります。</p>
3	<p>Gentran EDI、メールボックス、または外部データの下にある [定義] を右クリックし、ショートカット メニューから [新規作成] を選択すると、アーカイブ パラメータを定義できます。</p> <p>システムからの応答 [Gentran EDI アーカイブ定義] ダイアログ ボックス、[メールボックスのアーカイブ定義] ダイアログ ボックス、または [外部データのアーカイブ定義] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[名前] ボックスに、アーカイブ定義の名前を入力します。</p>
5	<p>アーカイブした後、Gentran:Server システムからそのデータを削除するかどうかによって、次を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除する場合は、[アーカイブ後にデータを削除] チェック ボックスをオンにして次のステップに進みます。 ▶ 削除しない場合は、次のステップに進みます。
6	<p>[追加] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 該当する [選択基準] ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
7	<p>適切なパラメータを設定します。</p> <p>参照 詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [インターチェンジ選択基準] ダイアログ ボックス 10-13 ページ ▶ [メールボックスの選択基準] ダイアログ ボックス 10-25 ページ ▶ [外部データ選択基準] ダイアログ ボックス 10-31 ページ <p>メモ [選択基準] ダイアログ ボックスのすべての要素は、全データをアーカイブする、という既定値に自動的に設定されます。</p>

ステップ	操作	
8	<p>[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [選択基準] ダイアログ ボックスが終了します。</p>	
9	<p>別のアーカイブ基準を作成するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、ステップ 6 からステップ 8 を繰り返します。 ▶ 作成しない場合は、次のステップに進みます。 	
10	<p>該当する [アーカイブ定義] ダイアログ ボックスで、[保存] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ パラメータを含むアーカイブ定義ファイルが作成されます。定義ファイルは、拡張子 .ARD で格納されます。</p>	
11	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	手順
	アーカイブ基準を編集する	[アーカイブ定義] ダイアログ ボックスで適切なアイテムを選択して、[編集] をクリックします。
アーカイブ基準を削除する	[アーカイブ定義] ダイアログ ボックスで適切なアイテムを選択して、[削除] をクリックします。	

データのアーカイブ

始める前に

データをアーカイブする前に、選択基準を含むアーカイブ定義ファイルを作成する必要があります。

参照

詳細については、「アーカイブ定義の作成 10 - 37 ページ」を参照してください。

手順

データをアーカイブするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	アーカイブ処理を実行する前に、Gentran:Server システムのバックアップを取ります。
2	[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。 システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。
3	アーカイブ ツリーを展開して、適切な [定義] フォルダを開きます。
4	適切なアーカイブ定義を右クリックし、ショートカット メニューから [データのアーカイブ] を選択します。 システムからの応答 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アーカイブ処理が実行されます。対話型の進捗ダイアログ ボックスに、アーカイブ処理の現在の状態が表示されます。必要に応じて、アーカイブをキャンセルすることもできます。 ▶ 指定したパラメータに基づいてデータがアーカイブされ、Archives フォルダに新しいファイルが作成されます。 命名規則 アーカイブ ファイル作成時の命名規則では、アーカイブ定義ファイルの名前にアーカイブの日付と時刻を加えたものが、アーカイブ ファイルの名前になります。拡張子は .ARV です。
5	アーカイブ処理が完了したら、[アーカイブ マネージャ]のツリー表示で適切なアーカイブ フォルダを右クリックし [リフレッシュ] を選択します。 システムからの応答 データ ファイルを作成した日付および時刻のアーカイブ ファイルが表示されます。

アーカイブ データの表示

手順

アーカイブされた情報を表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。</p>	
2	<p>アーカイブ ツリーを展開して、適切な[アーカイブ]フォルダを開きます。</p>	
3	<p>アーカイブ フォルダで、内容(概要または詳細)を表示するアーカイブ データ ファイルを探すか、または特定のデータを検索し、そのファイルの左にある "+" をクリックします。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ ファイルが表示されます。アーカイブ ファイルを選択すると、各アイテムの概要情報が表示されます。</p> <p>参照 各レベルで表示できる情報については、「アーカイブ マネージャ 10 - 5 ページ」を参照してください。</p>	
4	<p>[アーカイブ]メニューから[選択]を選択し、[アーカイブ]のツリー表示でのアーカイブ データの並べ替え方法を選択して[OK]をクリックします。</p>	
5	<p>追加情報を表示するには、ツリーの適切なレベルを選択し、下表に従って次に行う操作を決めます。</p> <p>メモ 「なし」は、特定のアイテムを選択したときに表示される情報を表します。</p>	
	表示するアイテム	実行する操作
	<p>アーカイブ ファイル情報 ([アーカイブ マネージャ]の右上のペインに表示)</p>	<p>アーカイブ ファイルを選択します。</p>
<p>インターチェンジ情報([アーカイブ マネージャ]の右上のペインに表示)</p>	<p>インターチェンジを選択します。</p>	

ステップ	操作	
5 (続き)	インターチェンジデータ オーディット (アーカイブ マ ネージャの右上のペインに表 示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリッ クします。 ▶ ショートカット メニューから [表示]>[データ オーディ ット]を選択します。
	インターチェンジのトラック 情報 ([アーカイブ マネー ジャ]の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリッ クします。 ▶ ショートカット メニューから [表示]>[トラック情報]を選 択します。
	インターチェンジ ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリッ クします。 ▶ ショートカット メニューから [データ]>[外部ビューア]を 選択します。
	インターチェンジ ファイル ([アーカイブ マネージャ]の 右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジを右クリッ クします。 ▶ ショートカット メニューから [表示]>[データ]>[画面]を 選択します。
	グループ情報 (アーカイブ マ ネージャの右上のペインに表 示)	グループを選択します。
	ドキュメント情報 ([アーカイ ブ マネージャ]の右上のペイ ンに表示)	ドキュメントを選択します。
	ドキュメント データ オー ディット ([アーカイブ マネージャ]の右上のペイン に表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックし ます。 ▶ ショートカット メニューから [表示]>[データ オーディ ット]を選択します。
	ドキュメントのトラック情報 ([アーカイブ マネージャ]の 右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックし ます。 ▶ ショートカット メニューから [表示]>[トラック情報]を選 択します。
	ドキュメント ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントを右クリックし ます。 ▶ ショートカット メニューから [表示]>[データ]>[外部 ビューア]を選択します。

ステップ		操作
5 (続き)	メッセージ情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	メッセージを選択します。
	メッセージデータ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メッセージを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
	添付情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	添付を選択します。
	添付データ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付を右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
	添付ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付を右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [外部ビューア] を選択します。
	添付ファイル ([アーカイブ マネージャ] の右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 添付を右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [画面] を選択します。
	外部データ情報 ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	外部データ ファイルを選択します。
	外部データ オーディット ([アーカイブ マネージャ] の右上のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データ ファイルを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ オーディット] を選択します。
外部データ ファイル (外部ビューアに表示)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部データ ファイルを右クリックします。 ▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [外部ビューア] を選択します。 	

ステップ	操作	
5 (続き)	外部データ ファイル ([アーカイブ マネージャ] の右下のペインに表示)	<ul style="list-style-type: none">▶ 外部データ ファイルを右クリックします。▶ ショートカット メニューから [表示] > [データ] > [画面] を選択します。
システムからの応答 要求した情報が表示されます。		



アーカイブ データの検索

はじめに

アーカイブ マネージャの検索機能を使用すると、アーカイブ ファイルの検索に使用するパラメータをすばやく定義して、特定の情報を見つけることができます。その中から必要な情報を選択すると、アーカイブ マネージャのツリー表示でその情報が反転表示になります。

手順

特定のアーカイブ データを検索するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。 システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。
2	[アーカイブ サブシステム] ツリーから、適切な (Gentran EDI、メールボックス、または外部データの) アーカイブ フォルダを選択します。
3	[アーカイブ]メニューから [検索] を選択して、メッセージ、インターチェンジ、グループ、ドキュメント、または外部データを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ メッセージ ▶ インターチェンジ ▶ グループ ▶ ドキュメント ▶ 外部データ システムからの応答 適切な [検索] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	適切なパラメータを選択します。 メモ 検索ダイアログ ボックスのパラメータを変更しなかった場合は、既定値 (すべてのアイテム) が検索されます。
5	[検索] をクリックすると、検索が実行されます。 システムからの応答 [検索結果] ダイアログ ボックスが表示されます。 参照 検索ダイアログ ボックスで実行できる動作についての詳細は、「データのアーカイブ 10 - 39 ページ」を参照してください。
6	[閉じる] をクリックして、[検索結果] ダイアログ ボックスを閉じます。

アーカイブデータの復元

概要

復元機能

"復元"機能を使用すると、[復元されたインターチェンジ]ブラウザでデータの表示および再実行を行うことができます。データが復元されるときに、アーカイブデータファイル(*.ARVファイル)は変更されません。したがって、必要に応じて、同じアーカイブファイルからデータを再度復元することができます。

復元における 注意事項

データを復元するには、次の手順を完了します。

- ▶ アイテムは、アーカイブした後に削除する必要があります。
- ▶ メッセージデータの場合、元のメールボックスが存在している必要があります。

メモ

元のメールボックスが存在しない場合は再作成されます。この複製メールボックスには、元のメールボックスのすべてのプロパティが複製されるわけではありません。

参照

アーカイブ後削除機能についての詳細は、「アーカイブ定義の作成 10 - 37 ページ」を参照してください。

アーカイブ ファイルのテープへ の移動

アーカイブ機能で作成したアーカイブデータファイルの数が多くなり、空きディスク領域が少なくなってきた場合は、アーカイブデータファイルをテープに移動することもできます。

メモ

Gentran:Server には、アーカイブファイルをテープにコピーする機能は用意されていません。アーカイブファイルをテープに移動した場合、そのファイルをアーカイブ検索機能で認識することはできません。テープに移動したファイルは、テープに保存した状態で開くことはできません。アーカイブマネージャでそのアーカイブファイルを表示するためには、テープから Archives フォルダに読み込み直す必要があります。

推奨事項

適切なテープ管理システムを使用して、テープに保存されているアーカイブファイルをトラッキングすることをお勧めします。

手順

アーカイブ データを復元するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[アーカイブ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 アーカイブ マネージャが表示されます。</p>	
2	<p>アーカイブ ツリーを展開し、復元するアイテムを探します。</p>	
3	<p>アイテムを右クリックし、ショートカット メニューから [マーク] > [マークを外す] を選択します。</p> <p>システムからの応答 復元するアイテムにフラグが付けられます。</p>	
4	<p>[データの復元] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 マークされているデータがシステムに復元されます。</p> <p>メモ データが復元できない場合は、オーディット ログの表示を促すメッセージが表示されます。オーディット ログには、失敗の原因についての詳細情報が表示されます。</p>	
5	<p>復元されたデータを表示するには、次の表に従ってください。</p>	
	復元データ	表示に使用するツール
	インターチェンジ	<p>[復元されたインターチェンジ] ブラウザ</p> <p>参照 詳細については「インターチェンジの表示方法」を参照してください。</p>
	メッセージ	<p>メールボックス サブシステム</p> <p>参照 詳細については、『コミュニケーションズ ガイド』を参照してください。</p>
外部データ ファイル	<p>外部データ概要ビューア</p> <p>参照 詳細については、「外部データ ファイルの表示 6-8 ページ」を参照してください。</p>	

[復元されたインターチェンジ]ブラウザ

はじめに

[復元されたインターチェンジ]ブラウザを使用して、アーカイブ ファイルから復元したすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストを表示できます。このブラウザには、インターチェンジの状態に関する情報 (ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認の状態など) が表示されます。

情報の編成

[復元されたインターチェンジ]ブラウザでは、情報が階層構造で編成されています。次の表に、[復元されたインターチェンジ]ブラウザの情報の階層構造をまとめます。

レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン) (すべての情報が表示されるわけではありません)
インターチェンジ	[復元されたインターチェンジ]ブラウザを開きます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ インターチェンジの方向 ▶ インターチェンジが作成された日時 ▶ パートナー名 ▶ Control Number ▶ インターチェンジ処理のステータス ▶ ネットワークの状態 ▶ インターチェンジ受信確認の状態 ▶ メッセージの状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のインターチェンジに適切でない場合には、表示されません。</p>
グループ	インターチェンジをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グループ Control Number ▶ グループの種類 ▶ 受信確認グループの状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のグループに適切でない場合には、表示されません。</p>

レベル	アクセス方法	表示される情報 (中央のペイン) (すべての情報が表示されるわけではありません)
ドキュメント	グループをダブルクリックします。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントの適合状況 ▶ ドキュメント Control Number ▶ ドキュメントの種類 ▶ ドキュメント名 ▶ 参照データ ▶ ドキュメントの適合状況 ▶ トランザクション受信確認の状態 <p>メモ これらのコンポーネントのいずれかが欠けているか、または特定のドキュメントに適切でない場合には、表示されません。</p>
ドキュメント データ	ドキュメントをダブルクリックします。 メモ システム上で対象のドキュメントの画面入力トランスレーションオブジェクトを利用できることが、必須条件です。	ドキュメント データ

ブラウザの機能

[復元されたインターチェンジ] ブラウザでは、次の機能を実行できます。

- ▶ [インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックスで日付、パートナー、および方向 (インバウンドとアウトバウンド) をフィルタ条件に設定して、インターチェンジを表示できます。
- ▶ 外部データ、生の EDI データ、および選択したインターチェンジまたはドキュメントのトランスレータ レポート データを、ブラウザ内の適切なペインに表示できます。

メモ

EDI データや外部データを表示するときには、[表示] メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト] から [16 進] に切り換えることができます。

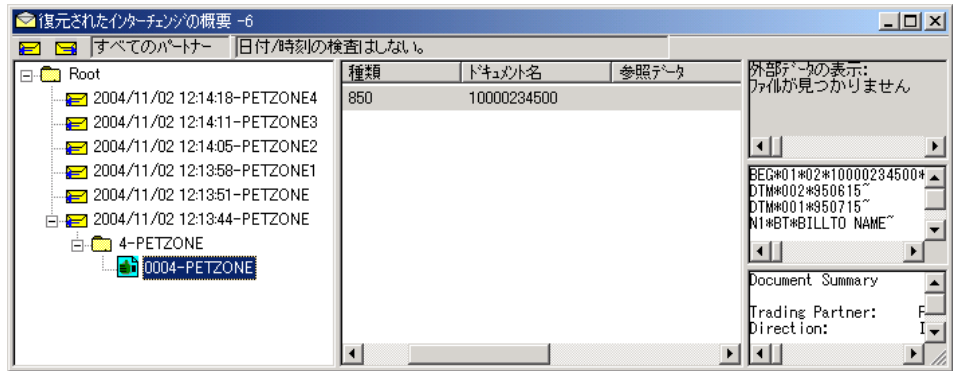
- ▶ インターチェンジのステータスを送信準備完了から保留に (またはその逆に) 切り替えることができます。
- ▶ 選択したアイテムを印刷または削除できます。

メモ

インターチェンジをすぐには送信しない場合、この切り替え機能を使用するとよいでしょう。

図

次に、[復元されたインターチェンジの概要] ブラウザを示します。



各部と機能

[復元されたインターチェンジ] ブラウザの各部とその機能は次のとおりです。




各部	機能
ステータス バー	<p>[インターチェンジのフィルタ] ダイアログ ボックス 7-8 ページで指定したフィルタの指定事項が反映されます。</p> <p>メモ 中央のペインからアイテムを1つ選択すると、[電子商取引 (EC) マネージャ] のステータス バーが更新されます。</p>
左のペイン - インターチェンジ ツリー	<p>復元されたすべてのインターチェンジ、グループ、およびドキュメントのリストが表示されます。また、作成時刻およびパートナー名も表示されます。</p> <p>メモ [復元されたインターチェンジの概要] ブラウザの表示をリフレッシュするには、F5 を押します。</p> <p>参照 詳細については、以下を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 表示可能なアーカイブ情報 10 - 5 ページ ▶ ドキュメントレベルの状態アイコン 10 - 51 ページ



各部	機能
中央のペイン - 詳細なリスト	<p>選択されたドキュメント、グループ、またはインターチェンジの詳細情報が表示されます。階層に依存した情報が表示されます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のアイテムを選択するには、Ctrl を押したままアイテムを選択します。 ▶ [インターチェンジ] ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから [リフレッシュ] を選択します (または、F5 を押します)。
右上のペイン - 外部データ	<p>トランスレーションで使用されたデータファイルが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [復元されたインターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションは、詳細リストから 1 アイテムだけ選択された場合のみ有効です。 ▶ このオプションは、トランスレーション内で使用するデータファイルが存在しない場合は選択できません。 ▶ EDI データ、または、外部データを表示するとき、[表示] メニューから [テキスト] から [16 進] へ切り替えることができます。
右中央のペイン - Gentran データ	<p>データが EDI 書式で表示されます (このオプションを [表示] メニューの [復元されたインターチェンジ] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このオプションは、詳細リストから 1 アイテムだけ選択された場合のみ有効です。 ▶ EDI データ、または、外部データを表示するとき、[表示] メニューから [テキスト] から [16 進] へ切り替えることができます。
右下のペイン - トランスレータレポート	<p>トランスレータがこのドキュメントに対して実行した動作のレポート、および EDI またはトランスレーションオブジェクトに関するエラーのリストが表示されます (このオプションを [表示] メニューの [インターチェンジの復元] から選択した場合)。</p> <p>メモ</p> <p>このオプションは、詳細リストから 1 アイテムだけ選択された場合のみ有効です。</p> <p>参照</p> <p>トランスレータレポートの詳細については、『管理ガイド』の「エラーメッセージ」を参照してください。</p>

ドキュメントレベル
の状態アイコン

次に、[復元されたインターチェンジ]ブラウザのドキュメントレベルで使用される状態アイコンをまとめます。

状態	アイコン	説明
OK		(緑)-ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。
失敗		<p>(赤)- 次のいずれかの状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ドキュメントが、EDI Standard に適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータレポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI Standard に完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。 ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディングパートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーのリストには "不明" と表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ]ブラウザからドキュメントを添付します。 ▶ 適切な取引関係またはトランスレーションオブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーションオブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディットログに記録されます。この問題を解決するには、[パートナーエディタ]を使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンドトランスレーションオブジェクトを定義する必要があります。 ▶ インターチェンジ、ファンクショナルグループ、またはトランザクションレベルエンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。最初と最後の Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウン、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータレポートにエラーが表示されます。
重複		(黄色)- このドキュメントに、システム上の別のドキュメントと同じ名前が付けられていることを示します。

復元されたインターチェンジの表示

手順

復元されたインターチェンジを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[データの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [復元されたインターチェンジ]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>	
2	<p>インターチェンジを、状態でフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フィルタをかける場合は、「復元されたインターチェンジの表示のフィルタ方法 10 - 54 ページ」を参照してください。 ▶ フィルタをかけない場合は、ステップ 3 に進みます。 <p>メモ "フィルタ"機能を使用すると、復元されたインターチェンジを日付、パートナー、および方向(インバウンドまたはアウトバウンド)でフィルタをかけて表示することができます。</p>	
3	インターチェンジを選択します。	
4	次の表に従って、次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択
	選択したインターチェンジの内容を EDI データ書式で表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジの復元]を選択します。 ▶ サブメニューから[Gentran データ]を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>

ステップ	操作	
5 (続き)	対応する外部データファイルを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジの復元]を選択します。 ▶ サブメニューから[外部データ]を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジのトランスレータレポートを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジの復元]を選択します。 ▶ サブメニューから[トランスレータレポート]を選択します。
	選択したインターチェンジまたはインターチェンジの概要を印刷する	[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。
	選択したインターチェンジと、これに関連するすべてのドキュメントを削除する	<p>[ドキュメント]メニューから[削除]を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 状態が“順番待ち”のインターチェンジを削除すると、アウトドキュメントおよびトレーディングパートナーのインボックスで、特定のメッセージを削除する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。そのまま続けると、パートナーの処理結果が Control Number の順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジの Control Number を修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。 ▶ 状態が“送信準備完了”のインターチェンジを削除すると、パートナーの処理結果が Control Number の順番に基づく場合は、トランザクション、グループ、およびインターチェンジの Control Number を修正する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。

復元されたインターチェンジの表示のフィルタ方法

手順

復元されたインターチェンジをパートナーおよび日付順でフィルタ表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[データの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [復元されたインターチェンジ]ブラウザが表示されます。</p>
2	<p>[コマンド]メニューから[フィルタ]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [インターチェンジのフィルタ]ダイアログボックスが表示されます。</p>
3	<p>インターチェンジを、日時でフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ フィルタをかけない場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオンにしてステップ6に進みます。 ◆ フィルタをかける場合は、[日付/時刻の検査をしない]チェックボックスをオフにしてステップ4に進みます。
4	<p>[開始日時]スライドバーを使用して、表示するインターチェンジの日付範囲の始まりを指定します。</p>
5	<p>日付範囲の終わりを、常に現在のシステム日付および時刻にするかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ システム日時にしない場合は、[常に現在]チェックボックスをオフにし、[終了日時]スライドバーで日付範囲の終わりを設定します。 ◆ 常に現在のシステム日時にする場合は、[常に現在]チェックボックスをオンにします。
6	<p>復元されたインターチェンジを、パートナーでフィルタをかけて表示するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ フィルタをかけない場合は、ステップ7に進みます。 ◆ フィルタをかける場合は、表示するパートナーを[パートナー]リストボックス(すべてのパートナープロファイルを表示)から選択します。 <p>メモ 既定の設定ではすべてのパートナーが表示されますが、パートナープロファイルをクリックして選択解除し、表示を変更することもできます。すべてのパートナープロファイルの選択を解除するには、[すべてのパートナーを選択しない]をクリックします。その後、1つ以上のパートナープロファイルをクリックすれば、そのプロファイルを選択できます。少なくとも1つのパートナーを選択する必要があります。</p>

ステップ	操作
7	<p data-bbox="596 310 1406 373">インターチェンジをどの方向でフィルタをかけて表示するかによって次の操作を実行します。</p> <p data-bbox="596 396 683 426">既定値</p> <p data-bbox="596 428 1406 552">既定では、インバウンド インターチェンジおよびアウトバウンド インターチェンジの両方が表示されます。[インバウンド] または [アウトバウンド] チェックボックスをクリックして方向をクリアします。</p> <p data-bbox="596 575 655 604">メモ</p> <p data-bbox="596 606 1406 669">少なくとも 1 つの方向チェックボックスが選択されている必要があります。</p>
8	<p data-bbox="596 693 887 722">[OK] をクリックします。</p> <p data-bbox="596 745 858 774">システムからの応答</p> <p data-bbox="596 777 1406 837">復元されたインターチェンジが、指定した基準でフィルタされて表示されます。</p>

復元されたドキュメントの表示

はじめに

インターチェンジ内の個々のドキュメントを表示するためには、各ドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。

手順

復元されたインターチェンジからドキュメントを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク] の適切な領域から、[データの復元] を選択します。</p> <p>システムからの応答 [復元されたインターチェンジ] ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ] ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカット メニューから [リフレッシュ] を選択します (または、F5 を押します)。</p>
2	<p>ドキュメントを選択して次のステップに進むか、ドキュメントをダブルクリックして表示します。</p> <p>メモ このドキュメントの画面入力トランスレーション オブジェクトが使用可能である必要があります。</p>

ステップ	操作	
3	ドキュメントを選択したら、次の表に従って次に行う操作を決めます。	
	実行する操作	選択
	このドキュメントのトランスレータレポートを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ [トランスレータレポート]を選択します。
	選択したインターチェンジの内容を EDI データ書式で表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ サブメニューから[Gentran データ]を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>
	選択したインターチェンジに関連する外部データを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [表示]メニューから[インターチェンジ]を選択します。 ▶ サブメニューから[関連外部データ]を選択します。 <p>メモ EDI データや外部データを表示するときには、[表示]メニューから適切なコマンドを選択することによって、[テキスト]から[16進]に切り換えることができます。</p>
	選択したドキュメントまたはトランスレータレポートを印刷する	[ファイル]メニューから[印刷]を選択します。
	選択したドキュメントを削除する	[ドキュメント]メニューから[削除]を選択します。
	適切なブラウザにドキュメントをコピーする	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ドキュメント]メニューから[コピー]を選択します。 ▶ サブメニューから、適切なブラウザ(適合するインバウンドドキュメントの場合は[?インドキュメント]ブラウザまたは[インドキュメント]ブラウザ、アウトバウンドドキュメントの場合は[ワークスペース]ブラウザ)を選択します。

復元されたドキュメントの再処理

はじめに

[復元されたインターチェンジ]ブラウザからデータを再処理するには、選択したアウトドキュメントを[コピー]コマンドで[ワークスペース]に移動し、適合するインバウンドドキュメントを[インドキュメント]または[?インドキュメント]ブラウザに移動する必要があります。

手順

データを再処理するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]の適切な領域から、[データの復元]を選択します。</p> <p>システムからの応答 [復元されたインターチェンジ]ブラウザが表示されます。</p> <p>メモ [インターチェンジ]ブラウザの表示をリフレッシュするには、中央のペインを右クリックし、ショートカットメニューから[リフレッシュ]を選択します(または、F5を押します)。</p>
2	<p>ドキュメントを再処理および再送できるようにするため、[ワークスペース]ブラウザ、[インドキュメント]ブラウザ、または[?インドキュメント]ブラウザにコピーするドキュメントを選択します。</p>
3	<p>[ドキュメント]メニューから[コピー]を選択します。</p>
4	<p>カスケードメニューから適切なブラウザを選択して、復元されたインターチェンジを選択したブラウザにコピーします。</p>

復元されたインターチェンジの再送

はじめに

[復元されたインターチェンジ] ブラウザからアウトバウンド インターチェンジを再送するには、[再送] コマンドを使用する必要があります。

メモ

再送できるインターチェンジは、以前に送信されたものか、状態が [送信準備完了] のもののみです。

再送プロセス

次に、選択したインターチェンジを再送した場合に発生するプロセスをまとめます。

段階	説明
1	<p>復元されたインターチェンジが、[復元されたインターチェンジ] ブラウザ内のリストに表示されます。</p> <p>参照 登録する方法については、復元されたインターチェンジの表示のフィルタ方法 10 - 54 ページ を参照してください。</p>
2	<p>再送コマンドが実行されると、まずは TRADACOMS インターチェンジであるかどうかを判別されます。インターチェンジが TRADACOMS である場合、FIL セグメント内の現在のバージョン番号が 1 増分されます。インターチェンジは、この更新の後にほかのインターチェンジと同じ方法で再送されます。</p>
3	<p>リモート エンドとのコミュニケーションが確立されます。コミュニケーション セッションが成功したかどうかに応じて、メッセージのステータスが更新されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メールボックスが設定されていない、メールボックス サービスが開始されていない、などの理由でコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "送信準備完了 ?E" の状態のままとなります。 ▶ モデムが見つからないためにコミュニケーションが失敗した場合、インターチェンジおよびドキュメントは "順番待ち" の状態のままとなります。 <p>メモ この時点では、ユーザ側の動作はいっさい必要ありません。送信に失敗したインターチェンジは、次回の伝送セッションの一部として自動的に送信されます。</p>
4	<p>コミュニケーションが成功すると、ドキュメントは [アウト ドロワ] ブラウザに移動し、インターチェンジの状態が "送信済み" に設定されます。</p>

手順

復元されたアウトバウンド インターチェンジを自動的に再送するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] の適切な領域から、[データの復元] を選択します。 システムからの応答 [復元されたインターチェンジ] ブラウザが表示されます。
2	再送するアウトバウンド インターチェンジを選択します。
3	[ドキュメント] メニューから [再送] を選択します。 システムからの応答 [Gentran:Server for Windows] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	[はい] をクリックして、伝送セッションを開始します。

第 11 章

プロセス管理の使い方

目次

▶	はじめに.....	11-2
セッション	11-3
▶	概要.....	11-3
▶	セッションの作成.....	11-9
▶	セッションの編集.....	11-12
▶	セッションの削除.....	11-16
イベント	11-17
▶	概要.....	11-17
▶	新しいイベントの作成.....	11-25
▶	イベントの編集.....	11-29
▶	イベントの削除.....	11-33
▶	イベントの表示.....	11-34
▶	イベントのアクティブ化と一時停止.....	11-38
▶	イベントの即時実行.....	11-40
カレンダー	11-41
▶	概要.....	11-41
▶	カレンダーの作成と編集.....	11-43
▶	カレンダーの削除.....	11-45

はじめに

本章の内容

この章では、Gentran:Server のプロセス管理の使用方法を説明します。

プロセス管理の機能

プロセス管理は、メッセージ処理を自動化するためのシステム機能です。基本的に、ユーザーは実行する処理とそのタイミングを設定するだけでよく、後はプロセス管理によって自動的に運用されます。

プロセス管理を使用すると、Gentran:Server の処理機能を開始するためのイベントをカスタマイズして構築できます。これらの処理機能には、次の処理などが該当します。

- ▶ アプリケーション ファイルからのデータのインポート
- ▶ アプリケーション ファイルへのデータのエクスポート
- ▶ 送信
- ▶ 受信

また、ファイル管理機能やプロセス管理機能を実行できるため、アプリケーションと Gentran:Server を統合して使用する際の柔軟性が向上します。

イベント作成処理

プロセス管理は、" イベント " によって制御されます。イベントとは、実行する処理 (セッション) とセッションを処理するタイミング (カレンダ、曜日、日付、またはファイルの有無) との組み合わせのことです。イベントを作成するには、次の手順に従います。

段階	説明
1	プロセス管理セッションを作成します。 参照 詳細については、「セッションの作成 11 - 9 ページ」を参照してください。
2	必要に応じて、プロセス管理カレンダを作成します。 参照 詳細については、「カレンダの作成と編集 11 - 43 ページ」を参照してください。
3	プロセス管理イベントを作成します。 参照 詳細については、「新しいイベントの作成 11 - 25 ページ」を参照してください。
4	イベントをアクティブにします。 参照 詳細については、「イベントのアクティブ化と一時停止 11 - 38 ページ」を参照してください。

セッション

概要

はじめに

セッションの定義は、プロセス管理イベントに不可欠な要素です。セッションの設定プロセスを使用して、プロセス管理セッション スクリプトを設定および編集することができます。セッションはイベントとは別に定義されるので、同じセッション定義を何回でもスケジュールすることができます。

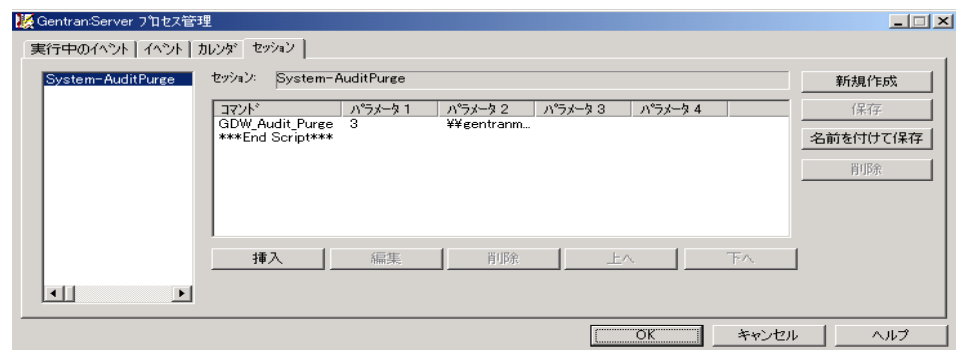
セッション スクリプトについて

セッション スクリプトは、コマンド (Gentran:Server の関数) のリストで構成されます。システム内では、セッション スクリプトに記載された順番どおりにコマンドが実行されます。使用可能な各コマンドにパラメータを設定できます。選択したコマンドに条件を設定することもできます。これらの条件によって、セッション内でコマンドを実行するかどうかが決まります。

条件は、2種類指定できます。まず、特定のファイルの有無を照会する条件を指定できます。次に、特定の場所にドキュメントが存在するかどうかを識別する条件を指定できます。条件を評価した結果が True であれば、コマンドが実行されます。条件を評価した結果が False であれば、そのコマンドをスキップして、その次に定義されているコマンドから処理が続行されます。

[プロセス管理] ダイアログボックス ([セッション] タブ)

次の図に、[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [セッション] タブを示します。



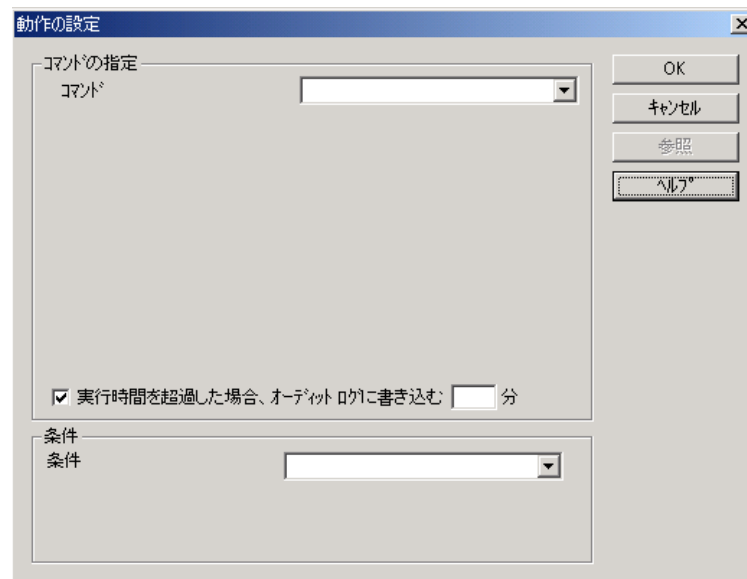
[セッション] タブ の各部と機能

次の表に、[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [セッション] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(リスト)	定義済みのセッション スクリプトのすべてが表示されます。
セッション	現在選択されているセッションのスク립トが表示されます。
挿入	[動作の設定] ダイアログ ボックスが開いて、現在の行の上にスク립ト コマンドを挿入できる状態になります。
編集	[動作の設定] ダイアログ ボックスが開いて、選択したスク립ト コマンドを変更できる状態になります。
削除	選択しているスク립ト コマンドを削除します。
上へ	選択したスク립ト コマンドを、スク립ト内の1つ上の行に移動します。
下へ	選択したスク립ト コマンドを、スク립ト内の1つ下の行に移動します。
新規作成	[新しいセッション] ダイアログ ボックスが開いて、新しいセッションを作成できる状態になります。
保存	現在のセッション スクリプトを保存します。
名前を付けて保存	現在のセッション スクリプトを別の名前で保存します。
削除	選択したセッションを削除します。

[動作の設定] ダイアログボックス

次に、[動作の設定] ダイアログボックスを示します。



[動作の設定] ダイアログボックスの各部と機能

[動作の設定] ダイアログボックスの各部とその機能は、次のとおりです。

各部	機能
コマンドの指定	スクリプトに追加するコマンドを選択します。 メモ コマンドを選択すると、そのコマンドのパラメータが [コマンドの設定] セクション内に表示されます。
実行時間を超過した場合、オーディットログに書き込む	コマンドの実行時間が指定された分数 (次のフィールド) を超過した場合に、オーディットメッセージが書き込まれるように指定できます。 メモ コマンドの実行時間が割り当て時間を超過した場合、オーディットログに警告メッセージが書き込まれますが、コマンドの実行は完了するまで続行されます。
分	一定の時間を経過してもコマンドの処理が終了しない場合、オーディットログにメッセージが書き込まれますが、この書き込みが行われる経過時間数を分単位で指定します。
条件	コマンドの条件を選択します。これらの条件によって、セッション内でコマンドを実行するかどうかが決まります。



コマンド

次の表に、スクリプト コマンドおよびその動作をまとめます。

メモ

これらのコマンドについての詳細は、Gentran:Server のオンライン ヘルプを参照してください。

コマンド	操作
Exec_Program	<p>実行するプログラムを指定します。</p> <p>メモ このコマンドが実行されると、[オーディット ログ] に、どのプログラム(作業ディレクトリ内のコマンド ライン)が実行されたかを示す情報メッセージが書き込まれます。</p>
Exec_Program_Ex	<p>実行するプログラム、およびイベント ID やコントローラ名を渡すプログラムを指定します。</p> <p>メモ この関数は、Gentran:Server for RosettaNet のインストールプログラムで使用されます。</p>
File_Copy	<p>ファイルをコピーします。</p> <p>メモ このコマンドが実行されると、[オーディット ログ] に、ファイルのコピーが成功したことを示す情報メッセージが書き込まれます。</p>
File_Rename	<p>ファイルの名前を変更します。</p>
File_Delete	<p>ファイルをシステムから削除します。</p> <p>メモ このコマンドが実行されると、[オーディット ログ] に、ファイルの削除が成功したことを示す情報メッセージが書き込まれます。</p>
GDW_Archive	<p>選択したアーカイブ定義ファイルの定義に基づいて、アーカイブ コマンドを実行します。</p>
GDW_Audit_Rpt	<p>オーディット レコードを指定されたファイルにコピーします。</p>
GDW_Audit_Purge	<p>システム内のオーディット レコードをすべて削除します。</p> <p>メモ 削除されたオーディット ログ エントリは、データベースから削除され、テキスト ファイルに追加されます。テキスト ファイルが大きくなってしまうのを防ぐため、File_Delete コマンドを追加することもできます。</p>

コマンド	操作
GDW_Audit_Write	指定されたパラメータに基づいて、オーディット ログにプロセッシング ユーザー オーディット メッセージを書き込みます。
GDW_Document_Purge	指定された日付 / 期間、場所、パートナー名、トランザクションまたはステータスに基づいて、ドキュメント レコードを Gentran:Server データベースから削除します。
GDW_Document_Rpt	指定されたステータス、場所、または日付 / 期間に基づいて、 Gentran:Server データベース内のドキュメントのドキュメント データ (および、該当する場合はグループおよびインターチェンジ データ) が保存されるファイルを作成します。
GDW_Export	" エクスポート " 機能を実行します。また、インバウンド トランスレーションの出力をメールボックス サーバー マネージャに戻すことができるようにする送信メールボックス機能を実行することができます。 メモ エクスポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_ExtData_Delete	外部データまたは期間に対して実行された動作に従い、外部データ参照を削除します。
GDW_Import	指定されたファイルからの " インポート " 機能を実行します。 メモ インポート トランスレーション オブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Notify_Purge	システムのすべての通知レコードを削除します。もしくは経過期間が指定されている場合は、その条件で削除します。 メモ 削除された通知ログ エントリは、データベースから削除され、テキスト ファイルに追加されます。テキスト ファイルが大きくなってしまふのを防ぐため、 File_Delete コマンドを追加することもできます。
GDW_Partner_Delete	パートナー削除コマンドを実行します。
GDW_Partner_Import	パートナー インポート コマンドを実行します。
GDW_Partner_Export	パートナー エクスポート コマンドを実行します。

コマンド	操作
GDW_Print	“印刷”機能を実行します。 メモ 印刷トランスレーションオブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Process_File	コミュニケーションセッションによってファイルを受信する場合と同じように、EDIファイルでコミュニケーション後、処理を呼び出します。 メモ エクスポートトランスレーションオブジェクトをシステムに登録しておく必要があります。
GDW_Receive	受信のみの機能が実行されます。
GDW_Send	(特にパートナー、メールボックス、トランザクションの組み合わせを指定しない場合には、)ポストされたドキュメントがあるすべてのパートナーとメールボックスに対し、自動送信が実行されます。
GDW_Send_Receive	"送信/受信"機能を実行します。この機能は、直前に実行した送信/受信セッションの終了を待たず、指定時に送信/受信を実行します。
Terminate_Script	スクリプトを終了します。

条件

次の表に、スクリプト条件およびその動作をまとめます。

条件	条件に基づく動作
以下のファイルが存在する場合	指定したファイルがシステム内で検索され、そのファイルが見つかったかどうかを条件にしてコマンドが実行されます。
ドキュメントが以下の場所に存在する場合	指定された場所のドキュメントが検索され、その場所でドキュメントが見つかったかどうかを条件にしてコマンドが実行されます。

セッションの作成

手順

プロセス管理のセッションを作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
セッションの作成	
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]アイコンをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[セッション]タブをクリックして、セッション オプションを表示します。</p> <p>システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます ([セッション]タブ)</p>
3	<p>[新規作成]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [新しいセッション]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
4	<p>[セッション名]ボックスに、新しいセッションの名前を入力します。名前には、英数字が使用できます。</p> <p>メモ ハイフン (-) も使用できます。</p>
5	<p>[OK]をクリックすると、新しいセッションが追加されます。</p>
セッション スクリプトの作成	
1	<p>新しいセッションが選択されている状態で[挿入]をクリックすると、現在の行の上にコマンドが挿入されます。</p> <p>システムからの応答 [動作の設定]ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログ ボックスを使ってスクリプト コマンドを作成することができます。</p>
2	<p>[コマンド]リストでコマンドを選択します。</p> <p>メモ [コマンド]リストを使用すると、スクリプトに追加するコマンドを選択できます。また、その下にある[動作の設定]セクションで、コマンドのパラメータを設定できます。</p> <p>コマンドを選択すると、ダイアログ ボックスの[コマンドの設定]セクションにボックスが追加表示される場合もあります。</p>

ステップ	操作
3	<p>ダイアログ ボックスの [コマンドの設定] セクション内のボックスに適切な値を入力します。</p> <p>参照 詳細については、「コマンド 11 - 6 ページ」を参照してください。</p>
4	<p>オーディット ログにメッセージが書き込まれるまでにこのコマンドが処理される時間を、分単位で制限するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、チェック ボックスをオンにして、ボックスに分数を入力します。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。
5	<p>コマンドに条件を適用するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 適用する場合は、[条件] リストから条件を選択します。 ▶ 適用しない場合は、ステップ 8 に進みます。 <p>メモ それぞれのスクリプト コマンドには、条件が関連付けられています。これらの条件はコマンドの実行直前に評価され、セッションの処理の流れを制御するために使用できます。 条件を選択すると、ダイアログ ボックスの [条件] セクションに 2 つのボックスが追加表示されます。</p>
6	<p>ダイアログ ボックスの [条件] セクション内のボックスに適切な値を入力します。</p> <p>メモ [以下のファイルが存在する場合] という条件を選択している場合は、システムによるチェックの対象ファイルの名前を指定するときに、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>
7	<p>条件付き実行を指定したかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定した場合は、[結果] リストから [True] または [False] を選択する必要があります。 ▶ 指定しなかった場合は、次のステップに進みます。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、ドキュメントが指定した場所にある場合、またはファイルが存在している場合にのみコマンドが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、ドキュメントが指定した場所がない場合、またはファイルが存在しない場合にのみコマンドが実行されます。

ステップ	操作
8	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 コマンドが保存され、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスに戻ります。</p>
9	<p>必要なコマンドのすべてをセッション スクリプトに追加するまで、ステップ 1～8 を繰り返します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スクリプト内のコマンドの順番を変更する必要がある場合は、[上へ] および [下へ] ボタンを使用します。 ▶ スクリプト内のコマンドを編集する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [編集] をクリックします。 ▶ コマンドをスクリプトから削除する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [削除] をクリックします。
セッションの保存	
1	<p>[保存] をクリックして、新しいセッション スクリプトを保存します。</p>
2	<p>[OK] をクリックして、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスを閉じます。</p>

セッションの編集

はじめに

実行中またはアクティブにされているセッションがイベントによって呼び出された場合は、そのイベントの処理が終了するか、そのイベントを一時停止にするまで、セッションの編集および保存は行えません。ただし、セッションを編集し、"名前を付けて保存"機能を使用して別の名前で保存することは可能です。

参照

詳細については、「手順：イベントの一時停止 11 - 39 ページ」を参照してください。

手順

既存のセッションを編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[セッション]タブをクリックして、セッションオプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます([セッション]タブ)
3	セッションを選択して、セッション スクリプトを表示します。
4	セッションが選択されている状態で[挿入]をクリックすると、現在の行の上にコマンドが挿入されます。 システムからの応答 [動作の設定]ダイアログ ボックスが表示されます。
5	[コマンド]リストでコマンドを選択します。 メモ [コマンド]リストを使用すると、スクリプトに追加するコマンドを選択できます。また、その下にある[動作の設定]セクションで、コマンドのパラメータを設定できます。 参照 詳細については、「コマンド 11 - 6 ページ」を参照してください。
6	オーディット ログにメッセージが書き込まれるまでにこのコマンドが処理される時間を、分単位で制限するかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、チェック ボックスをオンにして、ボックスに分数を入力します。 ▶ 指定しない場合は、次のステップに進みます。

ステップ	操作
7	コマンドを選択すると、ダイアログ ボックスの [コマンドの設定] セクションにボックスが追加表示される場合もあります。これらのボックスに適切な値を入力します。
8	コマンドに条件を適用する場合は、[条件] リスト ボックスから条件を選択します。
9	<p>条件を選択すると、ダイアログ ボックスの [条件] セクションに 2 つのボックスが追加表示されます。これらのボックスに適切な値を入力します。</p> <p>メモ [以下のファイルが存在する場合] という条件を選択している場合は、システムによるチェックの対象ファイルの名前を指定するとき、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>
10	<p>条件付き実行を指定する場合は、[結果] リスト ボックスから [True] または [False] を選択する必要があります。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、ドキュメントが指定した場所にある場合、またはファイルが存在している場合にのみコマンドが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、ドキュメントが指定した場所がない場合、またはファイルが存在しない場合にのみコマンドが実行されます。
11	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 コマンドが保存され、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
12	<p>セッション スクリプトに必要なコマンドをすべて追加するまで、ステップ 4 ~ 11 を繰り返します。スクリプト内のコマンドの順番を変更する必要がある場合は、[上へ] および [下へ] ボタンを使用します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スクリプト内のコマンドを編集する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [編集] をクリックします。 ▶ コマンドをスクリプトから削除する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [削除] をクリックします。
13	<p>[保存] をクリックして、新しいセッション スクリプトを保存します。</p> <p>メモ セッションを別の名前でも保存する場合は、[名前を付けて保存] をクリックして新しいセッション名を入力し、[OK] をクリックします。</p>

ステップ	操作
7	コマンドを選択すると、ダイアログ ボックスの [コマンドの設定] セクションにボックスが追加表示される場合もあります。これらのボックスに適切な値を入力します。
8	コマンドに条件を適用する場合は、[条件] リスト ボックスから条件を選択します。
9	<p>条件を選択すると、ダイアログ ボックスの [条件] セクションに 2 つのボックスが追加表示されます。これらのボックスに適切な値を入力します。</p> <p>メモ [以下のファイルが存在する場合] という条件を選択している場合は、システムによるチェックの対象ファイルの名前を指定するとき、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>
10	<p>条件付き実行を指定する場合は、[結果] リスト ボックスから [True] または [False] を選択する必要があります。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、ドキュメントが指定した場所にある場合、またはファイルが存在している場合にのみコマンドが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、ドキュメントが指定した場所がない場合、またはファイルが存在しない場合にのみコマンドが実行されます。
11	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 コマンドが保存され、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに戻ります。</p>
12	<p>セッション スクリプトに必要なコマンドをすべて追加するまで、ステップ 4 ~ 11 を繰り返します。スクリプト内のコマンドの順番を変更する必要がある場合は、[上へ] および [下へ] ボタンを使用します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スクリプト内のコマンドを編集する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [編集] をクリックします。 ▶ コマンドをスクリプトから削除する必要がある場合は、そのコマンドを選択して [削除] をクリックします。
13	<p>[保存] をクリックして、新しいセッション スクリプトを保存します。</p> <p>メモ セッションを別の名前でも保存する場合は、[名前を付けて保存] をクリックして新しいセッション名を入力し、[OK] をクリックします。</p>

ステップ	操作
14	[OK] をクリックして、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログボックスを閉じます。

セッションの削除

はじめに

実行中のセッションまたはアクティブなセッションがイベントによって呼び出された場合は、そのイベントの処理が終了するか、またはそのイベントを一時停止にするまで、このセッションを削除できません。

参照

詳細については、「手順：イベントの一時停止 11 - 39 ページ」を参照してください。

手順

セッションを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] で [プロセス管理] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[セッション] タブをクリックして、セッション オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([セッション] タブ)
3	セッションを選択して [削除] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4	[はい] をクリックして、現在の選択を削除します。
5	[OK] をクリックして、[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスを閉じます。

イベント

概要

はじめに

イベントは、次の事項の組み合わせで構成されます。

- ▶ 実行する時刻または日付、もしくはチェックの対象となるファイルの名前
- ▶ イベントの処理を実行するコントローラ
- ▶ セッション定義

プロセス管理では、時間の限定またはポーリングに基づいてイベントが実行されます。イベントは、セッション定義で定義します。

プロセス管理を使用すると、毎日指定した時間にイベントを実行することができます。追加オプションを使用して、特定の曜日や日付に処理が実行されるように制限することができます。さらに、処理スケジュールから特定の休日や曜日を除外するようにカレンダーを定義することもできます。

次のダイアログ ボックスを使用して、イベントを管理します。

- ▶ [プロセス管理]ダイアログ ボックス ([イベント] タブ)
- ▶ [イベントの設定]ダイアログ ボックス
- ▶ [プロセス管理]ダイアログ ボックス ([実行中のイベント] タブ)

始める前に

イベントを作成する前に、実行するセッション定義を定義しておく必要があります。

参照

詳細については、「セッションの作成 11 - 9 ページ」を参照してください。

時間指定されているイベント

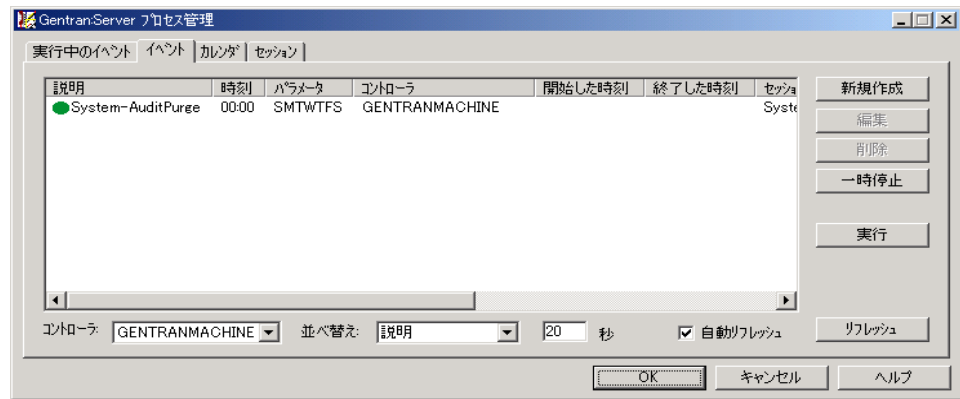
時間指定されているイベントをアクティブにすると、Gentran スケジューラによって該当する曜日または日付の正確な時刻にイベントが開始されます。

ポーリングされるイベント

ポーリングされるイベントをアクティブにすると、Gentran ポーラがコントローラをポーリングして (イベント定義で指定された内容に基づいて) 定義済みファイルの有無を確認し、(イベント定義に基づいて) 指定されたファイルが存在する場合、あるいは存在しない場合にイベントが開始されます。

[プロセス管理]ダイアログボックス ([イベント]タブ)

次に、[プロセス管理]ダイアログボックスの[イベント]タブを示します。



[イベント]タブの各部と機能

次の表に、[プロセス管理]ダイアログボックスの[イベント]タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(リスト)	スケジュールされたイベントがすべて表示されます。

各部	機能	
コントローラ	フィルタ条件にする、イベントを実行するコントローラを選択します。	
並べ替え	イベント リストの並べ替え方法を選択します。	
	並べ替えの基準	イベントの配列順序
	説明 (既定値)	イベントの説明を基準にして、アルファベット順に並べ替えます。
	コントローラ	コントローラごとにアルファベット順に並べ替えます。 メモ イベントは、コントローラごとにイベント説明のアルファベット順に表示されます。
状況	現在処理中のイベント (赤のインジケータ) を 1 番目、アクティブになっているイベント (緑のインジケータ) を 2 番目、一時停止しているイベント (黄色のインジケータ) を 3 番目にして並べ替えます。 メモ 各ステータスにおいて、イベントのリストはイベント説明のアルファベット順に配列されます。	
秒	[秒] ボックスに、ダイアログ ボックスの表示を更新する間隔 (秒単位) を指定します (既定値は 20 秒)。	
自動リフレッシュ	[プロセス管理] ダイアログ ボックスの表示が自動的に更新されるように設定するかどうかを指定します ([リフレッシュ] をクリックする必要がなくなります)。	
新規作成	[イベントの設定] ダイアログ ボックス が開いて、新しい イベント エントリを作成できる状態になります。	
編集	[イベントの設定] ダイアログ ボックス が開いて、選択した イベント エントリを変更できる状態になります。	
削除	選択された イベント エントリを削除します。	

各部	機能
アクティブ / 一時停止	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択したイベントが一時停止になっている場合 (黄色のインジケータ)、[アクティブ]/[一時停止] トグル ボタンに [アクティブ] と表示されます。 ▶ 選択したイベントがアクティブになっている場合 (緑のインジケータ)、[アクティブ]/[一時停止] トグル ボタンに [一時停止] と表示されます。
実行	<p>GENTRAN:Server のプロセス管理ダイアログによりスケジュールされたイベントを即時に実行することができます。この機能により、セッションを手動で実行することができ、新しいイベントや、失敗したイベントのテストに使用できます。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ このボタンでただちに実行されたイベントは、スケジュール上の次のイベントに代わって実行されるわけではありません。 ▶ このボタンをクリックするとき、情報メッセージボックスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> — 選択されたイベントが 30 分以内に実行されるようにスケジュールされている場合、イベントが実行される時、今すぐ実行するかどうかの確認を求められます (今すぐ実行する場合は、[OK] をクリック、要求をキャンセルする場合は、[キャンセル] をクリックします)。 — 選択されたイベントが 30 分以内に実行されるようにスケジュールされていない場合、即時に実行するかどうかの確認を求められます (今すぐ実行する場合は、[OK] をクリック、要求をキャンセルする場合は、[キャンセル] をクリックします)。
リフレッシュ	[イベント] タブの表示を更新します。

[イベントの設定] ダイアログボックス

次に、[イベントの設定] ダイアログ ボックスを示します。

[イベントの設定] ダイアログボックス の各部と機能

[イベントの設定] ダイアログ ボックスの各部分とその機能は、次のとおりです。

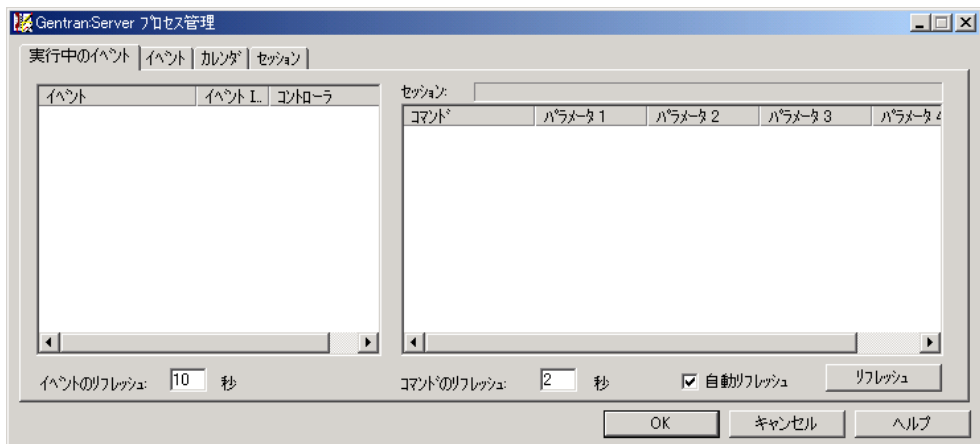
各部	機能
説明	イベントの説明を入力します。
セッション	[セッション] タブで定義したセッションを選択します。
コントローラ	イベントを実行するコントローラの名前を指定します。
通知タイプ イベント	このイベントを "通知タイプ" に指定します。これによって、通知ログに設定したパラメータに基づいて、このイベントが実行されるようになります。 メモ このチェックボックスを選択すると、[時刻] タブと [ポーリング] タブは非アクティブになります。
時刻タブ	
開始	セッションの実行開始時刻を指定します。 メモ 時刻は、24 時間制の HH:MM 形式で入力してください。その他の形式で時刻を入力した場合、システム内では入力された値を 24 時間制の時刻に置き換えようとしています。

各部	機能
まで	<p>このイベントが停止する時刻を指定します。</p> <p>メモ 24 時間制 (HH:MM 形式)、または 12-時間制 (HH:MM または H:MM 形式) を使用できます。12 時間制では、"a" (AM) および "p" (PM) を使用します。</p> <p>メモ イベントは設定された間隔に関係なく、停止時刻に実行されます。イベントを一度だけ実行させるには、停止時刻と間隔を入力しないでください。</p>
分	<p>次にイベントを実行するまでの間隔を指定します。</p> <p>例 たとえば、「15」分と指定すると、イベントは 15 分ごとに実行されます。</p>
カレンダー	<p>[カレンダー] タブで定義したカレンダーを選択します。このセッションをスケジュールするときにチェックの対象にするカレンダーです。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ カレンダーを使用して、選択したセッションを実行しない日付を月別に指定できます。 ▶ [日付] ボックスを使用する場合、[カレンダー] ボックスは使用できません。
日 / 月 / 火 / 水 / 木 / 金 / 土	<p>イベントを実行する曜日を指定します。</p>
日付	<p>イベントを実行する日付を指定します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ この日付は任意の書式で入力できますが、入力する日付の順序は Windows 国際日付書式に準拠させる必要があります (例えば、米国では、日付は月 / 日 / 年の書式で入力する必要があります)。 ▶ [カレンダー] ボックスからカレンダーを選択した場合、または曜日を選択した場合には、[日付] フィールドは使用できません。

各部	機能
ポーリング タブ	
ファイル名	システムによるチェックの対象になるファイルの名前を指定します。 メモ ファイル名の指定には、ワイルドカード (*) を使用できます。
参照	[ネットワーク サーバーの選択] ダイアログ ボックスが開き、チェックの対象になるファイルを参照して指定することができます。
結果	結果が [True] または [False] のいずれの場合にイベントを実行するかを示します。 メモ <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、指定したファイルが存在しているときにのみイベントが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、指定したファイルが存在しないときにのみイベントが実行されます。

[プロセス管理] ダイアログ ボックス ([実行中のイベント] タブ)

次の図に、[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [実行中のイベント] タブを示します。



[実行中のイベント] タブの各部と機能

[プロセス管理] ダイアログ ボックスの [実行中のイベント] タブの各部とその機能は次のとおりです。

各部	機能
(イベント リスト)	現在実行中のイベントが表示されます。
(セッションリスト)	各コマンド、および現在実行中のイベントのセッション スクリプトに関する関連パラメータがリスト表示されます。 メモ 緑の矢印は、現在実行中のコマンドを示します。
イベントのリフレッシュ	[実行中のイベント] リストを更新する間隔 (既定値は 10 秒) を指定します。有効な値は、2 秒 ~ 300 秒です。 メモ <ul style="list-style-type: none"> この値は、ダイアログ ボックス上のフォーカスを変更する (別のボックスをクリックする) と保存されます。 [秒] ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ] チェックボックスを選択 (チェック) しておく必要があります。
コマンドのリフレッシュ	[セッション] リストを更新する間隔 (既定値は 2 秒) を指定します。有効な値は 2 秒 ~ 300 秒です。 メモ <ul style="list-style-type: none"> この値は、ダイアログ ボックス上のフォーカスを変更する (別のボックスをクリックする) と保存されます。 [秒] ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ] チェックボックスを選択 (チェック) しておく必要があります。
自動リフレッシュ	自動リフレッシュを有効にするかどうかを指定します。既定の設定では有効になっているので、[リフレッシュ] をクリックする必要はありません。
リフレッシュ	手動で [実行中のイベント] の表示を更新します。 メモ イベントの有効期限が過ぎた (アクティブでなくなった) 後に [実行中のイベント] タブの表示が更新されていない場合、そのイベントは、[実行中のイベント] タブの表示が更新されるまで、[実行中のイベント] タブに (非アクティブであっても) 表示されたままになります。

新しいイベントの作成

はじめに

イベントは、" 時間限定 " または " ポーリング " で実行するように指定できます。イベントを " 時間限定 " で実行する場合は、実行する時刻、定義済みのカレンダー、曜日を指定するか、1回のみ実行する日付を指定します。イベントの実行時間になると、Gentran スケジューラ サービスによってそのイベントの処理が開始されます。

イベントを " ポーリング " で実行する場合は、ファイル名を指定し、ファイルの有無によってイベントを実行するか否かを指定できます。Gentran ポーラ サービスでは、プロセス コントローラをポーリングします。

- ▶ ファイルが存在する場合にのみイベントを実行するように指定した場合は、ファイルが出現したときにイベントの処理が開始されます。
- ▶ ファイルが存在していない場合にのみイベントを実行するように指定した場合は、コントローラ上にファイルが存在しなくなったときにイベントの処理が開始されます。

手順

イベントを作成するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
新しいイベントの作成	
1	[デスク] で [プロセス管理] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブ)
3	[新規作成] をクリックします。 システムからの応答 [イベントの設定] ダイアログ ボックス が表示され、新しいイベント エントリを作成できる状態になります。
4	[説明] ボックスに、イベントの説明を入力します。
5	[セッション] リストから、実行するセッションを選択します。
6	[コントローラ] ボックスに、このイベントを実行するコントローラのコンピュータ名を入力または選択します。

ステップ	操作
7	<p>このイベントを、通知タイプに設定するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 設定する場合は、チェックボックスをオンにして、「イベントの保存 11 - 28 ページ」のステップ 2 に進みます。 ▶ 設定しない場合は、次のステップに進みます。
時間限定イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[開始時刻] フィールド ([時刻] タブ) に時刻を入力する必要があります。</p> <p>メモ 時刻は、24 時間制の HH:MM 形式で入力してください。</p>
2	<p>イベントの停止時刻を指定する場合は、[時刻] タブの [から] ボックスにその時刻を入力します。</p> <p>メモ 24 時間制 (HH:MM 形式)、または 12 時間制 (HH:MM または H:MM 形式) を使用できます。12 時間制では、"a" (AM) および "p" (PM) を使用します。</p>
3	<p>次にイベントを実行するまでの間隔を指定するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[時刻] タブの [間隔] ボックスにイベントの実行間隔を分単位で入力し、ステップ 4 に進みます。 <p>例 たとえば、「15」分と指定すると、イベントは開始時刻から 15 分ごとに実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数の定義がない場合は、ステップ 4 に進みます。
4	<p>定義済みのカレンダーを使用するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[カレンダー] リストからカレンダーを選択し、ステップ 5 に進みます。 ▶ 使用しない場合は、ステップ 5 に進みます。 <p>メモ カレンダーを使用すると、選択したセッションを実行しない日 (毎月) を指定できます。カレンダーを選択した場合、このセッションを実行する特定の曜日を選択することもできます。ただし、カレンダーを選択した場合、[日付] ボックスに曜日を指定することはできません。</p> <p>参照 カレンダーを定義する必要がある場合は、「カレンダーの作成と編集 11 - 43 ページ」を参照してください。</p>

ステップ	操作
5	<p>このセッションを実行する曜日を選択するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択する場合は、イベントをスケジュールする曜日の横にあるチェックボックスをオンにして、ステップ 6 に進みます。 ▶ 選択しない場合は、ステップ 6 に進みます。 <p>メモ 既定では、すべての曜日が選択されています。このセクションで曜日を選択した場合、選択した曜日のみスケジュールが実行されます。曜日の選択を解除すると、[日付]ボックスが使用できなくなります。</p>
6	<p>このセッションを 1 回のみ実行する日を指定するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[日付]ボックスに日付を入力して、「イベントの保存 11 - 28 ページ」に進みます。 ▶ 指定しない場合は、「イベントの保存 11 - 28 ページ」に進みます。 <p>メモ [日付]ボックスを使用すると、このセッションを 1 回のみ実行する日付を指定することができます。セッションは、実行後にデータベースから削除されます。[日付]ボックスに日付を入力すると、[曜日]チェックボックスは使用できなくなります。</p> <p>書式 この日付は任意の書式で入力できますが、入力する日付の順序は Windows 日付書式の国際オプションに準拠させる必要があります (例えば、米国では、日付は月 / 日 / 年の書式で入力する必要があります、イギリスでは日 / 月 / 年の書式で入力する必要があります。)</p>
ポーリング イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[イベントの設定] ダイアログ ボックスで、[ポーリング] タブをクリックします。</p> <p>システムからの応答 ポーリング オプションが表示されます。</p>
2	<p>[ファイル名] ボックスで、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チェックするファイルのパスおよび名前を入力します。 ▶ [参照] をクリックして、適切なドライブおよびディレクトリからファイルを選択します。 <p>メモ ファイル名の指定には、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>

ステップ	操作
3	<p>[結果] リストで、[True] または [False] を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、指定したファイルが存在しているときにのみイベントが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、指定したファイルが存在しないときにのみイベントが実行されます。
イベントの保存	
1	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 イベントが保存され、[イベントの設定] ダイアログ ボックスが終了します。</p>
2	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

イベントの編集

はじめに

イベントを編集するには、イベントを一時停止させる必要があります。

参照

詳細については、「手順：イベントの一時停止 11 - 39 ページ」を参照してください。

手順

既存のイベントを編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
イベントの編集	
1	[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブ)
3	修正するイベントを選択し、[編集]をクリックします。 システムからの応答 [イベントの設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
4	イベントの説明を変更したい場合は、[説明] ボックスに新しい説明を入力します。
5	別のセッションを実行するように指定する場合は、[セッション] リストから実行するセッションを選択します。
6	このイベントを実行するコントローラを変更する場合は、[コントローラ] ボックスにコンピュータ名を入力します。
7	このイベントを、通知タイプに設定するかどうかによって次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 設定する場合は、チェック ボックスをオンにして、「イベントの保存 11 - 32 ページ」のステップ 2 に進みます。 ▶ 設定しない場合は、次のステップに進みます。

ステップ	操作
時間限定イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[開始]ボックス([時刻]タブ)に、時刻を入力します</p> <p>メモ 24時間制の(HH:MM形式)、または12時間制(HH:MM形式)を使用できます。12時間制では、"a"(AM)または"p"(PM)を使用します。</p>
2	<p>イベントの停止時刻を指定する場合は、[時刻]タブの[から]ボックスにその時刻を入力します。</p> <p>メモ 24時間制(HH:MM形式)、または12時間制(HH:MMまたはH:MM形式)を使用できます。12時間制では、"a"(AM)および"p"(PM)を使用します。</p>
3	<p>次にイベントを実行するまでの間隔を指定するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[時刻]タブの[間隔]ボックスにイベントの実行間隔を分単位で入力し、ステップ4に進みます。 <p>例 たとえば、「15」分と指定すると、イベントは15分ごとに実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定しない場合は、ステップ4に進みます。
4	<p>定義済みのカレンダーを使用するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 使用する場合は、[カレンダー]リストからカレンダーを選択し、ステップ5に進みます。 ▶ 使用しない場合は、ステップ5に進みます。 <p>メモ カレンダーを使用して、選択したセッションを実行しない日付を月別に指定できます。カレンダーを選択した場合、このセッションを実行する特定の曜日を選択することもできます。ただし、カレンダーを選択した場合、[日付]ボックスに曜日を指定することはできません。</p> <p>参照 カレンダーを定義する必要がある場合は、「カレンダーの作成と編集 11-43 ページ」を参照してください。</p>

ステップ	操作
5	<p>このセッションを実行する曜日を選択するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 選択する場合は、該当する曜日の横にあるチェック ボックスをオンにして、ステップ 6 に進みます。 ▶ 選択しない場合は、ステップ 6 に進みます。 <p>メモ 既定では、すべての曜日が選択されています。このセクションで曜日を選択した場合、選択した曜日のみスケジュールが実行されます。曜日の選択を解除すると、[日付]ボックスが使用できなくなります。</p>
6	<p>このセッションを1回のみ実行する日を指定するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 指定する場合は、[日付]ボックスに日付を入力して、「イベントの保存」に進みます。 ▶ 指定しない場合は、そのまま「イベントの保存」に進みます。 <p>メモ このボックスを使用すると、このセッションを1回のみ実行する日付を指定し、実行後にセッションをデータベースから削除するように設定することができます。[日付]ボックスに日付を入力すると、[曜日]チェックボックスは使用できなくなります。</p> <p>書式 この日付は任意の書式で入力できますが、入力する日付の順序はWindows 日付書式の国際オプションに準拠させる必要があります (例えば、米国では、日付は月/日/年の書式で入力する必要があり、イギリスでは日/月/年の書式で入力する必要があります。)</p>
ポーリング イベントの場合は、次の手順に従います。	
1	<p>[イベントの設定] ダイアログ ボックスで、[ポーリング] タブをクリックします。</p> <p>システムからの応答 ポーリング オプションが表示されます。</p>
2	<p>[ファイル名] ボックスで、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ チェックするファイルのパスおよび名前を入力します。 ▶ [参照] をクリックして、適切なドライブおよびディレクトリからファイルを選択します。 <p>メモ 名前の指定には、ワイルドカード (*) を使用できます。</p>

ステップ	操作
3	<p>[結果] リストで、[True] または [False] を選択します。</p> <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [True] を選択した場合、指定したファイルが存在しているときにのみイベントが実行されます。 ▶ [False] を選択した場合、指定したファイルが存在しないときにのみイベントが実行されます。
イベントの保存	
1	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 イベントが保存され、[イベントの設定] ダイアログ ボックスが終了します。</p>
2	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

イベントの削除

はじめに

イベントを削除するには、イベントを一時停止させる必要があります。

参照

詳細については、「手順：イベントの一時停止 11 - 39 ページ」を参照してください。

手順

イベントを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] で [プロセス管理] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブ)
3	イベントを選択して [削除] をクリックすると、選択したイベントが削除されます。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4	[OK] をクリックします。 システムからの応答 イベントが削除されます。
5	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。

イベントの表示

【イベント】タブ

[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスを使用して、システム内に定義されているすべてのイベントを表示できます。

【イベント】タブには、各イベントの次の仕様が表示されます。

- ▶ イベントの説明
- ▶ 時刻
- ▶ パラメータ (時間限定の場合は曜日、ポーリングの場合は結果)
- ▶ イベントを実行するコントローラ
- ▶ 開始時刻
- ▶ 終了時刻
- ▶ セッション名
- ▶ カレンダー名 (時間限定イベントの場合のみ)
- ▶ ファイル名 (ポーリング イベントの場合のみ)

イベント表示のフィルタ操作

【イベント】タブでは、イベントを実行するコントローラでイベントをフィルタして表示することができます。また、説明、コントローラ、および状態でイベントを並べ替えることもできます。

【実行中のイベント】タブ

【実行中のイベント】タブでは、現在実行中のイベントのみを表示することができます。この機能を使用すると、現在実行中のシステム イベント (たとえば、一時コミュニケーションセッション) も表示できます。

【イベント】リスト

【実行中のイベント】タブの【イベント】リスト ボックス (ダイアログ ボックスの左側に) には、現在実行中のすべてのイベントおよび各イベントが実行されているコントローラのリストが表示されます。

【セッション】リスト

【実行中のイベント】タブの【セッション】リスト (ダイアログ ボックスの左側) には、【イベント】リストで選択されているイベントのセッション スクリプトが表示されます。また、【セッション】リストには、各コマンドのすべてのパラメータも表示されます。この詳細表示を使用すると、Gentran エグゼクティブでどのプログラムが実行されているかを確認することができます。現在実行中のセッション コマンドは緑色の矢印で示されます。

手順：全イベントの表示

イベントを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。	
2	[イベント]タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます([イベント]タブ)	
3	イベントを実行するコントローラでイベントをフィルタして表示する場合は、[コントローラ]リストからコントローラを選択します。	
4	次の表に従って、[並べ替え]リストから適切な並べ替えキーを選択します。	
	並べ替える順番	選択
	イベントの説明を基準にして、アルファベット順に並べ替える	説明 メモ これが既定値です。
	コントローラを基準にして、アルファベット順に並べ替える	コントローラ
イベントを次の順番に並べ替える <ol style="list-style-type: none"> 1. 現在処理中のイベント (赤のインジケータ) 2. ブロックされているイベント (緑のインジケータに赤の "x") 3. アクティブなイベント (緑のインジケータ) 4. 一時停止しているイベント (黄色のインジケータ) 		状態

ステップ	操作
5	<p>必要に応じて、"リフレッシュ"オプションを変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイアログ ボックスを自動的にリフレッシュする間隔を変更する場合は、[秒]ボックスにその間隔を秒単位で入力します(既定値は20秒)。有効な値は2～300秒です。 <p>メモ この値は、ダイアログ ボックス上のフォーカスを変更する(別のボックスをクリックする)と保存されます。[秒]ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ]チェックボックスをオンにしておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスの[イベント]タブを自動的にリフレッシュしない(つまり、手で[リフレッシュ]をクリックする)場合には、[自動リフレッシュ]チェックボックスをクリックしてオフにします。 <p>メモ 自動リフレッシュ機能は、既定値で有効になっています(つまり、[リフレッシュ]をクリックする必要はありません)。</p>
6	<p>[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが終了します。</p>

手順：実行中のイベントの表示

アクティブ イベントを表示するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 プロセス管理ダイアログ ボックスが表示されます([イベント]タブをアクティブ)</p>
2	<p>詳細を表示するイベントを、[イベント]リストから選択します。</p> <p>メモ そのイベントのセッション スクリプト内の各コマンドおよび関連するパラメータが、[セッション]リストに表示されます。現在実行中のセッション コマンドは緑色の矢印で示されます。</p>

ステップ	操作
3	<p>必要に応じて、"リフレッシュ"オプションを変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ダイアログ ボックスを自動的にリフレッシュする間隔を変更する場合は、[秒]ボックスにその間隔を秒単位で入力します(既定値は20秒)。有効な値は2～300秒です。 <p>メモ この値は、ダイアログ ボックス上のフォーカスを変更する(別のボックスをクリックする)と保存されます。[秒]ボックスを使用可能にするには、[自動リフレッシュ]チェックボックスをオンにしておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスの[実行中のイベント]タブを自動的にリフレッシュしない(つまり、手動で[リフレッシュ]をクリックする)場合には、[自動リフレッシュ]チェックボックスをクリックしてオフにします。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自動リフレッシュ機能は、既定値で有効になっています(つまり、[リフレッシュ]をクリックする必要はありません)。 ▶ [イベント]リストをリフレッシュする間隔の既定値は10秒です。 ▶ [セッション]リストの表示をリフレッシュする間隔の既定値は2秒です。 ▶ イベントの有効期限が過ぎた(アクティブでなくなった)後に[実行中のイベント]タブの表示が更新されていない場合、そのイベントは、[実行中のイベント]タブの表示が更新されるまで、[実行中のイベント]タブに(非アクティブであっても)表示されたままになります。
4	<p>[OK]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

イベントのアクティブ化と一時停止

はじめに

[Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスの [イベント] タブでは、イベントを " アクティブ化 " または " 一時停止 " することによってイベントの状態を変更できます。 [イベント] タブリストの一番左の列にあるインジケータにより、イベントの状態が登録されています。インジケータの色は、次のいずれかになります。

- ▶ **赤** - イベントは現在実行中で、処理が完了するまで編集できません。
- ▶ **黄** - イベントは一時停止しています。アクティブになるまでは処理されません。
- ▶ **緑** - イベントはアクティブです。
- ▶ **緑に赤の "x"** - イベントはアクティブになっていますが、現在はブロックされています。これは、現在処理中のイベントの数が、同時に実行できるイベント数に達しているためです。

参照

同時に実行できるプロセス管理イベント数の制限の設定については、『管理 ガイド』の「コントローラの設定の変更方法」を参照してください。

手順：イベントの実行

イベントをアクティブにするには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク] で [プロセス管理] をクリックします。 システムからの応答 プロセス管理 ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブをアクティブ)
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブ)
3	一時停止となっていて、アクティブにしたいイベントを選択し、[アクティブ] をクリックします。
4	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。

**手順：イベントの
一時停止**

イベントを一時停止するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。 システムからの応答 プロセス管理 ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブをアクティブ)
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブ)
3	アクティブとなっていて、一時停止にしたいイベントを選択し、[一時停止]をクリックします。 メモ イベントが実行中の場合、そのイベントは、実行が完了するまで一時停止にできません。
4	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。

イベントの即時実行

はじめに

Gentran:Server プロセス管理の [イベント] タブにより、選択されたイベントがただちに実行することができます。この機能では、実行したいプロセス管理のセッションを、ただちに実行することができるので、新しいイベントのテストに役立ちます。

手順

イベントを即時に実行するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作	
1	[デスク] で [プロセス管理] をクリックします。 システムからの応答 プロセス管理 ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブをアクティブ)	
2	[イベント] タブをクリックして、イベント オプションを表示します。 システムからの応答 [プロセス管理] ダイアログ ボックスが表示されます ([イベント] タブ)	
3	一時停止となっていて即時に実行するイベントを選択し、[実行] をクリックします。 システムからの応答 システムからの応答を調べるにはこの表を使用してください。	
	表示メッセージ	操作
	このイベントは、次の <スケジュールされた時間> に実行されます。それとも今実行しますか? 今すぐ <イベント名> を実行しますか?	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 即時にイベントを実行するには、[OK] をクリックしてください。あるいは、 ▶ リクエスト (スケジュール時刻にイベントを実行する) をキャンセルするには、[キャンセル] をクリックしてください。
4	[OK] をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。	

カレンダー

概要

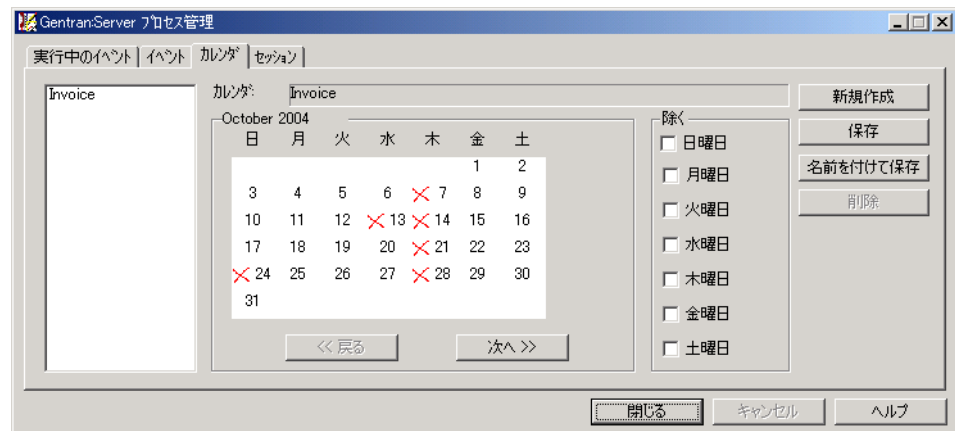
はじめに

プロセス管理の " カレンダー " 機能を使用すると、特定の日付 (祝日など) または曜日を処理から除外してシステム カレンダーを構成できます。

セッション定義と同じく、これらのカレンダーはイベントとは別個に定義できるので、複数のイベント エントリにカレンダーを " 添付 " することができます。カレンダーは現在の年、月から始まります。

[プロセス管理] ダイアログボックス ([カレンダー] タブ)

次に、[プロセス管理] ダイアログボックスの [カレンダー] タブを示します。



[カレンダー] タブの各部と機能

次の表に、[プロセス管理] ダイアログボックスの [カレンダー] タブの各部とその機能をまとめます。

各部	機能
(カレンダー リスト)	定義されたすべてのカレンダーをリスト表示します。
(カレンダー)	選択したカレンダーで、現在の月を表示します。
前へ	<p>カレンダーの表示が、前の月に更新されます。</p> <p>メモ このボタンは、カレンダーが選択されていて、そのカレンダーの 2 番目以降の月が表示されている場合のみアクティブになります。</p>

各部	機能
次へ	<p>カレンダーの表示が、次の月に更新されます。</p> <p>メモ このボタンは、カレンダーが選択されている場合にのみアクティブになります。</p>
除く	<p>処理から除外する曜日を選択します。除外する日には赤い " × " マークが付けられます。</p>
新規作成	<p>[新しいカレンダー] ダイアログ ボックスが開いて、新しいカレンダーを作成できる状態になります。</p>
保存	<p>現在のカレンダーを保存します。</p> <p>メモ [保存] コマンドは、カレンダーがダイアログ ボックスの中央に表示されている場合にのみアクティブになります。</p>
名前を付けて保存	<p>現在のカレンダーを別の名前で保存します。</p> <p>メモ [名前を付けて保存] コマンドは、カレンダーがダイアログ ボックスの中央に表示されている場合にのみアクティブになります。</p>
削除	<p>選択したカレンダーを削除します。</p>

カレンダーの作成と編集

手順

カレンダーを作成または編集するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	<p>[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。</p>
2	<p>[カレンダー]タブをクリックします。</p> <p>システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます ([カレンダー]タブ)</p>
3	<p>新しいカレンダーを作成するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成する場合は、[新規作成]をクリックします。 <p>システムからの応答 [新しいカレンダー]ダイアログ ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 作成しない場合は、編集するカレンダーを選択してステップ 6に進みます。 <p>システムからの応答 [カレンダー]タブの中央にカレンダーが表示されます。</p>
4	<p>[カレンダー名]ボックスに、8文字までの英数字で新しいカレンダー名を入力します。</p>
5	<p>[OK]をクリックすると、新しいカレンダーが追加されます。</p> <p>システムからの応答 [カレンダー]タブの中央に新しいカレンダーが表示されます。</p>
6	<p>特定の日付を処理から除外するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 除外する場合は、該当する日付をカレンダー上でクリックし、ステップ 7に進みます。 ▶ 除外しない場合は、ステップ 7に進みます。 <p>メモ 処理から除外される日付には、カレンダー上にマークが表示されません。カレンダーに表示される月を戻したり先に進めたりするには、[戻る]または[次へ]をクリックします。</p>

ステップ	操作
7	<p>特定の曜日を処理から除外するかどうかによって次の操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 除外する場合は、[除く] セクションで、処理から除外する各曜日のチェックボックスを選択し、ステップ 8 に進みます。 ▶ 除外しない場合は、ステップ 8 に進みます。 <p>メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 処理を実行しない曜日には、1 つの曜日だけでも複数の曜日でも指定できます。 ▶ すべての曜日を除外することも可能です。この場合、処理はいっさい実行されません。 ▶ 曜日の選択を解除するには、そのチェックボックスをオフにします。
8	[保存] をクリックして、新しいカレンダーを保存します。
9	<p>[OK] をクリックします。</p> <p>システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理] ダイアログ ボックスが終了します。</p>

カレンダーの削除

手順

カレンダーを削除するには、次の手順を完了します。

ステップ	操作
1	[デスク]で[プロセス管理]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます。
2	[カレンダー]タブをクリックします。 システムからの応答 [プロセス管理]ダイアログ ボックスが表示されます ([カレンダー]タブ)
3	カレンダーを選択して[削除]をクリックすると、選択したカレンダーが削除されます。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスに、削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
4	[はい]をクリックして、現在の選択を削除します。
5	[OK]をクリックします。 システムからの応答 [Gentran:Server プロセス管理]ダイアログ ボックスが終了します。

用語解説

? イン ドキュメント

このブラウザには、システムによって受信されたが、エラー チェックに合格しなかったドキュメント、または識別可能なパートナーまたはトランザクションセットを持たないドキュメントのリストが表示されます。

? アウト ドキュメント

このブラウザには、システムにインポートされたが、無効であるドキュメントのリストが表示されます。

AIAG

自動車産業行動委員会 (Automotive Industry Action Group) は、自動車業界の標準制定団体です。これらのスタンダードは、ANSI X12 スタンダードのサブセットになっています。

ANA

商品番号割当協会 (Article Numbering Association)

ANSI

American National Standards Institute. ANSI では、さまざまな製品やサービスの標準を制定しています。ANSI X12 委員会は、米国での EDI スタンダードの制定における中心的な組織です。

DTD

DTD (ドキュメント タイプ定義) は、XML ドキュメントまたはメッセージの構造およびセマンティクスを指定するために使用されるスキーマの種類です。

EANA

国際商品番号割当協会 (International Article Numbering Association)、ベルギーのブリュッセルに設置。

EDI

電子データ交換 (Electronic Data Interchange: EDI) とは、企業がコンピュータを使用して、書類を作成することなくビジネスドキュメントをアプリケーション間で直接交換するためのプロセスのことです。

EDIA

電子データ交換協会 (Electronic Data Interchange Association)。以前は輸送データ調整委員会 (Transportation Data Coordinating Committee TDCC) と呼ばれていました。

EDIFACT

行政・商業・運輸向け電子データ交換 (Electronic Data Interchange for Administration, Commerce, and Transport)。



EDI スタANDARD	ビジネスドキュメントを EDI ドキュメントにトランスレートするためのルール。
ODETTE	ヨーロッパ遠隔送信データ交換機構 (Organization for Data Exchange by Tele-Transmission, based in Europe)。
TDCC	「EDIA」を参照してください。
TRADACOMS	商品番号割当協会 (Article Numbering Association) (英国) が公開している英国の EDI 規格。
UCS	Uniform Communications Standard は、食料雑貨業界で使用する標準です。
VICS	Voluntary Inter-industry Communication Standards は小売業界のスタンダード制定団体であり、ANSI X12 のサブセットを定めています。
X12	EDI スタANDARDを制定し公開する ANSI の委員会。
アウトドキュメント	このブラウザには、送信の準備が完了しているドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントは、正常に送信された後、自動的に [アウトドローワ] に転送されます。
アウトドローワ	このブラウザには、正常に送信されたドキュメントのリストが表示されます。
アプリケーションシステム	特定のビジネス機能を遂行するように設計されているコンピュータシステム。会計、購入、資材管理、人事、出荷などのシステムがあります。
暗号鍵	暗号鍵は、暗号操作の要です。暗号鍵を入手することによって、その鍵に関連するデータにアクセスできるようになるため、他人の手に渡らないよう秘密にしておく必要があります。たとえば、ファイルの暗号化に鍵を使用した場合、その鍵にアクセスできる人は誰でもファイルを復号化することができます。さらに、メッセージに署名するために使用する鍵にアクセスできると、メッセージの署名が偽造される可能性もあります。
アンポスト	この機能を使用すると、既に [アウトドキュメント] にポストしたドキュメントを [ワークスペース] に戻して、処理を続行することができます。
移動	この機能を使用すると、1つのドキュメントやドキュメントのグループを [インドキュメント] や [? インドキュメント] から [インドローワ] に移動したり、または [? アウトドキュメント] から [ワークスペース] に移動したりできます。

印刷	このコマンドを使用すると、選択したドキュメントの書式なしバージョンまたは書式付きバージョンを、そのドキュメントのパートナー関係に設定された印刷トランスレーション オブジェクトを使用して印刷できます。また、そのドキュメントの概要リストも印刷できます。
印刷物	トレーディング パートナーから受け取ったデータが印刷トランスレーション オブジェクトへ渡されると出力されます。データを実際に印刷する必要はありません。ハードディスク上のファイルを印刷物にすることもできます。
インターチェンジ	1つの送信処理において、送信者(1名)から受信者(1名)に送られたドキュメントのすべてのファンクショナルグループ(トランザクションセット)を含みます。
インターチェンジ ブラウザ	このブラウザには、送信または受信したすべてのインターチェンジの階層リストを表示できます。このブラウザには、インターチェンジに関するステータス情報(ファンクショナル受信確認を受信したかどうか、およびその受信確認のステータスなど)が表示されます。また、このブラウザでは、インターチェンジ内のドキュメントを表示できます。インターチェンジブラウザはいつでも使用できます。
インドキュメント	このブラウザには、システムによって受信され、ユーザーが未処理のドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの処理(印刷またはエクスポート)が終了すると、ドキュメントは[インドロワー]に転送されます。
インドロワー	このブラウザには、受信され、処理されたドキュメントのリストが表示されます。
インポート	このコマンドを実行すると、外部アプリケーション ファイルからデータをインポートできます。ファイルの内容に応じて、パートナー、トランザクション、またはトランスレーション オブジェクトの情報を入力するように求められます。
エージェンシー	EDI 通信用のスタンダードを開発し更新する組織。ANSI、EDIA、AIAG、UCS、VICS などの組織があります。
エクスポート	この機能を使用すると、1つまたは複数のドキュメントを外部ファイルに書き込んで、別のアプリケーションで処理できるようにすることが可能です。システムエクスポート トランスレーション オブジェクト、またはパートナーに固有のドキュメント用エクスポート トランスレーション オブジェクトが必要です。

エレメント

スタンダードによって定義されている使用可能な最小の情報断片。たとえば、数量、単価、説明などがあります。

各エレメントは、状況に応じてその意味が多少異なります。したがって、通常、エレメントは組み合わせてセグメントの中に収められるまでは、有用な意味を持つとはみなされません。

以下の表のように、3種類のデータ エレメントがあります。

表 1:

データ エレメント	定義
単純データ エレメント	スタンダードによって定義されている単一の情報断片。
複合データ エレメント	複数のコンポーネント エレメントからなるデータ エレメント。
コンポーネント データ エレメント	複合データ エレメントに属する単純なデータ エレメント。コンポーネント データ エレメントはサブエレメントともいいます。

エンベロープ

処理しやすいように送信の際に情報を分割する一手段。エンベロープには、それぞれヘッダー セグメントとトレーラ セグメントが含まれています。これらのセグメントは、そのエンベロープとほかのエンベロープとを区別し、エンベロープの内容に関する情報を提供します。エンベロープには次の3つのレベルがあります。

トランザクション セット

各トランザクション セット (ビジネス ドキュメント) は、トランザクション セット エンベロープに入っています。

ファンクショナル グループ

関連するビジネス ドキュメントが入っているエンベロープです。スタンダードにより、ファンクショナル グループ エンベロープにまとめなければならないトランザクション セットが定義されています。

インターチェンジ エンベロープ

1回のコミュニケーションで1つのトレーディング パートナーに送信されるすべてのデータ。「インターチェンジ エンベロープ」は、ANSI で使用されている用語です。EDIA では、このレベルのエンベロープを意味する用語として「伝送エンベロープ」が用いられています。しかし、ここでは「伝送 (transmission)」という用語について別の使い方をしているため、インターチェンジ エンベロープとだけ呼ぶことにします。

メモ

コミュニケーション セッションには、インターチェンジ エンベロープを簡単に取り込むことができます。このような理由から、スタンダード 制定団体ではコミュニケーション セッション全体をカバーする第4のレベルのエンベロープを検討中です。

応答	この機能を使用すると、[インドロウ] 内で選択されている 1 つ以上のドキュメントへの応答として、(パートナー関係に設定されたターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを使用して) ターンアラウンド ドキュメントを作成できます。
オーディット ログ	この機能を使用すると、システムのオーディット ログ情報を表示することができます。
既定値	定義済みの値ユーザーが特に上書きしていない限り、プログラムではあらかじめビルドされている値が使用されます。
クラスタ	サービスを提供するためにまとめたコンピュータのセット。クラスタを使用することでサービスのアベイラビリティとスケーラビリティの両方を向上させることができます。Windows オペレーティングシステムでは、複数のコンピュータをクラスタリングしてネットワーク上でクライアント / サーバー アプリケーションを動作させるソフトウェア ソリューションが提供されています。
クリック	指示アイテムの上にカーソルを置き、第 1 マウス ボタンを押して離す、ということの意味します。第 1 マウスボタンは、マウス操作を右手と左手のどちらで行う場合でも、人差し指を使って押すボタンです。
検索	この機能を使用すると、アクティブなデータ表示ウィンドウ内で、特定のテキストを検索できます。
コピー	この機能を使用すると、1 つまたは複数のドキュメントを [アウト ドロウ] から [ワークスペース] にコピーできます。
コミュニケーション セッション	1 回の連続接続期間において、ある電話番号との間でやり取りしたものすべてを指します。これには、異なるトレーディング パートナー向けの 2 つまたは 3 つのインターチェンジ エンベロープをネットワークへ送信することも含まれます。
コミュニケーター	Gentran:Server コミュニケーションズ ソフトウェア Communicator を使用すると、送信、受信、再送信、コミュニケーション ポート定義の設定、コミュニケーション プロファイルの設定、コミュニケーション スクリプトの設定、およびコミュニケーション セッションの表示と削除を行うことができます。
コンポーネント データ エレメント	複合データ エレメントに属する単純なデータ エレメント。コンポーネント データ エレメントはサブエレメントともいいます。



サードパーティ ネットワーク

「ネットワーク」を参照してください。

受信

この機能を使用すると、トレーディング パートナーからデータを受信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。

受信確認

ANSI 997 ファンクショナル受信確認、EDIA 999 acceptance/rejection advice、および EDIFACT CNTRL を示します。

受信確認 (アウト ドロワー)

この機能を使用すると、[アウト ドロワー]内のドキュメントの状況を手動で "受信確認済み" に変更できます。

状況 / 状態

状況 / 状態ボックスに表示されている、ドキュメントまたはインターチェンジの処理状況 / 状態。

? イン ドキュメント

[失敗]

[? イン ドキュメント]内のすべてのドキュメントに、この状態が適用されます。このコードは、次のいずれかの状態を示します。

- ▶ ドキュメントが、EDI スタンダードに適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータ レポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI スタンダードに完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。
- ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディング パートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは "不明" とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ] プラウザからドキュメントを添付します。
- ▶ 適切な取引関係またはトランスレーション オブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーション オブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを定義する必要があります。
- ▶ インターチェンジ、ファンクショナル グループ、またはトランザクション レベル エンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。最初と最後の Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータ レポートにエラーが表示されます。

? アウト ドキュメント

[失敗]

このコードは、ドキュメントが EDI スタンダード定義に適合していないことを示します。問題のドキュメントについてのトランスレータ レポートを表示すると、適合失敗の原因になったエラーを特定できます。

インドキュメント

[OK] [インドキュメント]内のすべてのドキュメントに"OK"の状態が適用されます。これらのドキュメントは完全に適合しており、処理を続行できる状態にあります。

インドローフ

[OK] このコードは、ドキュメントが EDI スタンダードに完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。

[失敗] [? インドキュメント]内のすべてのドキュメントに、この状態が適用されます。このコードは、次のいずれかの状態を示します。

- ▶ ドキュメントが、EDI スタンダードに適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータレポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI スタンダードに完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。
- ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディングパートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは "不明" とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ]ブラウザからドキュメントを添付します。
- ▶ 適切な取引関係またはトランスレーションオブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーションオブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディットログに記録されます。この問題を解決するには、パートナーエディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーションオブジェクトを定義する必要があります。
- ▶ インターチェンジ、ファンクショナルグループ、またはトランザクションレベルエンベロープ構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。最初と最後の Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータレポートにエラーが表示されます。

インターチェンジ

[インターチェンジ]ブラウザには、インターチェンジの処理状態、インターチェンジのネットワーク状態、インターチェンジ、グループ、およびドキュメントの受信確認状態、ならびにドキュメントの適合状態を表すグラフィックス(アイコン)があります。[インターチェンジ]ブラウザでいずれかのエントリを反転表示にすると、そのラインの状態コードについての説明が Gentran:Server のステータスバーに表示されます。

[インターチェンジ処理状況]

[受信済み] (緑) インターチェンジがシステム内で受信されていることを示します。

[送信済み] (緑) インターチェンジが適切なパートナーに正常に伝送されたことを示します。

[送信準備完了] (青) このインターチェンジの送信を試みたが、コミュニケーションセッションが成功しなかったことを示します。このインターチェンジは、次のコミュニケーションセッションの際に送信されます。

[インターチェンジ待ち] ドキュメントが送信待ちの状態であることを示します。

[保留] ドキュメントが "保留" の状態、つまり送信できる状態ではないことを示します。

[受信確認時間切れ] インターチェンジがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅いとみなされる待ち時間を越えたことを示します。

[送信に失敗しました] (赤) コミュニケーションズ プロセス時のエラーが原因で、送信に失敗したことを示します。

インターチェンジの [ネットワークの状態]

[ネットワーク上] インターチェンジが付加価値ネットワークに正常に配送されたことを示します。(Sterling Information Broker を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク警告]

インターチェンジが VAN に配送され、データに致命的なエラーが検知されなかったことを示します。このデータは、指定されたトレーディング パートナーがデータ収集の目的に利用できます (Sterling Information Broker を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク エラー]

インターチェンジが VAN に配送され、データに致命的なエラーが検知されたことを示します。指定されたトレーディング パートナーが、このデータをデータ収集の目的で利用することはできません (Sterling Information Broker を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[収集済み]

インターチェンジが VAN 経由でトレーディング パートナーに正常に配送されたことを示します。(Sterling Information Broker を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 70 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[サードパーティのネットワークへ送信済み]

インターチェンジがサードパーティのネットワークへ送信されたことを示します。

インターチェンジ、グループ、およびドキュメントの [受信確認状態]

[受信確認待ち] インターチェンジがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていることを示します。

- [受信確認時間切れ] インターチェンジがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅いとみなされる待ち時間を越えたことを示します。
- [受信確認拒否] パートナーがインターチェンジの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。パートナーはインターチェンジの受取を拒否しています。
- [受信確認 OK] パートナーがインターチェンジの受信確認を行い、エラーがなかったことを示します。
- [エラーあり受信確認] パートナーがインターチェンジの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。エラーがあったにもかかわらず、パートナーはこのインターチェンジを受け入れています。
- 部分受信確認 トレーディング パートナーがインターチェンジを正常に受信したときに、インターチェンジ内の一部のドキュメントは受け入れられ(エラーがあっても受け入れられた場合を含む)、その他のドキュメントは拒否されたことを示します。

[ドキュメント適合状況]



[OK]

このコードは、ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合しており、処理を続行できる状態にあることを示します。



[失敗]

このコードは、次のいずれかの状態を示します。

- ▶ ドキュメントが、EDI Standard に適合していません。これがエラーの原因である場合は、そのドキュメントに関連付けられたトランスレータレポートにエラーが表示されます。ドキュメントは EDI Standard に完全には適合していませんが、処理を続行できる状態にあります。
- ▶ 受信したドキュメントを特定のトレーディング パートナーに関連付けることができません。この場合、そのドキュメントに対応するパートナーは "不明" とリストに表示されます。このドキュメントを、パートナーとのインターチェンジで受信したほかのドキュメントと関連付けるには、[インターチェンジ] ブラウザからドキュメントを添付します。
- ▶ 適切な取引関係またはトランスレーション オブジェクトを、ドキュメントと関連付けることができません。関係またはトランスレーション オブジェクトを探すために使用した情報の種類に関する詳細情報が、オーディット ログに記録されます。この問題を解決するには、パートナー エディタを使用して有効な関係を確立し、その関係について有効なエクスポート、印刷、またはターンアラウンド トランスレーション オブジェクトを定義する必要があります。
- ▶ インターチェンジ、ファンクショナル グループ、またはトランザクション レベル エンベロープ 構造の処理中に、重大なエラーが発生しました。最初と最後の Control Number の不一致、無効なトレーラ管理カウント、Control Number の順番の確認エラーなども、このエラーに含まれます。これらのエラーが発生した場合、ドキュメントが入っているインターチェンジについてのトランスレータレポートにエラーが表示されます。



[重複]

このドキュメントに、システム上の別のドキュメントと同じ名前が付けられています。

アウト ドキュメント

[OK] このコードは、ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合していることを示します。状態が "OK" のドキュメントは、送信可能です。

アウト ドローフ

[送信済み] このコードは、ドキュメントが適切なパートナーに正常に送信されたことを示します。

[待機中] このコードは、ドキュメントがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていることを示します。

[時間切れ] このコードは、ドキュメントがインバウンド ファンクショナル受信確認との整合性をとられるのを待っていたが、受信確認が遅れたとみなされる待ち時間を越えたことを示します。

[受信確認済み] このコードは、パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがなかったことを示します。

[応答エラー] このコードは、パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがあったにもかかわらず、パートナーがそのドキュメントを受け入れたことを示します。

[拒否] このコードは、パートナーがドキュメントの受信確認を行い、エラーがあったことを示します。パートナーは、ドキュメントの受取を拒否しています。

[~受信確認] この状態は、このドキュメントに対する受信確認が想定どおりに実行されず、グループまたはインターチェンジのいずれかの一部が受信確認された場合にのみ表示されます。パートナーがインターチェンジ レベルまたはグループ レベルで部分的な受信確認を発行する場合、その受信確認では、受け入れるかまたは拒否するかをトランザクション レベルで示す必要があります。

[ネットワーク上] このコードは、ドキュメントが VAN に正常に配送されたことを示します (Sterling Information Broker, を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[収集済み] このコードは、VAN を介してドキュメントがトレーディング パートナーに正常に配送されたことを示します (Sterling Information Broker, を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 70 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク警告] このコードは、ドキュメントが VAN へ配送され、そのネットワークでデータに重大ではないエラーが検出されたことを示します。このデータは、指定されたトレーディング パートナーがデータ収集の目的に利用できません (Sterling Information Broker, を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

[ネットワーク エラー] このコードは、ドキュメントが VAN へ配送され、そのネットワークでデータに重大なエラーが検出されたことを示します。指定されたトレーディング パートナーが、このデータをデータ収集の目的で利用することはできません (Sterling Information Broker, を使用してこのステータスを取得するには、メールボックスがデータ書式で 20 のレポートを受信できるように設定しておく必要があります)。

送信キュー

[順番待ち]

このコードは、送信準備のためにドキュメントが正常にインターチェンジされたが、そのインターチェンジがパートナーに正しく転送されなかったことを示します。このインターチェンジは、このパートナーとの次のコミュニケーションセッションの際に自動的に送信されます。

[送信準備完了]

ドキュメントを送信する準備が完了したが、送信するデータのメールボックス メッセージがまだ作成されていないことを示します。

送信失敗

コミュニケーションズ プロセス時のエラーが原因で、送信に失敗したことを示します。

ワークスペース

[OK]

このコードは、ドキュメントが EDI スタandard に完全に適合していることを示します。状況が "OK" のドキュメントは、[アウト ドキュメント] へポストして、送信することができます。

[失敗]

このコードは、ドキュメントが EDI Standard 定義に適合していないことを示します。問題のドキュメントについてのトランスレータ レポートを表示すると、適合失敗の原因になったエラーを特定できます。

ステータスバー

アプリケーション ウィンドウのステータス バーの機能には、選択、コマンド、またはプロセスに関する情報の定義、各アイテムを反転表示にしたときのメニューバー アイテムの定義、および入力時の現在のキーボード開始モード (たとえば、"Caps Lock" キーに対しては CAP、"Num Lock" キーに対しては NUM) の表示などがあります。

セグメント	有用なデータをやり取りするために組み合わせる、いくつかのエレメント。たとえば、カタログ定価セグメントはアイテムの説明、数量、価格、リードタイムなどのエレメントで構成されているとします。この場合、これらのエレメント自体は有用な情報ではありません。しかし、これらのエレメントを組み合わせることにより、必要な情報になります。セグメントは EDI スタandard によって定義されます。複数のセグメントが集まるとトランザクション セットになります。
セット	「トランザクション セット」を参照してください。
送信	この機能を使用すると、トレーディング パートナーにデータを送信するためのコミュニケーション セッションを手動で開始できます。選択されたドキュメントのみがエンベロープに収められて送信されます。ドキュメントが選択されていない場合は、すべてのドキュメントが送信されます。正常に送信されたドキュメントは、アウト ドローワへ移動されます。
送信キュー	この機能を使用すると、現在送信待ちになっているドキュメントのリストを表示できます。
ターンアラウンドドキュメント	ターンアラウンド マップを使用して、ソースドキュメントのデータ エレメントを自動的に転送したドキュメント。
ターンアラウンドマップ	インバウンド (ソース)ドキュメントからターンアラウンドドキュメント (ソースへの論理的応答ドキュメント)を作成するためにシステムが使用する一連の命令。ソースドキュメントからターゲットドキュメント (トランスレーションオブジェクト) にデータを転送します。
ダイアログボックス	ダイアログボックス (またはダイアログ) で、処理の実行に必要な追加情報またはオプションを指定します。オプションを指定した場合、コマンドを実行するためのボタンを選択できます。要求された作業を実行することができない理由を示している警告またはメッセージを表示するダイアログボックスもあります。ダイアログボックスにタイトルバーがある場合には、デスクトップ上の別の場所にそのダイアログボックスを移動することができます。ダイアログボックスを閉じるには、コントロールメニューボックスをダブルクリックするか、あるいは [ファイル] メニューから [アクティブなウィンドウを閉じる] を選択します。
タイトルバー	アプリケーションウィンドウのタイトルバーにはアプリケーション名が表示されます。タイトルバーを使用して、デスクトップ上の別の場所にウィンドウを移動できます。
ダブルクリック	指定されたアイテムの上にカーソルを置き、第1マウスボタンをすばやく2回、押してから離すことです。第1マウスボタンは、マウス操作を右手と左手のどちらで行う場合でも、人差し指を使って押すボタンです。

ツールバー	ツールバーには、メニューバーで使用可能なコマンドをグラフィックスで表したボタンが表示されます。この機能は、選択された1つのドキュメントに対するトラック情報を表示します。
データ表示ウィンドウ	<p>Gentran:Server には、次のデータ表示ウィンドウがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ オーディット ログ ▶ ドキュメント トラッキング ▶ インターチェンジ トラッキング ▶ インターチェンジの未加工データ表示 ▶ ドキュメントの未加工データ表示
定義済み	データ登録トランスレーションオブジェクトにおける、特定エレメントの既定値。必要に応じて値を変更できます。
適合 (compliance)	スタンダード仕様のすべての要件を完全に満たす場合に限り、実装が適合となります。特に、実装によって生成された各トランザクション、動作、またはデータエレメントが、スタンダードに定義されているように有効にならなければなりません。適合テストは、実装の操作を指定の要件と比較し、適合または不適合のいずれかを判断します。
適合 (compliant)	ドキュメントが、トランスレーションオブジェクトで定義されたとおり、EDIスタンダードに準拠している状態のことです。
デジタル署名	公開鍵暗号方式の本質は、データが2つの鍵を返す複雑な数学の公式でコード化されることにあります。最初の鍵でコード化されたデータの復号化には2番目の鍵が必要となり、2番目の鍵でコード化されたデータの復号化には最初の鍵が必要です。最初の鍵は公開鍵として配付し、2番目の鍵は自分だけがアクセスできる秘密鍵として保護します。鍵の相互的な関係によって、公開鍵を所有する任意の人によるデータの暗号化と、秘密鍵による復号化が可能になります。秘密鍵がない限り、暗号化されたデータは暗号化した本人でもアクセスできなくなります。同様に、秘密鍵でデータを暗号化した場合には、公開鍵を所有する任意の人がデータを復号化することもできます。この場合にはデータのセキュリティが低下しますが、データを作成したのは秘密鍵を所有する人であることが証明できます。
デジタル証明書	デジタル証明書は、一般的に用いられているアイデンティティの検証方法です。証明書は、エンティティを識別するデータセットです。信頼された組織は、証明書を個人または個人の公開鍵に関連づけられているエンティティに割り当てます。証明書が発行された個人またはエンティティは、証明書のサブジェクトとなります。証明書を発行する信頼された組織とは認証局 (CA) であり、証明書の発行者です。信頼された CA は、証明書サブジェクトのアイデンティティを検証してから証明書を発行します。証明書のデータには、証明書サブジェクトの公開鍵 / 秘密鍵一組から公開鍵が含まれています。



デスク

デスクは、Gentran:Server がこれを使用して、Gentran:Server で頻繁に使用するブラウザ、機能、およびサブシステムに簡単にアクセスできるように、グラフィカルに表したものです。必要に応じて [デスク] の対応する部分をクリックし、その部分に示されているブラウザ、機能、またはサブシステムにアクセスします。アクセス可能なブラウザは次のとおりです。

- ▶ インドキュメント
- ▶ ? インドキュメント
- ▶ ワークスペース
- ▶ アウトドキュメント
- ▶ ? アウトドキュメント
- ▶ インターチェンジ
- ▶ インドローワ
- ▶ アウトドローワ

各ブラウザのアイコンは、ドキュメントの場所にドキュメントが存在する場合には、ドキュメントの絵として表示されます。また、パートナー エディタ サブシステム、ヘルプ システム、"プロセス管理" 機能 (時計のアイコン)、および "送受信" 機能 (電話のアイコン) にデスクからアクセスできます。さらに、[デスク] を使用して、Gentran:Server を終了することもできます (EXIT/ ドアのアイコン)。

[デスク] の表示をオフにするには、[表示] メニューの [デスク] をクリックします。これによって、デスクの表示 / 非表示が切り替えられます。アイテムの横にチェックマークが付いている場合、そのアイテムは "表示" になります。

同期

"ライブ" のコミュニケーション セッションで指定の間隔内に発生する要求応答ペアを必要とする分散プロセスのコミュニケーション コーディネーションのモード。

ドキュメント

データを含み、単一のエンティティとして処理される 1 つのトランザクション セット。データ量は、ドキュメントであるかどうかには関係ありません。単一のエンティティとして処理されるという事実だけが存在します。たとえば、発注書に記載されているアイテムが 1 件であろうと、1 万件であろうと、それが 1 枚の発注書である限り 1 つのドキュメントとなります。

トレーディング パートナーが 10 枚の発注書を含むコミュニケーションを実行した場合、会社側では 10 枚のドキュメントを受け取ったこととなります。コミュニケーションに 15 枚の請求書が含まれていた場合には、15 枚のドキュメントを受け取ったこととなります。

トラック

この機能は、選択された 1 つのドキュメントに対するトラック情報を表示しません。

トランザクション セット ドキュメント

スタンダードで定義されているビジネス様式。たとえば、ANSI 850 の発注書や UCS 880 の請求書などです。スタンダードでは、フォームを構成するセグメントおよびエレメント、セグメントやエレメントが表示される順序、および各セグメントやエレメント間の関係について、それぞれのトランザクションセットを定義しています。これはヨーロッパでは "メッセージ" とも呼ばれています。

トランスレーション オブジェクト

事前に指定された配置設定。この設定により、確実に、特定のトランザクションセットの入力または出力が存在し、使用可能な形式で表示されることとなります。各パートナー関係で使用するトランスレーション オブジェクトを指定する必要があります。

インバウンド トランスレーション オブジェクト

ターンアラウンド: このトランスレーション オブジェクトは、ドキュメント受信時にそのドキュメントからできるだけ多くのエレメントが含まれる自然な応答ドキュメントを作成するために使用します。

エクスポート ファイル: このトランスレーション オブジェクトでは、ドキュメントの受信時に、そのドキュメントを指定されたファイル書式にエクスポートするように指定します。

印刷: このトランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

アウトバウンド トランスレーション オブジェクト

インポート: このトランスレーション オブジェクトは、アプリケーション ファイルからデータをインポートする場合に使用します。

印刷: このトランスレーション オブジェクトを使用して、ドキュメントを印刷します。

データ登録: このトランスレーション オブジェクトは、[ドキュメント エディタ] にデータを入力するために使用します。

トレーディング パートナー

ドキュメントをやり取りする相手の会社。"パートナー" と呼ぶこともあります。

並べ替え

この機能を使用すると、ドキュメント ブラウザ内のドキュメントのリストを次のような順番で並べ替えることができます。

- ▶ パートナー / 種類 / 名前
- ▶ パートナー / 名前 / 種類
- ▶ 種類 / パートナー / 名前

認証

保護されているリソースやサービスまたは機密情報にアクセスする権限。

ネットワーク	サードパーティ ネットワークまたは付加価値通信網 (VAN) とも呼ばれます。企業からの伝送を受け入れて、トレーディング パートナー側で受け取りの都合がつくまで保持する、Sterling Information Broker などのサービスです。
パートナー	ドキュメントをやり取りする相手の会社。"トレーディング パートナー"と呼ばれることもあります。
パートナーエディタ	この機能を使用すると、自社および全トレーディング パートナーのすべてのパートナー情報を定義、編集、および削除できます。
非同期	一定のストリームではなく断続的にデータを転送する分散プロセス間のコミュニケーション。
否認防止	<p>否認防止は、特定の動作が発生したという偽造不可能な証拠を提示するための、メッセージ転送システムの機能です。次に、最も一般的な3つのタイプの否認防止サービスを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 発信元の否認防止は、メッセージ発信元がメッセージの送信を拒否しようとする試みを防止します。 ▶ 提出の否認防止は、メッセージ転送エージェントが配送のためのメッセージ提出を拒否しようとする試みを防止します。 ▶ 配送の否認防止は、メッセージ受信者がメッセージの受信を拒否しようとする試みを防止します。
表示	ドキュメントの場合、この機能を使用すると、選択した書式に応じて EDI データ、トランスレーション オブジェクトにより書式化されたドキュメント、またはトランスレータ レポートを表示できます。インターチェンジの場合、この機能を使用すると、選択した書式に応じて EDI データまたはトランスレータ レポートを表示できます。
ファンクショナルグループ	スタンダード制定団体 (ANSI など) がほかの関連するトランザクション セットとともに適合するように定義したトランザクション セットのグループ。たとえば、すべての購入トランザクション セットを含むものとして定義されているファンクショナル グループなどが挙げられます。
フェイル オーバー	フェイル オーバー システムは、プライマリ システムが故障したり、サービスが一時的にシャットダウンされた場合に、スタンバイしているデータベース、サーバー、またはネットワークに自動的に切り替えるバックアップ操作です。フェイル オーバーは、常にアクセスビリティを維持する必要があるミッションクリティカルなシステムに重要なフォルト トレランス (耐障害) 機能です。フェイル オーバーは、ユーザーの要求を、プライマリ システムの操作を模倣するバックアップ システムに自動的に (透過的に) リダイレクトします。

**複合データ
エレメント**

複数のコンポーネント エレメントからなるデータ エレメント。

ブラウザ

ブラウザは、ドキュメント (トランザクションセット)、インターチェンジ、またはトランスレーションオブジェクトなどのアイテムのリストを表示するウィンドウです。ドキュメントブラウザには、ドキュメントのみが表示されます。

ヘッダー

データのコンテンツの冒頭に挿入されるコントロール情報です。通常は、データの説明またはデータとアプリケーションの関係を記述するために使用されます。

ポスト

この機能を使用すると、適合ドキュメントを [ワークスペース] から [アウトドキュメント] に移動することができます。

メニュー

選択できる動作のリスト。使用できないアイテムはメニュー上でグレー表示され、無効であることが示されます。

メニューバー

アプリケーションのメニューのリストが表示されます。

ラベル

エレメント、キーワードのタイトル、または情報インジケータ以外のトランスレーションオブジェクトに関するほとんどの情報の説明。また、破線のように、情報の区切りとして使用することもできます。

ワークスペース

[ワークスペース] には、アウトバウンド "処理中" ドキュメントのリストが表示されます。最近インポートしたドキュメント
